

平成 28 年度

F D 活 動 報 告 書

駒澤大学 F D 推進委員会

目 次

1. 委員会	1
(1) F D 推進委員会	
(2) F D 推進委員会小委員会	
(3) ワーキング・グループ	
2. 研修会	9
3. 学生が選ぶベスト・ティーチング賞	11
4. 公開授業	12
5. 学生による授業アンケート	27
(1) 「学生による授業アンケート」の概要	
(2) 授業アンケート質問項目	
(3) 項目別平均値	
(4) 受講生の講義への取り組み	
(5) 授業についての評価	
6. 総評	118
7. F D NEWSLETTER の発行	122
○ F D NEWSLETTER 第 47 号	平成 28 年 6 月 30 日発行
○ F D NEWSLETTER 第 48 号	平成 28 年 9 月 30 日発行
○ F D NEWSLETTER 第 49 号	平成 28 年 12 月 15 日発行
○ F D NEWSLETTER 第 50 号	平成 29 年 3 月 15 日発行

【付録資料】

- 駒澤大学 F D 推進委員会規程
- 駒澤大学 F D 憲章
- 平成 28 年度 駒澤大学 F D 推進委員会委員名簿
- 平成 28 年度 駒澤大学 F D 推進委員会小委員会委員名簿
- 平成 28 年度 駒澤大学 F D 推進部会委員名簿

1. 委員会

(1) FD推進委員会

○第1回

日 程 平成28年4月28日（木）

議 題 1. 報告事項

- (1) 平成28年度新規採用教員オリエンテーションについて
- (2) 平成28（2016）年度学生による授業アンケート（前期）について
- (3) その他

2. 審議事項

- (1) 平成28年度FD推進委員会活動年間日程について
- (2) 平成28年度FD活動計画について
- (3) その他

3. その他

○第2回（臨時）

日 程 平成28年7月27日（水）

議 題 1. 報告事項

- (1) FD推進部会委員について
- (2) 平成28（2016）年度学生による授業アンケートについて
- (3) FD研修会について
- (4) その他

2. 審議事項

- (1) FD Award（案）について（継続）
- (2) 学修成果を測るための外部業者テストについて（継続）
- (3) その他

3. その他

○第3回

日 程 平成28年11月4日（金）

議 題 1. 報告事項

- (1) 平成29年度入学者への入学教育について
- (2) 平成28（2016）年度学生による授業アンケート（後期）について
- (3) 平成28年度「公開授業」の実施について

- (4) 平成28年度「FD研修会」について
 - (5) 授業アンケート等のFD活動のシラバス記入について
 - (6) ベスト・ティーチング賞について
 - (7) その他
2. その他

○第4回（臨時）

日 程 平成29年1月12日（木）

- 議 題
- 1. 報告事項
 - (1) 2016（平成28）年度「学生による授業アンケート」（後期）について
 - (2) 平成28年度「公開授業」の実施について
 - (3) 平成28年度「FD研修会」について
 - (4) その他
 - 2. 審議事項
 - (1) 学生が選ぶベスト・ティーチング賞について
 - (2) その他
 - 3. その他

○第5回

日 程 平成29年3月10日（金）

- 議 題
- 1. 報告事項
 - (1) 平成28年度「FD研修会」の実施について
 - (2) 平成28年度 学生が選ぶベスト・ティーチング賞について
 - (3) 平成28年度『FD活動報告書』の発行について
 - (4) 平成29年度新規採用教員オリエンテーションの実施について
 - (5) その他
 - 2. 審議事項
 - (1) 平成29年度「学生による授業アンケート」について
 - (2) 平成28年度FD推進委員会活動報告及び今後の課題について
 - (3) その他
 - 3. その他

(2) FD推進委員会小委員会

○第1回

日 程 平成28年4月28日(木)

議 題 1. 報告事項

- (1) 平成28年度『FD NEWSLETTER』の編集委員について
- (2) FD憲章について

2. 審議事項

- (1) FD推進委員会小委員会のワーキング・グループ設置について
- (2) 平成28年度活動計画について
- (3) FD Award(案)について(継続)
 - ①学生FDサポーターについて
 - ②FD Award(案)について
- (4) 学修成果を測るための外部業者テストについて(継続)
- (5) その他

○第2回

日 程 平成28年6月2日(木)

議 題 1. 報告事項

- (1) 平成28年度『FD NEWSLETTER』第47号の発行について
- (2) 平成29年度各種入学試験合格者への入学前教育の実施について
- (3) 「学生による授業アンケート」の実施依頼について
- (4) その他

2. 審議事項

- (1) 駒澤大学としてのアクティブ・ラーニングの定義(案)について(継続)
- (2) FD Award(案)について(継続)
 - ①学生FDサポーターについて
 - ②FD Award(案)について
- (3) 学修成果を測るための外部業者テストについて(継続)
- (4) 公開授業の実施方法について
- (5) FD研修会について
- (6) その他

3. その他

○第3回

日 程 平成28年7月4日（月）

議 題

1. 報告事項
 - (1) 平成28年度『FD NEWSLETTER』第48号の発行について
 - (2) その他
2. 審議事項
 - (1) FD Award(案)について(継続)
 - (2) 学修成果を測るための外部業者テストについて(継続)
 - (3) 公開授業の実施方法等について(継続)
 - (4) FD研修会について(継続)
 - (5) 学生による授業アンケートについて
 - (6) その他
3. その他

○第4回（臨時）

日 程 平成28年7月27日（水）

議 題

1. 報告事項
 - (1) FD研修会について
 - (2) その他
2. 審議事項
 - (1) FD Award(案)について(継続)
 - (2) 学修成果を測るための外部業者テストについて(継続)
 - (3) その他
3. その他

○第5回

日 程 平成28年10月17日（月）

議 題

1. 報告事項
 - (1) 入学前教育について
 - (2) 平成28年度「学生による授業アンケート」（後期）について
 - (3) FD研修会について
 - (4) 学生FDスタッフについて
 - (5) ベスト・ティーチング賞について
 - (6) シラバス改善について
 - (7) その他

2. 審議事項
 - (1) 公開授業の実施方法等について（継続）
 - (2) その他
3. その他

○第6回

日 程 平成29年1月12日（木）

- 議 題
1. 報告事項
 - (1) 平成28年度「学生による授業アンケート」（後期）について
 - (2) 公開授業について
 - (3) FD研修会について
 - (4) FD NEWSLETTER第49号の発行について
 - (5) その他
 2. 審議事項
 - (1) 学生が選ぶベスト・ティーチング賞について
 - (2) 平成29年度「学生による授業アンケート」について
 - (3) FD活動のあり方について
 - (4) その他
 3. その他

○第7回

日 程 平成29年2月24日（金）

- 議 題
1. 報告事項
 - (1) FD研修会について
 - (2) 平成28年度学生が選ぶベスト・ティーチング賞について
 - (3) 平成29年度新規採用教員オリエンテーションの実施について
 - (4) FD NEWSLETTER第50号の発行について
 - (5) その他
 2. 審議事項
 - (1) 平成29年度「学生による授業アンケート」について（継続）
 - (2) 平成28年度FD推進委員会活動報告及び今後の課題について
 - (3) その他
 3. その他

(3) ワーキング・グループ (WG)

① 新しい教育方法に関するワーキング・グループ

本 WG は、教員が授業改善のためのヒントを見つけられるような FD 研修会を、年度後半に BTA 表彰式と同時開催することを目標とした。

「学校法人駒澤大学施策体系」に係る『中期事業計画書』では、「PBL」や「ICT 活用」とともに「反転授業」の学内周知が計画されていた。そこへ副委員長から反転授業に詳しい講師の推薦があったので、WG として仲介の依頼をした（6 月 3 日）。その後、副委員長と講師の打ち合わせに先立ち、講演依頼状を作成した（11 月 4 日）。さらに、研修会当日の流れに関する事務局の提案を了承し（11 月 27 日）、事務局が作成した正式な委嘱状のチェックをした（11 月 29 日）。最後に、研修会の司会を決め、当日の流れを確認した（1 月 17 日）。FD 研修会と BTA 表彰式は盛況のうちに成功した（2 月 1 日）。

なお、ICT 機器を扱う商社を前年度に視察した成果として、1 号館の 407、408、409 教場にアクティブラーニング機器の設置が決まったので、その工事の様子を確認した（1 月 27 日）。

○構成員 小林正人（座長）、東辰之介、

○本 WG は、メールのやり取りと、小委員会終了後のミーティングによって活動した。

② 教育の質保証に関するワーキング・グループ

本年度は、主として、次の 3 点について取り組んだ。

1. 学修成果を測るための外部業者テストについて、昨年度に引き続き、検討を重ねた結果、導入すべきとの結論に達したため、留意事項を付し、その旨の報告を行った。
2. シラバスの改善について、学生に履修登録や受講に際してシラバスをより一層利活用してもらうための検討を行った。検討に際しては、学生 FD スタッフにも WG へ出席してもらった。貴重な意見も寄せられたので、今後、少しでも反映されることが望まれる。
3. 学生による授業アンケートについて、昨年度と同様、回答率の向上及びフィードバックの促進を目指して検討・実施した。前期は昨年度比 6.6% 低下したが、後期は昨年度比 1.8% 上昇した。今年度の結果を踏まえて、2 と同様、学生 FD スタッフと共に検討するなどして、次年度の実施に向けた検証結果を取りまとめて報告した。

末筆ながら、教職員各位のご理解及びご協力に感謝申し上げたい。

○構成員 田中優企（座長）、長尾譲治、山口良博

○第 1 回

日 時 平成 28 年 4 月 20 日 (水)

- 議 題 (1) 学修成果を図るための外部業者テストについて
(2) シラバスの改善について
(3) 障害を持つ学生対応の在り方について
(4) その他

○第 2 回

日 時 平成 28 年 5 月 19 日 (木)

- 議 題 (1) 学修成果を測るための外部業者テストについて
(2) その他

○第 3 回

日 時 平成 28 年 10 月 12 日 (水)

- 議 題 (1) シラバス改善について
(2) 前期授業アンケート結果の検証について
(3) その他

○第 4 回

日 時 平成 28 年 12 月 14 日 (水)

- 議 題 (1) 平成 28 年度後期「学生による授業アンケート」実施結果の検証
(2) 平成 29 年度「学生による授業アンケート」実施要領等の検討
(3) その他

③ 相互研修型 F D に関するワーキング・グループ

公開授業については、第一に出席率の向上に向けての対策が検討された。そのために、公開授業の日時については Web での公表、ポスター掲示、公開授業一覧の資料の配布、教授会での注意喚起等思いつくもの全ての対策を行う事を確認した。又、公開授業の出席者として、FD 委員、学部長、学科長らが中心となり公開授業に教員の出席を促す他、新任教員等の積極的出席についても話し合われた。その他には、各学部、学科において複数の公開授業を行い、一人でも多くの教員が公開授業に参加できる機会を増やす工夫をする事についても意見集約を行った。第二に「ふり返しシート」の記載内容の重複事項の削除変更を行い、具体的コメントをかける様に改変し、「公開授業報告書」の報告者の文面の書き方については、公開授業担当教員に対し向上心を育てるような思いやりのある報告書の書き方を工夫して欲しい旨の意見をくみ上げた。

○構成員 熊坂さつき (座長)、高 媛、遠藤 司

○第 1 回

日 時 平成 28 年 5 月 20 日 (金)

- 議 題 (1) 公開授業について
(2) その他

○第 2 回

日 時 平成 28 年 9 月 30 日 (金)

- 議 題 (1) 公開授業の実施方法等について
(2) その他

④Award に関するワーキング・グループ

「学生が選ぶベスト・ティーチング賞」を実施するため、表彰に関するワーキング・グループが今年度初めて立ち上げられた。この賞は、駒澤大学 FD 憲章に基づき、効果的な教育方法を実践している教員を学生が投票により選ぶものである。上位の教員を表彰し、その教育方法を全学的に共有することで、本学全体の教育の質の向上を目的としている。実際の実施期間は 2016 年 11 月 9 日 (水) ~11 月 30 日 (水) であったが、春先の早い時期からベスト・ティーチング賞の内規作りなどについてワーキング・グループ内で議論を重ね、9 月中旬から学生 FD スタッフの募集に着手している。10 月からは学生 FD スタッフを主体として、ポスターや広告、イベント作りなど広報活動に取り組んできた。イベントの実施経過については学生 FD スタッフが作成したパンフレットをご参照いただきたい。今回のイベントは駒澤大学史上初めての試みであるだけに、ワーキング・グループのメンバーは全員手探り状態であった。いろいろと反省点も出たが、来年度以降、これらを踏まえてさらに盛り上がるイベントにしていきたい。最後になるが、学生 FD スタッフをはじめ、関係する教職員の献身的なご協力に感謝を申し上げる。

○構成員 高 媛 (座長)、田中 優企、東 辰之介

○第 1 回

日 時 平成 28 年 4 月 15 日 (金)

- 議 題 (1) FD Award 制度 (仮) について

○第 2 回

日 時 平成 28 年 7 月 22 日 (金)

- 議 題 (1) FD Award に関する件

○第 3 回

日 時 平成 28 年 9 月 30 日 (金)

- 議 題 (1) 学生 FD スタッフに関する件

○第4回

日時 平成28年10月12日(水)

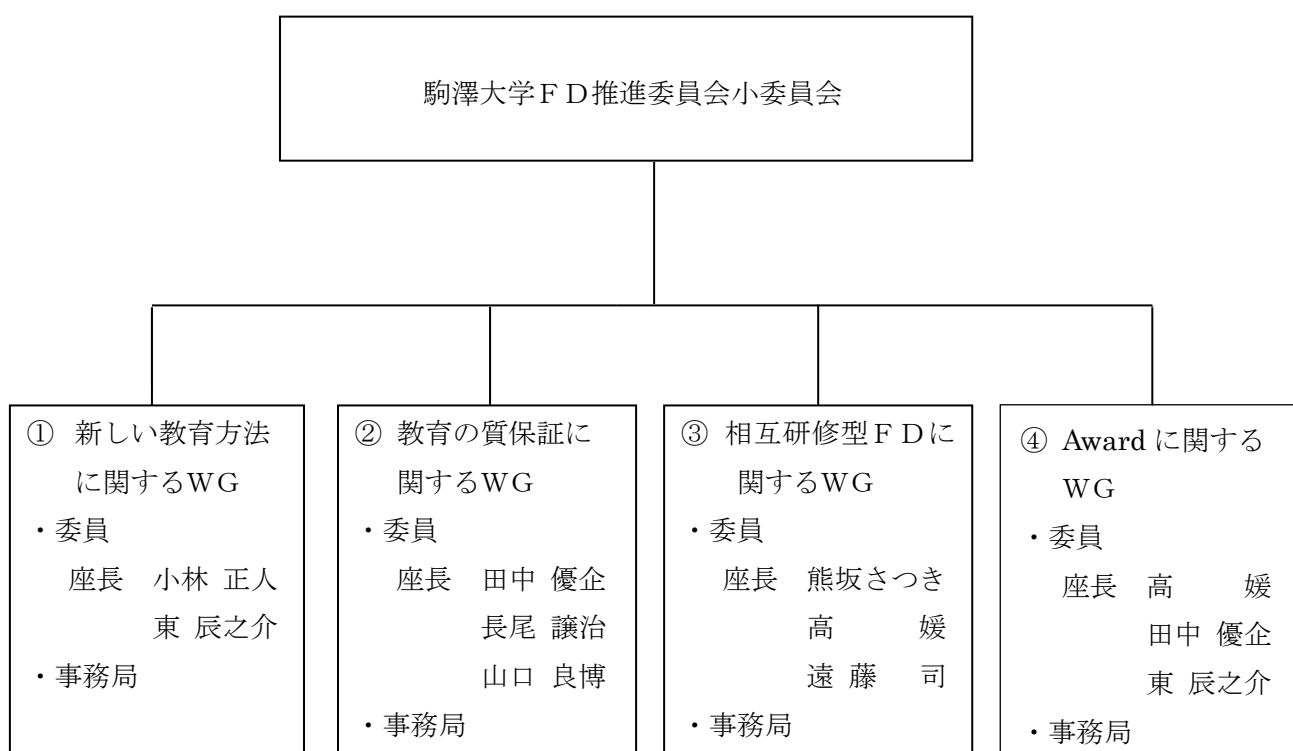
議題 (1) ベスト・ティーチング賞に関する件

○第5回

日時 平成28年12月6日(火)

議題 (1) ベスト・ティーチング賞に関する件

平成28年度 駒澤大学FD推進委員会小委員会ワーキング・グループ 構成



注. 委員長・副委員長は適宜各ワーキング・グループに参加することとする。

2. 研修会

(1) FD研修会

全教職員を対象としたFD研修会を開催した。

【第1回】

日時: 平成28年9月20日(火) 16:20~17:50

場所: 中央講堂

テ ー マ：「教育の質保証と学修成果の調査・測定（アセスメントテスト等）」

講 師：工藤 潤 氏（公益財団法人 大学基準協会 事務局長）

パネリスト：桑田禮彰 副学長

猿山義広 教務部長

多良和己 法人企画部長

参 加 者：教員 76名

職員 26名



(パネルディスカッションの様子)



(会場の様子)

【第2回】

日 時：平成29年2月1日（水）16：20～17：20

場 所：中央講堂

テ ー マ：新しい教育方法と教育活動の質の向上

「反転授業を組み合わせたアクティブ・ラーニングの実践」

講 師：森澤 正之 先生（山梨大学 教育国際化推進機構大学教育センター
副センター長／同大学院総合研究部工学域教授）

参 加 者：教員 93名

職員 11名



(森澤 正之 先生)



(会場の様子)

(2) 平成 28 年度新規採用教員オリエンテーション

新規採用専任教員・非常勤教員を対象にしたオリエンテーションを開催した。

日 時：平成 28 年 4 月 1 日（金） 14：40～17：00

出席者数：65 名（対象者 115 名）

次 第：学長挨拶

教務部長挨拶

F D 推進委員会小委員会委員長挨拶

大学案内（教務部・総合情報センター・図書館）

3. 学生が選ぶベスト・ティーチング賞

本年度より、「学生が選ぶベスト・ティーチング賞」を制定した。投票は、平成 28 年 1 月 9 日（水）～1 月 30 日（水）に、C-Learning システムにより行われ、厳選なる選考の結果、以下のとおり、上位 3 名の先生が選出され、平成 29 年 2 月 1 日（水）に授賞式が行われた。

- ・「経営戦略論」 中村公一（経営学部教授）
- ・「市場戦略概説」 兼村栄哲（経営学部教授）
- ・「心理学」 小野洋平（文学部非常勤講師）



（左から、桑田禮彰副学長、小野洋平先生、中村公一先生、兼村栄哲先生、廣瀬良弘学長）



（授賞式の様子）

4. 公開授業

公開授業の目的は、授業改善のための教員による相互研鑽を目的とし、工夫に富んだ授業に接し、その体験によるさまざまな発見を通して、今後の授業改善のためのヒントを得ることにある。

本年度の公開授業は、各学部等の F D 推進部会の協力により、「平成 28 年度公開授業一覧」(表 1) のとおり実施した。参観希望の授業科目の時間に直接教場に行き、後方に着席し、当日、学部によっては意見交換会が開催された。また、「平成 28 年度公開授業実施結果の報告」(表 2) のとおり実施結果について報告がなされた。

(表 1) 平成 28 年度公開授業一覧

学部等	担当教員	実施日	時限	教場	科目名称
仏教学部	松田 陽志	11/24 (木)	3	8-468	仏教漢文入門
	飯塚 大展	11/29 (火)	2	玉川-305	仏教と人間
	池上 光洋	11/30 (水)	6	禅研一坐禅堂	法式実習
	徳野 崇行	12/1 (木)	3	8-362	宗教学概論
文学部	櫻井 陽子	12/7 (水)	2	1研-1344	国語国文学演習 II
経済学部	宮田 惟史	11/16 (水)	3	1-301	経済学史 b
	百田 義治	11/17 (木)	4	1-403	ビジネス事例研究
	山縣 弘志	11/18 (金)	2	8-151	ロシア・東欧経済論 b
	深見 泰孝		3	8-257	保険論 b
	石川 純治		4	1-304	会計情報論 b
	吉田 敬一	11/19 (土)	1	2研-102	中小企業政策論
	井上 智洋	11/21 (月)	1	1-301	経済政策 b
	百田 義治		4	8-255	企業経営学 b
	吉田 真広	11/22 (火)	1	8-255	国際金融論 b
	明石 英人		2	9-405	社会科教育法 VI (公民)
	増田 幹人		2	8-150	人口論 b
	村松 幹二		3	8-466	制度の経済学
	王 穎琳		3	8-360	中国経済論 b
	小西 宏美		4	8-361	グローバル・ファイナンス b
	荒木 勝啓	11/24 (木)	2	8-360	ミクロ経済学
	松井 柳平		2	8-152	ミクロ経済学
	森田 佳宏		2	8-255	会計監査論 b

経済学部	長山 宗広	11/24 (木)	2	8-151	地域経済論 b	
	小栗 崇資	11/25 (金)	2	8-391	財務会計論 b	
	曾我 信孝		2	1-301	流通論基礎 b	
	明石 英人		2	8-255	社会経済学 b	
	吉田 真広		3	8-152	貿易史 b	
	浅田 進史		4	9-391	経済史 b	
	曾我 信孝		11/26 (土)	3	2研-203	マーケティング b
	長山 宗広	11/28 (月)	2	1-202	起業論	
	溝手 芳計		2	1-301	農業政策 b	
	矢野 浩一		3	1-201	経済統計 b	
	鈴木 伸枝	11/29 (火)	1	8-257	公共経済学 b	
	岩波 文孝	11/30 (水)	1	8-150	企業管理論 b / 経営管理論 b	
	北口 りえ		1	9-392	税務会計論 b	
	溝手 芳計		2	1-401	経済学入門 b	
	松田 健		3	8-150	現代企業論 b	
	渡邊 恵一		4	8-360	日本経済史 b	
	溝手 芳計		4	1-401	経済学入門 b	
	村松 幹二		4	8-256	契約理論	
	小林 正人		12/1 (木)	1	8-255	日本経済論 b
	番場 博之			1	8-465	流通政策 b
	鈴木 伸枝	1		1-301	ゲーム理論 b	
	鄭 章淵	2		1-404	アジア経済論 b	
	齊藤 正	2		1-403	現代銀行事情	
	中濟 光昭	3		1-201	経済情報システム論 II	
	舘 健太郎	3		9-391	産業組織論 b	
	鄭 章淵	4		禅研-304	経済外国書講読 I b / 外国書講読 I b / 経済外国書講読 II b / 外国書講読 II b	
	堀内 健一	12/2 (金)		2	8-360	経済理論 A・資本の原理
	光岡 博美		5	9-391	社会政策 b	
	福島 浩治	12/5 (月)	2	9-391	国際経済論 b	
	江口 允崇	12/9 (金)	1	1-301	財政学 b	
福島 浩治	2		2研-204	経済外国書講読 I b / 外国書講読 I b / 経済外国書講読 II b / 外国書講読 II b		

経済学部	西村 健	12/10 (土)	1	8-360	ミクロ経済学 b
	西村 健		2	8-360	企業経済学 b
法学部	富樫 景子	11/25 (金)	3	9-391	刑法総論
	逢坂 巖	11/30 (水)	3	8-467	ジャーナリズム論
経営学部	中野 香織	11/16 (水)	3	1-401	マーケティング・コミュニケーション論
	中川 淳平	11/25 (金)	2	8-466	経営学
	飯田 哲夫	11/25 (金)	3	2研-203	経営数学 B
	明石 博行	11/30 (水)	4	8-255	経済原論
	岸田 隆行	12/6 (火)	2	8-255	原価計算論
医療健康科学部	馬込 大貴	11/16 (水)	3	9-170	画像工学概論 I
GMS 学部	リンスキー, マイケル	11/18 (金)	3	9-173	異文化経営論
総合教育研究部	畠山 寛	11/29 (水)	2	1-515	ドイツ語 I Ab (選)
	矢野 秀武	11/30 (水)	3	7-507	宗教学概説

(表 2) 平成 28 年度「公開授業実施結果」報告

学部	仏教学部	実施教員	松田 陽志
1. 実施日・曜日・時限	11月24日(木)・3時限	教場	8-468
2. 実施科目名	仏教漢文入門	報告責任者	石井 公成
3. 学生履修者数	48人		
4. 公開授業参加者数	1人		
5. 授業実施状況			
<p>教科書の補足となる補助教材をコピーで配布し、時に学生に本文を読ませたり、漢和辞典を引かせたり、質問したりしながら授業を進めていた。声ははっきりしており、しかもゆっくりめに話すので聞きやすく、板書も字が大きくてきれいであり、理解しやすい。そのため、ほとんど私語がなく、学生は集中して授業に取り組んでいた。補助教材に書き込ませつつ進めており、それを回収してチェックするという形であるため、学生の理解度を確認できて良い。</p>			
6. 授業改善ポイント指摘事項			
<p>学生に質問する場合、質問が難しく学生が答えられないと、すぐに打ち切って教科書に戻る傾向があった。難しい場合は、ヒントを与えるなどして、誘導することも必要だろう。また、言葉がはっきりしていて良かったのだが、同じテンポで進んでいくため、眠くならないようにするためには、途中でテンポを変える工夫も必要ではなかろうか。</p>			

学部	仏教学部	実施教員	飯塚 大展
1. 実施日・曜日・時限	11月29日(火)・2時限	教場	玉川-305
2. 実施科目名	仏教と人間	報告責任者	藤井 淳
3. 学生履修者数	103人		
4. 公開授業参加者数	4人		
5. 授業実施状況			
<p>遅刻者も少なく、静粛な中で授業が進められた。最初の15分程度に前回の復習を行い、また最初に今回の学習テーマを明示するなど学生の理解に資するよう配慮がなされている。</p> <p>授業終了後には実施教員と公開授業参加者との間で20分程度振り返りの機会がもたれた。</p> <p>参加教員からもパワーポイントの提示を見習いたいなどの意見が出された。</p>			
6. 授業改善ポイント指摘事項			
<p>「にくじきさいたい」などの難しい読み方について学生が理解できているのか、など口頭の説明で使われている用語がかなり難しいのではないか。</p> <p>プロジェクターの表示が横書きで、板書が縦書きなので、学生がノートを取りづらいのではないか。</p> <p>遅刻をする学生は少ないが存在し、要領よく出欠をとる方法を考えていきたい。</p>			

学部	仏教学部	実施教員	池上 光洋 他ゲスト4名
1. 実施日・曜日・時限	11月30日(水)・6時限	教場	禅研-坐禅堂
2. 実施科目名	法式実習	報告責任者	奥野 光賢・角田 泰隆
3. 学生履修者数	8人		
4. 公開授業参加者数	8人		
5. 授業実施状況			
<p>この授業は寄付講座科目である。卒業後の僧堂安居に向けて、4年生を対象に開講されている。僧堂での修行における基礎知識を学び、威儀や基本作法を学ぶ。この公開授業は、その中でも極めて実践的な授業であり、修行道場の僧堂での飯台を、大学の坐禅堂で実践したものであり、今回は小食(朝食)の作法にて実食をしたものである。飯器等、僧堂に準じた道具を使用し、鳴らし物も代用品を用いるなど工夫されていた。厳粛な中で食事作法が如法に行われており、教員(ゲスト)の指導も適切であり、進行もスムーズであった。学生一人ひとりに注意が行き届いており、学生も緊張感をもって授業に臨んでいる様子であった。所作を学ぶということは、アクティブ・ラーニングの一つの形態となっており、この授業で習得した内容は実際の修行の場で活用することができるものであり、学生たちにとっても大きな自信になるのではないかと感じた。</p>			
6. 授業改善ポイント指摘事項			
<p>鳴らし物が完備されていないため、僧堂での飯台を完全には再現できていない。雲版・太鼓・梆・戒尺(乙)などがあれば、長版・下鉢版・梆・大播・請鼓等を鳴らすことができるので、設備できれば、より僧堂での飯台がリアルに体験できると思われる。飯台等の道具も借り物であるので、今後大学の備品として備えられたらよいと思う。僧堂ではスリッパを用いるが、駒澤大学では用いないので、スリッパの出し入れの動作だけが行われていたが、このような実習用にスリッパを備えることも望まれる。</p>			

学部	仏教学部	実施教員	徳野 崇行
1. 実施日・曜日・時限	1 2 月 1 日 (木)・3 時限	教場	8 - 3 6 2
2. 実施科目名	宗教学概論	報告責任者	長谷部 八朗
3. 学生履修者数	1 4 3 人		
4. 公開授業参加者数	4 人		
5. 授業実施状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業は、「檀家制度の成立と推移」について、板書を併用しながら、配布資料による講義形式で行われた。 ・充実した内容の資料で、説明もわかりやすく、私語もほとんどなかった。 ・C-Learning で出席確認 			
6. 授業改善ポイント指摘事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・一方的に講義、板書するのではなく、「知っているかな?」「なぜだろう?」などと、受講生に問いかける工夫を取り入れたらどうか。たとえば、「関ヶ原の戦いはどのくらいの軍勢だったと思う?」とか、「何故、幕府はキリシタンを弾圧したのだと思う?」などのように。 ・資料は充実しているが、学部生が1回の授業時間内で理解するには、内容、分量ともに厳しいのではないかな。 ・こうした多数の受講生を擁した授業は、TA を配して効果を高めるべきであろう。 			

学部	文学部	実施教員	櫻井 陽子
1. 実施日・曜日・時限	1 2 月 7 日 (水)・2 時限	教場	1 研 1 3 4 4 (国文学科資料室)
2. 実施科目名	国語国文学演習Ⅱ	報告責任者	勝原 晴希
3. 学生履修者数	1 0 人		
4. 公開授業参加者数	6 人		
5. 授業実施状況			
<p>あらかじめ配布の発表資料に加え、補足資料が配布されて発表開始。発表の目的とそのテーマを選んだ理由、発表手順が説明され、手順に従い資料に沿って発表がされた。発表は分かりやすく、発声も明瞭。教員の簡潔な要約の後、学生相互の質疑応答。学生による質問と発表者の応答が授業終了時間を超えてつづいた。最後に教員によるコメントがあり、次週発表者による、発表予告、発表資料を配布して終了。</p>			
6. 授業改善ポイント指摘事項			
<p>少人数ということ、また『平家物語』という同じひとつの対象を共有しているということもあろうが、履修学生全員が発表者の報告をよく理解し、和気あいあいとしながらも、ポイントを突いた質問、発表者に有益な質問がなされていた。学生の自主性・主体性を重んじて教員はちょっとした補足や話題の指摘にとどめており、3年次生を対象とした少人数演習として、特に改善すべき点はなかった。</p>			

学部	経済学部	実施教員	百田 義治
1. 実施日・曜日・時限	11月17日(木)・4時限	教場	1-403
2. 実施科目名	ビジネス事例研究	報告責任者	長山 宗広
3. 学生履修者数	179人		
4. 公開授業参加者数	1人		
5. 授業実施状況			
<p>本講義は、駒澤大学経済学部の卒業生を中心にゲスト・スピーカーを毎回招き、起業家による講演・対話方式で進める特別形態授業である。今回の授業では、実施教員のゼミの0Bであり、アパレル会社を起業した高津慎一郎氏（株）ラー代表取締役）が登壇した。</p> <p>高津氏の講演は、アパレル業界の特徴や自社の事業内容の説明に加え、ご自身の人生観や就職活動の体験談・経験談なども交えて1時間程度行なわれた。その後、実施教員による解説・補足説明があり、残りの時間では、高津氏と学生による質疑応答が活発に繰り広げられた。</p> <p>なお、ゲスト・スピーカーの講演にもとづき、学生には毎回レポートの提出が課されている。</p>			
6. 授業改善ポイント指摘事項			
<p>本講義の目標は、シラバスにも記されているとおり、「企業、経営、労働、そして企業が求める人材像の現実を知る」といった点にある。今回の授業は、この目標に合致したエクセレントな内容であった。</p> <p>実施教員が事前にゲスト・スピーカーの情報を十分に把握しているため、講演の不慣れな起業家の話を分かりやすく解説し、不足部分をフォローすることができていた。学生との質疑応答の時間がたっぷりあり、しかも実施教員の整理によって整然と行なわれたので大変分かりやすかった。</p> <p>同じ駒澤大学経済学部で学んだ先輩からの体験談・経験談を聴く貴重な機会となるためか、学生達は当事者（自分事）意識を持って集中して授業を受けていた。</p> <p>本講義は、経済学部の「財産」といえる。ただそれは、実施教員による長年の本学での教員キャリアという属人的なものに依拠している。こうした「名物授業」が持続的に実施できるような、「事業（授業）の継承」が今後の課題となろう。</p>			

学部	経済学部	実施教員	王 穎琳
1. 実施日・曜日・時限	11月22日(火)・3時限	教場	8-360
2. 実施科目名	中国経済論b	報告責任者	増田 幹人
3. 学生履修者数	332人		
4. 公開授業参加者数	1人		
5. 授業実施状況			
<p>歴史的観点から中国の家電産業の発展について講義を行うという内容で、適宜、具体的な企業の事例を出しながら家電産業の内容、背景要因、成長戦略など幅広い内容を体系的に説明していた。私語を行う学生も少なく、また私語が出た場合にはその都度注意がなされていた。また、教員の喋り方にはメリハリがあり、声も大きく通っているため聞きやすかった。授業方法は、スライドに映されたパワーポイントを基に実施されていたが、穴埋め式のプリントを配布することにより、学生の授業に対する積極性を促す工夫がなされていた。また、学生の積極性を促すという点に関しては、適宜、学生に対して質問を行うということからも伺えた。さらに、スライドには適宜、図表も映し出され、具体的な数字を用いることにより、</p>			

学生の理解を深める工夫も見られた。なお、スライドには当授業がシラバスにおける何回目の授業であるかも明記されており、最近シラバス通りに進んでいるかどうかを気にする学生が増えている中で、丁寧な配慮がなされていると感じた。

6. 授業改善ポイント指摘事項

基本的には、様々な点から学生に対する配慮がなされており、学生にとっても満足のいく授業なのではないかと推察される。ただし、以下の通り改善点も見られるので、その点も考慮すれば良い授業になると考えられる。第一に、パワーポイント 1 枚当たりの字数が少ないので見やすく良いが、次のスライドに行くまでの時間がやや短いため、学生がノートをとるには少し、時間が短いように感じられる。そこで学生がノートをとる時間を考慮し、例えば、見やすさを損なわない程度まで 1 枚当たりの字数をもう少し多くすることにより、1 スライド当たりの説明時間をもう少し長くしても良いように思われた。第二に、学生に質問を行う際には、前に座っている学生に集中していたため、もう少し後ろに座っている学生にも質問したほうが良いように感じた。第三に、図が適宜スライドに映しだされていたが、軸名や系列名などが小さくて見えにくいいため、例えば図についてはプリントとして配布するなど、何か工夫を行った方が良いでしょうに思われた。

学部	経済学部	実施教員	番場 博之
1. 実施日・曜日・時限	12月1日(木)・1時限	教場	8-465
2. 実施科目名	流通政策 b	報告責任者	吉田 真広
3. 学生履修者数	126人		
4. 公開授業参加者数	1人		

5. 授業実施状況

小売商業政策の大転換と題する講義であった。大型店の進出によるシャッター通りや買物難民の増加という問題、逆に大型店の撤退による空き店舗や跡地利用などの問題など、1998～2001年の商業政策に翻弄された商業問題が「都市」・「まち」・「暮らし」問題へと広がっていった背景を説明するという内容であった。講義手法については大変充実している。まず、配布されたプリントによって講義の流れと概略を把握できるようになっている。次に、モニターでは図表や簡略的な説明がその都度表示されている。また、講義ではモニターよりも詳しい説明が口頭で行われているが、テキストを利用しているため、聞き逃しても後でフォローできる形になっている。学生にとっては、教員から口頭説明やモニターから、自ら工夫してノートを取らなければならないようになっている。本講義は内容理解の容易性、ノートテイクにおける学生の自主性という点で優れた講義となっている。また、今回の講義内容と次回以降の講義との関連をその都度言及している点も、学生にとって興味と理解を高めている。

6. 授業改善ポイント指摘事項

本講義の改善点はほとんど無いように思われる。説明にも話し方にもメリハリがあり、聞きやすい。私語を発する学生も皆無であった。「あえて」何らかの改善点を、というのであれば、ほんの僅かながら、話しのスピードが速いかもしれない。ただ、テキストやプリントがあるから、この点も大きな問題ではないと思われる。

学部	法学部	実施教員	富樫 景子
1. 実施日・曜日・時限	11月25日(金)・3時限	教場	9-391
2. 実施科目名	刑法総論	報告責任者	田中 優企
3. 学生履修者数	300人		
4. 公開授業参加者数	3人		
5. 授業実施状況			
<p>当日の授業は、教科書、レジュメ及び六法に基づきながら、黒板を用いて実施された。教科書は、本格的な体系書の類ではなく、刑法学を学び始めた1年生に見合ったものが用いられていた。また、レジュメは、講義の約1週間前に YeStudy を通じて配信され、当日は、教員の説明に基づきながら、適宜、学生が空欄等に書き込んでいく形で用いられていた。レジュメは、わかりやすく整理された説明や図表で構成され、テキストや参考文献の参照ページが詳細に記されている他、教科書や判例、法学検定試験等に基づく様々な課題も設けられており、学生が一人で教科書を読んで学習できるようになるための工夫・配慮が行き届いたものとなっていた。板書は、大教場であることを考慮し、大きく明瞭な文字で行われており、また、口頭での説明は、十分な間を取りつつ、はっきりとした口調で、わかりやすくなされていた。授業は、このような教科書、レジュメ、板書及び口頭での説明がそれぞれの確に対応（有機的に連携）する形で展開されており、高い教育効果を期待できるものであった。</p>			
6. 授業改善ポイント指摘事項			
<p>授業内容は、基本的かつ重要な事項を中心に構成されているが、法科大学院への進学や資格試験の受験を目指すなど、一歩進んだ学習に進むべき学生向けの応用・発展的な事項をどのように織り交ぜるかは悩ましいところであろう。もっとも、当該科目は1年次配当の必修科目であり、そのような学生の絶対数も少ない上、2年次以降の刑事法科目や演習科目において学習する機会もあるので、そこまで求めるのは欲張りな要求ともいえよう。なお、そのような学生からの質問等に対しては、直接またはメールで個別に対応する旨のアナウンスもしており、実際、それを活用している学生もいるとのことである。</p>			

学部	法学部	実施教員	逢坂 巖
1. 実施日・曜日・時限	11月30日(水)・3時限	教場	8-467
2. 実施科目名	ジャーナリズム論	報告責任者	田中 優企
3. 学生履修者数	117人		
4. 公開授業参加者数	2人		
5. 授業実施状況			
<p>当日の授業は、レジュメ及び資料に基づきながら、パワーポイント（補助的に黒板も）を用いて実施された。レジュメは、当日の授業内容の項目やポイントを整理したもので、授業を理解する上で有用であった。資料は、当日の授業テーマ（戦争とジャーナリズム）に関する各種の新聞記事であり、学生にとって、授業内容を視覚的に理解させると共に、当時の戦時下という特殊な時代状況を把握させるためにも有効であったと思料される。また、パワーポイントでは、当日の授業テーマについて予め学生に作成・提出させたレポートが適宜（個人は特定されない形で）提示され、その内容を紹介しながら授業が展開された。講義は、一方通行の授業になりやすいところ、学生のレポートを授業に組み込み、それに対して教員がコメントをしながら授業を進めていくことによって、一種の「議論・対話」を生み出している点は大変感銘を</p>			

受けた。また、授業内でレポートを取り上げられた学生にとっては、授業への主体的な参加を意識できると共に、自身の学習の励みになるという効果もあろう。なお、他の回の授業では、ゲストスピーカーを招聘するなどの取り組みも行われているとのことであり、授業の実施に際しては、種々の工夫・配慮が行われているものと思料される。

6. 授業改善ポイント指摘事項

教場の設備の仕様や、学生のレポートが手書きによるものであったこともあると思われるが、スクリーンやモニターに映し出された学生のレポートが若干見づらかった。レポートの内容は、教員が口頭で読み上げていたものの、該当部分をもう少し大きく映し出すなどして、視覚的にも学生により明確に伝わるような工夫も必要であろう。

学部	経営学部	実施教員	中野 香織
1. 実施日・曜日・時限	11月16日(水)・3時限	教場	1-401
2. 実施科目名	マーケティング・コミュニケーション論	報告責任者	小本 恵照
3. 学生履修者数	334人		
4. 公開授業参加者数	3人		

5. 授業実施状況

●製品コミュニケーション戦略および店舗内コミュニケーションに関して、下記のような授業が実施された。

(1) 穴埋め式のレジюмеや新聞記事などが配布された。

(2) 授業の最初に、前回の授業に関する質問に関する解説が加えられるとともに、授業に関する感想などの紹介が行われた。

(3) レジюмеの内容に関する動画 DVD の視聴や新聞記事の解説が行われた。また、異なる製品パッケージに対する学生の評価を尋ねるアンケートが YeStudy を用いて実施され、即座にアンケート結果が公表された。

(4) 上記のような視聴や解説の後に、レジюмеの穴埋め部分が表示されたパワーポイントが写され、学生は空欄部分の内容を書き込む作業を行った。

(5) 授業の最後に授業に関連する課題の提出の案内と、出席および感想・質問が書き込める用紙（スキャナネットシート）が配布・回収され、授業は終了した。

●学生の関心が大きいと考えられる具体的な事例が次々と紹介され、学生を飽きさせない内容になるように工夫された授業となっていた。

6. 授業改善ポイント指摘事項

●下記のような改善事項があった。

(1) レジюме等の配布に7分程度の時間を要していたので、授業開始前の配布もしくは配布資料の削減によって、実質的な授業時間を増やすことが可能になる。

(2) パワーポイントで重要部分を赤字で強調する資料の作成となっていたが、他の色に比べて赤字を識別できないが人の割合は多いため、青など別の色を使うといった方法もあり得るのではないかとと思われる。

(3) 異なる製品パッケージの画像の提示に当たっては、間に白紙を挟むといった工夫で、より効果的な

提示になる可能性がある。

(4) 最後のスキャナネットシートを用いた課題提出や出席管理は、YeStudy の「課題 (テキスト提出)」を用いると、より効率化できる可能性がある。

学部	経営学部	実施教員	中川 淳平
1. 実施日・曜日・時限	11月25日(金)・2時限	教場	8-466
2. 実施科目名	経営学	報告責任者	豊田 太郎
3. 学生履修者数	161人		
4. 公開授業参加者数	4人		
5. 授業実施状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：「CSR とリスクマネジメント」 ・授業は主に穴埋め式のレジュメ，一部にビデオ教材・パワーポイントを利用しつつ進められた。 ・説明にあたっての話し方，声の大きさなどは良好であった。 ・内容も事例を豊富に取り上げて学生の興味をひく工夫が感じられた。 ・当該科目は1年次必修科目ということもあって，2年次以降の学習を見越して授業内容に関連する科目名を列挙していた。 ・参考文献リストをレジュメに記載し，自発的学習を促していた。 ・教場は概ね静穏であった。 			
6. 授業改善ポイント指摘事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員の専門に即して解説すれば，より興味深い内容になったのではないか。 ・かなり遅い時間に教場に入ってきて，友人と話し始める学生への対処が必要ではないか。 ・ビデオ教材を用いても，多くの学生が顔を上げない。(他の授業でも同様のケースあり?) ・レジュメに記載のある関連科目が，実際に当該授業内容に立ち入っているかどうか意見交換が必要か。 			

学部	経営学部	実施教員	飯田 哲夫
1. 実施日・曜日・時限	11月25日(金)・3時限	教場	2研-203
2. 実施科目名	経営数学B	報告責任者	小沢 利久
3. 学生履修者数	88人		
4. 公開授業参加者数	3人		
5. 授業実施状況			
<p><u>授業内容</u></p> <p>1 変数の微分を用いた最適化問題の例としての経済的発注量の導出を取り上げ，次の順序で説明が行われた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 前回までの授業内容の振り返り 2) 在庫管理について 3) 在庫管理問題としてのモデル化と定式化 4) 微分を用いた最小化問題の解法 			

5) 数値列及び結果の特徴などについて

授業の進め方等

- ・要点と図を板書きしながら説明を進める形式の授業であった。
- ・授業内容を A4 一枚にまとめたプリントを配布した。
- ・使った式や導出した式については、在庫管理問題に則した意味の説明に心がけていた。
- ・内容を理解・復習するための問題（宿題）を YeStudy を使って出した。

授業環境

- ・出席人数に対して広めの教室であった。授業中は大変静かな環境が保たれていた。

6. 授業改善ポイント指摘事項

- ・マイクの音量をもう少し大きくした方がよい。話し方にももう少し勢いがあるとよい。
- ・この授業は数学の手法を説明するものなので、ロットサイズなど、在庫管理の専門用語の使用は最小限にしたほうがよい（分からない専門用語があると、学生は理解して欲しい数学的な内容の部分もうまく理解してくれないと思われるため）。
- ・在庫管理については、何か簡単で身近な例を最初に示してから説明したほうがよい。その方が、学生にとっては説明されていることを具体的にイメージできるため、理解しやすいと思われる。また、途中で説明する概念や式についても、出来るだけ具体的に対応させながら進めると学生にとってわかりやすいと思われる。

学部	経営学部	実施教員	明石 博行
1. 実施日・曜日・時限	11月30日（水）・4時限	教場	8-255
2. 実施科目名	経済原論	報告責任者	桑原 正行
3. 学生履修者数	326人		
4. 公開授業参加者数	2人		
5. 授業実施状況			
<p>ICT機器（パワーポイント）の使用 配付資料 A3 両面 2 枚 出席カード配布 講義形式 授業は配付資料の内容順に進められており、適宜パワーポイントによる画像を用いながら説明していることから、学生にとっても授業の展開が理解しやすいと思われる。また、先生の説明は難しい用語をあまり用いないため、学生にとっては理解しやすかったと思われる。板書については、資料があるためほとんど用いてはいるが、補足的な説明のために若干図などを書いていった。配付資料の分量が多いために、90 分では消化しにくいと感じた。</p>			
6. 授業改善ポイント指摘事項			
<p>今回は、公開授業用という先生の判断から、シラバスの内容と若干前後あるいは重複していた部分もあり、講義中に「以前に説明したように」という文言が多く使われていた。公開授業に参加した教員は、今回だけ講義を聞いたため本授業の位置づけが若干わからない部分があった。授業では、シラバスを中心に口頭で説明し、適宜パワーポイントによる画像を用いていたが、聞いている学生はほとんどシラバスを見ていて、あまり顔を上げてモニターを見る学生が少なかった。より、学生にモニター注目させる必要があると思われる。また、この講義は履修者数からもわかるように大人数であるため、どうしても講義中心と</p>			

なり、学生が受け身になりやすいので、学生が主体的に学ぶ方法を部分的にでも取り入れる必要がある。シラバスには参考文献や引用文献などが挙げられているが、毎回の講義においてもそれに関連する文献などを紹介すると、一部でも関心がある学生は自発的に学ぶこともあるので望ましいと思われる。

学部	経営学部	実施教員	岸田 隆行
1. 実施日・曜日・時限	12月6日(火)・2時限	教場	8-255
2. 実施科目名	原価計算論	報告責任者	河合 由佳里
3. 学生履修者数	180人		
4. 公開授業参加者数	2人		
5. 授業実施状況			
【授業の内容】			
直接原価計算をテーマとした授業が実施された。			
【授業の進め方】			
授業は、穴埋め式のレジュメを配布し、板書を使用しながら説明、その後例題を用いて実際に計算を行うという流れで進められた。前半の説明部分では、板書を適宜用いており、レジュメや板書の載っていない部分は受講生自身でノートを取りながら聞くこともできるように工夫されていた。			
例題による計算演習は、黒板に解答欄を簡略化して記載し、計算の方法を口頭で説明しながら計算結果を記入する形で進められた。口頭のみで説明する式については、2回繰り返して説明し、算出過程が分かりやすく説明されていた。復習用としてレジュメに練習問題も掲載しており、授業内で実施される小テストの準備がしやすいようにも工夫されていた。			
【授業環境】			
390名教場に対して80名程度の出席者で教場がやや大きいようであった。話し方や速度は適切で受講生は静かにしていた。			
6. 授業改善ポイント指摘事項			
・マイクの音量がやや大きいように感じた。			
・レジュメと板書のみで授業が進められていたため、表はプロジェクタで示したり、計算結果を解答欄に記載するときは書画カメラでレジュメを投影するほうが見やすいのではないかとの意見があった。			
・後半の例題による演習は、説明のスピードが速く、ついていけない受講生がいるようだった。			
・例題による演習の解答が黒板に示されていたが、文字が小さかったため、教場の後方に座っている受講生には見えにくいようだった。			

学部	医療健康科学部	実施教員	馬込 大貴
1. 実施日・曜日・時限	11月16日(水)・3時限	教場	9-170
2. 実施科目名	画像工学概論 I	報告責任者	熊坂 さつき
3. 学生履修者数	76人		
4. 公開授業参加者数	9人		
5. 授業実施状況			
授業開始直後に小テスト(先週の授業の修得知識確認)を行いこの事により、修得の効果が期待される。			

実施後に重要点の再チェックを行って知識を補強しているのも良い。学生が既配布資料に小テストで自ら再確認した事をメモしている姿がみられた。又、小テストの解答は YeStudy を利用して学生が自ら再確認が出来るように工夫している。

この講義で最も注目すべき事は、講義形式の授業の中で、ちょっとした実験を行い、教科書に書いてある内容について、学生全員に実際の体験をさせながら講義を展開していくところの工夫にある。アクティブ・ラーニングを活用した良い授業である。又、アクティブ・ラーニングの活用だけでなく、テキストである「X線写真学」も上手く活用していた。

授業が始まってからも学生の私語があったが、小テストを行うことで一気に静かになり、学生が授業に集中したのは見習いたいポイントである。

6. 授業改善ポイント指摘事項

毎回ちょっとした実験が行われるので、講義の展開をスムーズに行う工夫を更にして行く事を今後も期待したい。

学部	GMS 学部	実施教員	リンスキー, マイケル
1. 実施日・曜日・時限	11月18日(金)・3時限	教場	9-173
2. 実施科目名	異文化経営論	報告責任者	服部 哲
3. 学生履修者数	29人		
4. 公開授業参加者数	3人		
5. 授業実施状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業はすべて英語で行われた。 ・初めに出席カードを配布。遅刻者には別色の出席カードを配布。 ・90分の前半30分を利用して前回実施の小テストを解説し、残りの1時間を利用して、新しい内容を導入。 ・小テストの解説では、問題文を学生に音読させ、また回答も学生に求めてから、教員が黒板に正解を板書し、解説。 ・新しい内容を導入する際は、スライドを印刷した授業資料を配布し、パソコンでスライドを投影し、かつ黒板も利用しながら、時にはジェスチャーも交え、非常にわかりやすく解説。(今回はカルチャーについて講義) ・全体的に、学生とのインタラクティブな授業を心がけており、非常に参考になった。 			
6. 授業改善ポイント指摘事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者数名が公開授業参加者より後ろに座っていたので、前のほうに座るように促すと良かった。(ただし、遅刻した学生が悪いので、前方への着席を促すかどうかは教員の判断次第) ・配布資料を学生がホッチキスで綴じていたが、人数が20名程度なので、資料を綴じた状態で渡しても良いのではないかと。または、A3両面で印刷すれば綴じる必要もなかったと思う。 ・外部の騒音(130周年記念棟建築の作業音)があるので、学生もマイクを使って発言すると良かったのではないかと。(ただ、そうすると授業のインタラクティブ性が損なわれる。今後もキャンパス再開発が続くとと思われるため、大学には授業環境の整備に努めていただきたい。これは授業改善ではありませんが) 			

学部	総合教育研究部	実施教員	畠山 寛
1. 実施日・曜日・時限	11月29日(火)・2時限	教場	1-515
2. 実施科目名	ドイツ語 I A b (選)	報告責任者	佐藤 普美子
3. 学生履修者数	9人		
4. 公開授業参加者数	6人		
5. 授業実施状況	授業内容：関係代名詞、枠構造		
1. 授業方法の特色	<p>①教科書に頼りすぎない。まず教科書・ノートを閉じさせ、板書したフレーズを使って前回の復習をし、今回の授業内容につなげていく。</p> <p>②英語との比較から考えさせる。ドイツ語特有の枠構造を確認させる。</p> <p>③随所で「問い」を発する。文法をすぐに教えず、「もし～がなかったら？」などと質問し、まずその必要性を考えさせる。既知の情報から引き出させる。</p> <p>④既習事項や板書した内容について、随時、学生に学生自身のコトバによって説明させたり、重要事項を繰り返させることで、学習事項の定着をはかる。</p> <p>⑤日常的経験と比較させる。スポーツと言語におけるルールの必要性など。</p> <p>⑥ドイツ人・ドイツ文化に関する印象的なエピソードを紹介する。</p>		
2. 授業スタイルの特色	<p>①明るくはっきりした声で、ゆっくりと念を押すような話し方が聞き取りやすい。</p> <p>②ジェスチャー入りの説明や学生に語りかけるような口調が親しみやすい。</p> <p>③学生一人一人の様子を見ながら、全員を授業に参加させる工夫と努力をしている。</p>		
6. 授業改善ポイント指摘事項	<p>①書画カメラとプロジェクターを使って、教材を投影すると、能率がもっと上がるのではないかな。</p> <p>②教師の声は大きくはっきりしているが、学生の声は小さく沈滞気味に感じる。学生が大きな声ではっきりと答えるようにしむける工夫がほしい。</p> <p>③質問の時間をもっと設ける方がよい。</p> <p>④文法の授業ではあるが、もう少しドイツ語の音声を聞かせる時間があってもよいのではないだろうか。</p> <p>⑤学生はばらばらに着席しているが、受講者同士の仲間意識はないのか気になった。</p>		
参考にしたい件	<p>①学生が自信なげに答えたときでも、教師はややオーバーにほめていたが、これは学生の学習意欲を持続させるうえでとても重要なことで、ぜひ実践したい。</p> <p>②基本事項は板書ですべて説明し、教科書の説明や例文は、あくまで復習や補足(宿題)のために使っている。学生の視線を下ではなく、前方(教師)に向けさせるためにも効果的な方法である。</p>		

学部	総合教育研究部	実施教員	矢野 秀武
1. 実施日・曜日・時限	11月30日(水)・3時限	教場	7-507
2. 実施科目名	宗教学概説	報告責任者	河谷 淳
3. 学生履修者数	8人		
4. 公開授業参加者数	4人		
5. 授業実施状況			
<p>プリント資料とパワーポイントを使用しながら、来週以降に行われる口頭発表に向け、1) 発表の仕方(発表の持ち時間、評価基準)、2) 質問の仕方(質問の種類、質問のマナー)、3) 引用の仕方などの注意事項、などについて説明がなされた上で、担当教員による口頭発表の実演がなされた後、班分け・自己紹介と学生相互のコミュニケーションを図るための「伝言ゲーム」が行われた。今回の授業内容はこれまでの講義内容を踏まえた上でのグループワークの一環として位置づけることができる。</p>			
6. 授業改善ポイント指摘事項			
<p>公開授業参加者からは、授業改善ポイントの指摘は特になされなかったが、発表の仕方や質問の仕方・マナーについて具体的で丁寧な説明がなされていたことに対して概ね好意的なコメントが寄せられた。また、学生と教員ならびに学生相互のコミュニケーションの取り方やグループワークの準備・運営の仕方などについても参考になったという意見が複数寄せられた。</p>			

5. 学生による授業アンケート

(1) 「学生による授業アンケート」の概要

各教員の授業の改善を目的に、平成 28 年度「学生による授業アンケート」を下記の要領で実施した。C-Learning システムを利用し、Web 上で学生は回答をし、教員は結果を確認する方式をとっている。本報告書では、集約したデータの学部学科専攻部門・質問項目ごとの平均値を示した。

◇実施期間

下記の期間に、該当科目の授業時間内に実施した。

前期（前期終了科目対象）： 2016 年 6 月 6 日～25 日

後期（後期・通年科目対象）： 2016 年 11 月 9 日～30 日

◇対象科目および対象学生数

全科目を対象に実施した。ただし、演習科目、集中講義科目ならびに受講者数が 20 名未満の科目は対象外とした。

前期	1, 204 科目	79, 778 人（延べ人数）
後期	1, 757 科目	141, 106 人（延べ人数）

◇実施科目数および回答者数

前期	1, 204 科目	41, 540 人（52.1%）
後期	1, 757 科目	60, 514 人（42.9%）

(2) 授業アンケート質問項目

Q 1. 所属学部学科等

20:仏教	13:社会学	6:法律B
19:国文	12:社会福祉学	5:政治
18:英米文	11:心理	4:経営
17:地理	10:経済	3:市場戦略
16:日本史学	9:商	2:診療放射線技術科
15:外国史学	8:現代応用経済	1:グローバル・メディア
14:考古学	7:法律A	

Q 2. 学年

5:4年 4:3年 3:2年 2:1年 1:その他

Q 3. どのような入学試験を受けて、あなたは本学に入学しましたか。

- 11:一般入試
- 10:大学入試センター試験利用入試
- 9:一般推薦入試
- 8:スポーツ推薦入試
- 7:指定校推薦
- 6:附属校推薦入試
- 5:留学生特別入試
- 4:帰国生特別入試
- 3:編入学試験
- 2:その他
- 1:回答しない

Q 4. この授業を何回欠席しましたか。

(半期科目)

5:0回 4:1~2回 3:3~4回 2:5~6回 1:7回以上

(通年科目)

5:0回 4:1~4回 3:5~9回 2:10~13回 1:14回以上

Q 5. どのような理由でこの授業を履修しましたか。(複数回答可)

- 7:シラバスを見て授業内容に興味を持った
- 6:シラバス以外の情報(友人等)により、授業内容に興味を持った
- 5:履修モデル(コース制等)を見て決めた
- 4:資格の取得
- 3:必修科目または選択必修科目だったから
- 2:時間割(曜日時限)を考慮して決めた
- 1:その他

Q 6. この授業の予習にあてている時間は1週間に何時間くらいですか。

Q 7. この授業の復習にあてている時間は1週間に何時間くらいですか。

(Q 6・7 選択肢)

5:4 時間以上 4:3 時間以上～4 時間未満 3:2 時間以上～3 時間未満
2:1 時間以上～2 時間未満 1:1 時間未満

Q 8. あなたは授業に熱心に取り組んでいますか。

Q 9. 授業はほぼ定刻通りに実施されていますか。

Q 10. 通常通り、授業回数は確保されていますか。(補講・YeStudy 等による課題授業含む)

Q 11. 授業にはおおむねシラバスの内容が反映されていますか。

Q 12. この授業の進み方はあなたにとって適切ですか。

(Q 8～12 の選択肢は Q 21 の後に記載)

Q 13. 教科書・配付資料等は授業内容を理解するうえで効果的ですか。

5:とてもそう思う 4:そう思う 3:どちらとも言えない 2:あまりそう思わない
1:全くそう思わない 0:教科書・配付資料等がない授業

Q 14. 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられますか。

Q 15. 教員の話し方・声のボリュームは聞き取りやすいですか。

Q 16. 板書や投影されたスクリーンの文字・図表等は見やすいですか。

5:とてもそう思う 4:そう思う 3:どちらとも言えない 2:あまりそう思わない
1:全くそう思わない 0:板書・スクリーンへの投影がない授業

Q 17. 教員は授業内容に沿った授業環境・雰囲気づくりに配慮していますか。

(Q 17 の選択肢は Q 21 の後に記載)

Q 18. 教員はあなたの意見や質問に対して適切に対応していますか。

5:とてもそう思う 4:そう思う 3:どちらとも言えない 2:あまりそう思わない
1:あなたが当該授業において意見・質問をしたことがない場合

Q 19. この科目の授業内容についてよく理解できていますか。

Q 20. 授業内容に興味を持っていますか。

Q 21. あなたはこの授業の到達目標を達成できると思いますか。

(Q 8～12・14・15・17・19～21 選択肢)

5:とてもそう思う 4:そう思う 3:どちらとも言えない 2:あまりそう思わない
1:全くそう思わない

Q 22. 教員自由設定質問

Q 23. この授業のよかった点を具体的に記入してください。

Q 24. この授業の改善してほしい点を具体的に記入してください。

(3) 項目別平均値

「項目別平均値」に関しては、前期・後期で実施されたアンケートについて、質問項目 Q4・6～21 の学部・学科・専攻・部門別平均値を表に示したものである。学科・専攻・部門は、担当教員の所属による集計となっている。

これらの表を解釈する際、Q4～8 までが学生の授業への取り組みについての結果であるのに対して、Q9～21 までが該当授業の内容についての結果であることを念頭においておく必要がある。

なお、学生による自由記述項目 (Q23・24) に関してはここでは報告していない。

I. 学部・学科別平均値

表 1 学科等別平均値 (前期実施科目) ※「-」は前期アンケート対象科目なし

(学部)学科等	(仏教) 禅			(仏教) 仏教			(文) 国文		
	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値	4.1	-	4.1	3.9	3.9	-	4.5	4.5	-
Q6 平均値	1.0	-	1.0	1.1	1.1	-	1.1	1.1	-
Q7 平均値	1.0	-	1.0	1.1	1.1	-	1.0	1.0	-
Q8 平均値	3.5	-	3.5	3.0	3.0	-	3.8	3.8	-
Q9 平均値	3.9	-	3.9	4.1	4.1	-	4.3	4.3	-
Q10 平均値	4.1	-	4.1	4.1	4.1	-	4.4	4.4	-
Q11 平均値	4.0	-	4.0	4.1	4.1	-	4.1	4.1	-
Q12 平均値	4.0	-	4.0	3.6	3.6	-	4.0	4.0	-
Q13 平均値	4.0	-	4.0	3.5	3.5	-	4.1	4.1	-
Q14 平均値	4.4	-	4.4	3.9	3.9	-	4.3	4.3	-
Q15 平均値	4.5	-	4.5	2.9	2.9	-	4.2	4.2	-
Q16 平均値	4.0	-	4.0	3.5	3.5	-	4.1	4.1	-
Q17 平均値	4.2	-	4.2	3.6	3.6	-	4.2	4.2	-
Q18 平均値	4.2	-	4.2	3.7	3.7	-	4.1	4.1	-
Q19 平均値	3.4	-	3.4	3.1	3.1	-	4.0	4.0	-
Q20 平均値	3.5	-	3.5	3.2	3.2	-	3.7	3.7	-
Q21 平均値	3.3	-	3.3	3.3	3.3	-	3.8	3.8	-
有効回答数	22			57			72		

(学部)学科等	(文) 英米文			(文) 地域文化			(文) 地域環境		
	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値	4.3	-	4.3	4.4	4.5	4.4	4.4	4.4	4.4
Q6 平均値	1.4	-	1.4	1.3	1.3	1.3	1.2	1.3	1.2
Q7 平均値	1.4	-	1.4	1.3	1.3	1.3	1.3	1.5	1.2
Q8 平均値	3.9	-	3.9	3.7	3.8	3.6	3.8	3.9	3.7
Q9 平均値	4.3	-	4.3	4.2	4.3	4.0	4.2	4.3	4.1
Q10 平均値	4.4	-	4.4	4.3	4.3	4.2	4.3	4.4	4.2
Q11 平均値	4.2	-	4.2	4.0	4.1	3.7	4.3	4.3	4.2
Q12 平均値	3.9	-	3.9	3.8	3.9	3.7	4.1	4.1	4.1
Q13 平均値	3.9	-	3.9	3.9	4.0	3.8	4.2	4.2	4.2
Q14 平均値	4.2	-	4.2	4.1	4.2	4.1	4.3	4.3	4.2
Q15 平均値	4.3	-	4.3	4.0	4.1	3.9	4.3	4.2	4.4
Q16 平均値	4.2	-	4.2	3.8	3.9	3.8	4.1	4.0	4.2
Q17 平均値	4.2	-	4.2	4.1	4.1	4.0	4.2	4.2	4.1
Q18 平均値	4.2	-	4.2	4.0	4.0	4.0	4.1	4.2	4.0
Q19 平均値	3.8	-	3.8	3.7	3.8	3.6	3.8	3.8	3.8
Q20 平均値	3.7	-	3.7	3.8	3.9	3.7	4.0	4.0	4.0
Q21 平均値	3.7	-	3.7	3.7	3.7	3.6	3.8	3.8	3.9
有効回答数	92			700			592		

(学部)学科等	(文) 日本史学			(文) 外国史学			(文) 考古学		
	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値	4.6	4.6	4.6	4.5	4.3	4.5	4.6	4.5	4.7
Q6 平均値	1.7	1.8	1.6	1.1	1.0	1.1	1.1	1.0	1.1
Q7 平均値	1.2	1.1	1.3	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1
Q8 平均値	4.1	4.0	4.2	3.7	4.1	3.7	3.8	3.8	3.9
Q9 平均値	4.3	4.1	4.6	4.3	4.3	4.3	4.3	4.0	4.4
Q10 平均値	4.5	4.5	4.5	4.4	4.4	4.4	4.5	4.5	4.5
Q11 平均値	4.3	4.2	4.3	4.3	4.5	4.3	4.4	4.4	4.4
Q12 平均値	4.1	4.1	4.1	4.1	4.4	4.0	4.3	4.3	4.3
Q13 平均値	4.2	4.2	4.2	4.0	4.2	4.0	4.3	4.5	4.2
Q14 平均値	4.4	4.3	4.4	4.3	4.4	4.2	4.5	4.5	4.4
Q15 平均値	4.5	4.6	4.4	4.2	4.6	4.2	4.5	4.7	4.4
Q16 平均値	4.1	4.2	4.1	4.0	4.2	3.9	4.4	4.3	4.4
Q17 平均値	4.3	4.2	4.4	4.2	4.3	4.2	4.4	4.3	4.4
Q18 平均値	4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	4.1	4.3	4.3	4.3
Q19 平均値	4.1	4.1	4.2	3.8	4.1	3.8	4.0	4.1	4.0
Q20 平均値	4.1	4.0	4.2	4.1	4.5	4.0	4.1	4.2	4.0
Q21 平均値	4.0	3.9	4.1	3.8	4.2	3.8	3.9	3.8	3.9
有効回答数	192			163			109		

(学部)学科等	(文)社会学			(文) 社会福祉学			(文) 心理		
	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均值	4.5	4.5	4.4	4.6	4.7	4.5	4.4	-	4.4
Q6 平均值	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	-	1.2
Q7 平均值	1.2	1.3	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	-	1.2
Q8 平均值	3.6	3.6	3.7	3.9	3.9	3.9	3.9	-	3.9
Q9 平均值	4.1	4.2	4.1	4.2	4.2	4.2	4.5	-	4.5
Q10 平均值	4.3	4.4	4.3	4.2	4.1	4.3	4.4	-	4.4
Q11 平均值	4.1	4.2	4.0	4.1	4.1	4.1	4.3	-	4.3
Q12 平均值	3.7	3.9	3.4	4.0	4.0	4.0	4.1	-	4.1
Q13 平均值	3.8	4.0	3.5	4.1	4.1	4.1	4.1	-	4.1
Q14 平均值	4.0	4.1	3.8	4.3	4.3	4.3	4.3	-	4.3
Q15 平均值	3.7	4.0	3.5	4.1	4.2	4.0	4.3	-	4.3
Q16 平均值	3.4	3.5	3.3	4.0	3.9	4.0	4.2	-	4.2
Q17 平均值	3.8	3.9	3.7	4.1	4.1	4.1	4.3	-	4.3
Q18 平均值	3.8	3.9	3.5	4.1	4.1	4.1	4.2	-	4.2
Q19 平均值	3.5	3.7	3.4	3.8	3.8	3.8	3.9	-	3.9
Q20 平均值	3.6	3.8	3.5	4.0	4.0	4.0	4.0	-	4.0
Q21 平均值	3.5	3.7	3.3	3.8	3.9	3.8	3.8	-	3.8
有効回答数	763			710			480		

(学部)学科等	(経済) 経済			(経済) 商			(経済) 現代応用経済		
	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均值	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4	4.4	4.4	4.3	4.4
Q6 平均值	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.4	1.3	1.3	1.2
Q7 平均值	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.4	1.3	1.3	1.3
Q8 平均值	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.9	3.9	3.8
Q9 平均值	4.2	4.1	4.3	4.1	4.1	4.1	4.3	4.3	4.2
Q10 平均值	4.3	4.3	4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3
Q11 平均值	4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	4.0	4.2	4.2	4.2
Q12 平均值	4.0	4.0	4.0	3.8	3.8	3.8	4.0	4.1	4.0
Q13 平均值	4.0	4.0	4.1	3.9	3.9	3.9	4.1	4.1	4.0
Q14 平均值	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.0	4.3	4.3	4.2
Q15 平均值	4.2	4.2	4.2	4.0	4.1	3.9	4.3	4.3	4.2
Q16 平均值	3.9	4.0	3.9	3.7	3.8	3.7	4.0	4.0	4.0
Q17 平均值	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	3.9	4.2	4.2	4.1
Q18 平均值	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	3.9	4.1	4.1	4.1
Q19 平均值	3.9	3.8	3.9	3.6	3.6	3.6	3.8	3.8	3.9
Q20 平均值	3.9	3.8	3.9	3.7	3.7	3.7	4.0	4.0	3.9
Q21 平均值	3.8	3.8	3.8	3.7	3.6	3.7	3.9	3.9	3.9
有効回答数	4,601			2,366			2,645		

(学部)学科等	(法) 法律			(法) 政治			(経営) 経営		
	専任・非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q4 平均値	4.3	4.3	4.4	4.3	4.3	4.2	4.4	4.4	4.4
Q6 平均値	1.3	1.3	1.2	1.3	1.2	1.3	1.2	1.1	1.2
Q7 平均値	1.4	1.4	1.2	1.3	1.3	1.3	1.2	1.1	1.3
Q8 平均値	3.6	3.5	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.8
Q9 平均値	4.0	3.9	4.1	4.3	4.4	4.1	4.2	4.2	4.3
Q10 平均値	4.1	4.1	4.1	4.4	4.5	4.2	4.3	4.4	4.3
Q11 平均値	3.9	3.9	4.1	4.3	4.4	4.1	4.1	4.1	4.1
Q12 平均値	3.3	3.1	4.0	4.1	4.2	4.0	3.8	3.8	3.8
Q13 平均値	3.6	3.5	3.9	4.2	4.2	4.1	4.0	4.0	4.0
Q14 平均値	3.9	3.8	4.2	4.3	4.4	4.1	4.1	4.2	4.0
Q15 平均値	3.8	3.8	4.0	4.3	4.4	4.2	4.1	4.3	4.0
Q16 平均値	3.5	3.4	3.7	4.1	4.1	4.0	3.8	4.0	3.7
Q17 平均値	3.8	3.7	4.1	4.2	4.2	4.1	4.0	4.1	4.0
Q18 平均値	3.6	3.5	4.0	4.2	4.2	4.1	4.0	4.1	3.9
Q19 平均値	3.3	3.1	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9	3.7
Q20 平均値	3.4	3.3	3.8	4.0	4.0	4.0	3.7	3.6	3.8
Q21 平均値	3.3	3.2	3.7	3.8	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8
有効回答数	674			638			463		

(学部)学科等	(経営) 市場戦略			(医療健康科)			(GMS)			
	専任・非常勤	全体	専任	非常勤	専任・非	全体	専任	非常勤	専任・非	全体
Q4 平均値	4.4	4.4	4.4	4.4	4.7	4.7	4.6	4.4	4.3	4.4
Q6 平均値	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.2	1.1	1.3	1.2	1.4
Q7 平均値	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.3	1.1	1.3	1.2	1.5
Q8 平均値	3.6	3.5	3.7	3.7	3.7	3.7	3.8	3.8	3.7	4.0
Q9 平均値	4.2	4.2	4.1	4.2	4.2	4.2	4.1	4.4	4.4	4.2
Q10 平均値	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4
Q11 平均値	4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.3
Q12 平均値	3.8	3.7	4.0	3.7	3.7	3.7	3.8	3.9	3.9	3.9
Q13 平均値	3.8	3.7	4.1	3.9	3.8	4.1	3.9	3.9	3.9	4.1
Q14 平均値	4.0	3.9	4.1	4.1	4.1	4.0	4.2	4.2	4.2	4.2
Q15 平均値	3.8	3.7	4.2	4.0	4.0	3.9	4.1	4.1	4.1	4.1
Q16 平均値	3.7	3.6	4.0	3.7	3.7	3.9	3.9	4.0	4.0	3.8
Q17 平均値	3.8	3.8	4.0	4.0	4.0	3.9	4.1	4.1	4.1	4.0
Q18 平均値	3.9	3.9	4.0	4.1	4.1	3.9	4.1	4.0	4.0	4.2
Q19 平均値	3.5	3.4	3.9	3.5	3.5	3.5	3.8	3.8	3.8	3.8
Q20 平均値	3.6	3.5	4.0	3.7	3.7	3.7	3.9	3.8	3.8	3.9
Q21 平均値	3.6	3.5	3.9	3.6	3.6	3.5	3.7	3.7	3.7	3.7
有効回答数	800			1,291			2,211			

(学部) 学科等	(総合教育研究) 文化学			(総合教育研究) 自然科学			(総合教育研究) 日本文化		
	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.4	4.3	4.4
Q6 平均値	1.2	1.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1
Q7 平均値	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1
Q8 平均値	3.6	3.5	3.7	3.7	3.7	3.6	3.9	3.8	4.1
Q9 平均値	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4	4.5
Q10 平均値	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.5	4.4	4.5
Q11 平均値	4.2	4.1	4.2	4.2	4.2	4.1	4.3	4.3	4.4
Q12 平均値	4.0	3.9	4.1	3.9	4.0	3.7	4.2	4.2	4.2
Q13 平均値	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.8	4.2	4.2	4.3
Q14 平均値	4.2	4.1	4.3	4.1	4.2	4.0	4.4	4.5	4.4
Q15 平均値	4.0	4.0	4.0	4.1	4.2	3.9	4.4	4.4	4.3
Q16 平均値	3.8	3.9	3.6	3.8	4.0	3.6	4.2	4.2	4.2
Q17 平均値	4.1	4.0	4.1	4.0	4.1	3.9	4.3	4.3	4.2
Q18 平均値	4.0	3.9	4.1	3.9	4.0	3.8	4.2	4.3	4.2
Q19 平均値	3.7	3.7	3.6	3.7	3.7	3.6	4.0	4.0	4.1
Q20 平均値	3.8	3.7	3.9	3.8	3.8	3.7	4.1	4.1	4.2
Q21 平均値	3.7	3.7	3.6	3.7	3.7	3.6	4.0	3.9	4.0
有効回答数	579			2,782			1,122		

(学部) 学科等	(総合教育研究) 外国語第一			(総合教育研究) 外国語第二			(総合教育研究) スポーツ・健康科学		
	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値	4.4	4.5	4.4	4.5	4.5	4.5	4.3	4.3	-
Q6 平均値	1.4	1.3	1.4	1.3	1.2	1.4	1.1	1.1	-
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.4	1.3	1.4	1.1	1.1	-
Q8 平均値	3.8	3.7	3.8	3.8	3.7	3.9	3.9	3.9	-
Q9 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	4.2	4.0	4.0	-
Q10 平均値	4.4	4.3	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	-
Q11 平均値	4.1	4.0	4.1	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	-
Q12 平均値	3.8	3.7	3.8	3.9	3.9	4.0	4.2	4.2	-
Q13 平均値	3.9	3.8	4.0	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	-
Q14 平均値	4.1	4.0	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	-
Q15 平均値	4.1	4.0	4.1	4.3	4.3	4.2	4.4	4.4	-
Q16 平均値	3.9	3.8	4.0	4.1	4.0	4.1	4.1	4.1	-
Q17 平均値	4.0	3.9	4.0	4.1	4.1	4.2	4.3	4.3	-
Q18 平均値	4.0	3.9	4.1	4.2	4.1	4.2	4.2	4.2	-
Q19 平均値	3.8	3.7	3.8	3.8	3.7	3.8	4.1	4.1	-
Q20 平均値	3.7	3.6	3.7	3.9	3.8	4.0	4.0	4.0	-
Q21 平均値	3.7	3.6	3.7	3.7	3.7	3.8	4.0	4.0	-
有効回答数	7,904			3,062			406		

(学部)学科等	(総合教育研究) 教職課程		
	全体	専任	非常勤
専任・非常勤			
Q4 平均値	4.5	4.5	4.5
Q6 平均値	1.2	1.2	1.2
Q7 平均値	1.2	1.2	1.2
Q8 平均値	3.9	3.9	3.9
Q9 平均値	4.4	4.4	4.3
Q10 平均値	4.4	4.5	4.4
Q11 平均値	4.3	4.4	4.2
Q12 平均値	4.1	4.2	4.0
Q13 平均値	4.2	4.2	4.2
Q14 平均値	4.4	4.4	4.3
Q15 平均値	4.3	4.3	4.2
Q16 平均値	4.0	4.2	3.9
Q17 平均値	4.2	4.3	4.1
Q18 平均値	4.1	4.2	4.1
Q19 平均値	4.0	4.0	4.0
Q20 平均値	4.0	4.0	4.0
Q21 平均値	4.0	4.0	3.9
有効回答数	1,358		

表 2 学科等別平均値（後期実施科目）

(学部)学科等	(仏教) 禅			(仏教) 仏教			(文) 国文		
	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
専任・非常勤									
Q4 平均値	4.1	4.1	4.1	4.0	4.1	3.8	4.3	4.4	4.3
Q6 平均値	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.3	1.3	1.4	1.2
Q7 平均値	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.4	1.3	1.3	1.2
Q8 平均値	3.4	3.4	3.2	3.6	3.6	3.5	3.8	3.8	3.8
Q9 平均値	3.9	3.9	4.2	4.1	4.0	4.4	4.2	4.2	4.3
Q10 平均値	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.4	4.4	4.4	4.4
Q11 平均値	4.0	4.0	3.9	4.1	4.0	4.2	4.2	4.2	4.3
Q12 平均値	3.9	3.9	3.5	3.9	3.9	3.8	4.1	4.0	4.1
Q13 平均値	3.7	3.7	4.0	3.8	3.8	4.0	4.2	4.2	4.3
Q14 平均値	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.4	4.4	4.4	4.4
Q15 平均値	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.4	4.4	4.3	4.4
Q16 平均値	3.7	3.7	3.7	3.8	3.8	3.8	4.1	4.0	4.1
Q17 平均値	3.9	4.0	3.9	4.0	4.0	4.1	4.3	4.2	4.3
Q18 平均値	4.0	4.0	4.2	4.0	3.9	4.2	4.2	4.2	4.3
Q19 平均値	3.5	3.5	3.4	3.6	3.6	3.6	3.8	3.8	3.9
Q20 平均値	3.5	3.5	3.4	3.6	3.6	3.8	4.0	4.0	4.1
Q21 平均値	3.5	3.5	3.5	3.6	3.6	3.6	3.8	3.7	3.9
有効回答数	1,491			2,194			1,323		

(学部)学科等	(文) 英米文			(文) 地域文化			(文) 地域環境			
	専任・非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3
Q6 平均値	1.3	1.4	1.3	1.3	1.2	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
Q8 平均値	3.9	3.9	4.1	3.7	3.7	3.9	3.8	3.8	3.8	3.7
Q9 平均値	4.3	4.2	4.4	4.2	4.1	4.3	4.3	4.3	4.3	4.1
Q10 平均値	4.4	4.4	4.4	4.3	4.2	4.4	4.3	4.4	4.4	4.2
Q11 平均値	4.3	4.3	4.3	4.2	4.1	4.3	4.2	4.3	4.3	4.0
Q12 平均値	4.1	4.1	4.2	4.0	3.8	4.2	4.0	4.0	4.0	4.0
Q13 平均値	4.1	4.0	4.3	3.9	3.8	4.2	4.1	4.1	4.1	4.0
Q14 平均値	4.4	4.4	4.4	4.1	4.1	4.3	4.3	4.3	4.3	4.2
Q15 平均値	4.2	4.1	4.4	4.0	3.9	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3
Q16 平均値	4.2	4.2	4.2	3.9	3.7	4.1	3.9	3.9	3.9	4.0
Q17 平均値	4.2	4.2	4.3	4.0	3.9	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1
Q18 平均値	4.3	4.2	4.3	4.0	3.9	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1
Q19 平均値	4.0	4.0	4.2	3.7	3.6	4.0	3.7	3.7	3.7	3.9
Q20 平均値	4.0	4.0	4.1	3.8	3.7	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9
Q21 平均値	4.0	3.9	4.0	3.7	3.6	3.9	3.8	3.8	3.8	3.7
有効回答数	992			933			623			

(学部)学科等	(文) 日本史学			(文) 外国史学			(文) 考古学			
	専任・非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値	4.3	4.4	4.2	4.2	4.4	4.1	4.3	4.5	4.2	4.2
Q6 平均値	1.2	1.2	1.3	1.3	1.2	1.4	1.1	1.1	1.1	1.2
Q7 平均値	1.3	1.2	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.1	1.1	1.2
Q8 平均値	3.7	3.8	3.7	3.8	3.9	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7
Q9 平均値	4.0	3.8	4.2	4.1	4.0	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2
Q10 平均値	4.2	4.1	4.3	4.3	4.1	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3
Q11 平均値	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.3	4.1	4.1	4.1	4.1
Q12 平均値	3.9	3.8	3.9	4.0	4.0	4.1	3.8	3.9	3.9	3.7
Q13 平均値	3.9	3.8	4.0	3.7	3.4	4.0	3.8	4.0	4.0	3.5
Q14 平均値	4.0	4.0	4.1	4.3	4.3	4.4	4.2	4.3	4.3	4.1
Q15 平均値	4.0	3.9	4.1	4.2	4.2	4.3	3.9	4.0	4.0	3.7
Q16 平均値	3.7	3.5	3.8	3.9	4.0	3.9	3.6	3.8	3.8	3.4
Q17 平均値	4.0	3.9	4.0	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	4.2	3.9
Q18 平均値	4.0	3.9	4.1	4.2	4.1	4.2	4.1	4.3	4.3	3.9
Q19 平均値	3.7	3.6	3.7	3.8	3.6	3.9	3.6	3.7	3.7	3.5
Q20 平均値	3.8	3.7	3.8	4.0	3.9	4.1	3.8	3.9	3.9	3.6
Q21 平均値	3.6	3.6	3.7	3.8	3.7	3.9	3.6	3.7	3.7	3.5
有効回答数	1,214			936			500			

(学部)学科等	(文) 社会学			(文) 社会福祉学			(文) 心理		
	専任・非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q4 平均値	4.4	4.4	4.4	4.4	4.5	4.3	4.3	4.4	4.3
Q6 平均値	1.3	1.2	1.4	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.2
Q7 平均値	1.4	1.4	1.4	1.1	1.1	1.1	1.2	1.3	1.2
Q8 平均値	3.8	3.6	3.9	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7
Q9 平均値	4.2	4.3	4.2	4.2	4.1	4.3	4.3	4.5	4.3
Q10 平均値	4.3	4.3	4.4	4.3	4.3	4.3	4.4	4.5	4.4
Q11 平均値	4.2	4.3	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	4.3	4.2
Q12 平均値	3.8	4.0	3.6	4.0	4.1	3.9	4.0	4.1	4.0
Q13 平均値	3.1	3.9	2.4	4.0	4.2	3.9	3.9	4.1	3.9
Q14 平均値	4.1	4.3	3.9	4.3	4.3	4.2	4.2	4.3	4.2
Q15 平均値	3.7	4.0	3.4	4.2	4.4	4.1	4.1	4.1	4.1
Q16 平均値	3.4	3.5	3.4	4.0	4.1	3.9	4.0	4.1	4.0
Q17 平均値	3.9	4.0	3.8	4.2	4.3	4.0	4.1	4.2	4.1
Q18 平均値	3.7	3.9	3.6	4.2	4.2	4.1	4.2	4.2	4.2
Q19 平均値	3.6	3.8	3.5	3.8	3.9	3.8	3.7	3.6	3.7
Q20 平均値	3.7	3.8	3.7	3.9	4.0	3.9	3.9	4.0	3.9
Q21 平均値	3.6	3.8	3.5	3.8	3.8	3.8	3.7	3.6	3.7
有効回答数	519			657			2,079		

(学部)学科等	(経済) 経済			(経済) 商			(経済) 現代応用経済		
	専任・非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q4 平均値	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4
Q6 平均値	1.3	1.2	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.3	1.2
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.4	1.3	1.4	1.3	1.3	1.3
Q8 平均値	3.8	3.7	3.9	3.7	3.8	3.6	3.9	3.9	3.9
Q9 平均値	4.2	4.0	4.3	4.1	4.1	4.1	4.2	4.3	4.1
Q10 平均値	4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	4.4	4.3
Q11 平均値	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	4.1	4.2	4.3	4.2
Q12 平均値	4.0	3.8	4.1	3.9	4.0	3.9	4.1	4.1	4.0
Q13 平均値	3.9	3.7	4.2	3.9	3.9	3.9	4.1	4.2	4.0
Q14 平均値	4.2	4.1	4.3	4.1	4.2	4.1	4.3	4.3	4.2
Q15 平均値	4.2	4.1	4.3	4.1	4.2	3.9	4.3	4.3	4.2
Q16 平均値	4.0	3.8	4.2	3.8	3.9	3.7	4.0	4.1	3.9
Q17 平均値	4.1	4.0	4.2	4.1	4.1	4.0	4.2	4.2	4.1
Q18 平均値	4.1	4.0	4.2	4.0	4.1	3.9	4.1	4.2	4.0
Q19 平均値	3.8	3.7	4.0	3.8	3.8	3.7	3.9	3.9	3.9
Q20 平均値	3.9	3.7	4.0	3.9	3.9	3.8	4.0	4.0	3.9
Q21 平均値	3.8	3.7	4.0	3.8	3.8	3.7	3.9	4.0	3.9
有効回答数	3,589			1,589			1,784		

(学部)学科等	(法) 法律			(法) 政治			(経営) 経営		
	専任・非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q4 平均値	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	4.0	4.1	4.1	4.2
Q6 平均値	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.3	1.3	1.3
Q7 平均値	1.4	1.4	1.3	1.3	1.3	1.3	1.4	1.4	1.4
Q8 平均値	3.6	3.5	3.6	3.7	3.7	3.6	3.7	3.7	3.8
Q9 平均値	4.1	4.1	4.0	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2
Q10 平均値	4.2	4.2	4.1	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	4.3
Q11 平均値	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2
Q12 平均値	3.8	3.7	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0
Q13 平均値	3.7	3.7	3.7	3.9	3.8	3.9	4.0	3.9	4.0
Q14 平均値	4.0	4.0	4.1	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.2
Q15 平均値	3.9	3.9	4.0	4.1	4.0	4.2	4.1	4.0	4.2
Q16 平均値	3.6	3.6	3.5	3.7	3.7	3.9	3.9	3.9	3.9
Q17 平均値	3.9	3.9	3.9	4.1	4.0	4.1	4.1	4.0	4.1
Q18 平均値	3.9	3.9	3.9	4.0	4.0	4.1	4.0	4.0	4.0
Q19 平均値	3.5	3.5	3.6	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.8
Q20 平均値	3.7	3.6	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9
Q21 平均値	3.5	3.5	3.6	3.7	3.6	3.7	3.7	3.7	3.8
有効回答数	4,542			2,889			3,181		

(学部)学科等	(経営) 市場戦略			(医療健康科)			(GMS)		
	専任・非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q4 平均値	4.2	4.2	4.0	4.7	4.7	4.7	4.3	4.3	4.3
Q6 平均値	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.3	1.3	1.3
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.3	1.4	1.2	1.3	1.3	1.3
Q8 平均値	3.6	3.5	3.9	3.7	3.8	3.6	3.9	3.8	4.0
Q9 平均値	4.2	4.1	4.3	4.2	4.2	3.8	4.4	4.4	4.4
Q10 平均値	4.2	4.2	4.3	4.3	4.4	4.0	4.4	4.4	4.4
Q11 平均値	4.1	4.0	4.2	4.2	4.2	3.9	4.3	4.3	4.4
Q12 平均値	3.7	3.7	3.9	3.9	4.0	3.6	4.0	4.0	4.2
Q13 平均値	3.7	3.6	3.8	4.0	4.1	3.4	3.8	3.8	3.8
Q14 平均値	4.0	3.9	4.0	4.2	4.3	3.8	4.3	4.3	4.4
Q15 平均値	3.8	3.8	3.9	4.1	4.1	3.9	4.3	4.2	4.4
Q16 平均値	3.6	3.5	3.9	3.9	4.0	3.8	4.1	4.1	4.2
Q17 平均値	3.8	3.8	3.9	4.1	4.1	3.8	4.2	4.2	4.2
Q18 平均値	3.9	3.9	4.0	4.1	4.2	3.7	4.3	4.2	4.3
Q19 平均値	3.5	3.5	3.8	3.7	3.7	3.4	3.9	3.8	4.1
Q20 平均値	3.6	3.6	3.9	3.9	3.9	3.6	4.0	4.0	4.1
Q21 平均値	3.6	3.5	3.8	3.8	3.8	3.4	3.8	3.8	4.0
有効回答数	2,084			1,146			1,414		

(学部)学科等	(総合教育研究) 文化学			(総合教育研究) 自然科学			(総合教育研究) 日本文化			
	専任・非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値	4.2	4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3
Q6 平均値	1.2	1.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1
Q7 平均値	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
Q8 平均値	3.6	3.6	3.6	3.7	3.8	3.7	3.9	3.8	4.0	4.0
Q9 平均値	4.1	4.1	4.1	4.3	4.4	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3
Q10 平均値	4.2	4.3	4.2	4.3	4.4	4.3	4.4	4.4	4.4	4.4
Q11 平均値	4.1	4.2	4.1	4.2	4.3	4.1	4.3	4.3	4.3	4.2
Q12 平均値	3.9	4.0	3.9	4.0	4.2	3.8	4.2	4.2	4.2	4.1
Q13 平均値	3.8	3.9	3.8	3.9	4.1	3.7	4.2	4.2	4.2	4.1
Q14 平均値	4.1	4.2	4.1	4.2	4.3	4.1	4.4	4.4	4.4	4.3
Q15 平均値	4.0	4.2	3.9	4.1	4.2	4.0	4.4	4.4	4.4	4.2
Q16 平均値	3.7	3.9	3.7	3.9	4.0	3.8	4.1	4.1	4.1	4.0
Q17 平均値	3.9	4.1	3.9	4.0	4.1	3.9	4.2	4.3	4.3	4.1
Q18 平均値	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	3.9	4.2	4.3	4.3	4.2
Q19 平均値	3.6	3.7	3.6	3.8	3.9	3.6	4.0	4.0	4.0	4.0
Q20 平均値	3.7	3.7	3.7	3.9	3.9	3.8	4.1	4.1	4.1	4.1
Q21 平均値	3.6	3.7	3.6	3.8	3.9	3.7	4.0	4.0	4.0	3.9
有効回答数	4,162			1,556			943			

(学部)学科等	(総合教育研究) 外国語第一			(総合教育研究) 外国語第二			(総合教育研究) スポーツ・健康科学			
	専任・非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値	4.3	4.4	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4	4.3	4.4	4.4
Q6 平均値	1.4	1.3	1.4	1.4	1.3	1.4	1.1	1.1	1.1	1.1
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.5	1.4	1.5	1.1	1.1	1.1	1.1
Q8 平均値	3.8	3.9	3.8	3.9	3.8	3.9	4.3	4.3	4.3	4.3
Q9 平均値	4.2	4.2	4.2	4.2	4.3	4.1	4.4	4.3	4.4	4.4
Q10 平均値	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4	4.4	4.5	4.5	4.4	4.4
Q11 平均値	4.1	4.1	4.2	4.2	4.3	4.2	4.4	4.4	4.4	4.4
Q12 平均値	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	4.0	4.3	4.3	4.3	4.3
Q13 平均値	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1	3.9	3.9	4.0	4.0
Q14 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.4	4.3	4.4	4.4	4.4	4.4
Q15 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	4.2	4.5	4.5	4.5	4.5
Q16 平均値	4.1	4.0	4.1	4.0	4.0	4.1	4.3	4.3	4.3	4.3
Q17 平均値	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.1	4.4	4.4	4.4	4.4
Q18 平均値	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.4	4.4	4.4	4.4
Q19 平均値	3.9	4.0	3.9	3.8	3.6	3.8	4.3	4.3	4.3	4.3
Q20 平均値	3.8	3.8	3.8	3.9	3.8	3.9	4.3	4.3	4.3	4.3
Q21 平均値	3.8	3.8	3.8	3.7	3.6	3.8	4.2	4.2	4.2	4.2
有効回答数	5,280			2,314			2,299			

(学部)学科等	(総合教育研究) 教職課程		
	専任・非常勤	専任	非常勤
Q4 平均値	4.4	4.3	4.4
Q6 平均値	1.2	1.2	1.2
Q7 平均値	1.2	1.3	1.2
Q8 平均値	3.9	4.0	3.9
Q9 平均値	4.4	4.5	4.3
Q10 平均値	4.4	4.5	4.3
Q11 平均値	4.3	4.5	4.3
Q12 平均値	4.1	4.2	4.1
Q13 平均値	4.2	4.3	4.1
Q14 平均値	4.3	4.4	4.2
Q15 平均値	4.3	4.3	4.3
Q16 平均値	4.0	4.2	3.9
Q17 平均値	4.2	4.3	4.2
Q18 平均値	4.2	4.3	4.2
Q19 平均値	4.0	4.0	4.0
Q20 平均値	4.1	4.1	4.1
Q21 平均値	4.0	4.0	4.0
有効回答数	1,119		

表 3 学科等別平均値 (全体)

(学部)学科等	(仏教) 禅			(仏教) 仏教			(文) 国文		
	専任・非常勤	専任	非常勤	専任・非常勤	専任	非常勤	専任・非常勤	専任	非常勤
Q4 平均値	4.1	4.1	4.1	4.0	4.1	3.8	4.3	4.4	4.3
Q6 平均値	1.2	1.2	1.1	1.2	1.2	1.3	1.3	1.3	1.2
Q7 平均値	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.4	1.2	1.3	1.2
Q8 平均値	3.4	3.4	3.3	3.5	3.5	3.5	3.8	3.8	3.8
Q9 平均値	3.9	3.9	4.1	4.1	4.0	4.4	4.2	4.2	4.3
Q10 平均値	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.4	4.4	4.4	4.4
Q11 平均値	4.0	4.0	3.9	4.1	4.0	4.2	4.2	4.2	4.3
Q12 平均値	3.9	3.9	3.7	3.9	3.9	3.8	4.1	4.0	4.1
Q13 平均値	3.7	3.7	4.0	3.8	3.8	4.0	4.2	4.2	4.3
Q14 平均値	4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	4.4	4.4	4.4	4.4
Q15 平均値	4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	4.4	4.3	4.3	4.4
Q16 平均値	3.7	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8	4.1	4.0	4.1
Q17 平均値	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	4.3	4.2	4.3
Q18 平均値	4.0	4.0	4.2	4.0	3.9	4.2	4.2	4.2	4.3
Q19 平均値	3.5	3.5	3.4	3.6	3.6	3.6	3.8	3.8	3.9
Q20 平均値	3.5	3.5	3.4	3.6	3.6	3.8	4.0	4.0	4.1
Q21 平均値	3.5	3.5	3.4	3.6	3.6	3.6	3.8	3.7	3.9
有効回答数	1,513			2,251			1,395		

(学部)学科等	(文) 英米文			(文) 地域文化			(文) 地域環境		
	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q 4 平均値	4.2	4.2	4.2	4.4	4.4	4.3	4.4	4.3	4.3
Q 6 平均値	1.3	1.4	1.3	1.3	1.2	1.3	1.2	1.3	1.2
Q 7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.4	1.2
Q 8 平均値	3.9	3.9	4.0	3.7	3.7	3.8	3.8	3.9	3.7
Q 9 平均値	4.3	4.2	4.4	4.2	4.2	4.2	4.2	4.3	4.1
Q10 平均値	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.2
Q11 平均値	4.3	4.3	4.3	4.0	4.1	4.0	4.3	4.3	4.1
Q12 平均値	4.1	4.1	4.2	3.8	3.8	4.0	4.1	4.0	4.0
Q13 平均値	4.1	4.0	4.2	3.9	3.9	4.0	4.1	4.1	4.1
Q14 平均値	4.4	4.4	4.4	4.1	4.1	4.2	4.3	4.3	4.2
Q15 平均値	4.2	4.1	4.4	4.0	4.0	4.2	4.3	4.3	4.3
Q16 平均値	4.2	4.2	4.2	3.9	3.8	4.0	4.0	3.9	4.1
Q17 平均値	4.2	4.2	4.2	4.1	4.0	4.1	4.2	4.2	4.1
Q18 平均値	4.2	4.2	4.3	4.0	3.9	4.1	4.1	4.1	4.1
Q19 平均値	4.0	4.0	4.1	3.7	3.7	3.9	3.8	3.7	3.9
Q20 平均値	4.0	4.0	4.1	3.8	3.8	3.9	4.0	3.9	4.0
Q21 平均値	3.9	3.9	4.0	3.7	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8
有効回答数	1,084			1,633			1,215		

(学部)学科等	(文) 日本史学			(文) 外国史学			(文) 考古学		
	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q 4 平均値	4.6	4.4	4.2	4.3	4.4	4.2	4.4	4.5	4.3
Q 6 平均値	1.7	1.3	1.3	1.3	1.2	1.3	1.1	1.1	1.2
Q 7 平均値	1.2	1.2	1.3	1.3	1.3	1.2	1.2	1.1	1.2
Q 8 平均値	4.1	3.8	3.7	3.8	3.9	3.8	3.7	3.7	3.8
Q 9 平均値	4.3	3.8	4.3	4.1	4.0	4.2	4.2	4.2	4.3
Q10 平均値	4.5	4.2	4.3	4.3	4.2	4.4	4.3	4.3	4.3
Q11 平均値	4.3	4.1	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2	4.2	4.1
Q12 平均値	4.1	3.9	3.9	4.0	4.0	4.1	3.9	4.0	3.8
Q13 平均値	3.9	3.9	4.0	3.8	3.4	4.0	3.9	4.1	3.7
Q14 平均値	4.4	4.0	4.1	4.3	4.3	4.3	4.2	4.3	4.1
Q15 平均値	4.5	4.0	4.1	4.2	4.2	4.3	4.0	4.1	3.8
Q16 平均値	3.7	3.6	3.9	3.9	4.0	3.9	3.8	3.9	3.6
Q17 平均値	4.3	4.0	4.1	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	4.0
Q18 平均値	4.0	4.0	4.1	4.2	4.1	4.2	4.1	4.3	4.0
Q19 平均値	4.1	3.7	3.8	3.8	3.7	3.9	3.7	3.8	3.6
Q20 平均値	4.1	3.8	3.8	4.0	3.9	4.1	3.8	3.9	3.7
Q21 平均値	4.0	3.6	3.7	3.8	3.7	3.8	3.6	3.7	3.6
有効回答数	1,406			1,099			609		

(学部)学科等	(文) 社会学			(文) 社会福祉学			(文) 心理			
	専任・非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値	4.4	4.4	4.5	4.4	4.5	4.6	4.4	4.3	4.4	4.3
Q6 平均値	1.2	1.2	1.2	1.3	1.2	1.2	1.1	1.1	1.1	1.2
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.2	1.2	1.2	1.3	1.2
Q8 平均値	3.7	3.7	3.6	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7
Q9 平均値	4.2	4.2	4.2	4.1	4.2	4.2	4.2	4.3	4.5	4.3
Q10 平均値	4.3	4.3	4.3	4.3	4.2	4.2	4.3	4.4	4.5	4.4
Q11 平均値	4.1	4.1	4.2	4.0	4.1	4.1	4.1	4.2	4.3	4.2
Q12 平均値	3.7	3.7	4.0	3.5	4.0	4.0	3.9	4.0	4.1	4.0
Q13 平均値	3.5	3.5	4.0	2.9	4.1	4.1	4.0	3.9	4.1	3.9
Q14 平均値	4.0	4.0	4.2	3.8	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.2
Q15 平均値	3.7	3.7	4.0	3.5	4.2	4.3	4.1	4.1	4.1	4.2
Q16 平均値	3.4	3.4	3.5	3.3	4.0	4.0	3.9	4.0	4.1	4.0
Q17 平均値	3.8	3.8	3.9	3.7	4.1	4.2	4.1	4.1	4.2	4.1
Q18 平均値	3.7	3.7	3.9	3.5	4.1	4.2	4.1	4.2	4.2	4.2
Q19 平均値	3.6	3.6	3.7	3.4	3.8	3.9	3.8	3.8	3.6	3.8
Q20 平均値	3.7	3.7	3.8	3.6	4.0	4.0	4.0	3.9	4.0	3.9
Q21 平均値	3.6	3.6	3.7	3.4	3.8	3.8	3.8	3.7	3.6	3.7
有効回答数	1,282			1,367			2,559			

(学部)学科等	(経済) 経済			(経済) 商			(経済) 現代応用経済			
	専任・非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4	4.4	4.4	4.3	4.4
Q6 平均値	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.4	1.3	1.3	1.3
Q8 平均値	3.8	3.8	3.7	3.8	3.7	3.7	3.7	3.9	3.9	3.8
Q9 平均値	4.2	4.2	4.1	4.3	4.1	4.1	4.1	4.2	4.3	4.2
Q10 平均値	4.3	4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	4.4	4.3
Q11 平均値	4.1	4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	4.0	4.2	4.3	4.2
Q12 平均値	4.0	4.0	3.9	4.1	3.9	3.9	3.8	4.0	4.1	4.0
Q13 平均値	4.0	4.0	3.9	4.1	3.9	3.9	3.9	4.1	4.1	4.0
Q14 平均値	4.2	4.2	4.1	4.3	4.1	4.1	4.1	4.3	4.3	4.2
Q15 平均値	4.2	4.2	4.1	4.3	4.0	4.1	3.9	4.3	4.3	4.2
Q16 平均値	3.9	3.9	3.9	4.0	3.8	3.8	3.7	4.0	4.0	4.0
Q17 平均値	4.1	4.1	4.0	4.2	4.0	4.1	3.9	4.2	4.2	4.1
Q18 平均値	4.1	4.1	4.0	4.2	4.0	4.1	3.9	4.1	4.1	4.0
Q19 平均値	3.9	3.9	3.8	3.9	3.7	3.7	3.7	3.9	3.9	3.9
Q20 平均値	3.9	3.9	3.8	4.0	3.8	3.8	3.8	4.0	4.0	3.9
Q21 平均値	3.8	3.8	3.8	3.9	3.7	3.7	3.7	3.9	3.9	3.9
有効回答数	8,190			3,955			4,429			

(学部)学科等	(法) 法律			(法) 政治			(経営) 経営		
	専任・非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q4 平均値	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2
Q6 平均値	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
Q7 平均値	1.4	1.4	1.3	1.3	1.3	1.3	1.4	1.4	1.4
Q8 平均値	3.6	3.5	3.6	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.8
Q9 平均値	4.1	4.1	4.0	4.1	4.2	4.1	4.2	4.2	4.2
Q10 平均値	4.2	4.2	4.1	4.3	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3
Q11 平均値	4.0	4.0	4.0	4.1	4.2	4.1	4.2	4.1	4.2
Q12 平均値	3.7	3.6	3.8	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9
Q13 平均値	3.7	3.7	3.7	3.9	3.9	4.0	4.0	3.9	4.0
Q14 平均値	4.0	4.0	4.1	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.2
Q15 平均値	3.9	3.9	4.0	4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	4.2
Q16 平均値	3.6	3.6	3.5	3.8	3.7	3.9	3.9	3.9	3.9
Q17 平均値	3.9	3.9	3.9	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1
Q18 平均値	3.9	3.8	3.9	4.1	4.0	4.1	4.0	4.0	4.0
Q19 平均値	3.5	3.4	3.6	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.8
Q20 平均値	3.6	3.6	3.7	3.9	3.9	3.9	3.8	3.7	3.9
Q21 平均値	3.5	3.4	3.6	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.8
有効回答数	5,216			3,527			3,644		

(学部)学科等	(経営) 市場戦略			(医療健康科)			(GMS)		
	専任・非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q4 平均値	4.2	4.3	4.1	4.7	4.7	4.6	4.3	4.3	4.4
Q6 平均値	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.3	1.2	1.4
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.3	1.3	1.4
Q8 平均値	3.6	3.5	3.8	3.7	3.8	3.7	3.8	3.8	4.0
Q9 平均値	4.2	4.2	4.3	4.2	4.2	4.0	4.4	4.4	4.3
Q10 平均値	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3	4.2	4.4	4.4	4.4
Q11 平均値	4.1	4.0	4.2	4.1	4.2	4.0	4.2	4.2	4.3
Q12 平均値	3.7	3.7	3.9	3.8	3.8	3.7	3.9	3.9	4.0
Q13 平均値	3.7	3.6	3.9	3.9	4.0	3.9	3.9	3.9	4.0
Q14 平均値	4.0	3.9	4.0	4.2	4.2	3.9	4.2	4.2	4.2
Q15 平均値	3.8	3.8	4.0	4.0	4.1	3.9	4.2	4.2	4.2
Q16 平均値	3.6	3.6	3.9	3.8	3.8	3.9	4.0	4.0	4.0
Q17 平均値	3.8	3.8	3.9	4.0	4.1	3.9	4.1	4.1	4.1
Q18 平均値	3.9	3.9	4.0	4.1	4.1	3.8	4.1	4.1	4.2
Q19 平均値	3.5	3.4	3.8	3.6	3.6	3.5	3.8	3.8	3.9
Q20 平均値	3.6	3.5	3.9	3.8	3.8	3.7	3.9	3.9	4.0
Q21 平均値	3.6	3.5	3.8	3.7	3.7	3.5	3.8	3.8	3.8
有効回答数	2,884			2,437			3,625		

(学部)学科等	(総合教育研究) 文化学			(総合教育研究) 自然科学			(総合教育研究) 日本文化			
	専任・非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値	4.2	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3
Q6 平均値	1.2	1.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1
Q7 平均値	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
Q8 平均値	3.6	3.6	3.6	3.7	3.7	3.7	3.9	3.8	4.1	
Q9 平均値	4.1	4.1	4.1	4.3	4.3	4.2	4.3	4.3	4.4	
Q10 平均値	4.2	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4	4.5	
Q11 平均値	4.1	4.2	4.1	4.2	4.2	4.1	4.3	4.3	4.3	
Q12 平均値	3.9	4.0	3.9	3.9	4.0	3.8	4.2	4.2	4.2	
Q13 平均値	3.9	3.9	3.8	3.9	4.0	3.8	4.2	4.2	4.2	
Q14 平均値	4.1	4.2	4.1	4.1	4.2	4.0	4.4	4.4	4.4	
Q15 平均値	4.0	4.2	3.9	4.1	4.2	4.0	4.4	4.4	4.3	
Q16 平均値	3.7	3.9	3.7	3.9	4.0	3.7	4.1	4.1	4.1	
Q17 平均値	4.0	4.0	3.9	4.0	4.1	3.9	4.2	4.3	4.2	
Q18 平均値	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	3.8	4.2	4.3	4.2	
Q19 平均値	3.6	3.7	3.6	3.7	3.8	3.6	4.0	4.0	4.1	
Q20 平均値	3.7	3.7	3.7	3.8	3.9	3.7	4.1	4.1	4.2	
Q21 平均値	3.6	3.7	3.6	3.7	3.8	3.6	4.0	4.0	4.0	
有効回答数	4,741			4,338			2,065			

(学部)学科等	(総合教育研究) 外国語第一			(総合教育研究) 外国語第二			(総合教育研究) スポーツ・健康科学			
	専任・非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.3	4.4	
Q6 平均値	1.4	1.3	1.4	1.4	1.3	1.4	1.1	1.1	1.1	
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.4	1.3	1.5	1.1	1.1	1.1	
Q8 平均値	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9	4.2	4.2	4.3	
Q9 平均値	4.2	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2	4.3	4.3	4.4	
Q10 平均値	4.3	4.3	4.4	4.4	4.4	4.4	4.5	4.5	4.4	
Q11 平均値	4.1	4.0	4.1	4.2	4.2	4.2	4.4	4.4	4.4	
Q12 平均値	3.9	3.8	3.9	3.9	3.9	4.0	4.3	4.3	4.3	
Q13 平均値	4.0	3.9	4.0	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	
Q14 平均値	4.2	4.1	4.2	4.3	4.4	4.3	4.4	4.4	4.4	
Q15 平均値	4.1	4.1	4.2	4.3	4.3	4.2	4.5	4.5	4.5	
Q16 平均値	4.0	3.8	4.0	4.0	4.0	4.1	4.3	4.2	4.3	
Q17 平均値	4.0	3.9	4.1	4.2	4.1	4.2	4.4	4.4	4.4	
Q18 平均値	4.1	4.0	4.1	4.2	4.2	4.2	4.4	4.4	4.4	
Q19 平均値	3.9	3.8	3.9	3.8	3.7	3.8	4.3	4.3	4.3	
Q20 平均値	3.7	3.7	3.7	3.9	3.8	4.0	4.3	4.3	4.3	
Q21 平均値	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.8	4.2	4.2	4.2	
有効回答数	13,184			5,376			2,705			

(学部)学科等	(総合教育研究) 教職課程		
	全体	専任	非常勤
Q 4 平均値	4.4	4.4	4.4
Q 6 平均値	1.2	1.2	1.2
Q 7 平均値	1.2	1.2	1.2
Q 8 平均値	3.9	3.9	3.9
Q 9 平均値	4.4	4.5	4.3
Q10 平均値	4.4	4.5	4.3
Q11 平均値	4.3	4.4	4.2
Q12 平均値	4.1	4.2	4.1
Q13 平均値	4.2	4.2	4.1
Q14 平均値	4.3	4.4	4.3
Q15 平均値	4.3	4.3	4.2
Q16 平均値	4.0	4.2	3.9
Q17 平均値	4.2	4.3	4.2
Q18 平均値	4.2	4.3	4.1
Q19 平均値	4.0	4.0	4.0
Q20 平均値	4.0	4.1	4.0
Q21 平均値	4.0	4.0	4.0
有効回答数	2,477		

Ⅱ. 学年別平均値

表 4、5 は、アンケート質問項目の学年別平均値を示したものである。Q 4 と Q 5 については、前期後期とも学年ごとに差が見られる。

表 4 学年別平均値（前期実施科目）

学年	1 年	2 年	3 年	4 年	その他
Q4 平均値	4.5	4.4	4.4	3.8	3.4
Q6 平均値	1.3	1.3	1.3	1.4	1.8
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.4	1.8
Q8 平均値	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8
Q9 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2
Q10 平均値	4.3	4.3	4.3	4.4	4.3
Q11 平均値	4.1	4.2	4.2	4.3	4.2
Q12 平均値	3.9	3.9	4.0	4.1	3.9
Q13 平均値	4.0	4.0	4.0	4.1	4.0
Q14 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3
Q15 平均値	4.1	4.1	4.1	4.3	4.1
Q16 平均値	3.9	3.9	3.9	4.1	3.9
Q17 平均値	4.0	4.1	4.1	4.2	4.0
Q18 平均値	4.0	4.1	4.1	4.1	3.9
Q19 平均値	3.8	3.8	3.8	3.9	4.0
Q20 平均値	3.8	3.8	3.9	4.0	3.9
Q21 平均値	3.7	3.8	3.8	3.9	3.9
有効回答数	17,870	11,351	5,484	2,175	43

表 5 学年別平均値（後期実施科目）

学年	1 年	2 年	3 年	4 年	その他
Q4 平均値	4.4	4.3	4.2	3.8	3.6
Q6 平均値	1.2	1.3	1.3	1.3	1.9
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.4	1.8
Q8 平均値	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7
Q9 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2
Q10 平均値	4.3	4.3	4.3	4.4	4.3
Q11 平均値	4.1	4.2	4.2	4.3	4.0
Q12 平均値	3.9	3.9	4.0	4.1	3.8
Q13 平均値	3.9	3.9	4.0	4.1	3.6
Q14 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.1
Q15 平均値	4.1	4.1	4.1	4.3	4.1
Q16 平均値	3.9	3.9	3.9	4.1	3.7
Q17 平均値	4.0	4.1	4.1	4.2	3.9
Q18 平均値	4.1	4.1	4.1	4.2	4.0
Q19 平均値	3.7	3.8	3.8	3.9	3.8
Q20 平均値	3.8	3.8	3.9	4.0	3.8
Q21 平均値	3.7	3.8	3.8	3.9	3.8
有効回答数	43,484	26,810	14,968	5,000	92

Ⅲ. 入試形態別平均値

表 6、7 はアンケートの質問項目の入試形態別平均値を示したものである。留学生特別入試での入学者が、比較的高い数値を示しているようである。

表 6 入試形態別平均値（前期実施科目）

入試形態	一般入試	大学入試センター試験利用入試	一般推薦入試	スポーツ推薦入試	指定校入試	附属校推薦入試	留学生特別入試	帰国生特別入試	編入学試験	その他	回答しない
Q4 平均値	4.4	4.3	4.5	4.1	4.5	4.4	4.6	3.9	4.2	4.5	4.2
Q6 平均値	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.8	1.7	1.3	1.3	1.5
Q7 平均値	1.3	1.3	1.2	1.3	1.3	1.2	1.9	1.6	1.3	1.3	1.6
Q8 平均値	3.7	3.7	3.8	3.8	3.9	3.7	4.3	3.8	3.9	3.8	3.7
Q9 平均値	4.2	4.2	4.3	4.3	4.3	4.2	4.5	4.2	4.4	4.3	4.2
Q10 平均値	4.3	4.3	4.4	4.3	4.4	4.2	4.5	4.2	4.4	4.4	4.2
Q11 平均値	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	4.1	4.4	4.2	4.3	4.1	4.1
Q12 平均値	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.3	3.9	4.3	3.8	3.8
Q13 平均値	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	4.3	3.9	4.3	3.9	3.9
Q14 平均値	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1	4.5	4.1	4.4	4.2	4.1
Q15 平均値	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.1	4.4	4.1	4.4	4.1	4.1
Q16 平均値	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	3.8	4.4	3.9	4.1	3.9	3.8
Q17 平均値	4.1	4.0	4.1	4.1	4.1	4.0	4.4	4.0	4.2	4.1	4.0
Q18 平均値	4.1	4.0	4.1	4.0	4.1	4.0	4.4	4.0	4.3	4.1	3.9
Q19 平均値	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	4.3	3.9	4.1	3.7	3.8
Q20 平均値	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	4.2	3.9	4.1	3.8	3.8
Q21 平均値	3.8	3.7	3.7	3.8	3.7	3.7	4.2	3.9	4.1	3.6	3.7
有効回答数	19,970	3,527	3,300	960	4,357	3,430	597	76	232	270	204

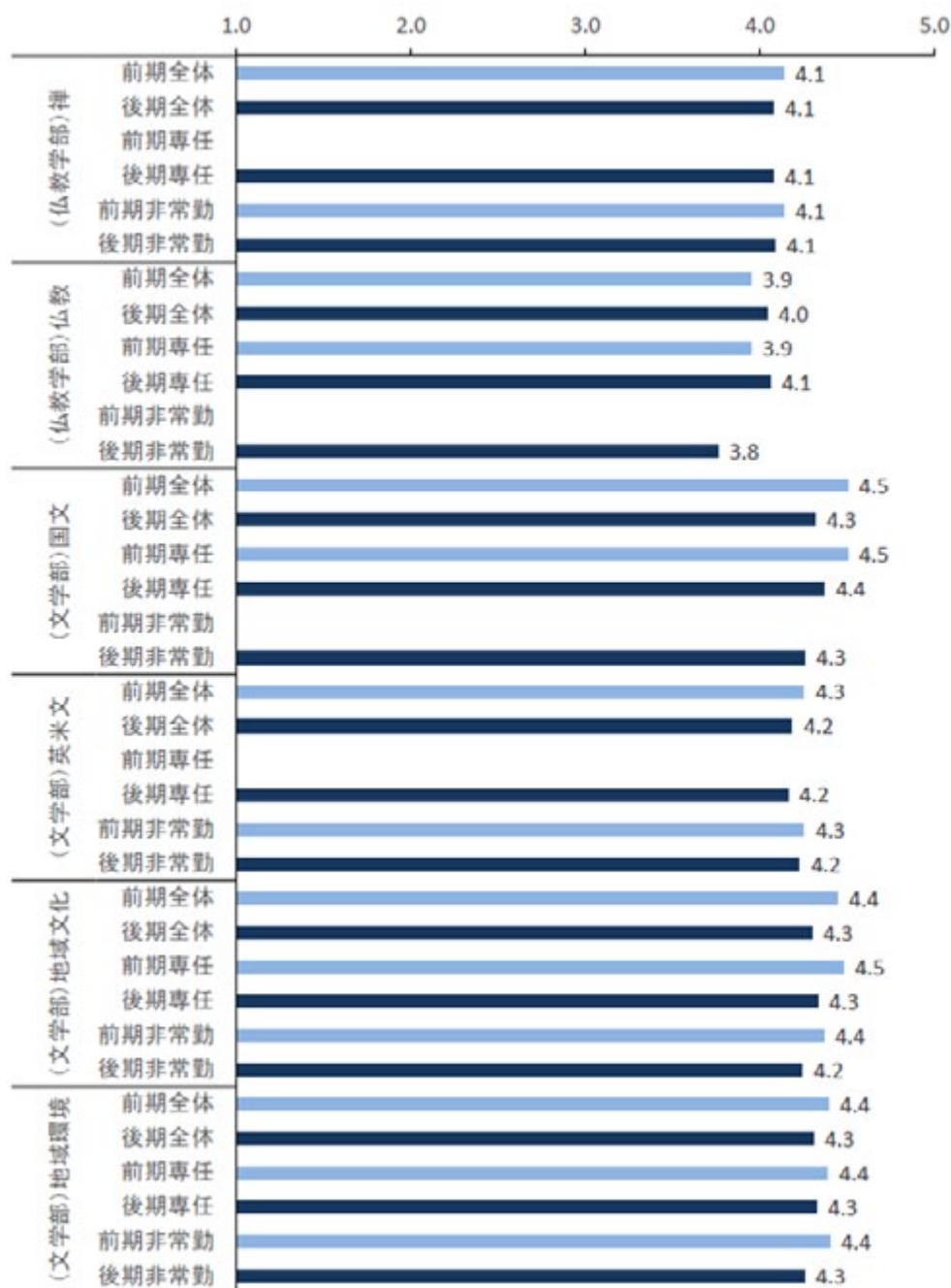
表 7 入試形態別平均値（後期実施科目）

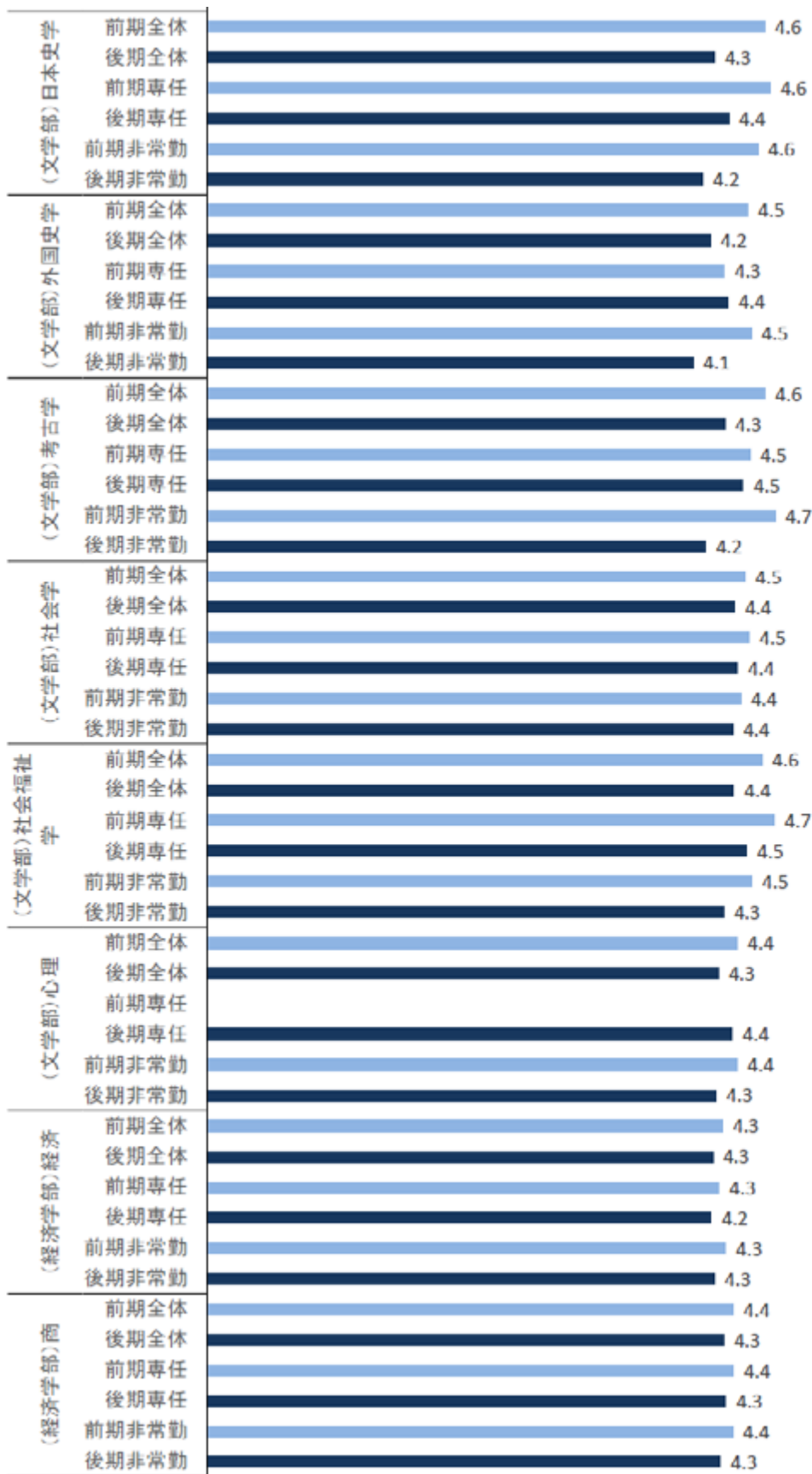
入試形態	一般入試	大学入試センター 試験利用入試	一般推薦入試	スポーツ推薦入試	指定校入試	附属校推薦入試	留学生特別入試	帰国生特別入試	編入学試験	その他	回答しない
Q4 平均値	4.3	4.2	4.3	4.1	4.4	4.3	4.4	4.0	4.2	4.4	4.2
Q6 平均値	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.8	1.7	1.4	1.2	1.4
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.9	1.7	1.4	1.3	1.4
Q8 平均値	3.7	3.7	3.8	3.8	3.8	3.7	4.2	3.8	4.0	3.8	3.6
Q9 平均値	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.5	4.2	4.4	4.3	4.1
Q10 平均値	4.3	4.3	4.3	4.2	4.3	4.3	4.5	4.2	4.4	4.4	4.2
Q11 平均値	4.2	4.1	4.2	4.1	4.2	4.1	4.4	4.2	4.4	4.2	4.1
Q12 平均値	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.3	3.9	4.2	3.9	3.7
Q13 平均値	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.3	3.8	4.2	4.0	3.9
Q14 平均値	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1	4.4	4.2	4.4	4.2	4.1
Q15 平均値	4.1	4.1	4.1	4.1	4.2	4.1	4.4	4.1	4.4	4.2	4.1
Q16 平均値	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.8	4.4	4.0	4.2	4.0	3.8
Q17 平均値	4.1	4.0	4.1	4.1	4.1	4.0	4.4	4.1	4.3	4.1	4.0
Q18 平均値	4.1	4.1	4.1	4.0	4.1	4.0	4.4	4.0	4.4	4.1	3.9
Q19 平均値	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	4.2	3.9	4.1	3.7	3.7
Q20 平均値	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	4.2	3.9	4.2	3.9	3.8
Q21 平均値	3.7	3.7	3.7	3.8	3.7	3.7	4.2	3.9	4.1	3.7	3.6
有効回答数	48,862	8,873	8,551	2,434	10,430	7,836	1,386	177	619	647	539

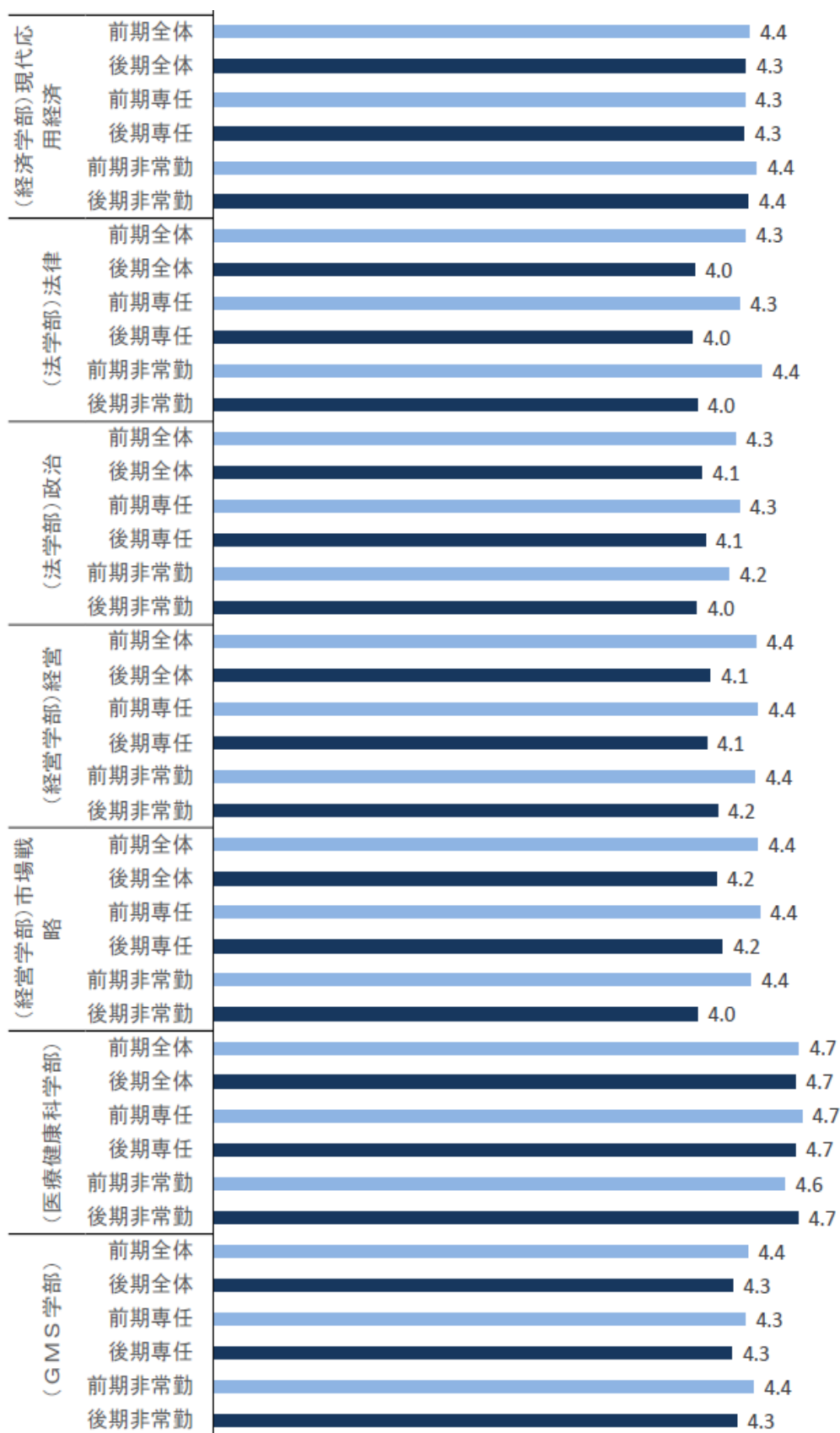
(4) 受講生の講義への取り組み

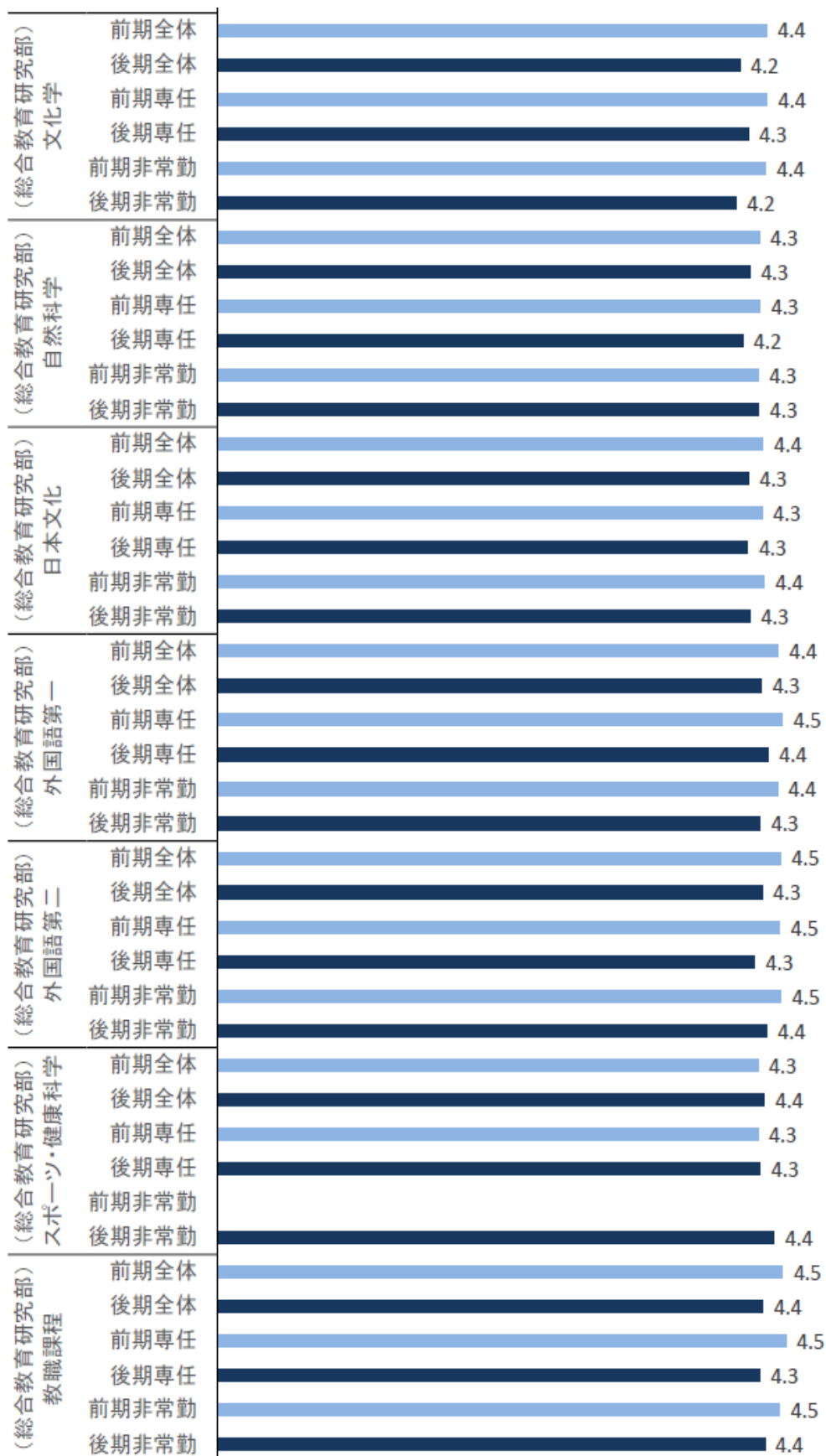
「受講生の講義への取り組み」に関しては、(3) 項目別平均値における(学)部・学科・部門別の全体・専任・非常勤別平均値を提示している。なお、各グラフには前期実施科目と後期実施科目の平均値を掲載している。各アンケート項目は5段階評価で、ポイントが大きいほど良い評価となっている。

Q 4. この授業を何回欠席しましたか。					
(半期科目)	5 : 0 回	4 : 1~2 回	3 : 3~4 回	2 : 5~6 回	1 : 7 回以上
(通年科目)	5 : 0 回	4 : 1~4 回	3 : 5~9 回	2 : 10~13 回	1 : 14 回以上

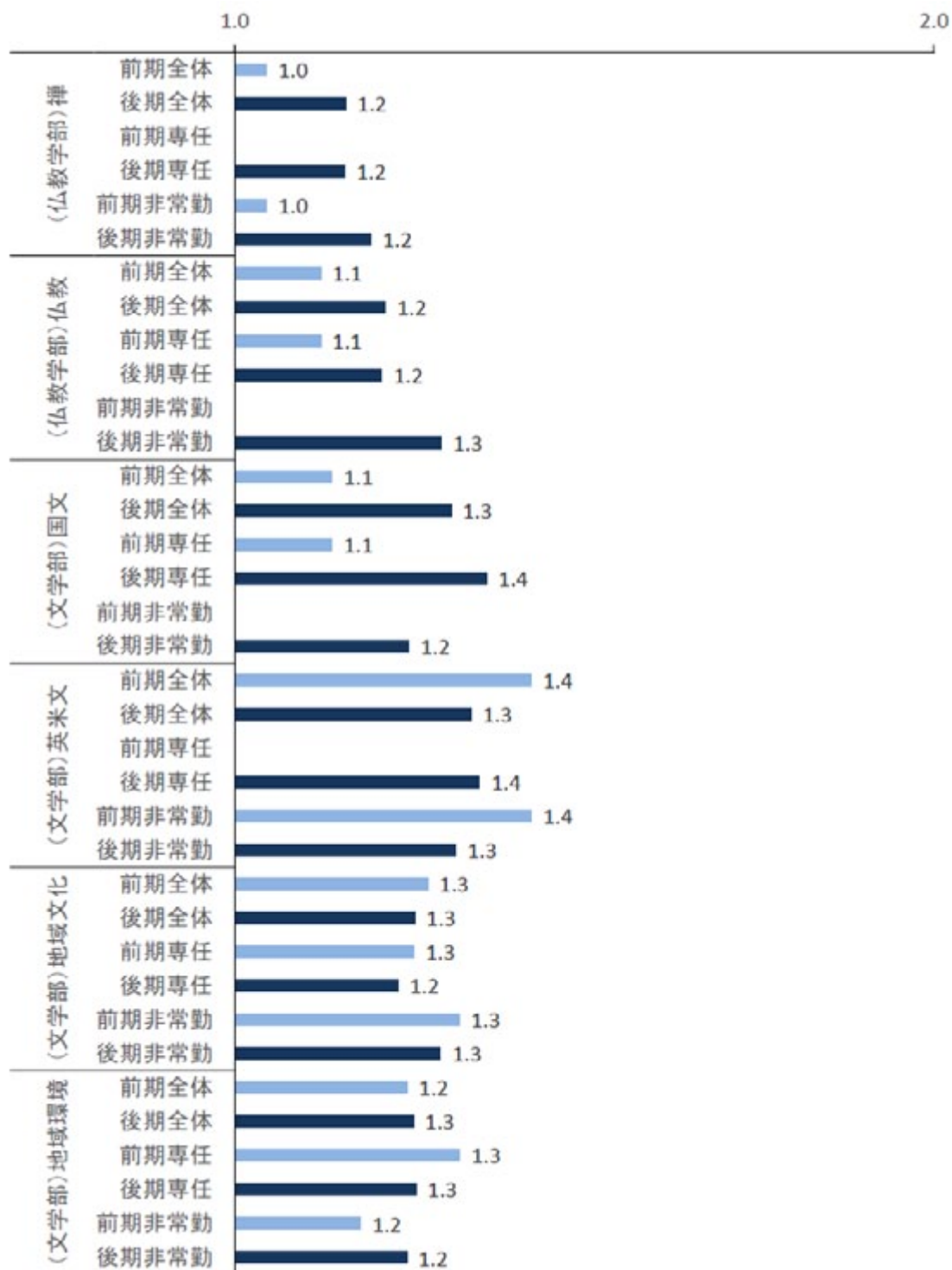


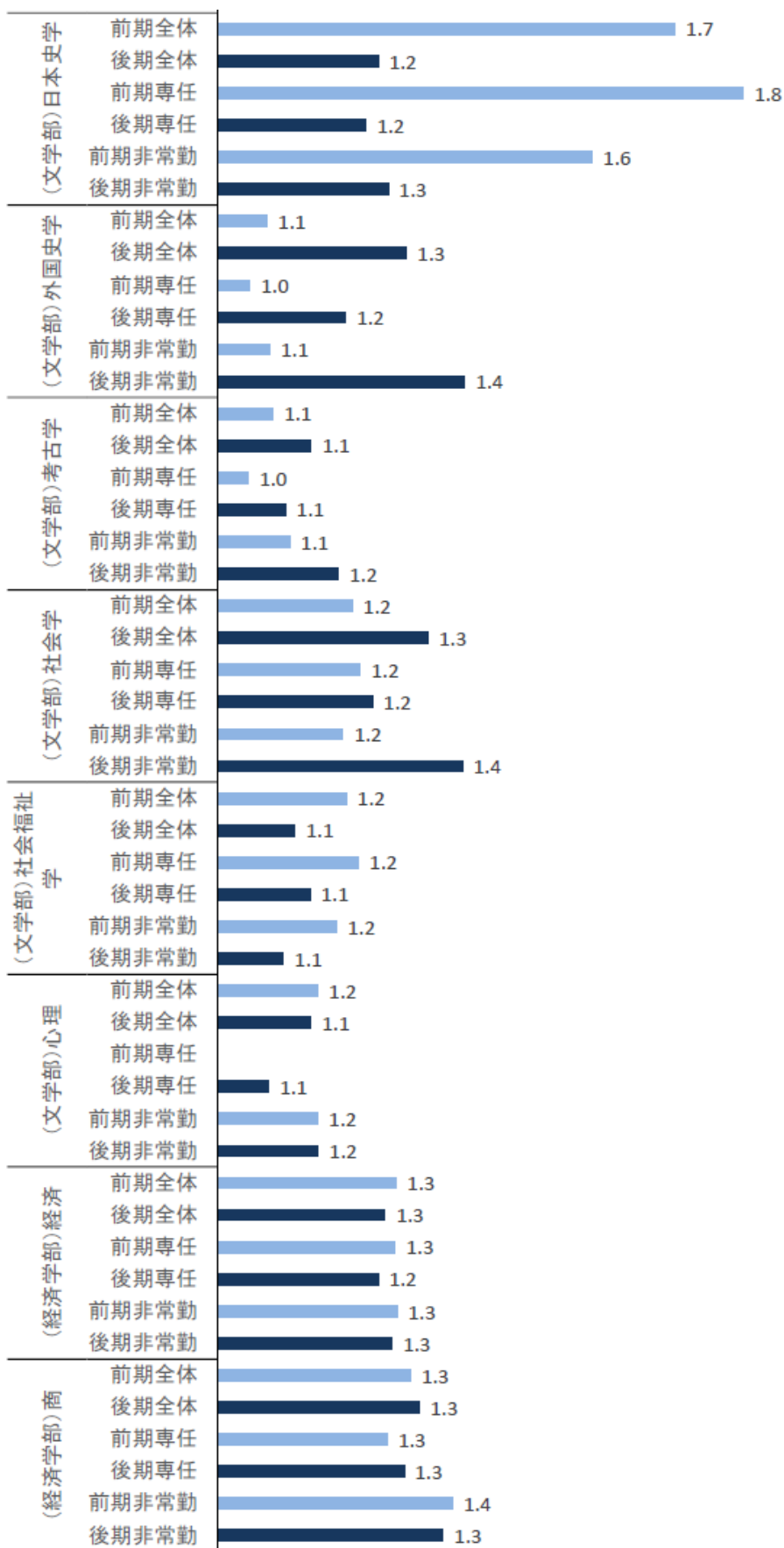


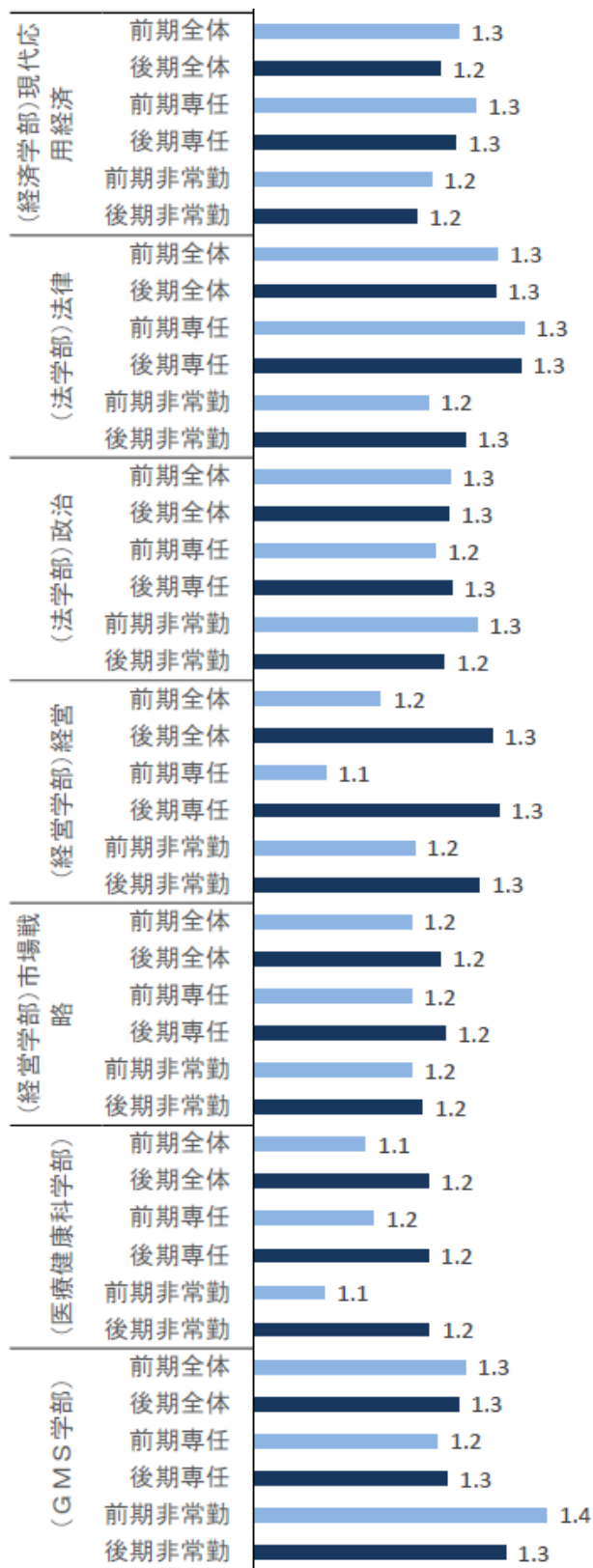


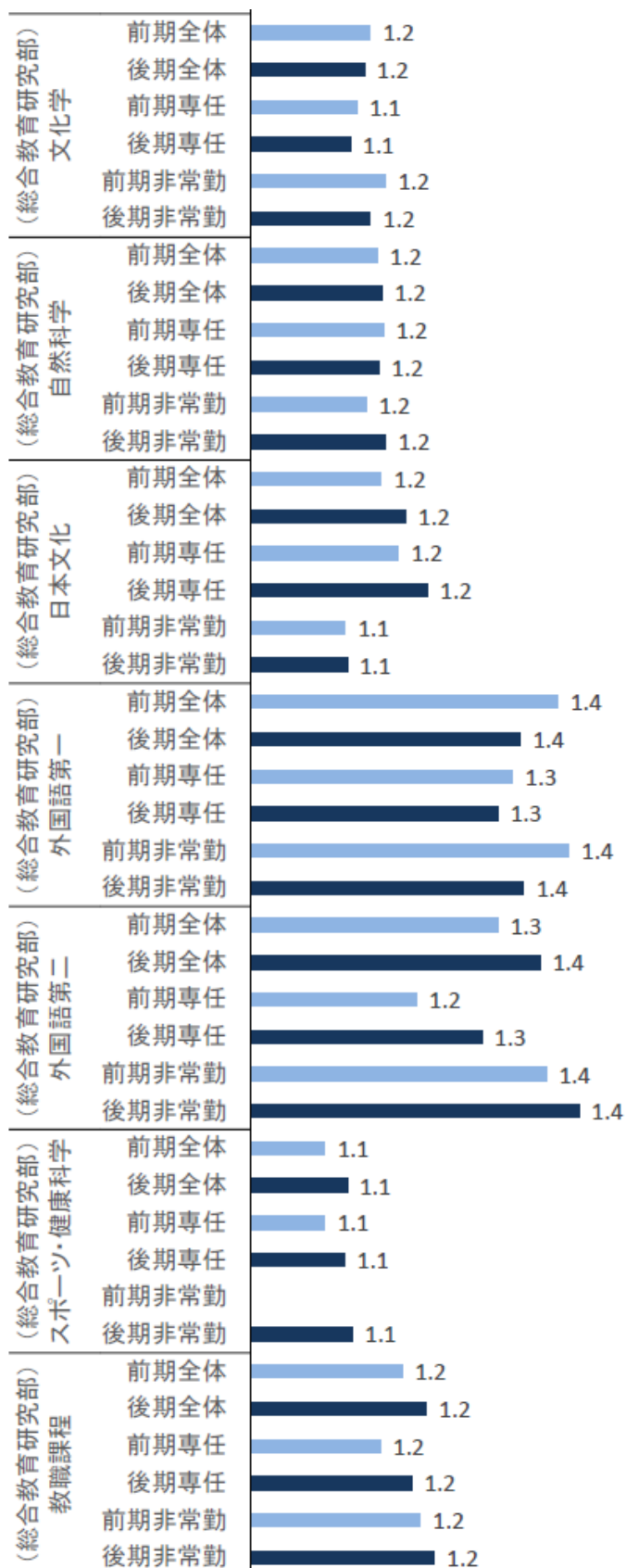


Q 6. この授業の予習にあてている時間は、1 週間に何時間くらいですか。
5 : 4 時間以上 4 : 3 時間以上～4 時間未満 3 : 2 時間以上～3 時間未満
2 : 1 時間以上～2 時間未満 1 : 1 時間未満

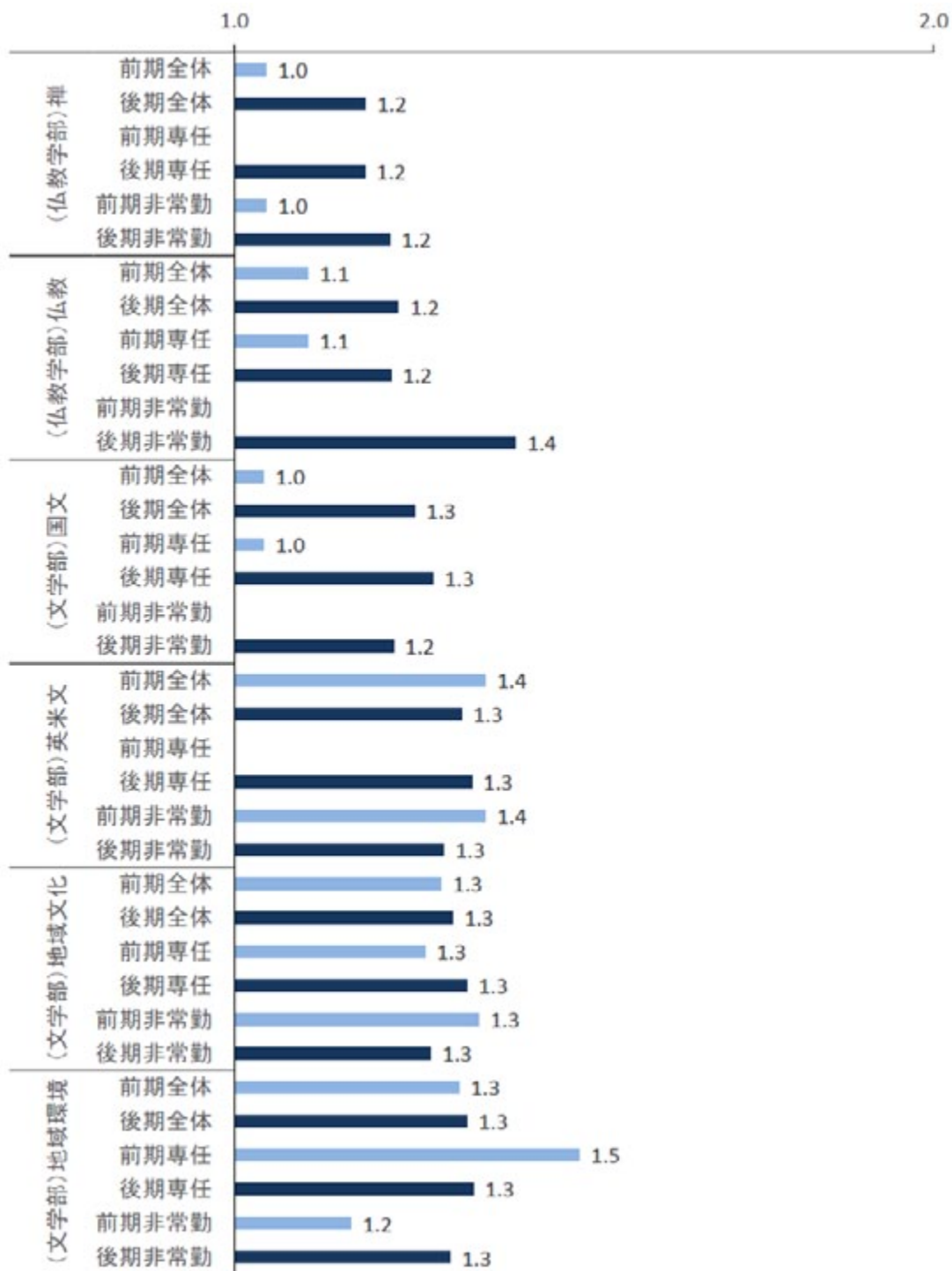


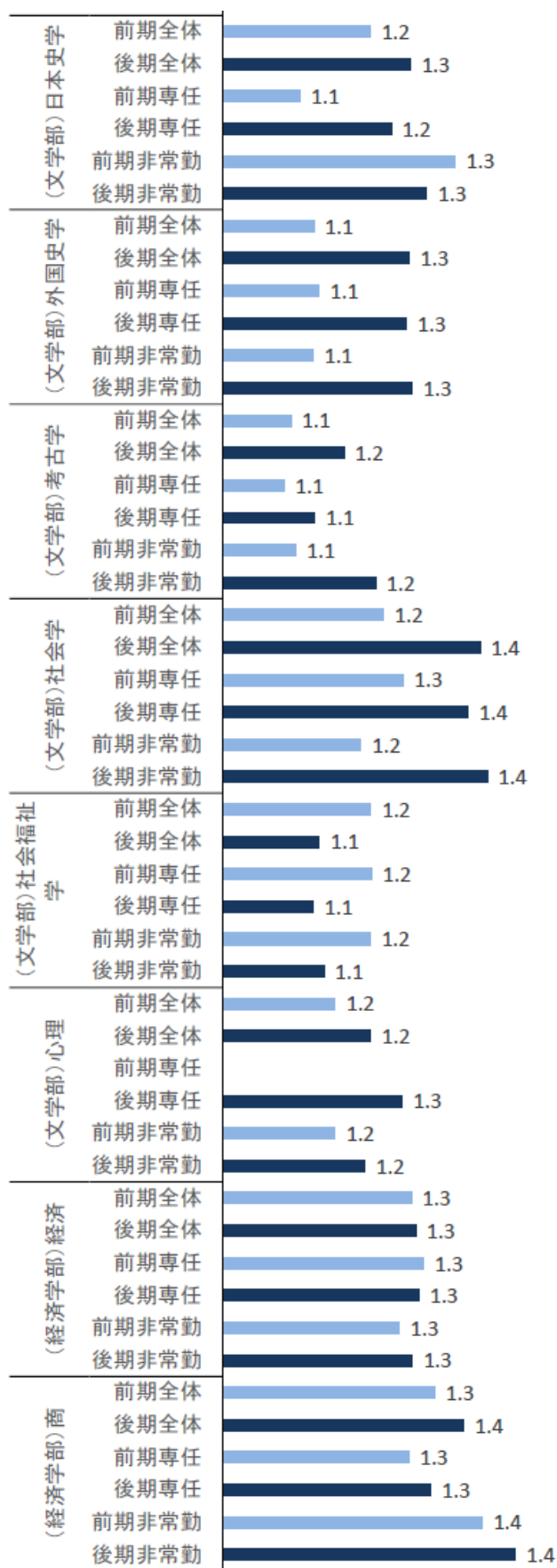


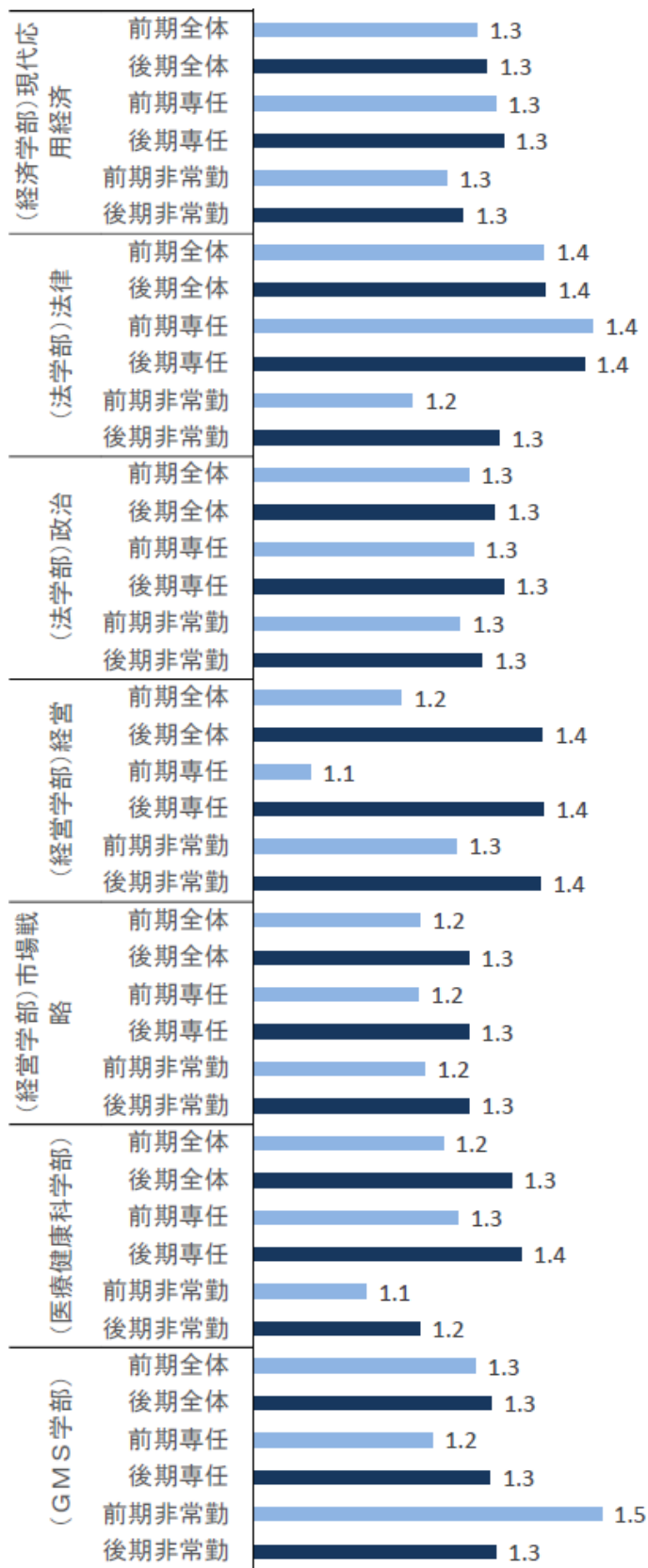


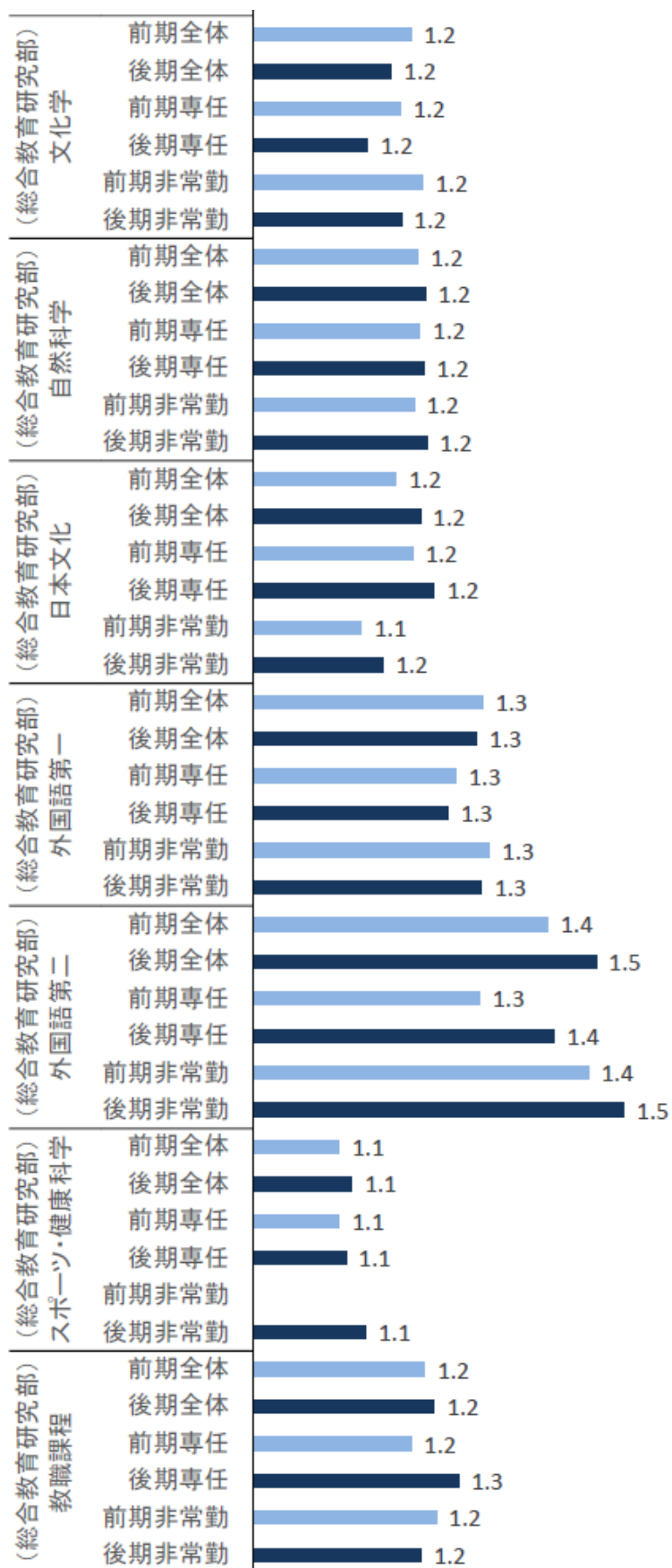


Q 7. この授業の復習にあてている時間は、1 週間に何時間くらいですか。
5 : 4 時間以上 4 : 3 時間以上～4 時間未満 3 : 2 時間以上～3 時間未満
2 : 1 時間以上～2 時間未満 1 : 1 時間未満

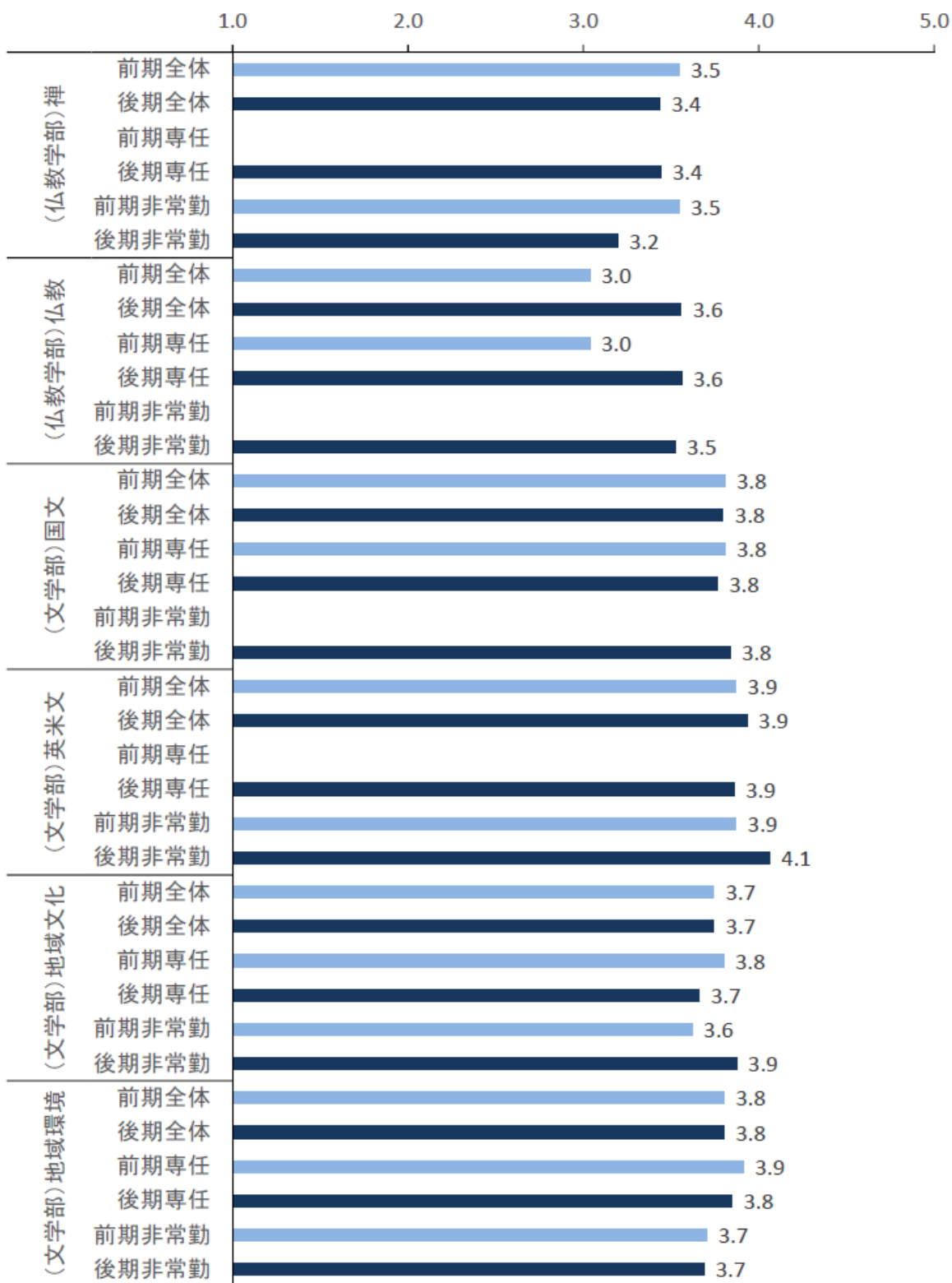


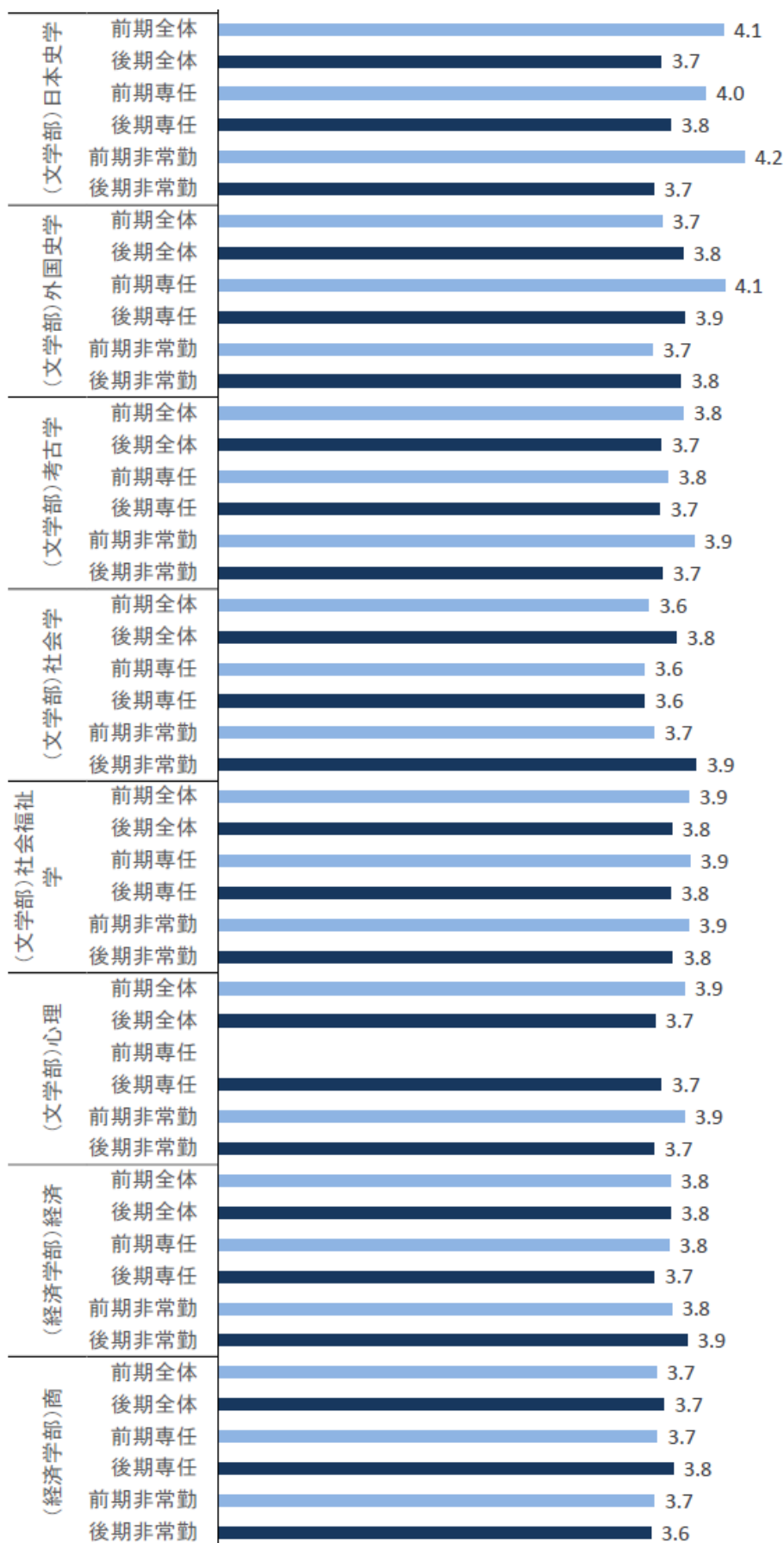


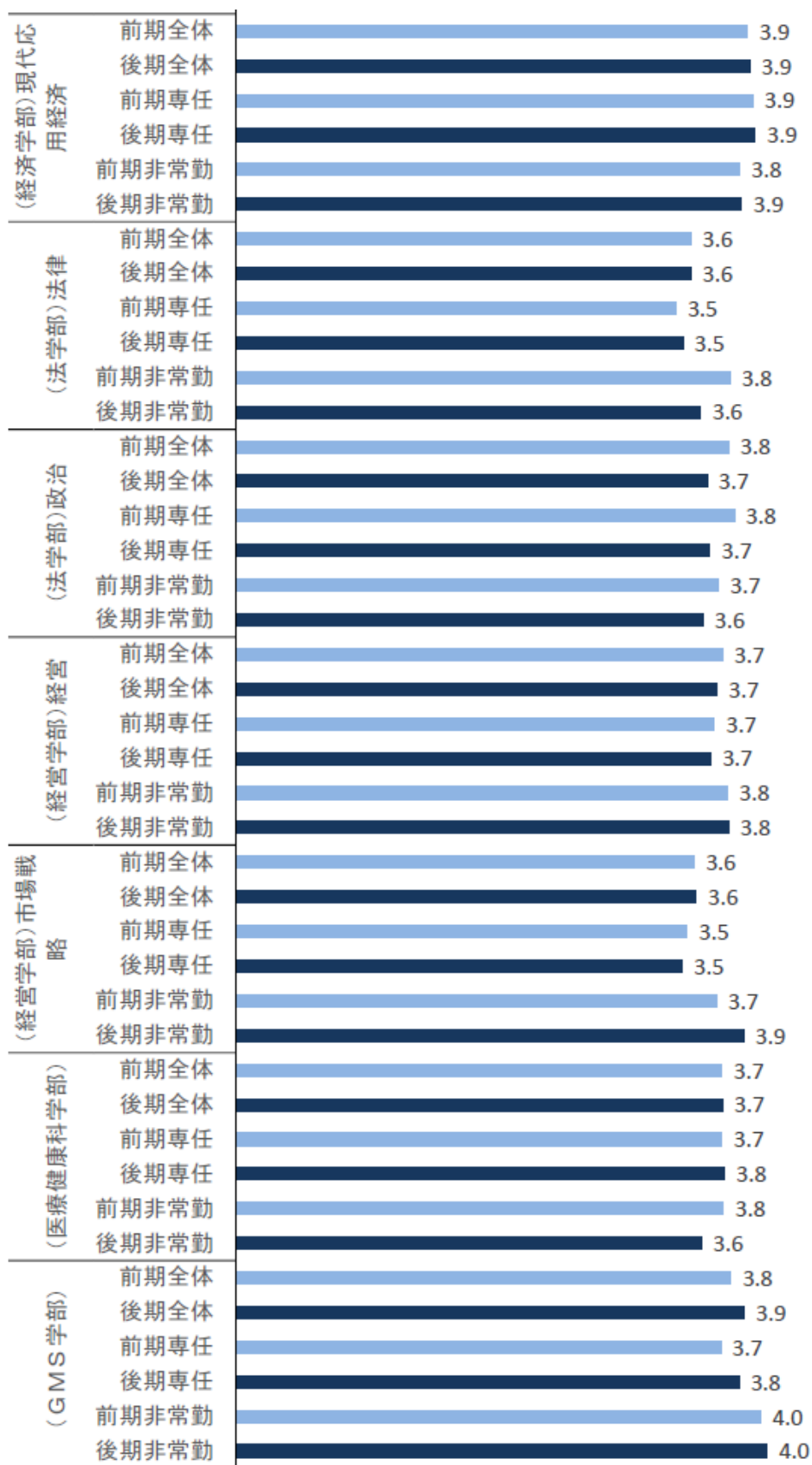


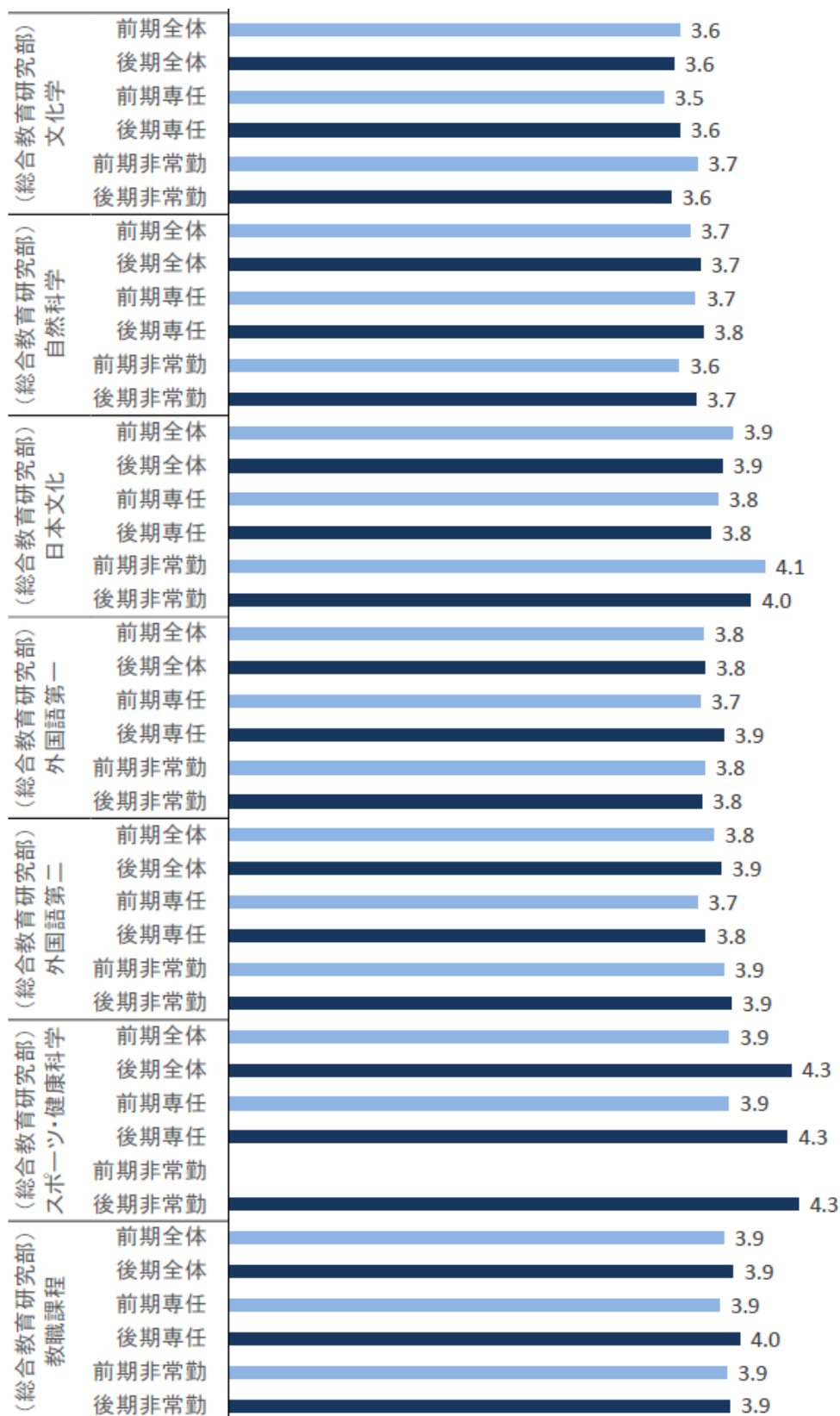


Q 8. あなたは授業に熱心に取り組んでいますか。
 5: とてもそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない 1: 全くそう思わない







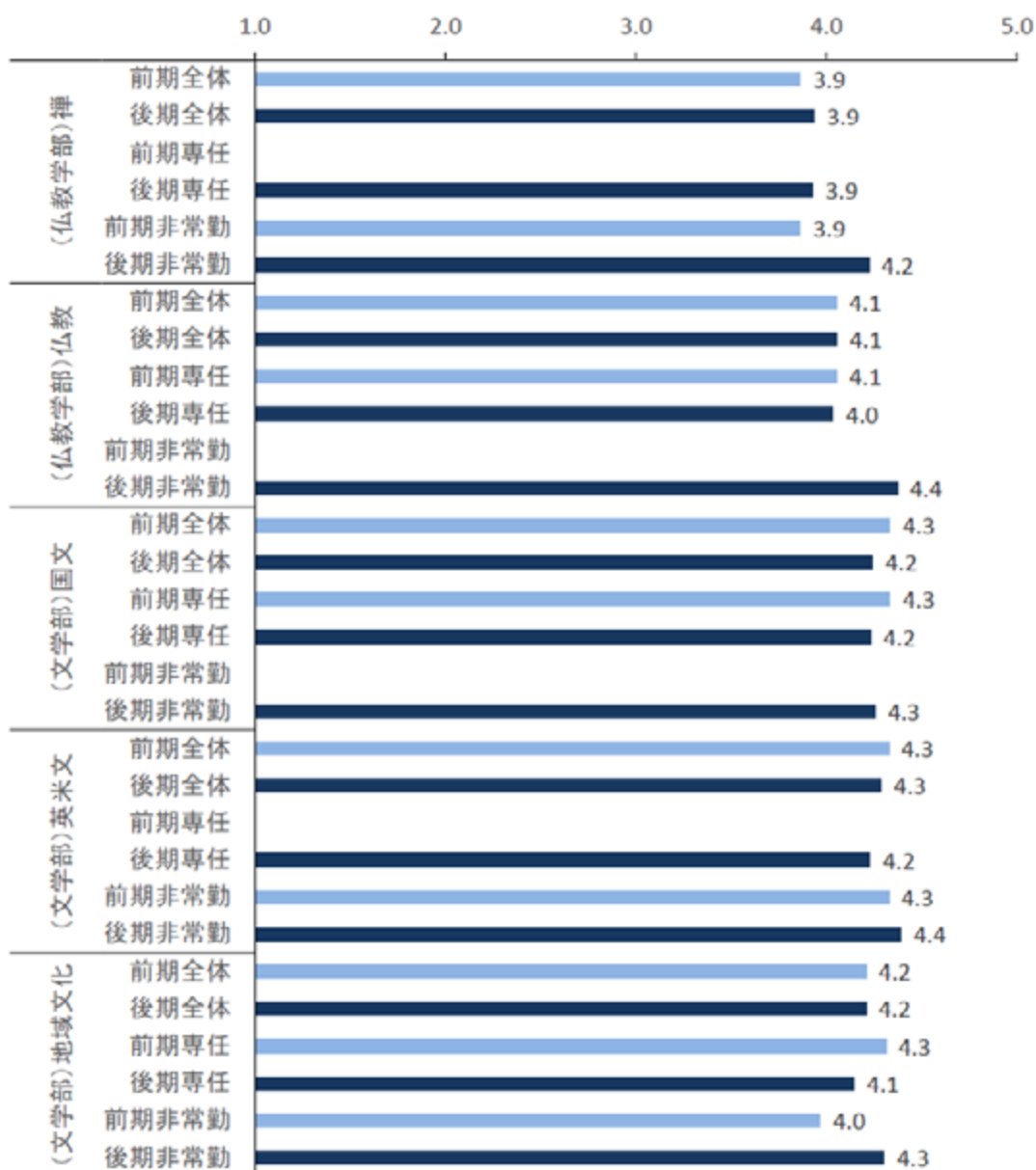


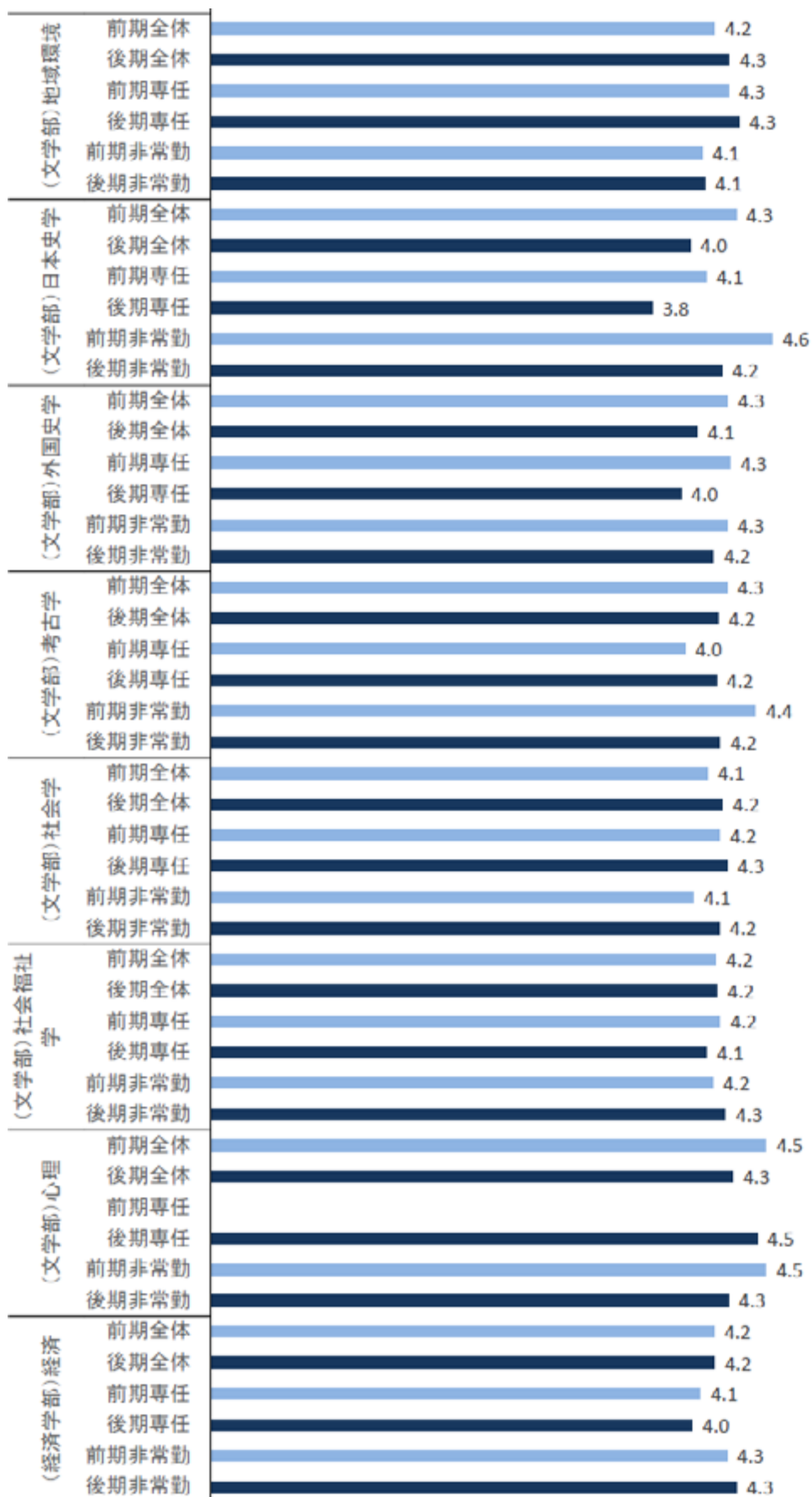
(5) 授業についての評価

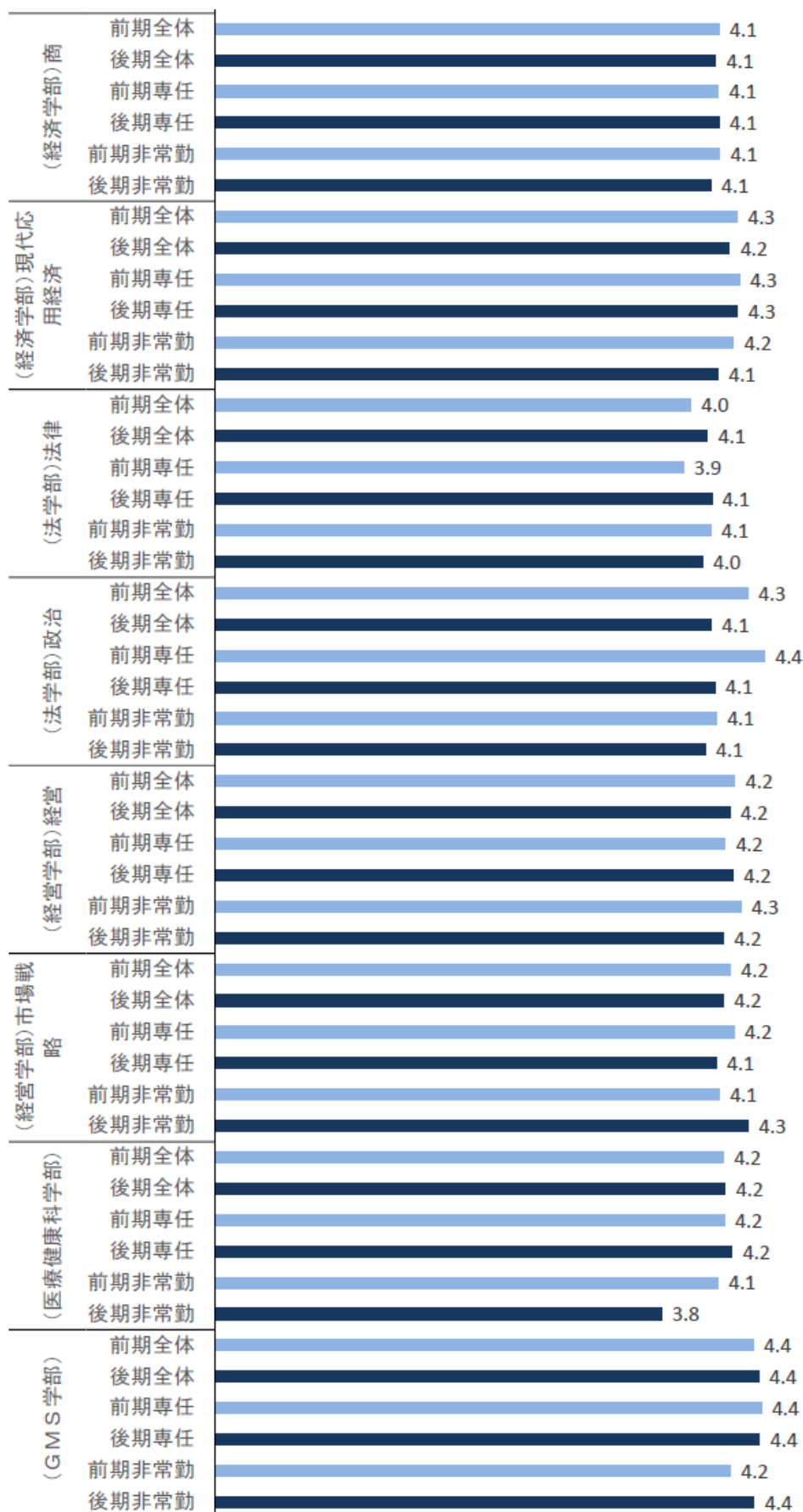
「授業についての評価」に関しては、(3) 項目別平均値における(学)部・学科・部門別専任・非常勤別平均値に基づき、授業の開始時刻・終了時刻(Q9)、休講(Q10)、シラバスについて(Q11)、授業の進み方(Q12)、教材・資料・機材等の使い方(Q13)、授業に対する教員の取り組み(Q14~18)、授業内容の理解度(Q19)、授業内容への興味(Q20)、学修目標の達成(Q21)を検討した。

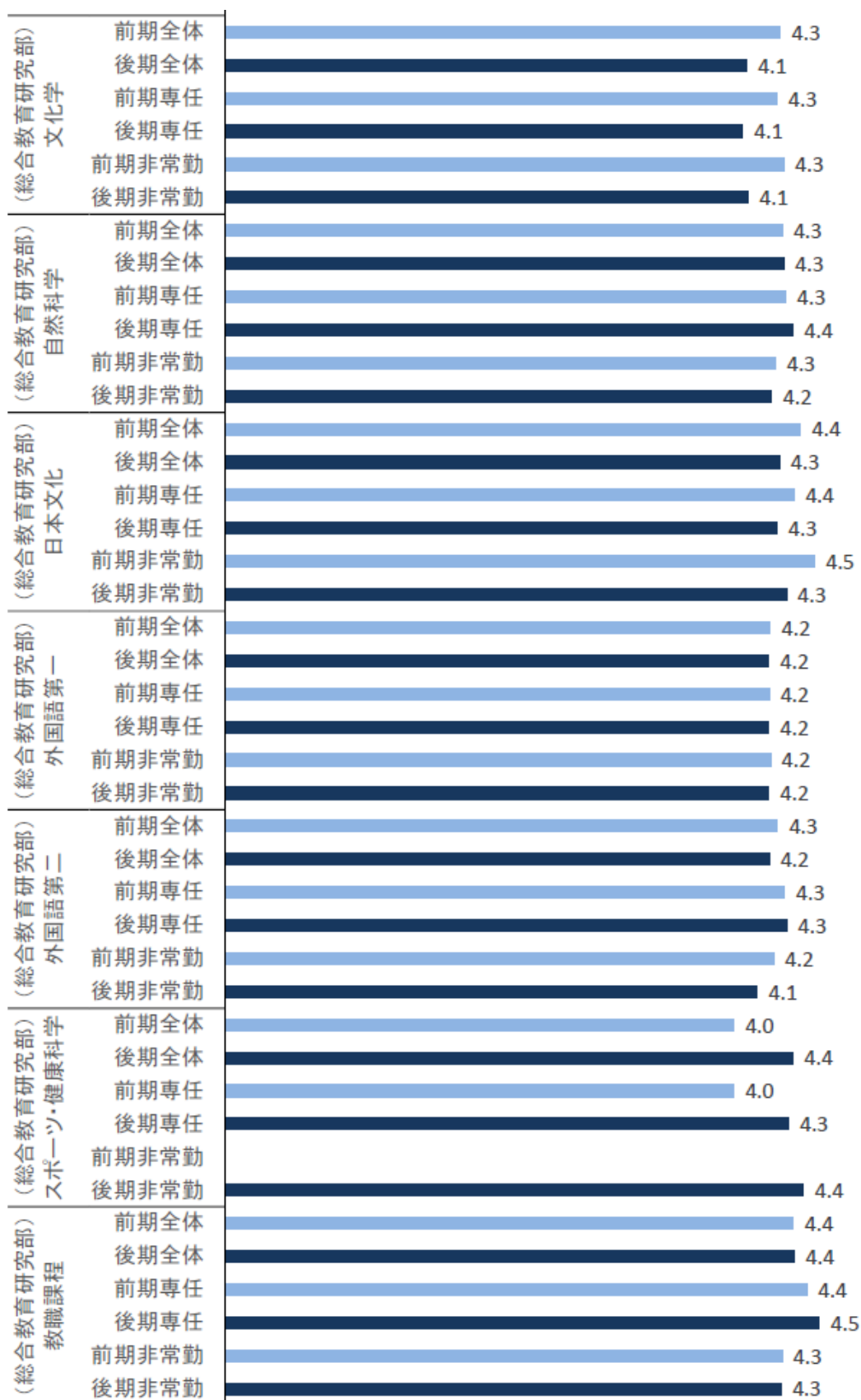
Q9. 授業はほぼ定刻通りに実施されていますか。
5: とてもそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない 1: 全くそう思わない

ほとんどの学部において、4.0ポイント以上の値となっており、ほぼ定刻通りに実施されていたことがわかる。



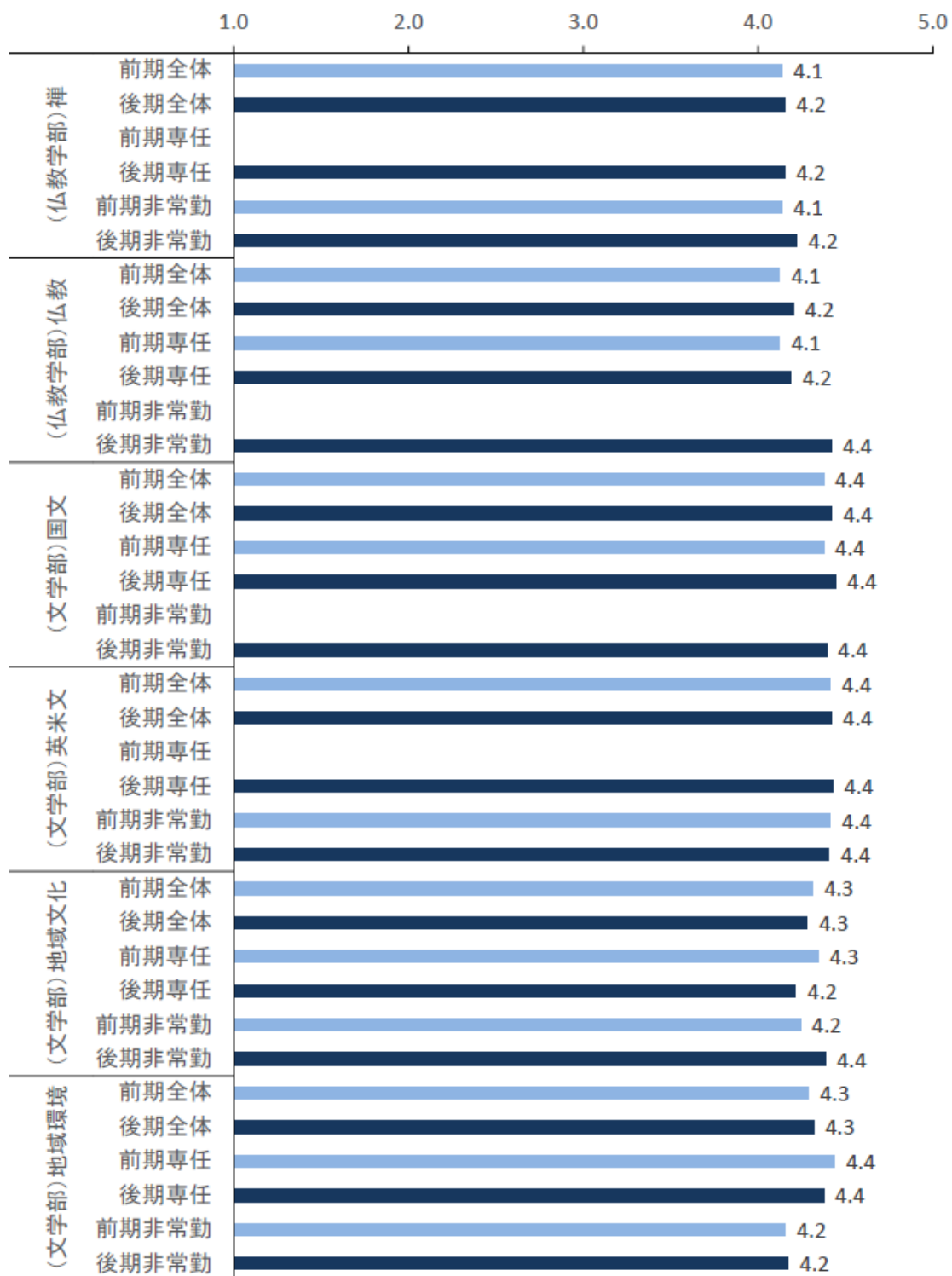


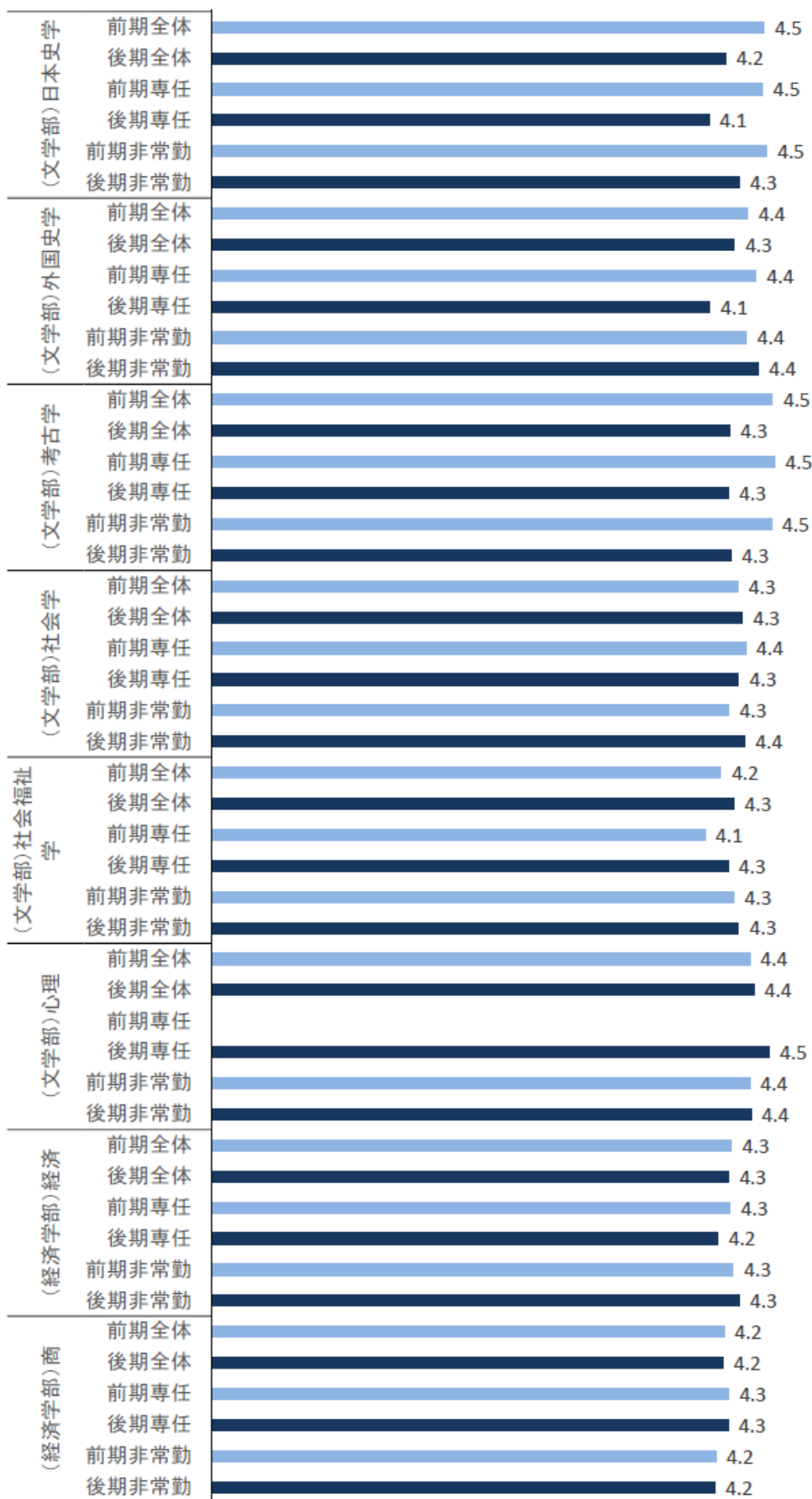


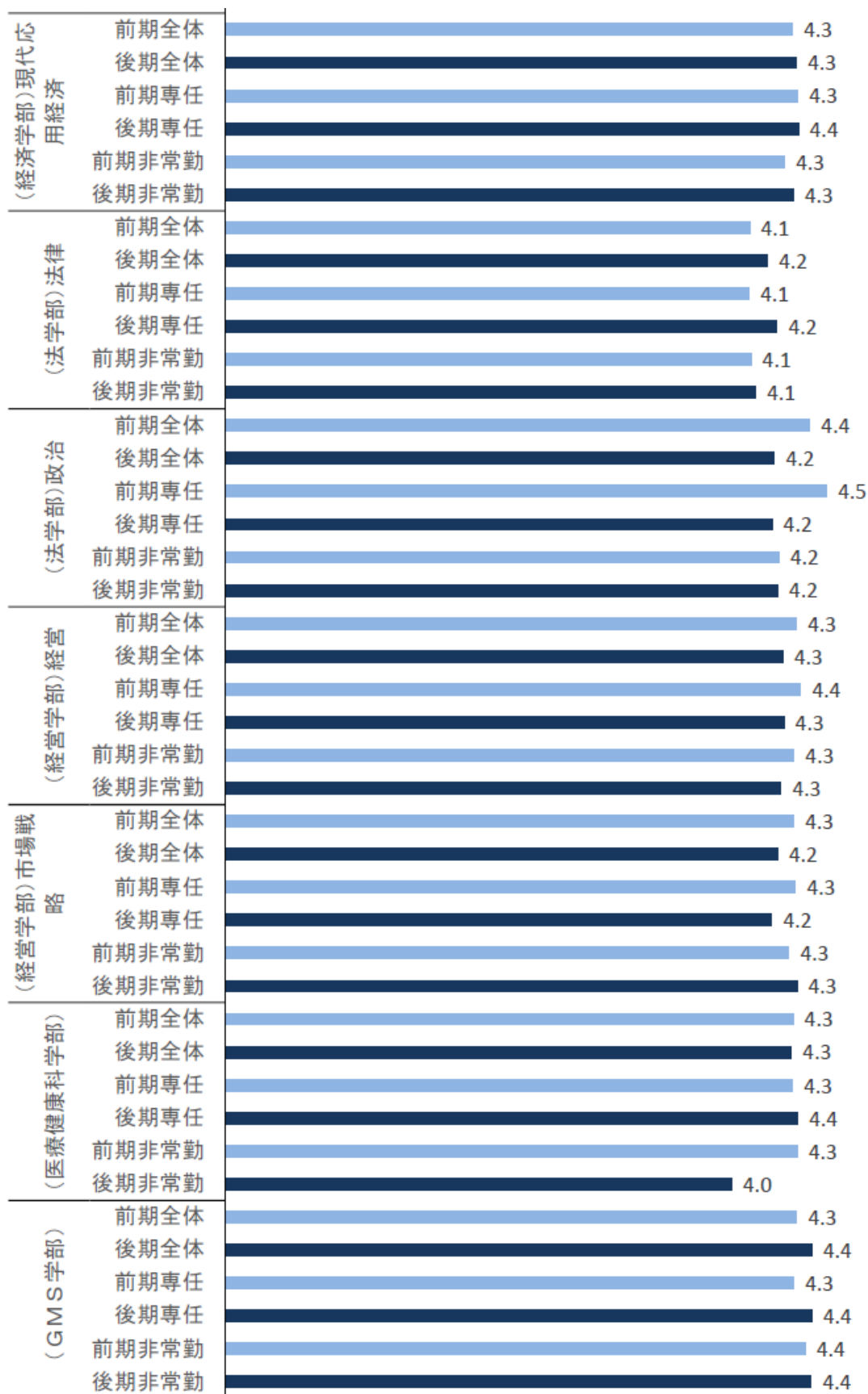


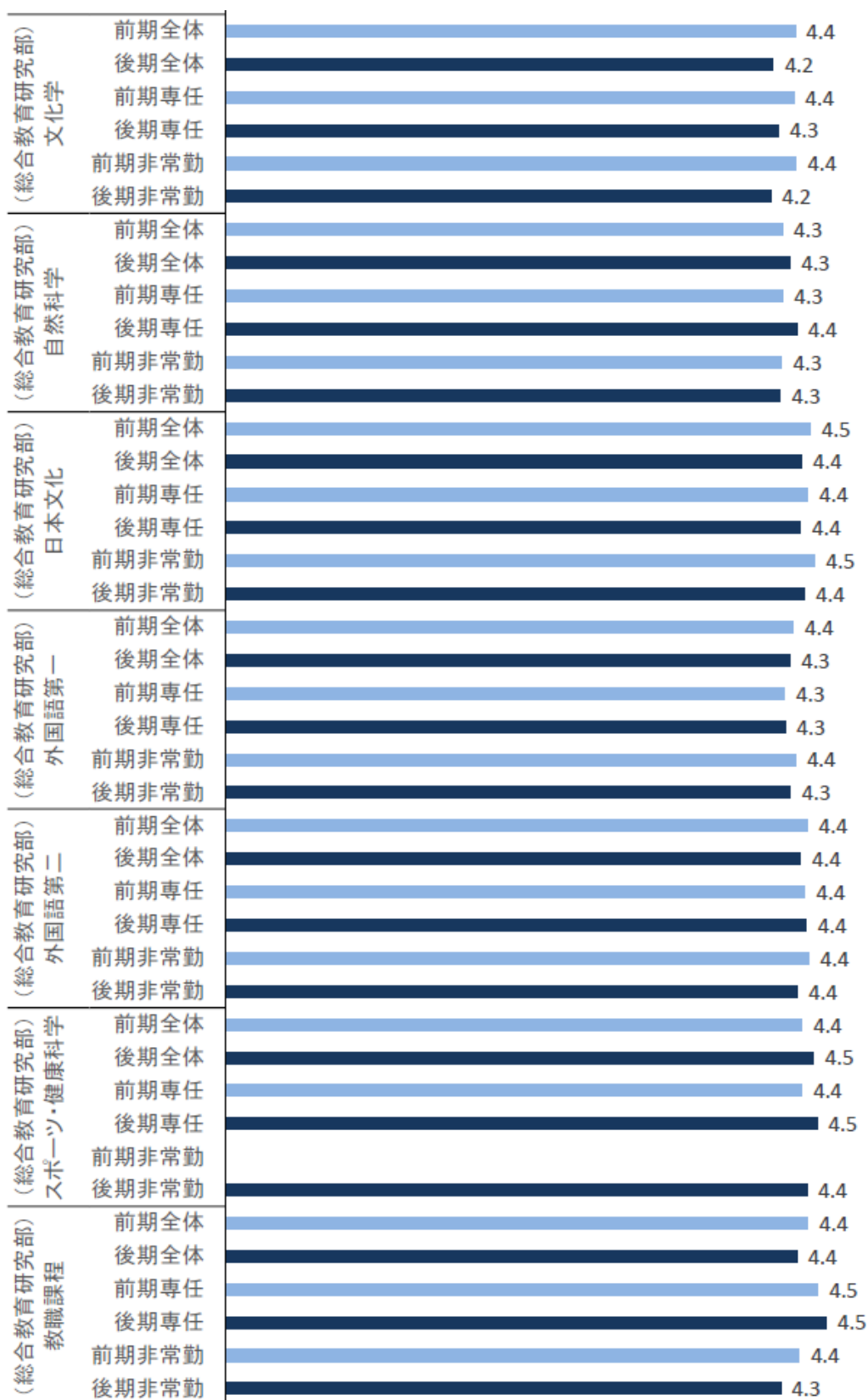
Q10. 通常通り、授業回数は確保されていますか。(補講・YeStudy 等による課題授業含む)
 5: とてもそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない 1: 全くそう思わない

すべての学部において、4.0 ポイント以上の値となっており、通常通り授業回数が確保されていたことがわかる。



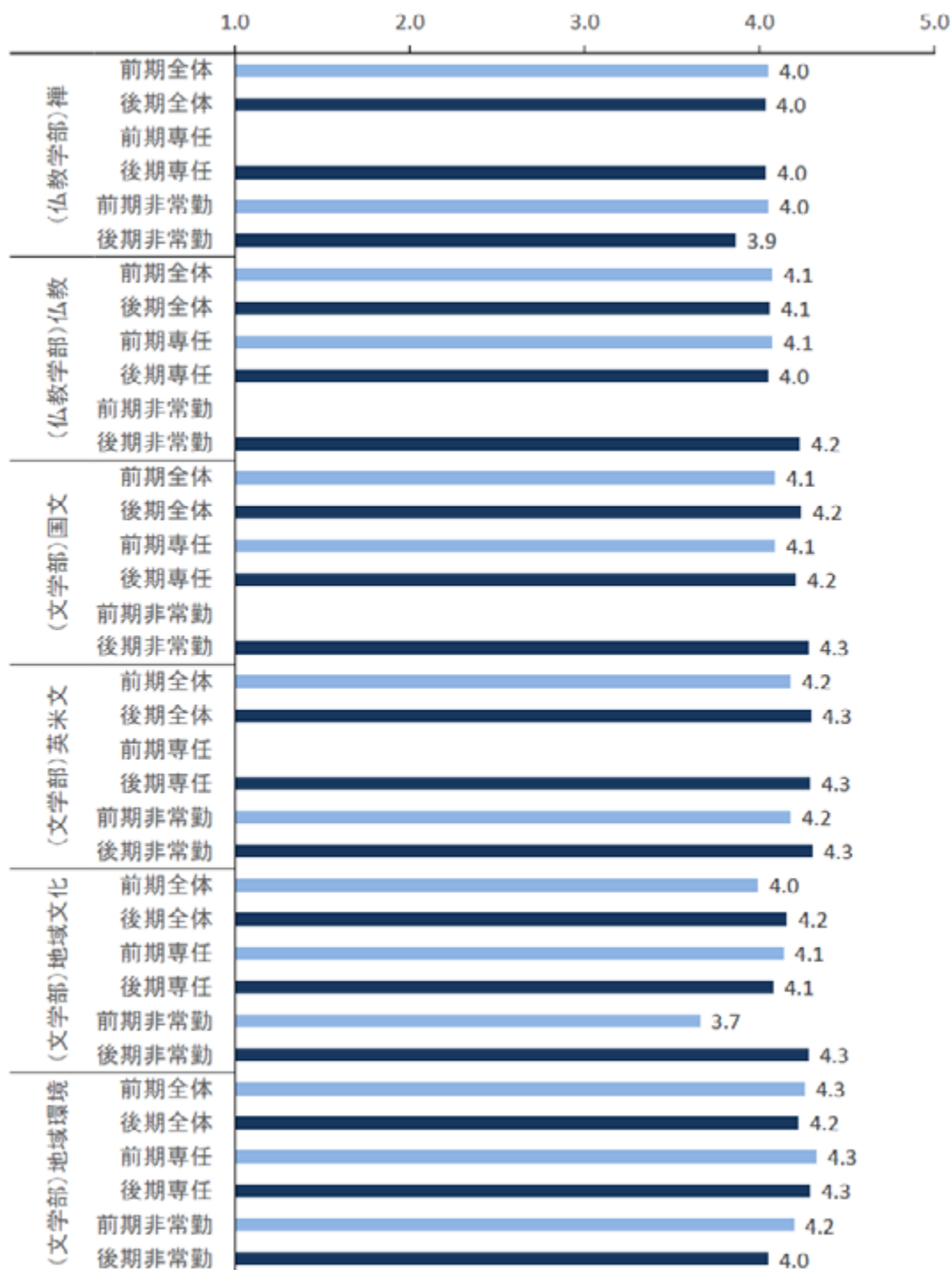


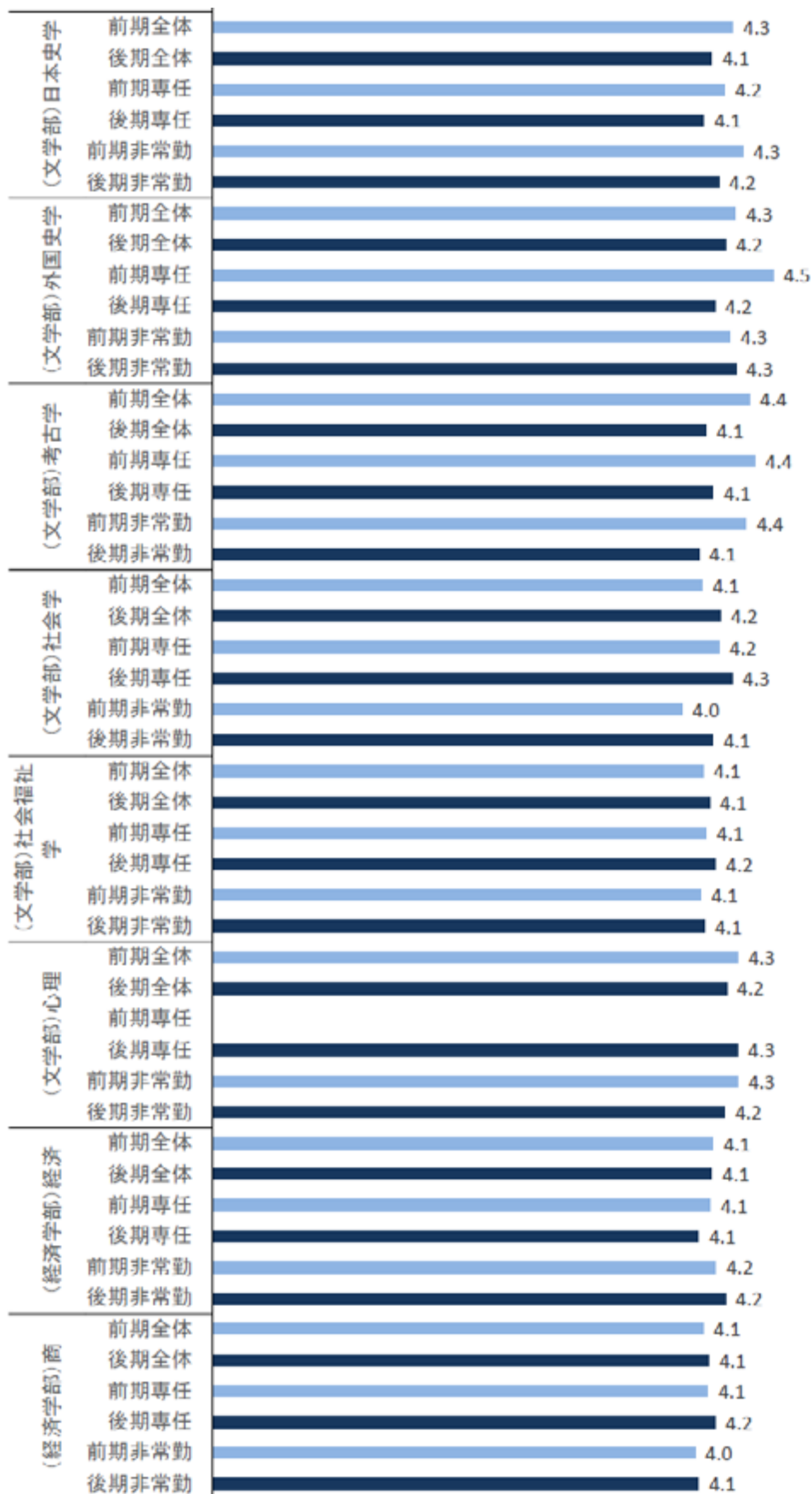


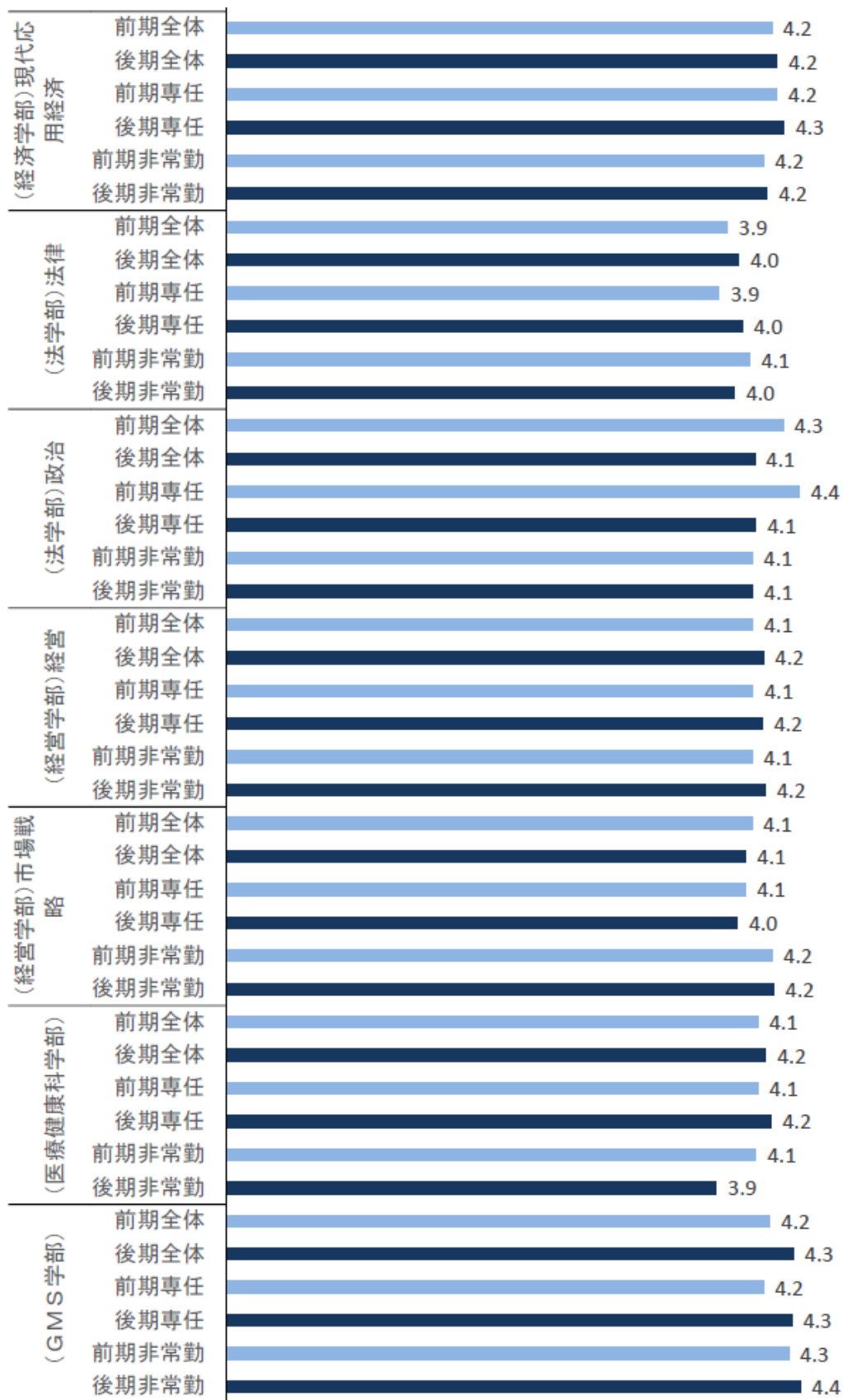


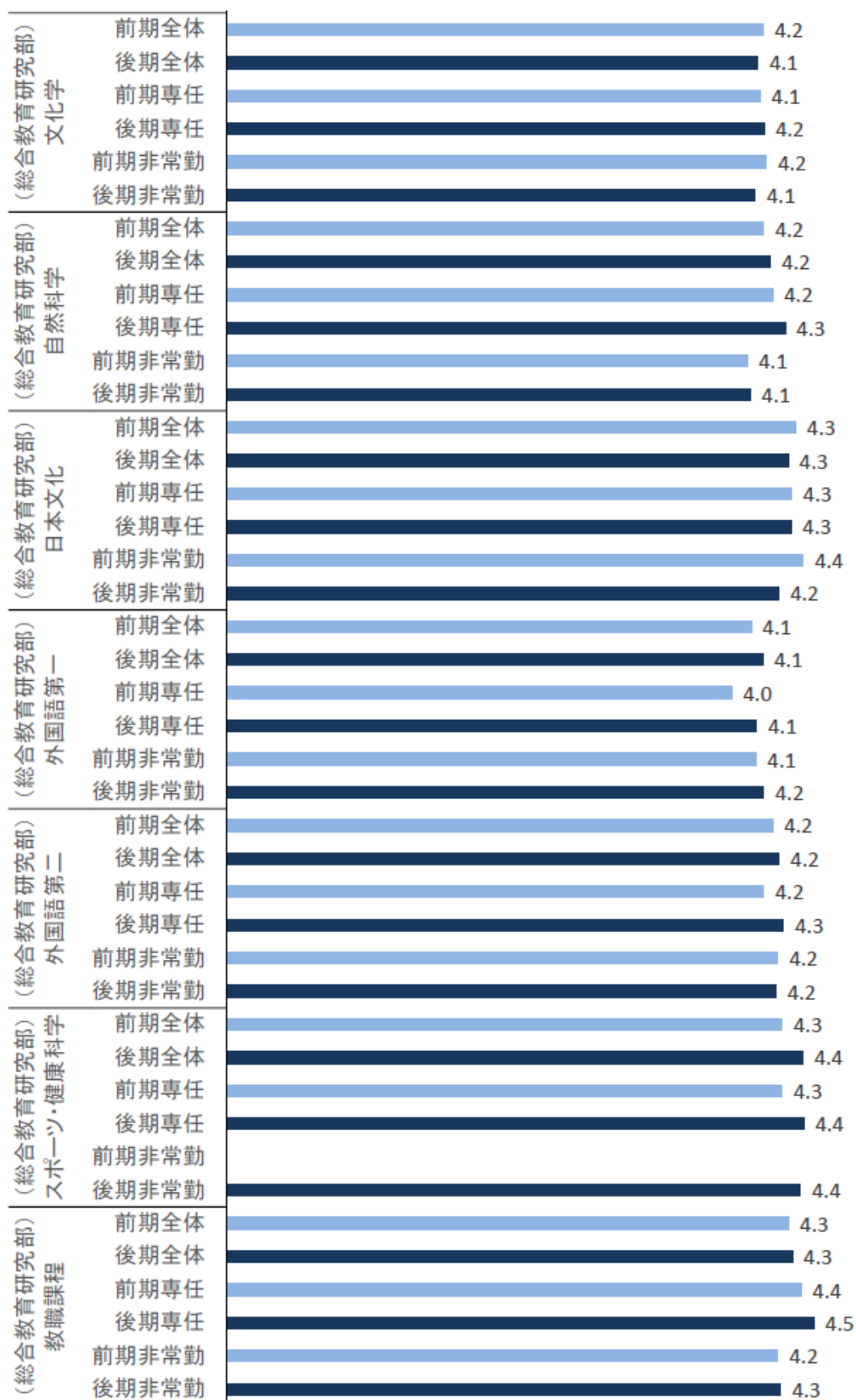
Q 1 1. 授業にはおおむねシラバスの内容が反映されていますか。
 5: とてもそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない 1: 全くそう思わない

ほとんどの学部において、4.0 ポイント以上の値となっており、シラバスの内容が反映されていたことがわかる。



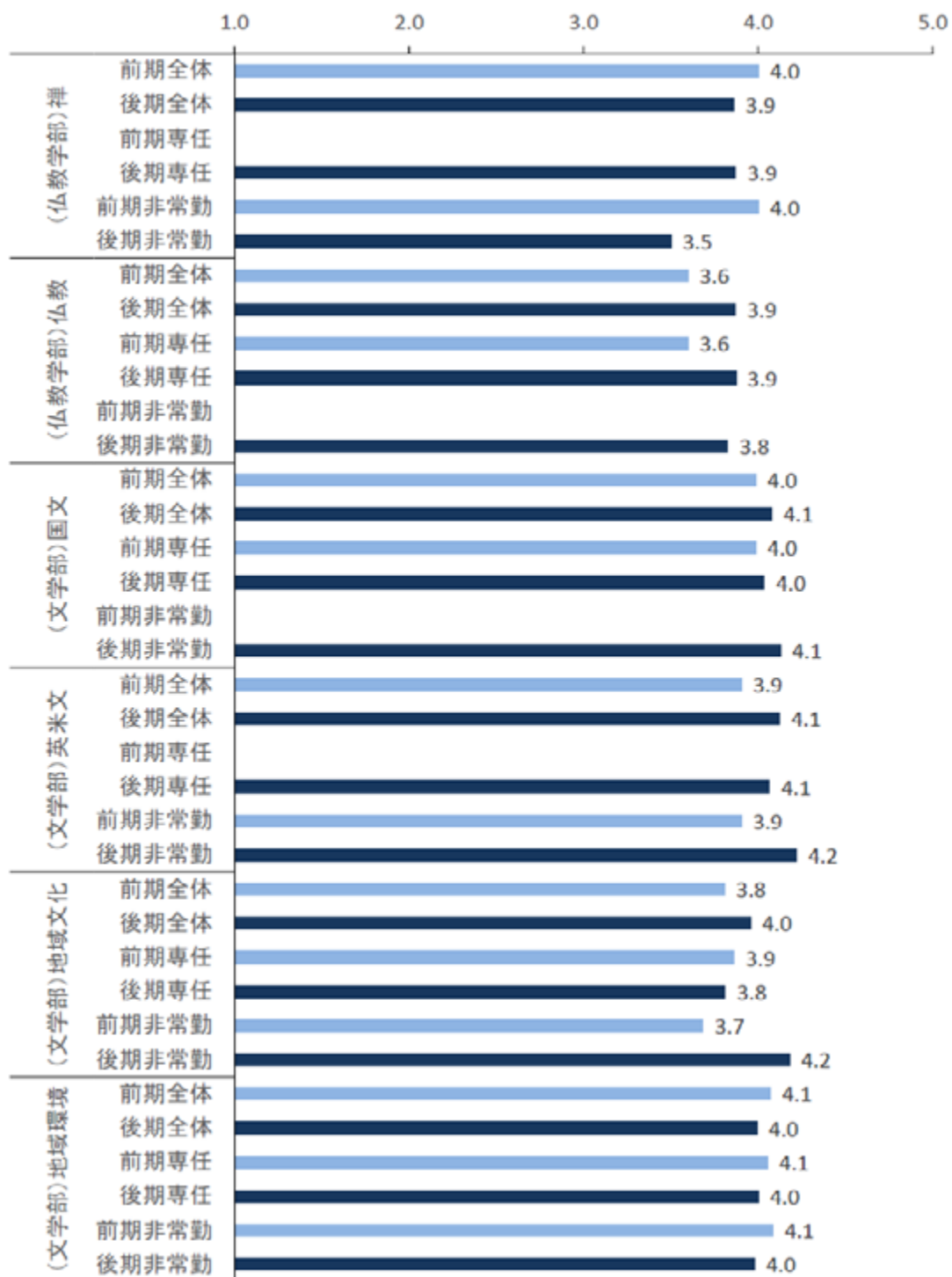


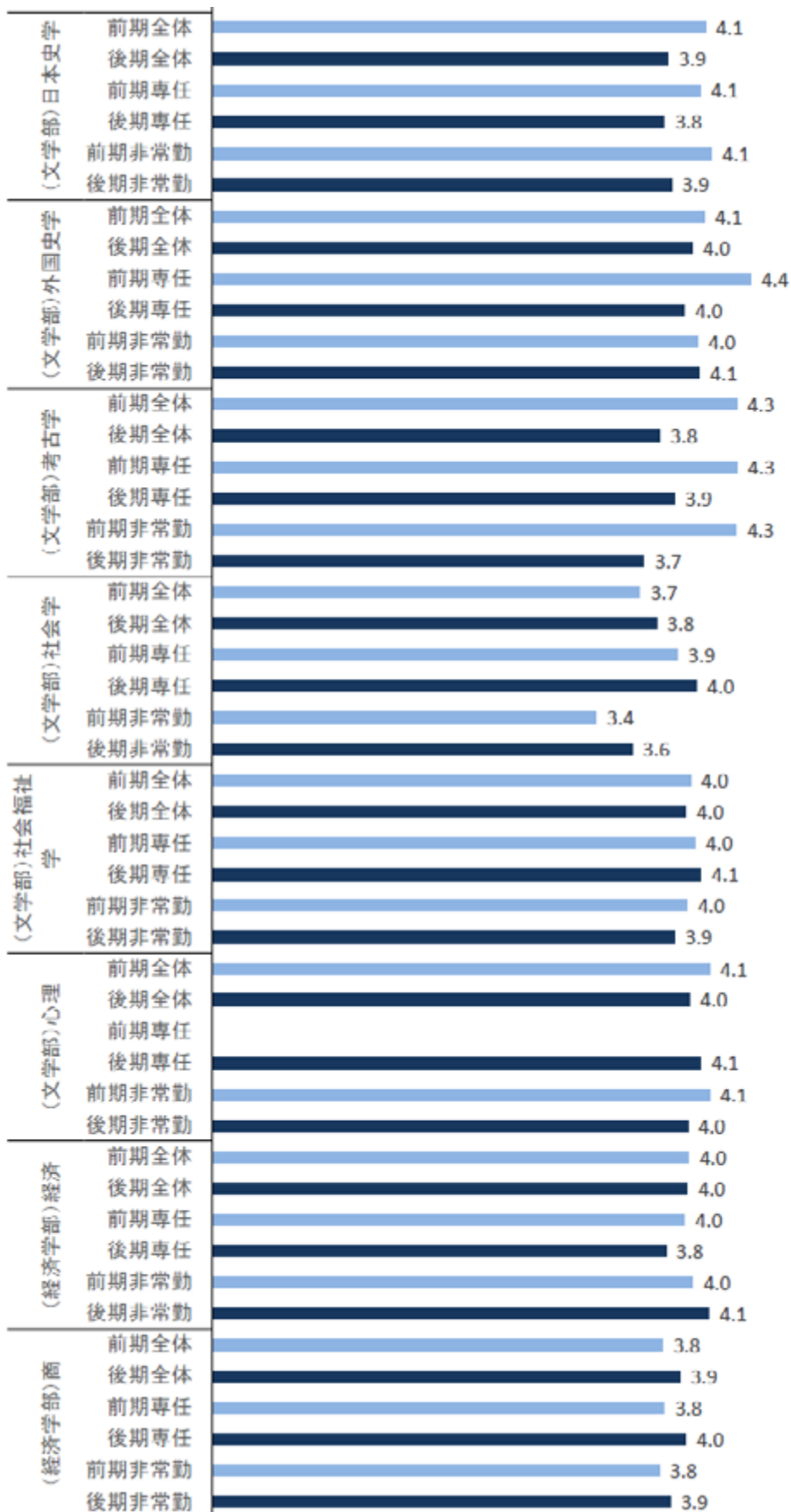


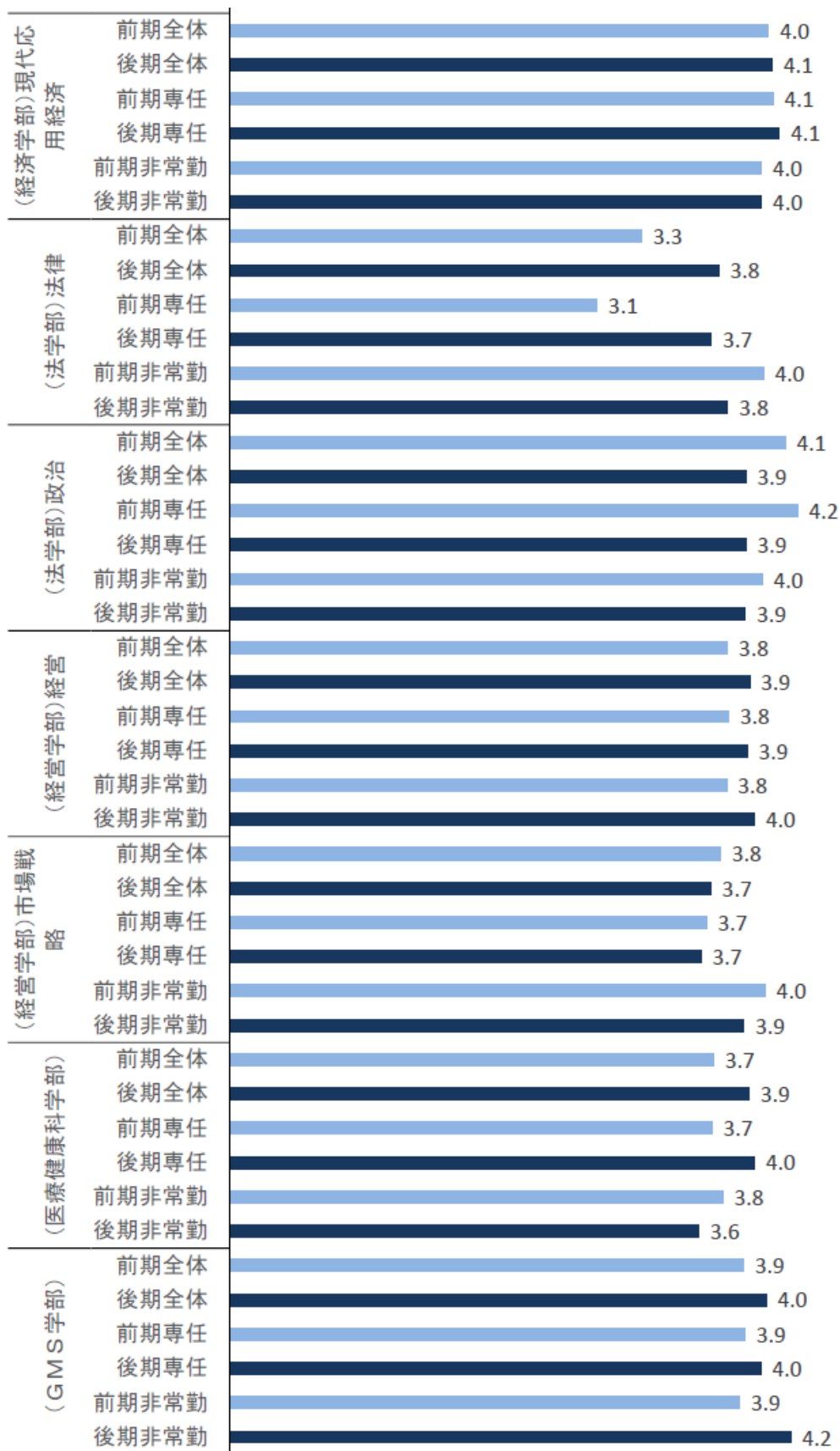


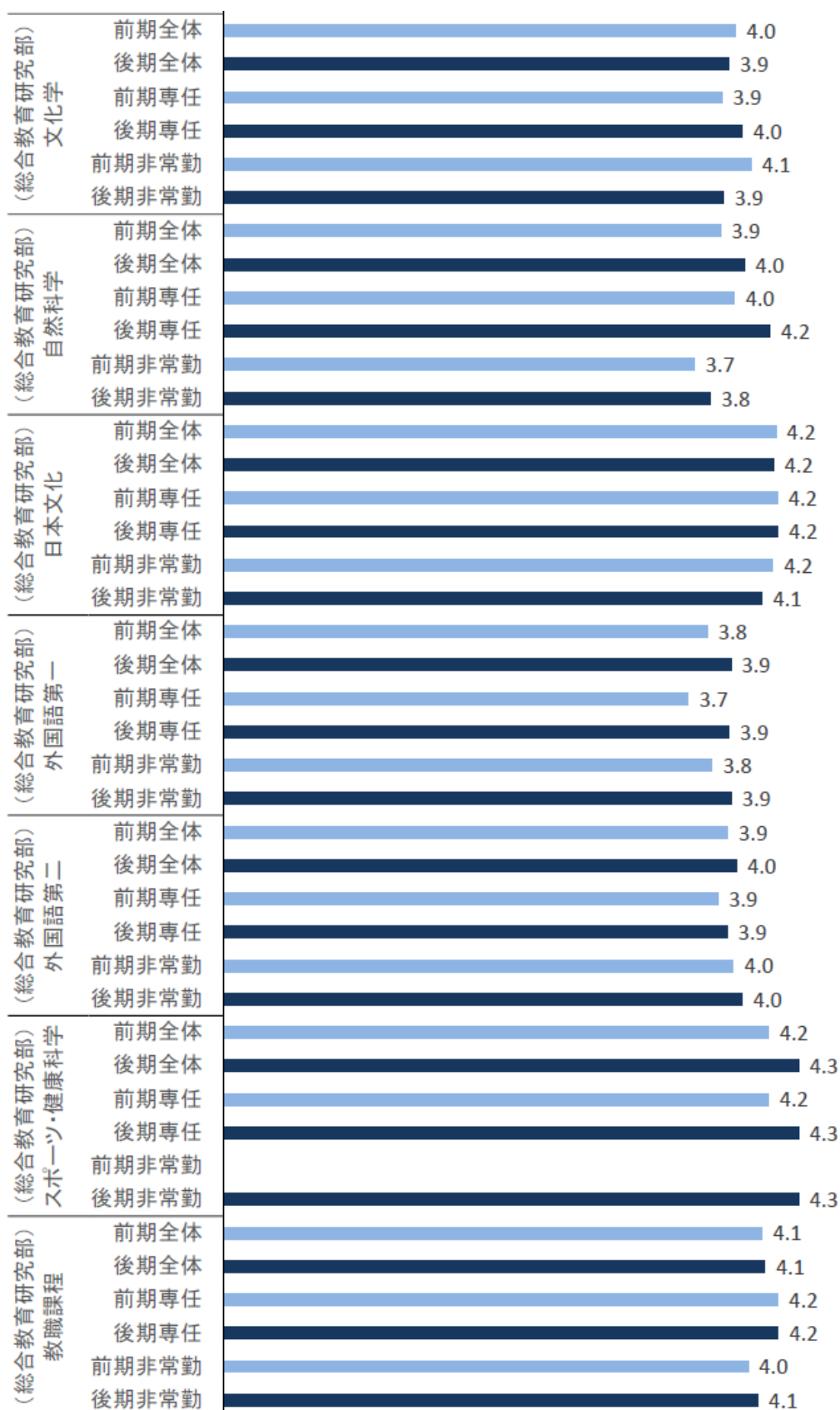
Q 1 2. この授業の進み方はあなたにとって適切ですか。
 5 : とてもそう思う 4 : そう思う 3 : どちらとも言えない 2 : あまりそう思わない 1 : 全くそう思わない

3.1~4.4 ポイントに推移しており、結果にばらつきはあるものの、進み方が適切であった傾向にあることがわかる。



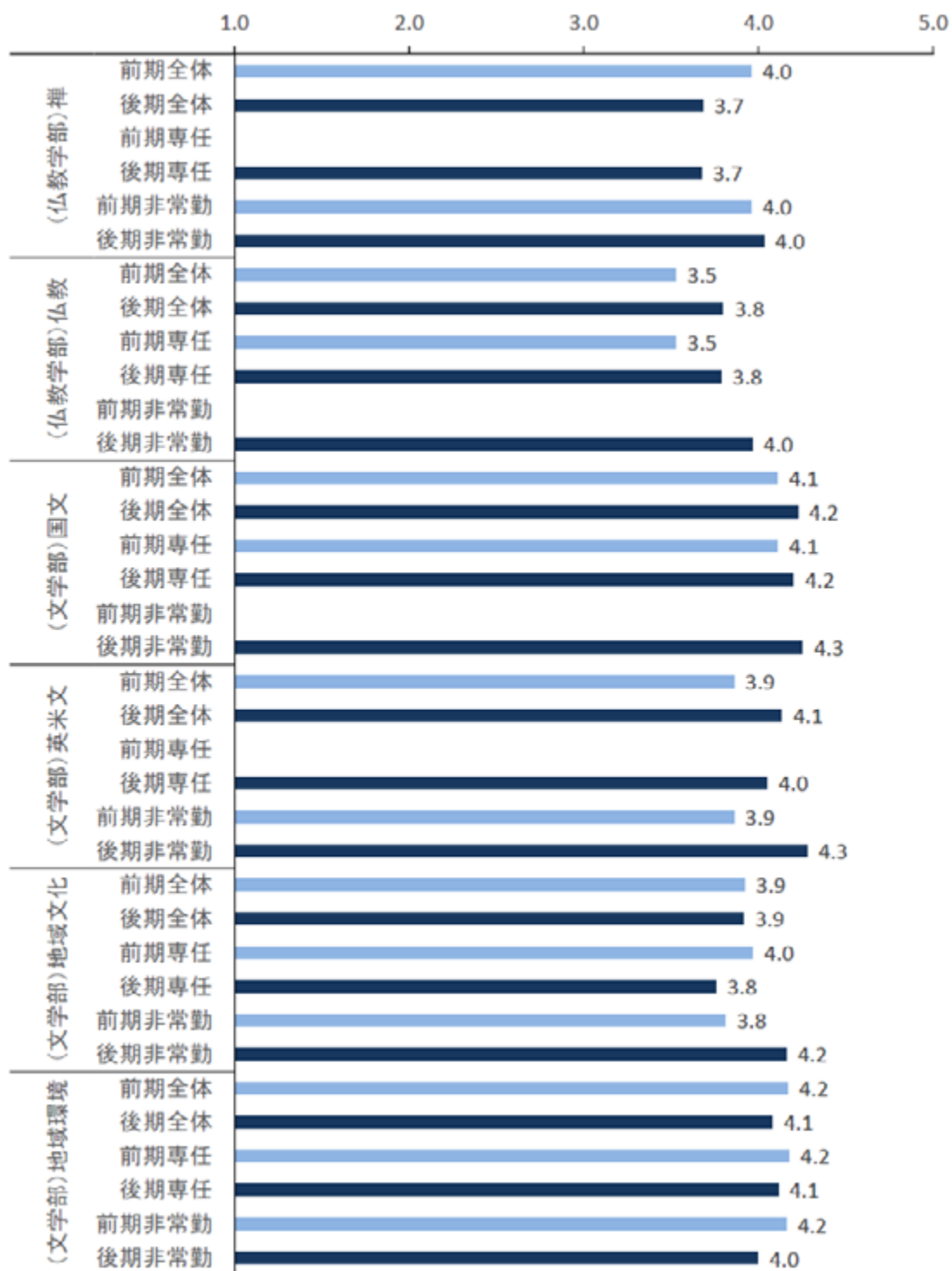


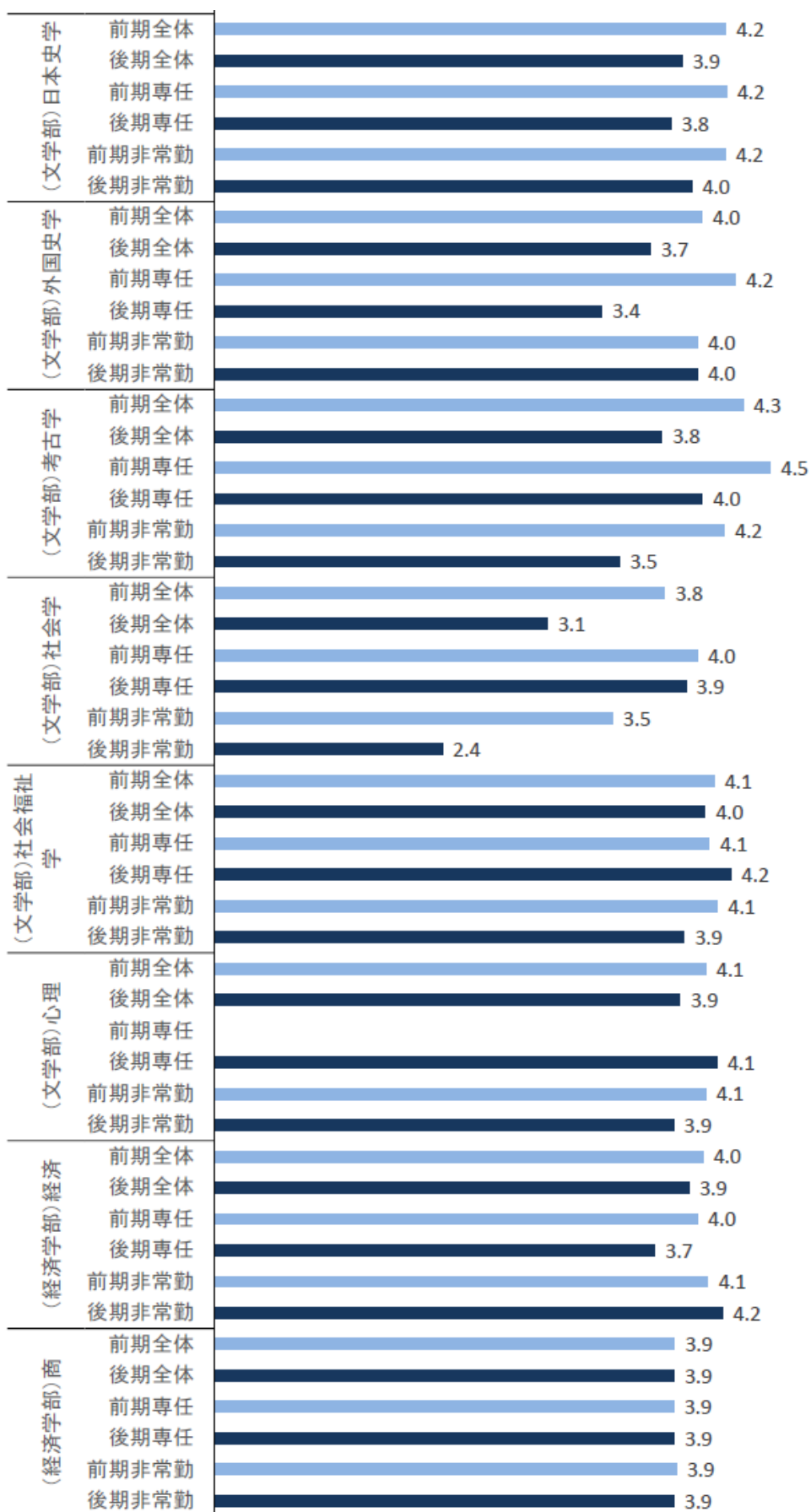


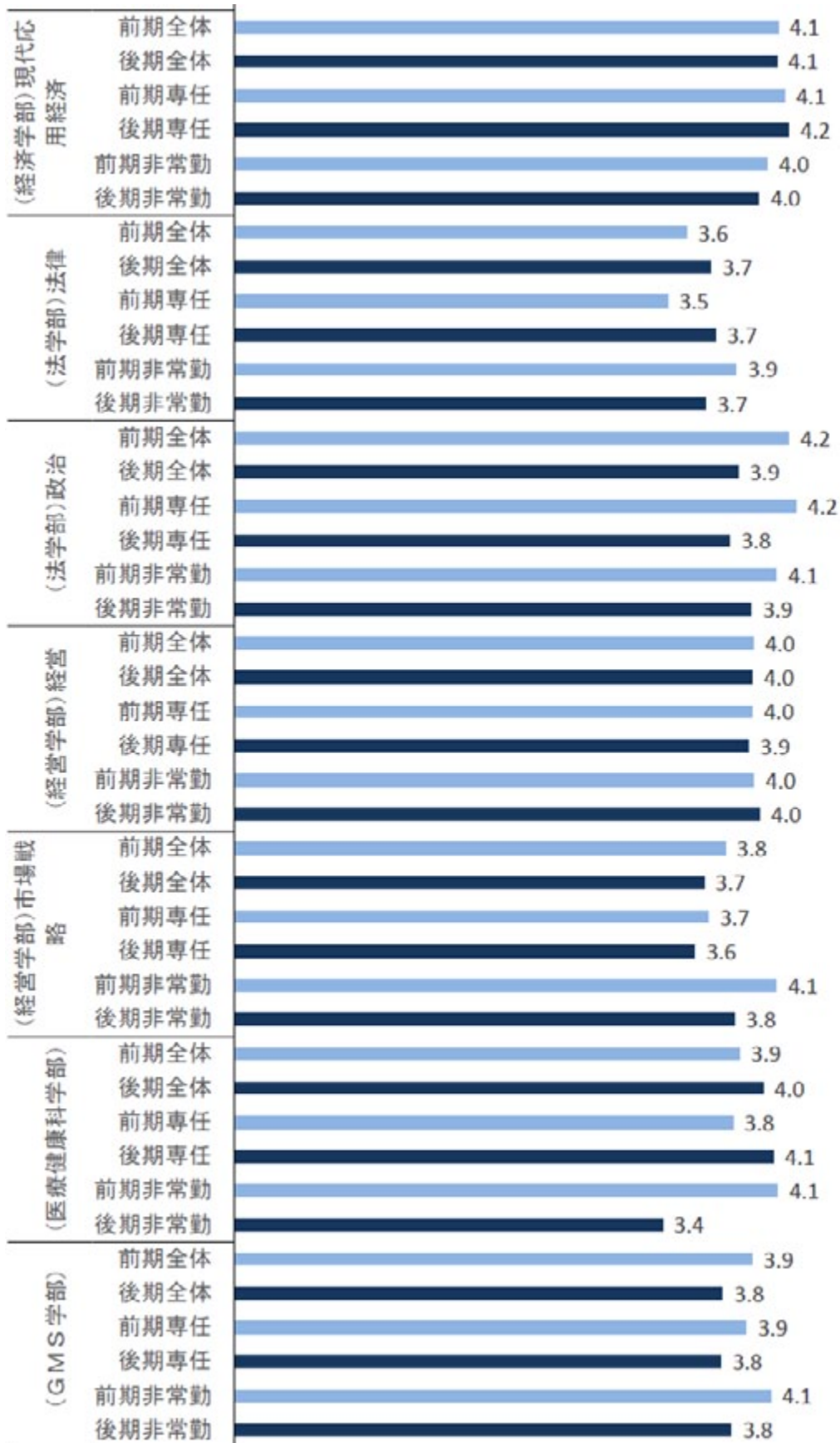


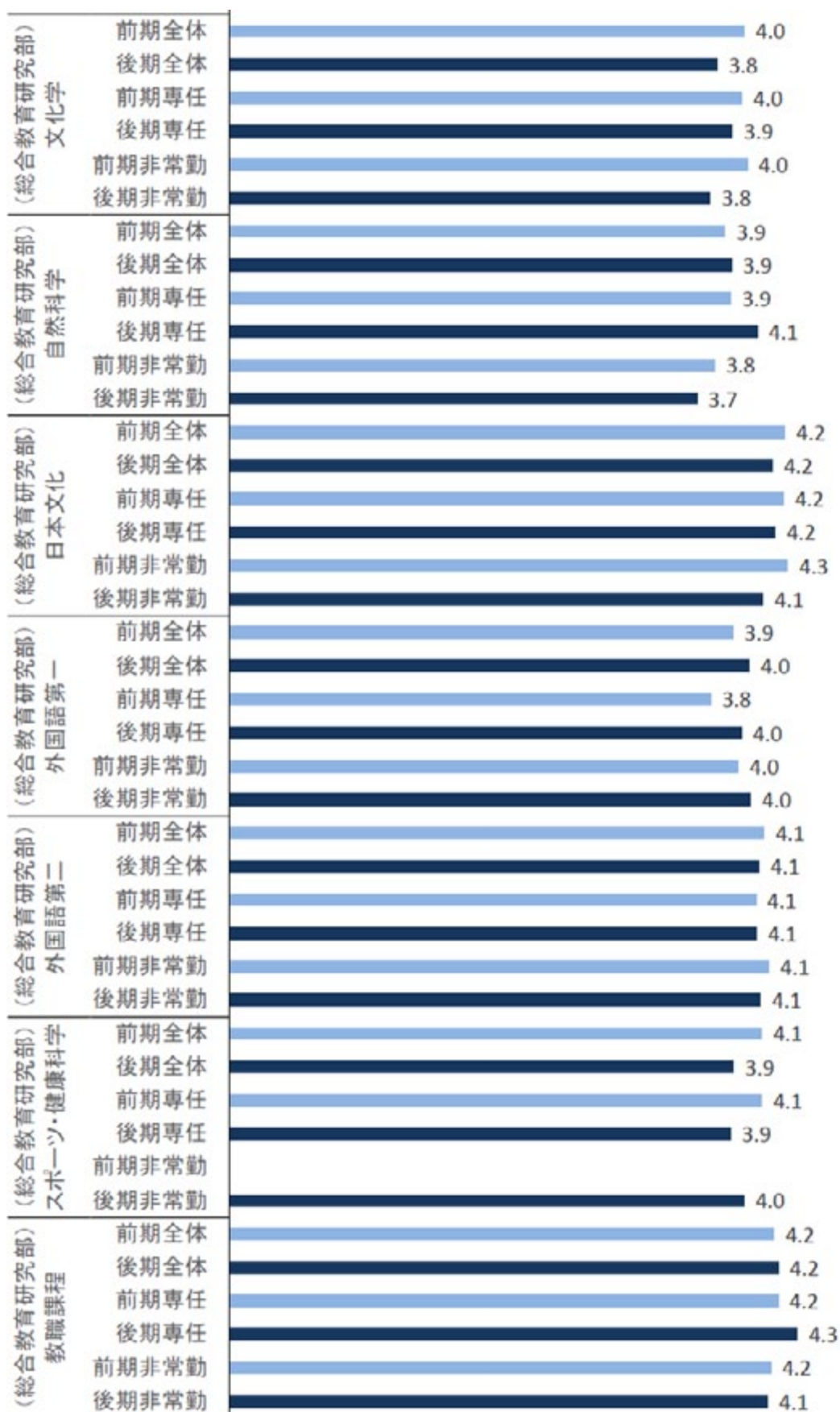
Q 1 3. 教科書・配付資料等は授業内容を理解するうえで効果的ですか。
 5 : とてもそう思う 4 : そう思う 3 : どちらとも言えない 2 : あまりそう思わない 1 : 全くそう思わない
 0 : 教科書・配付資料等がない場合

ほとんどの学部において、4.0 ポイントに近い値となっており、結果にばらつきはあるものの、効果的だった傾向にあることがわかる。



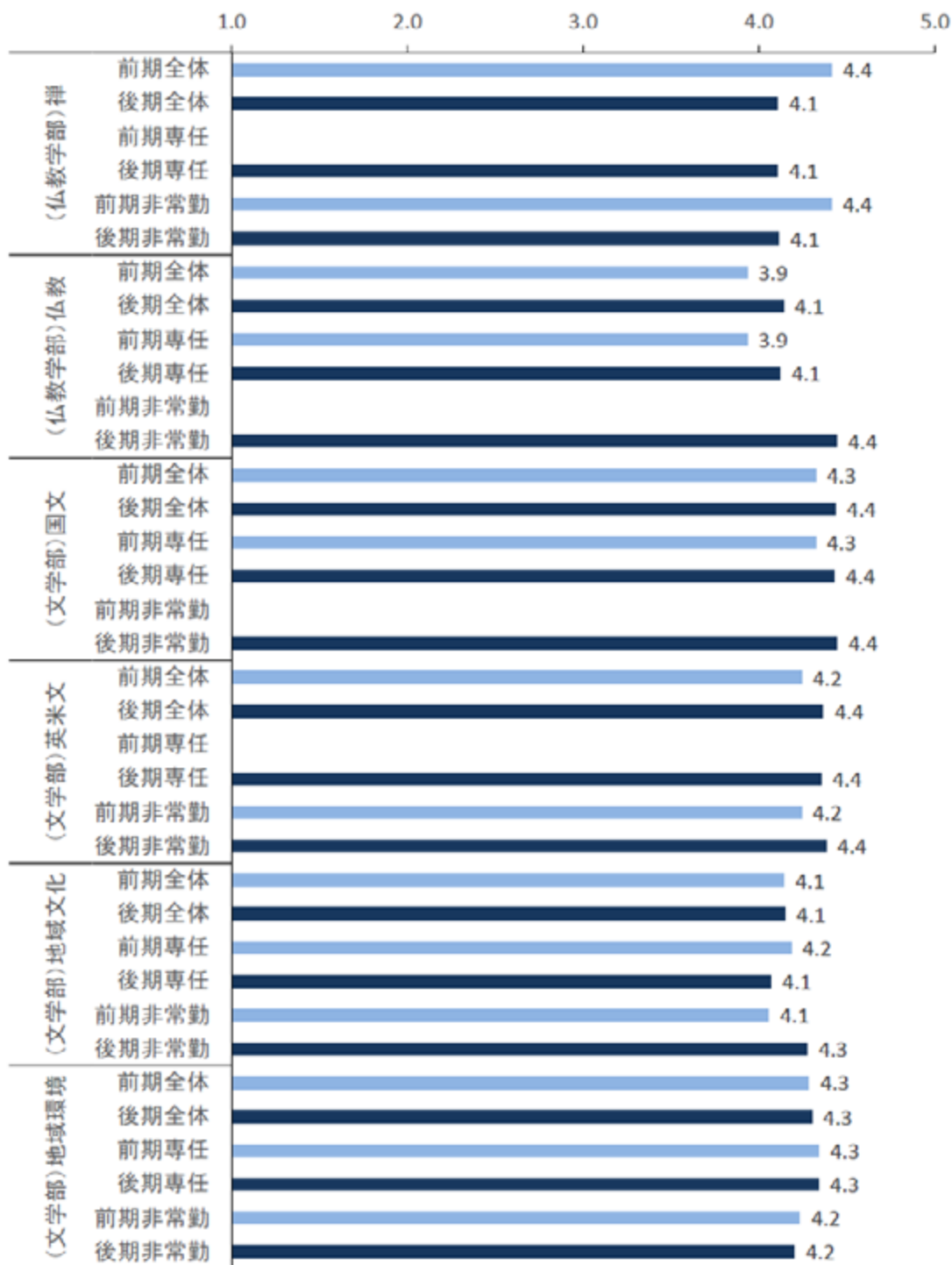


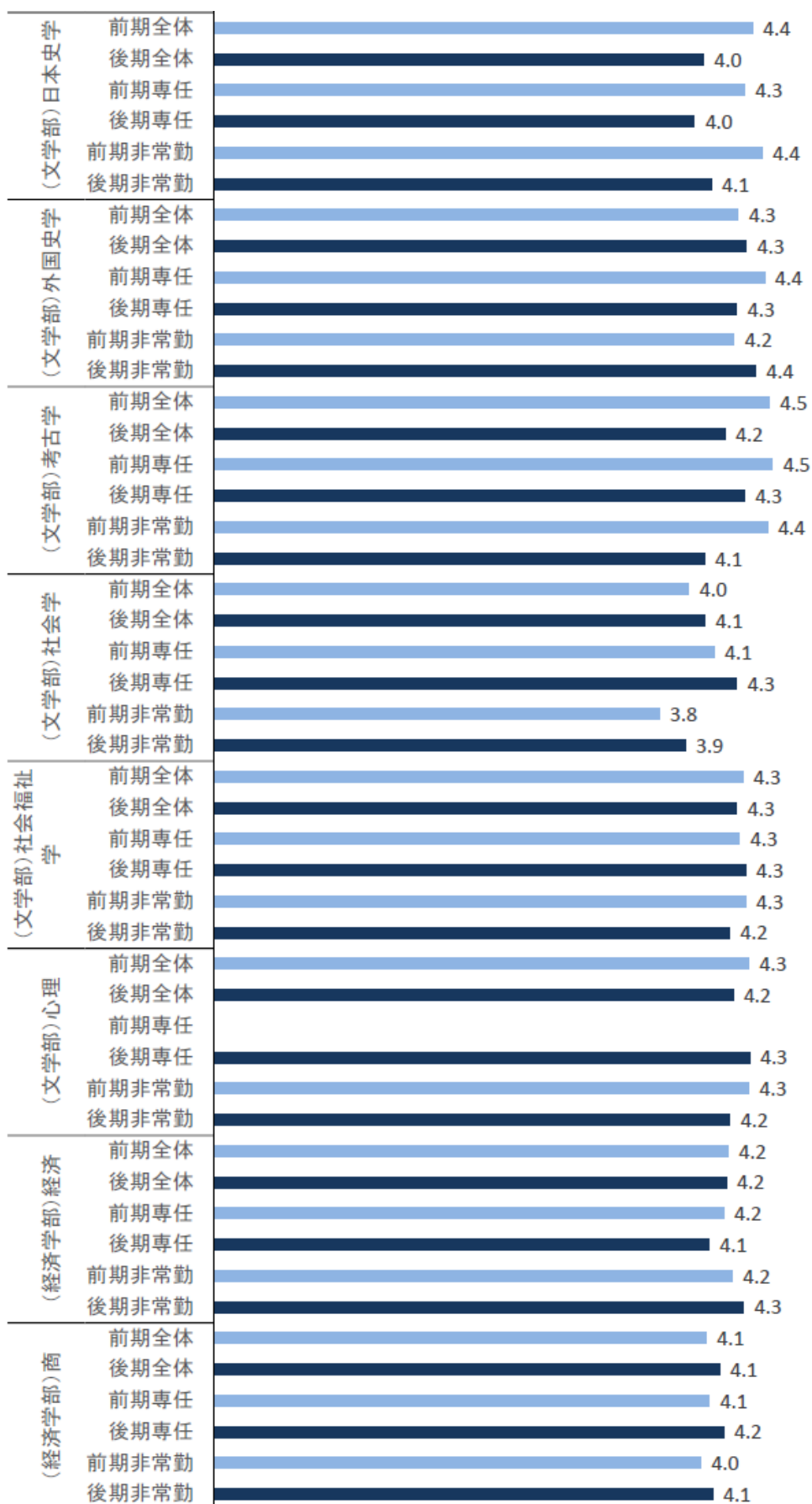


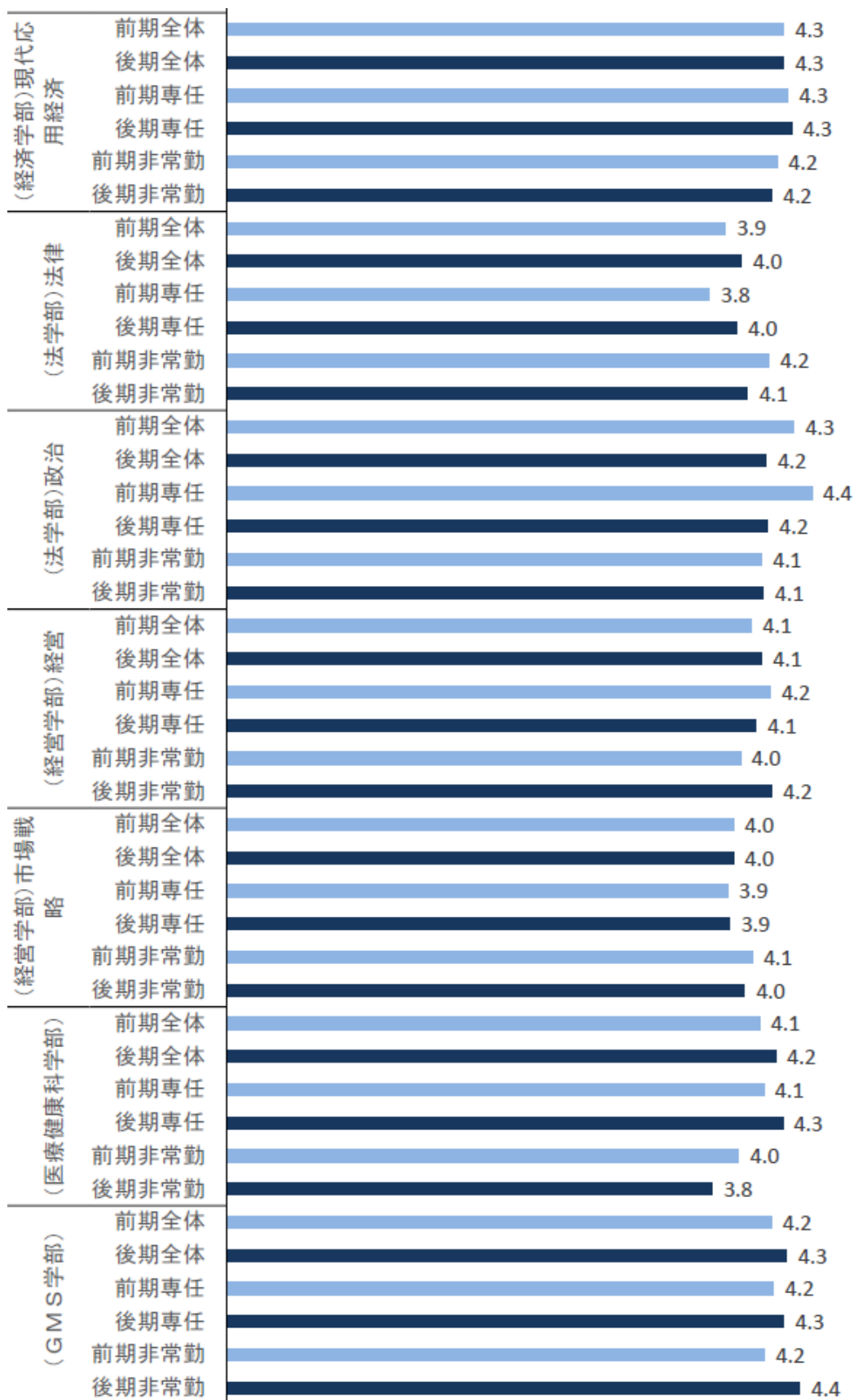


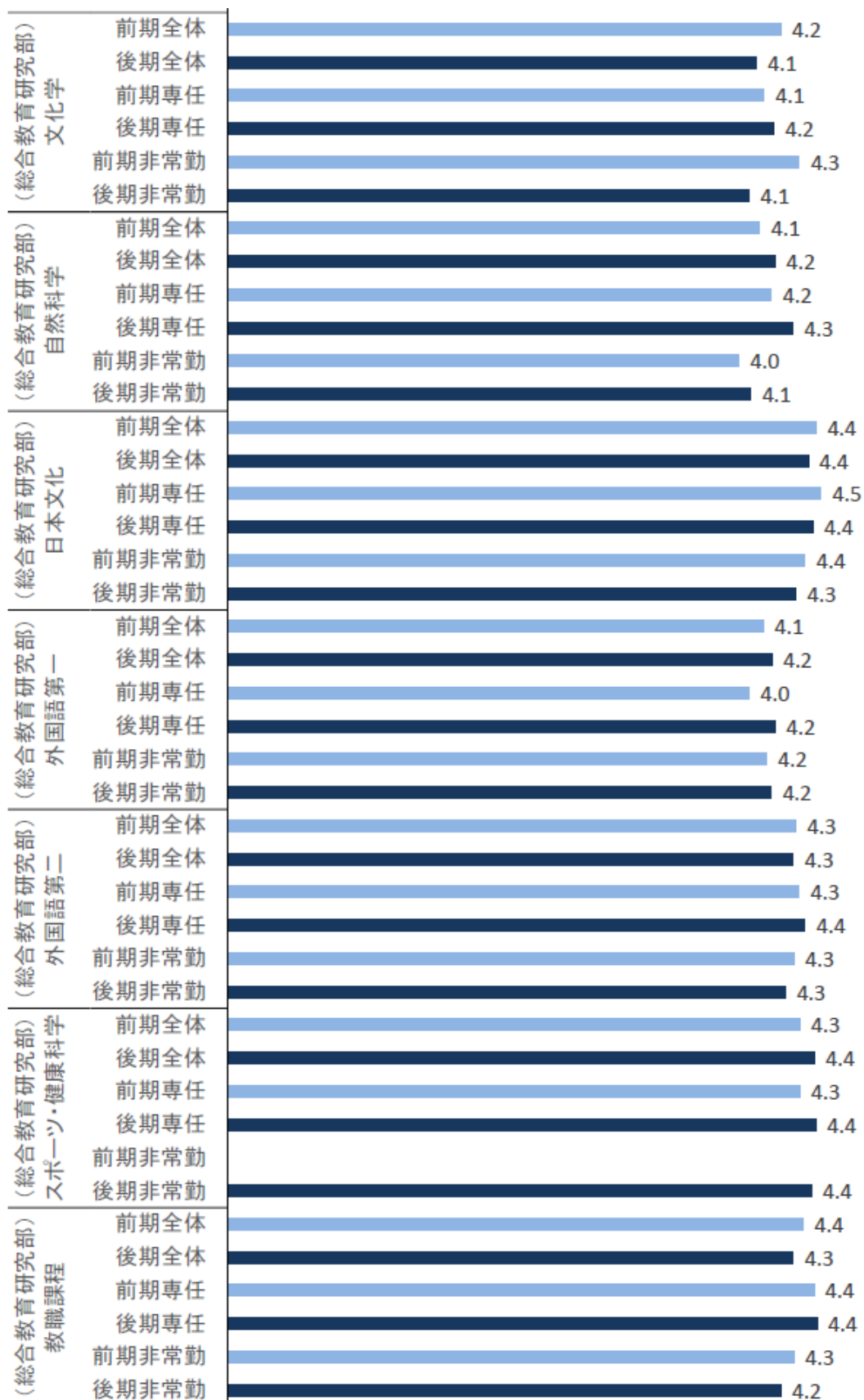
Q 1 4. 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられますか。
 5: とてもそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない 1: 全くそう思わない

ほとんどの学部において、4.0 ポイントに近い値となっており、取り組みに熱意が感じられたことがわかる。





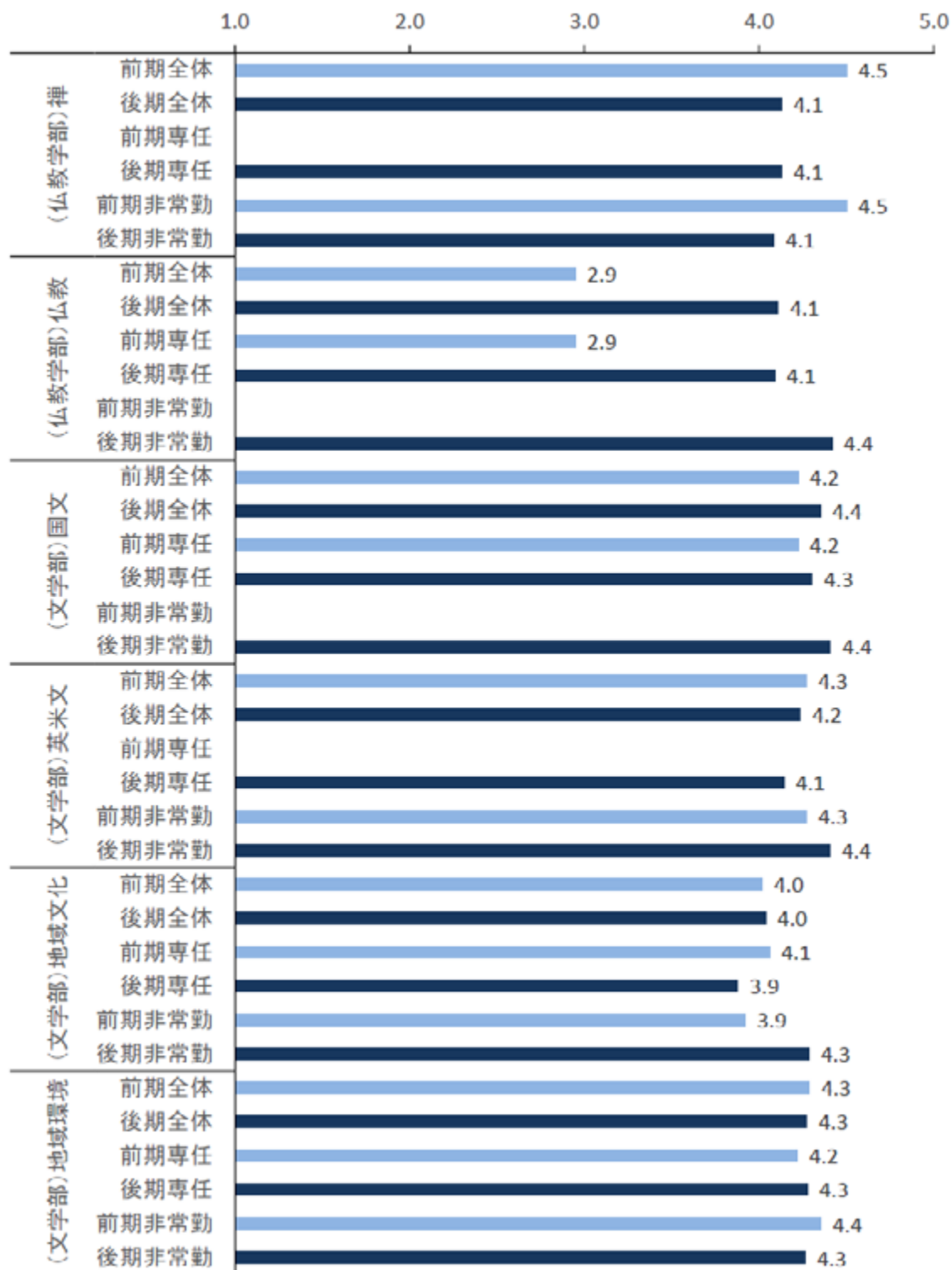


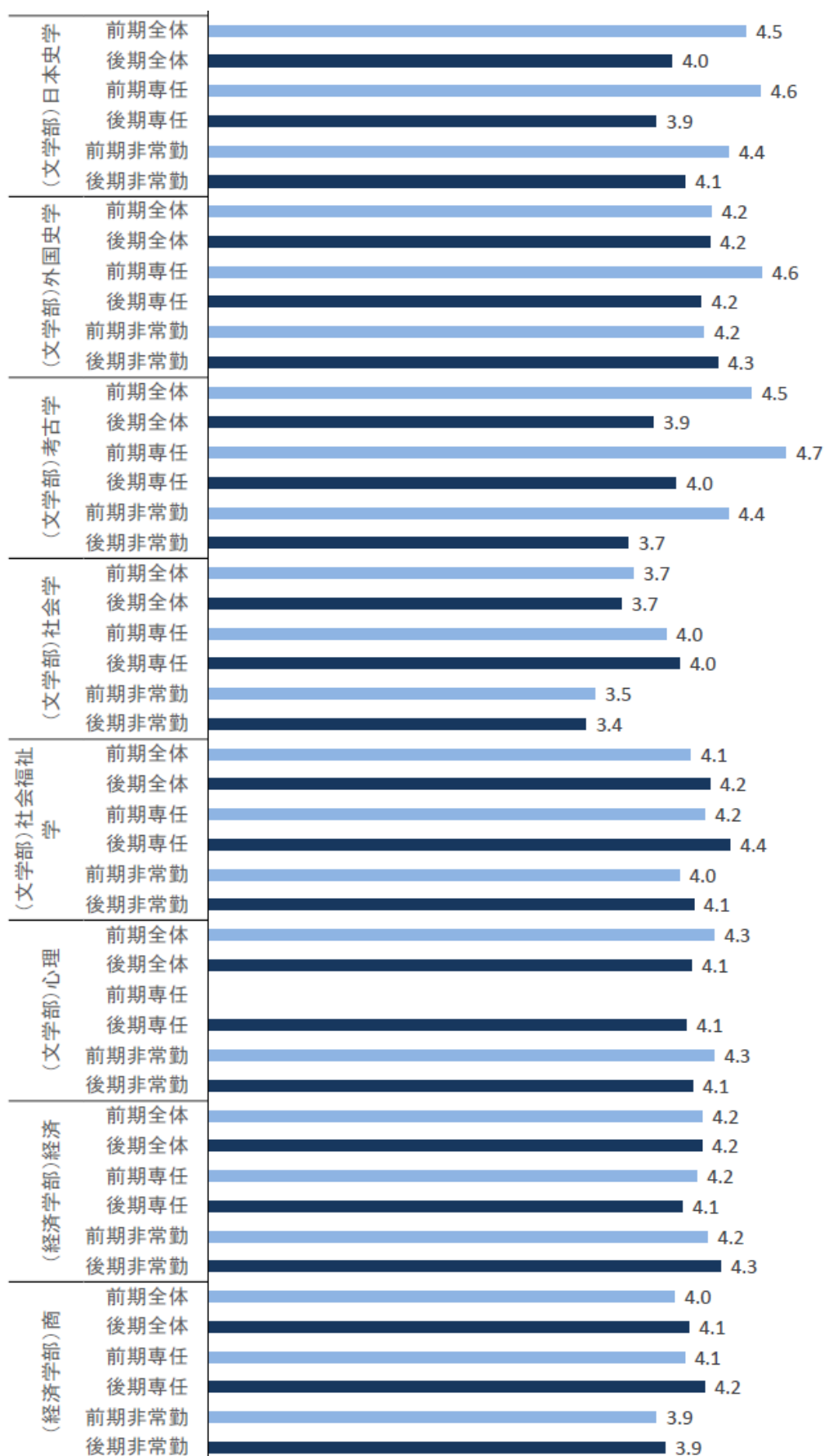


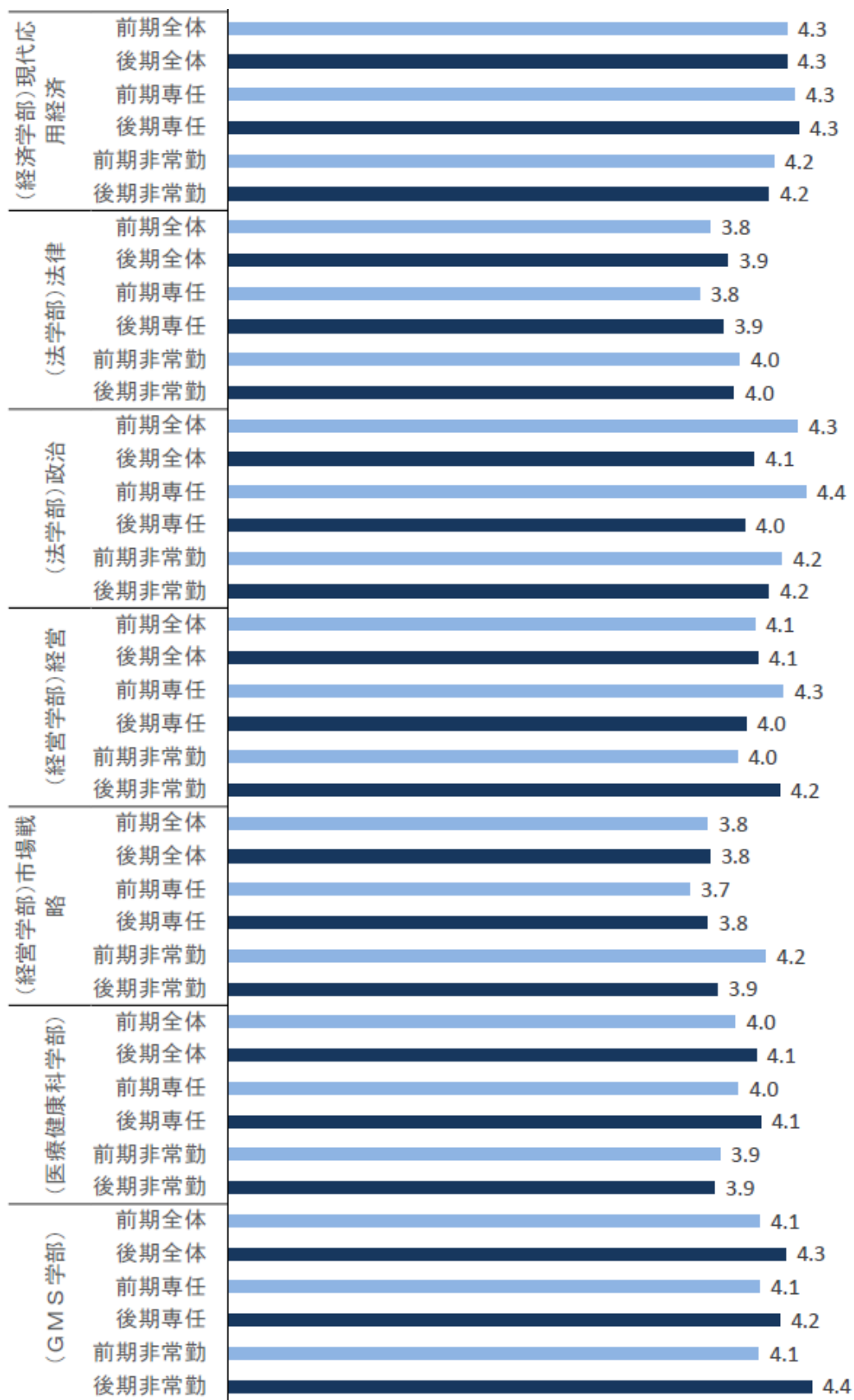
Q 1 5. 教員の話し方・声のボリュームは聞き取りやすいですか。

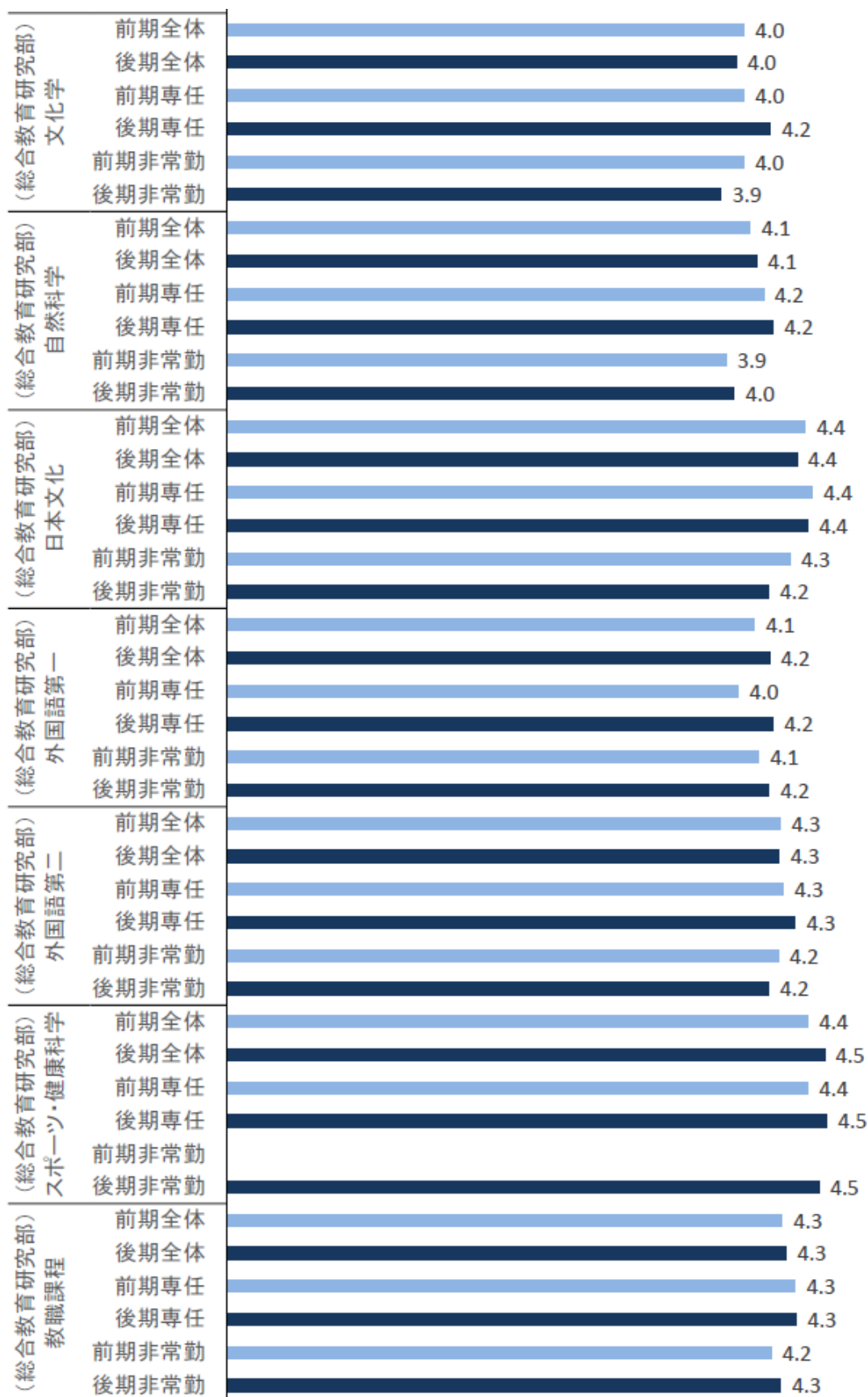
5: とてもそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない 1: 全くそう思わない

結果にばらつきはあるものの、ほとんどの学部で 4.0 ポイントに近い値となっており、聞き取りやすい傾向にあると思われる。



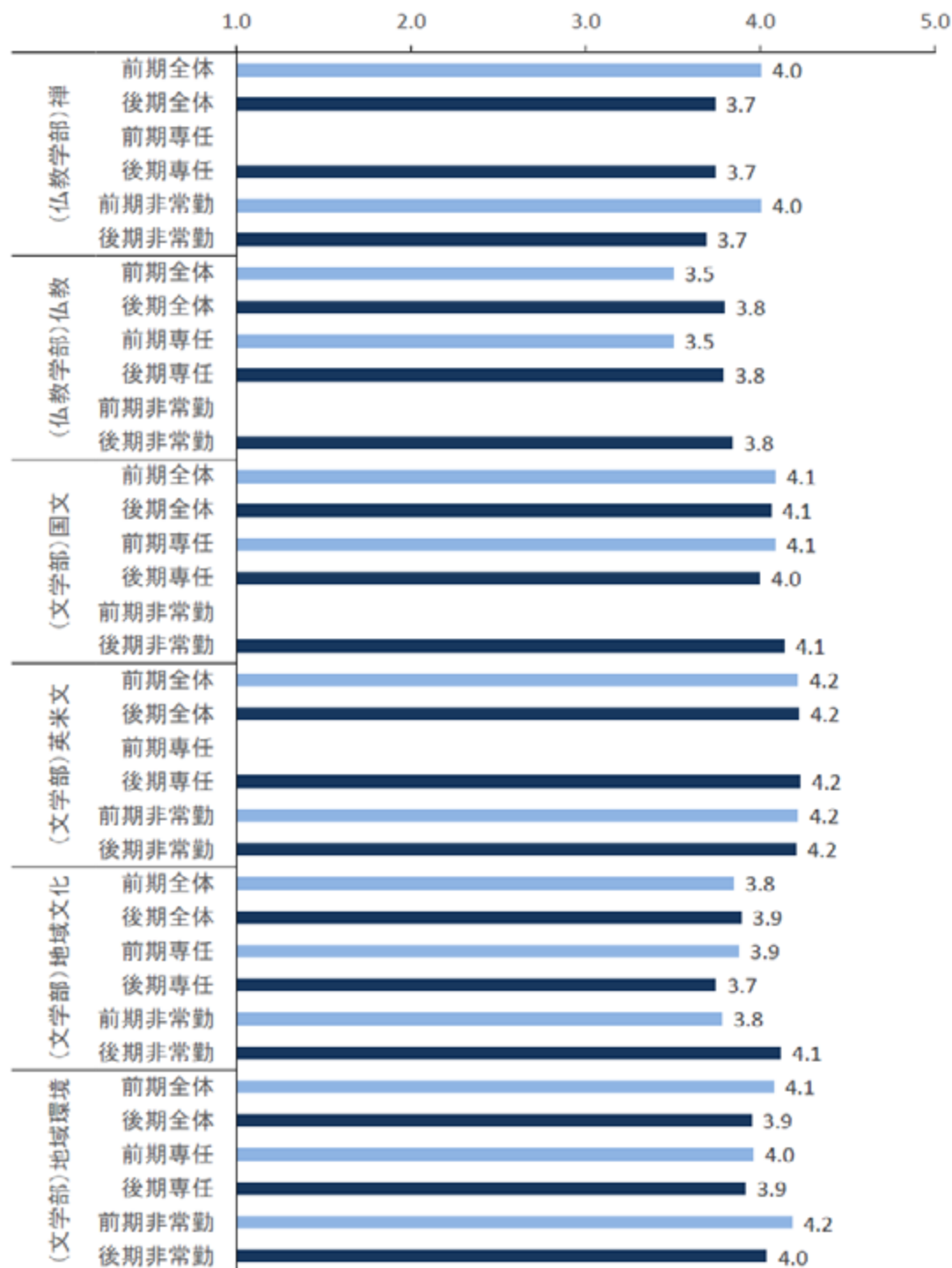


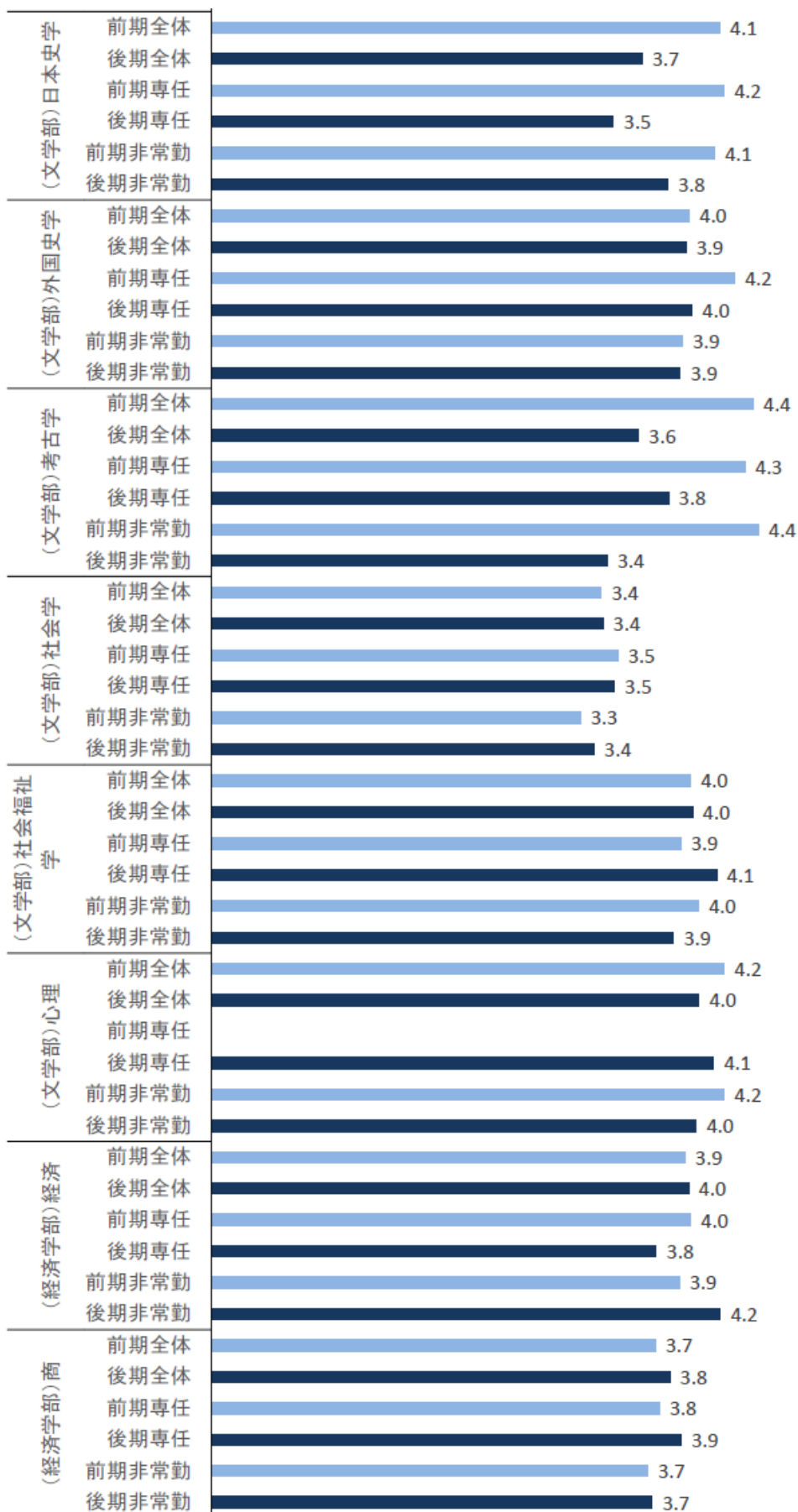


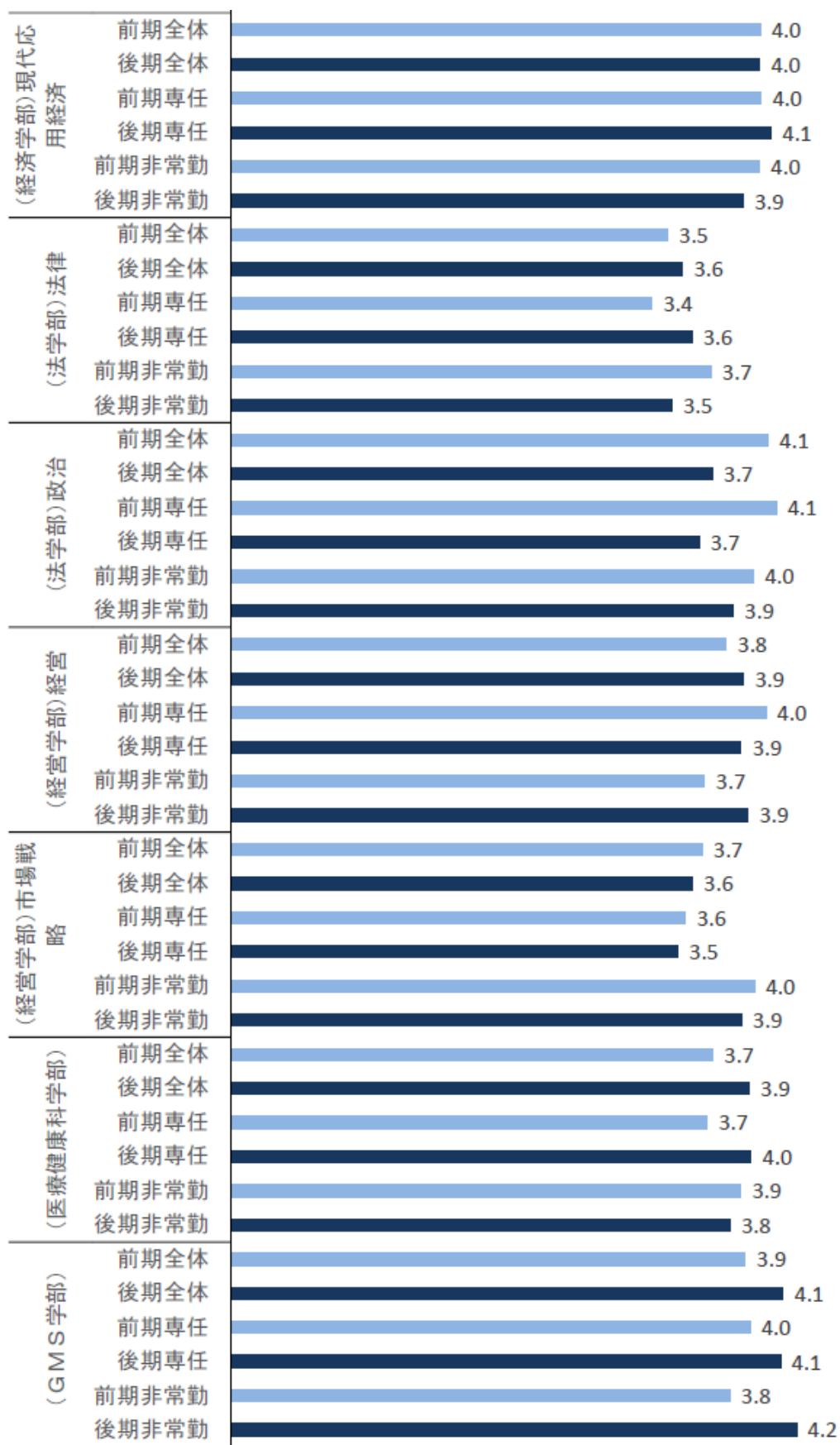


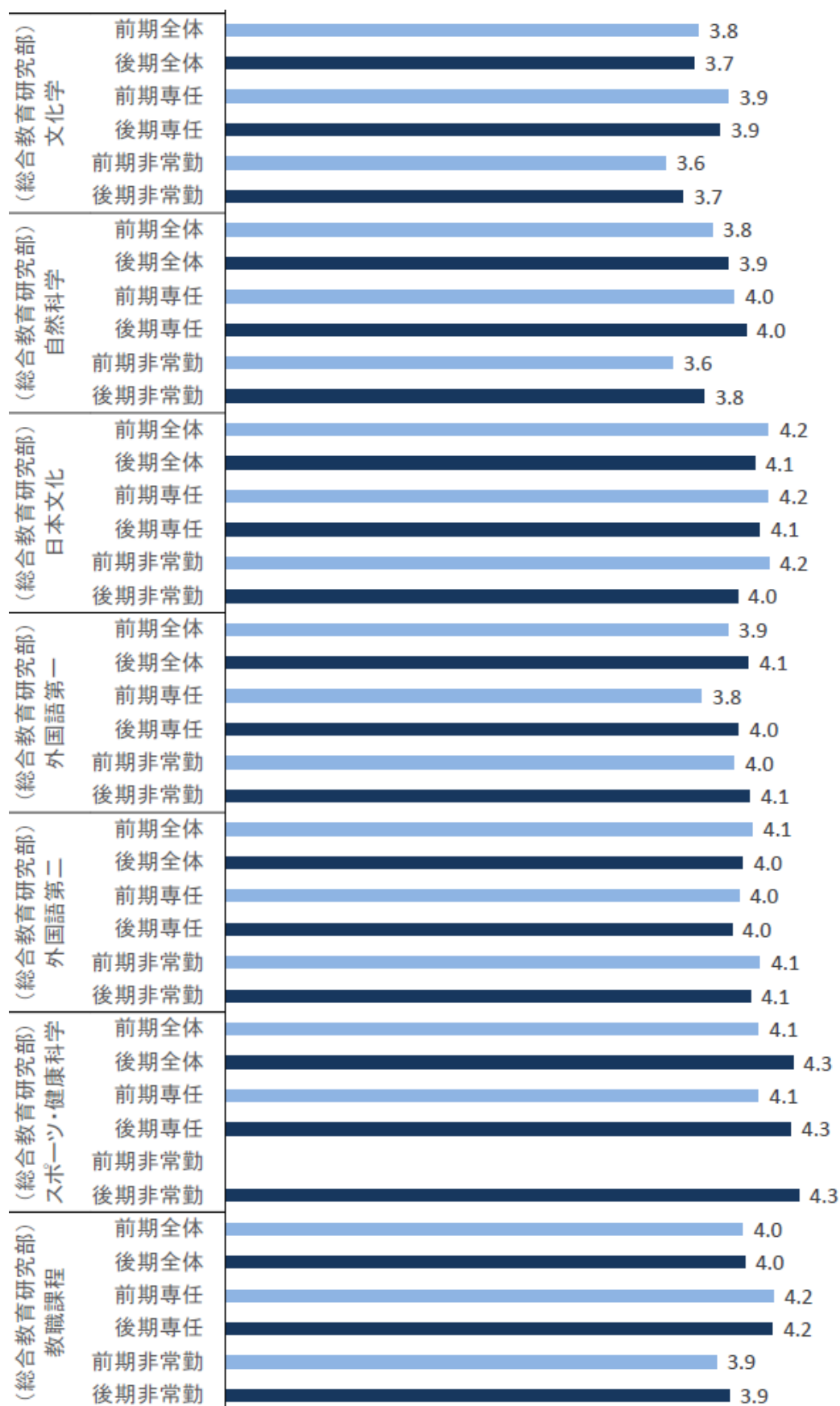
<p>Q 1 6 . 板書や投影されたスクリーンの文字・図表等は見やすいですか。</p> <p>5 : とてもそう思う 4 : そう思う 3 : どちらとも言えない 2 : あまりそう思わない 1 : 全くそう思わない</p> <p>0 : 板書・スクリーンへの投影がない授業</p>
--

3.3～4.4 ポイントに推移しており、結果にばらつきはあるものの、見やすい傾向にあると思われる。



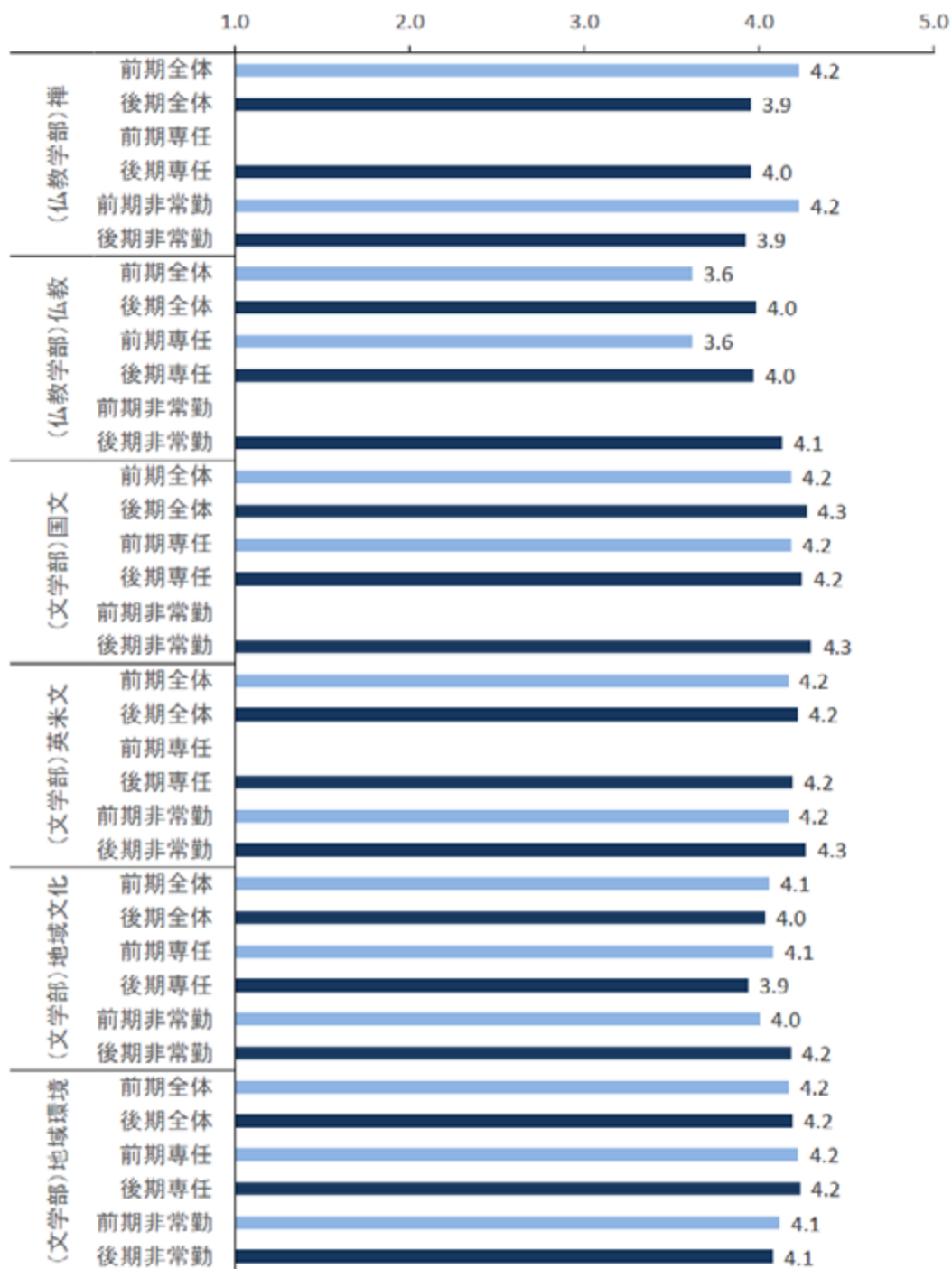


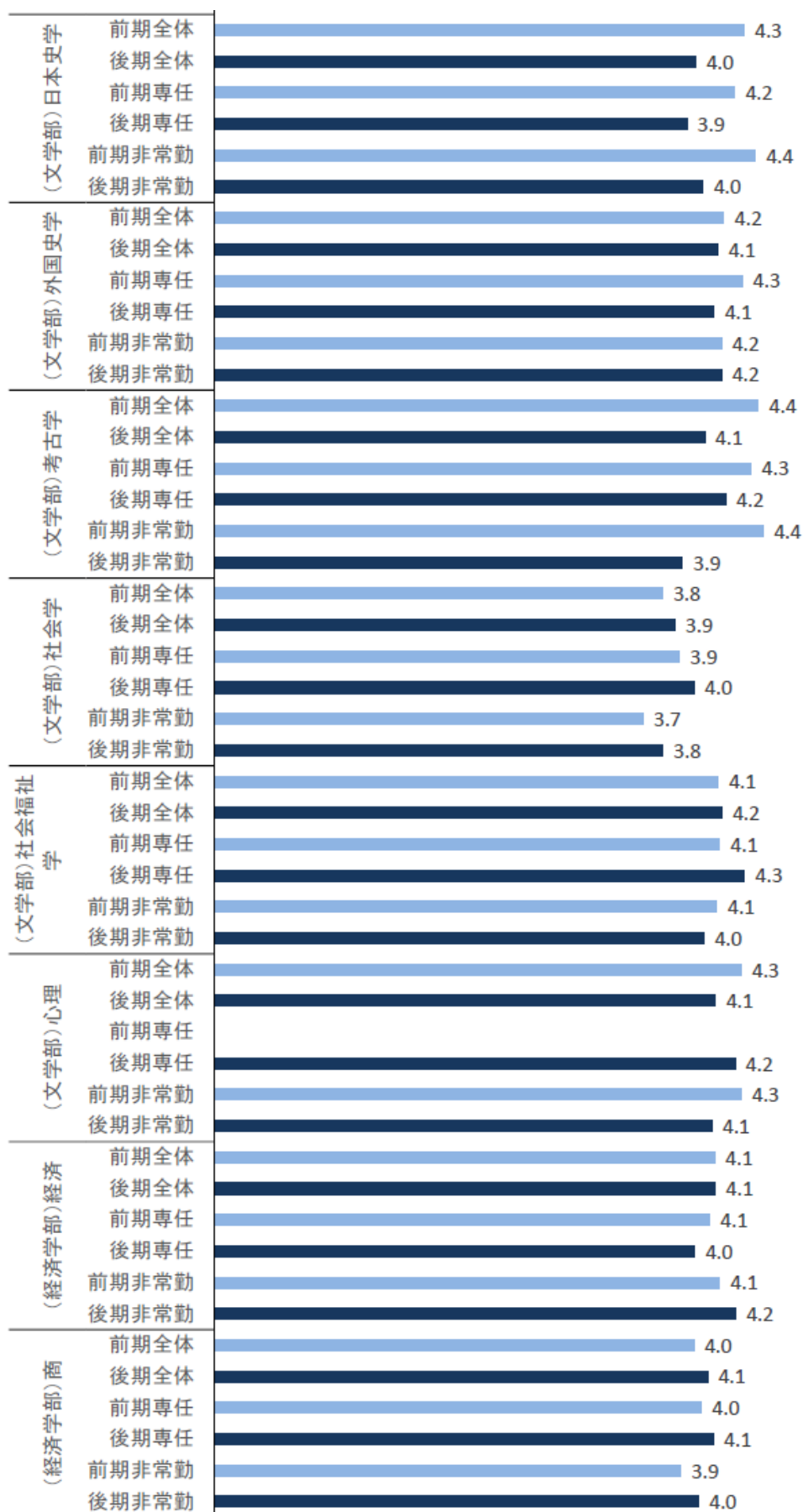


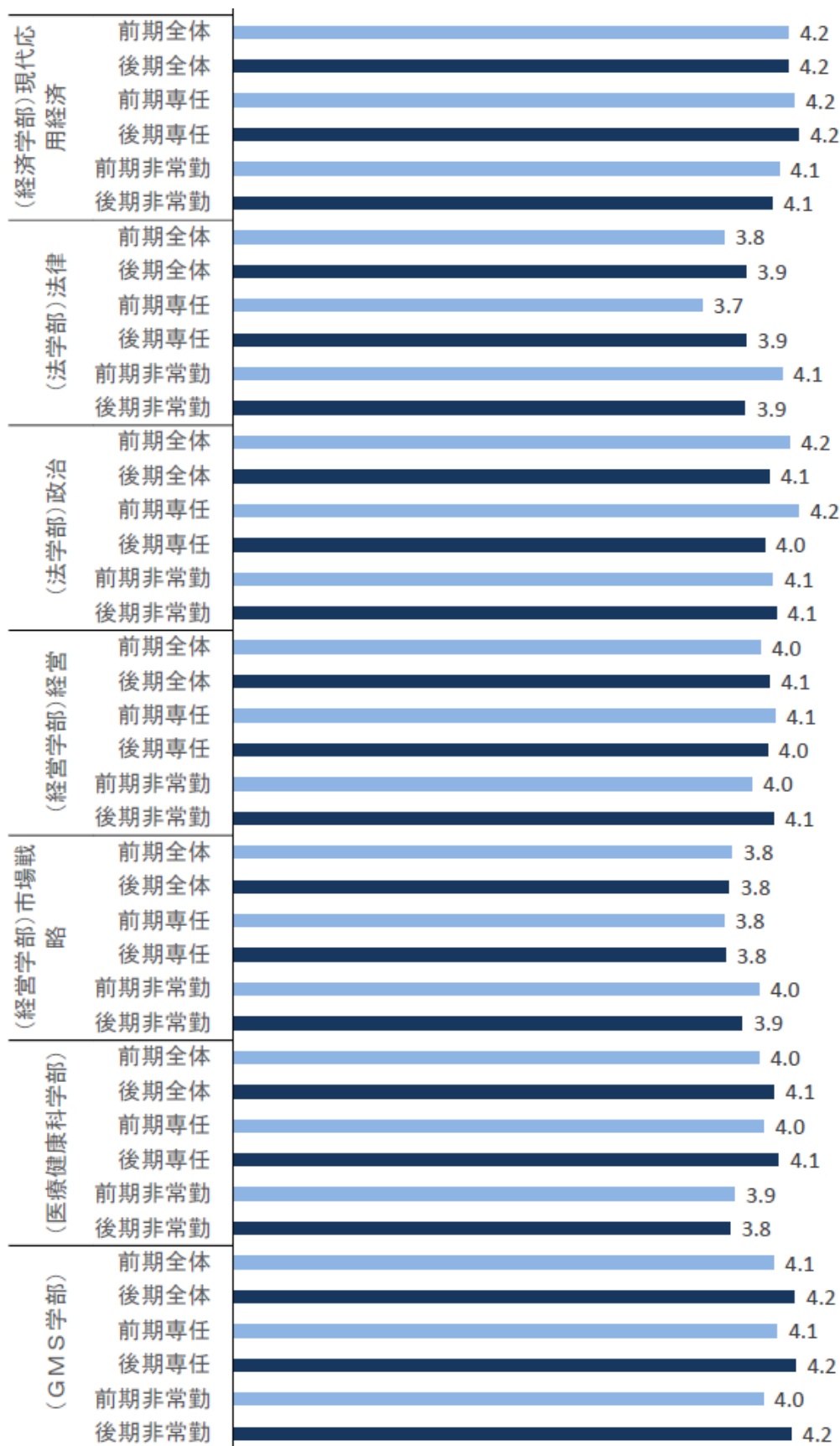


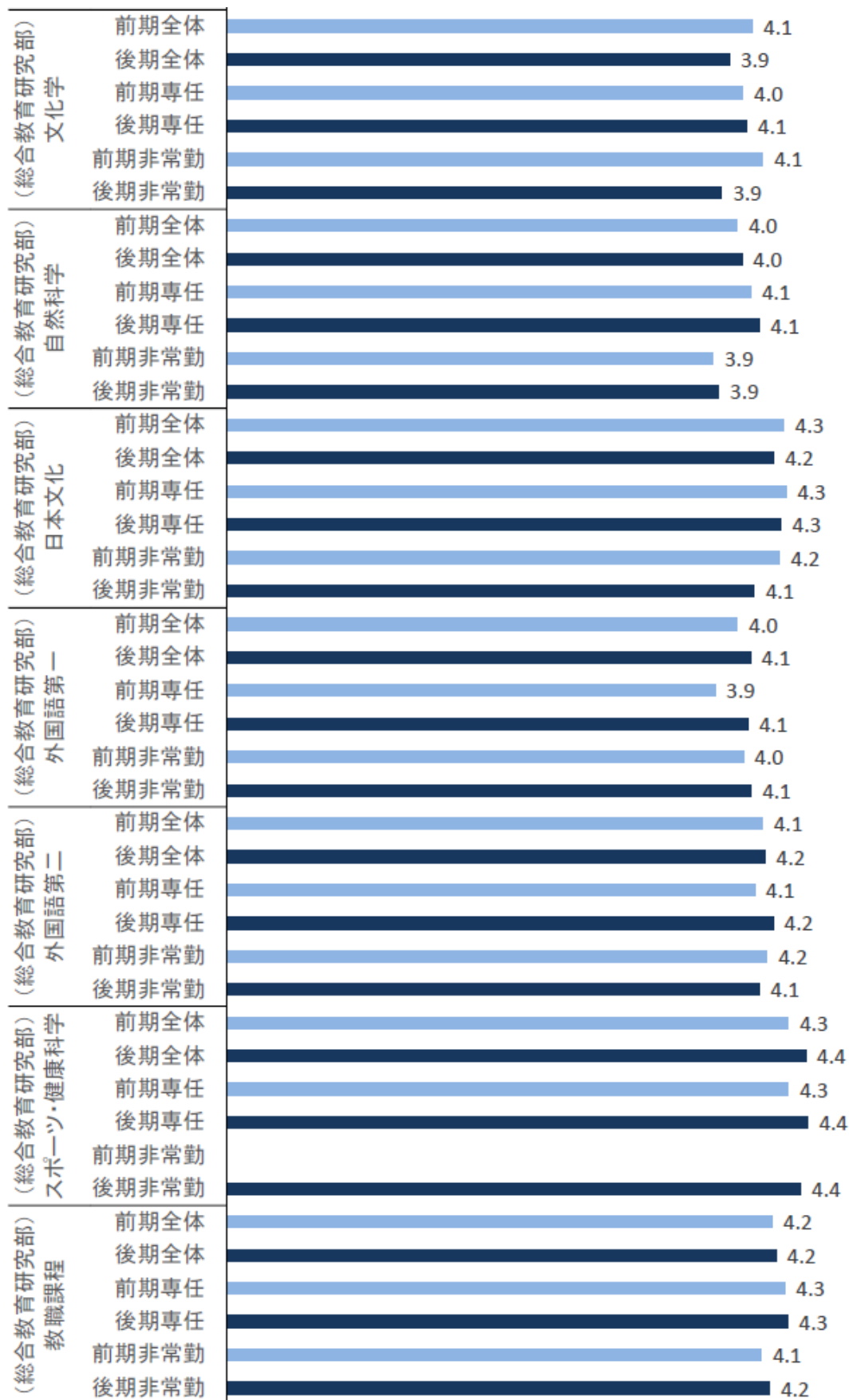
Q 17. 教員は授業内容に沿った授業環境・雰囲気づくりに配慮していますか。
 5: とてもそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない 1: 全くそう思わない

3.5~4.4 ポイントに推移しており、結果にばらつきはあるものの、配慮していた傾向にあることがわかる。



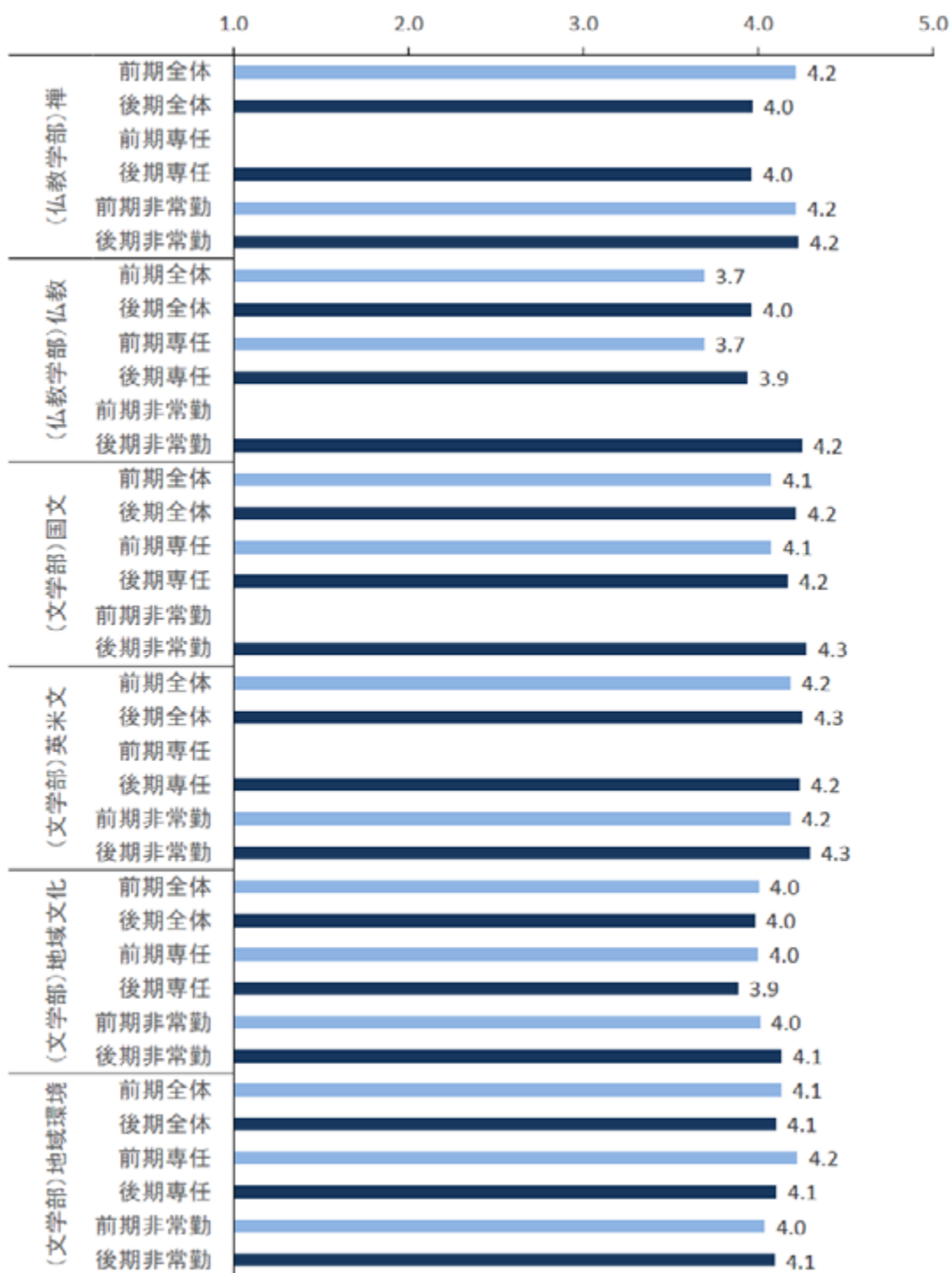


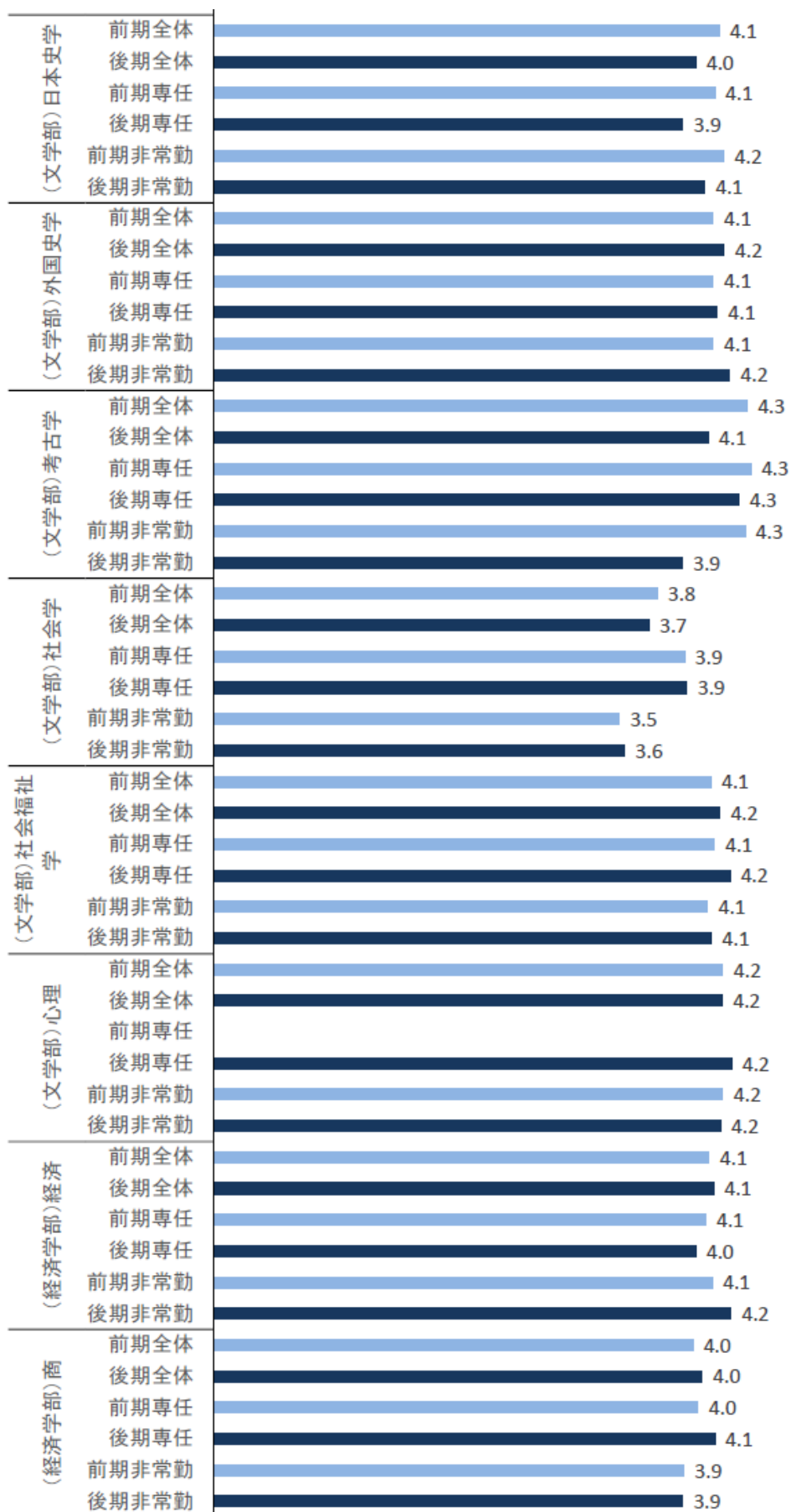


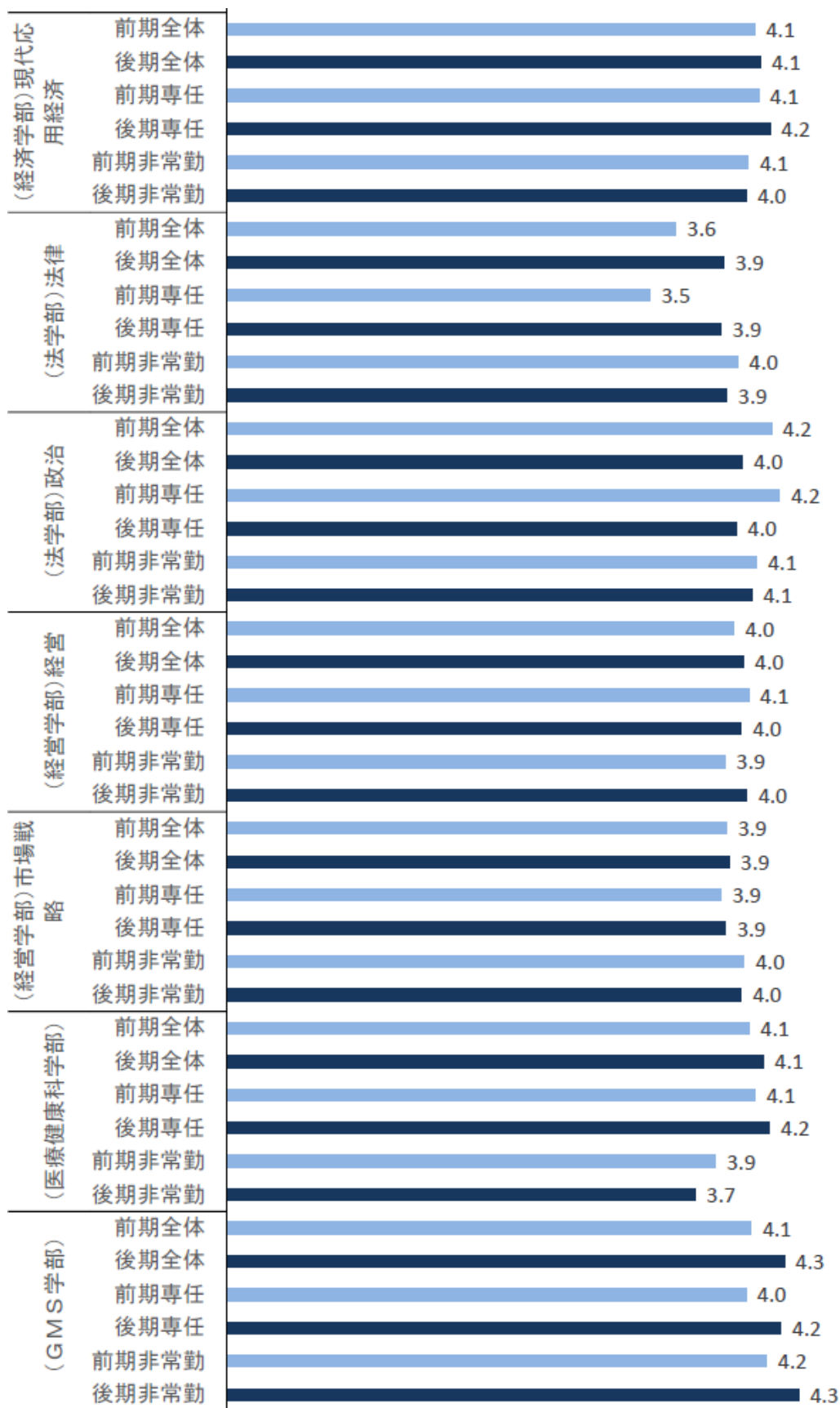


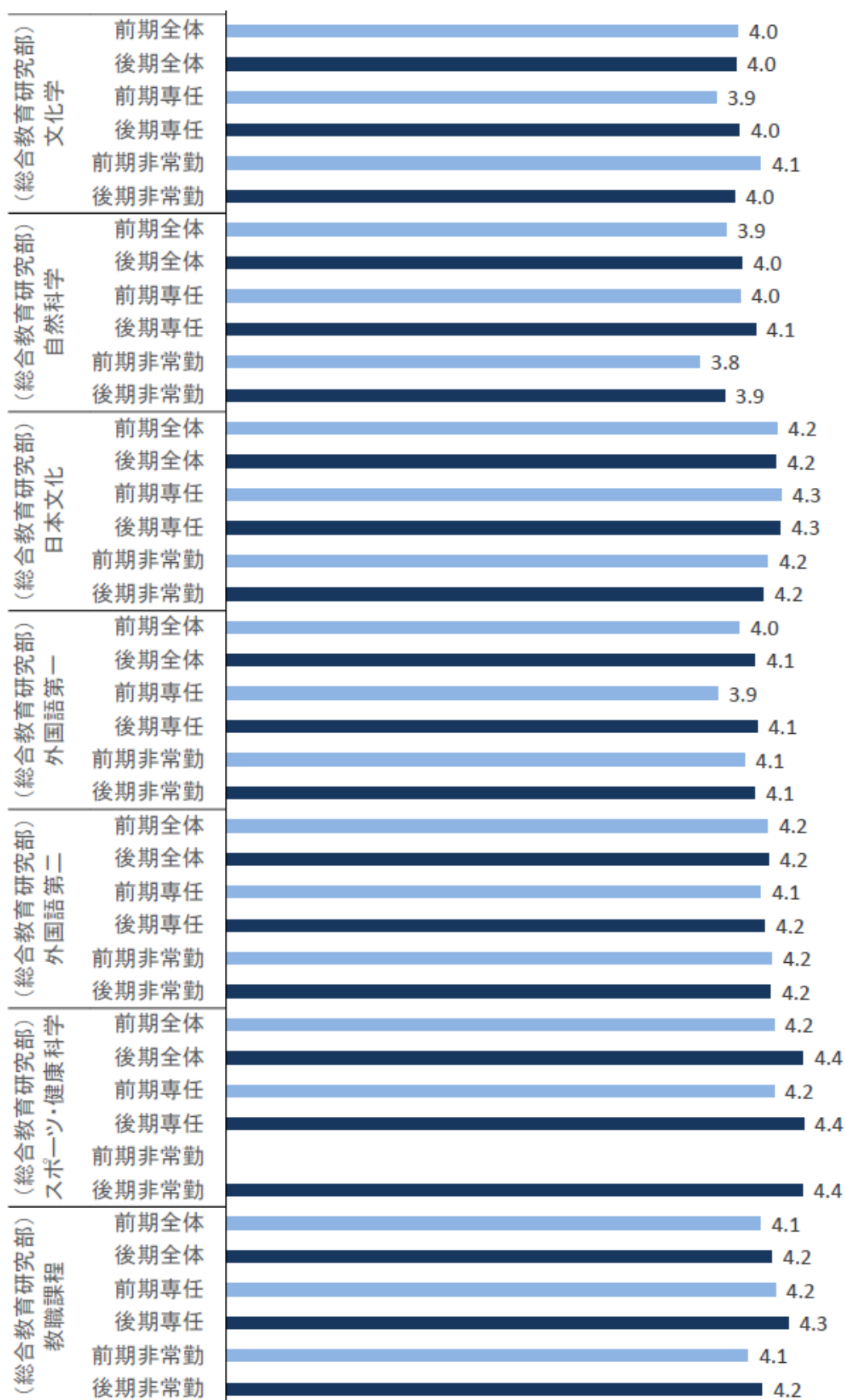
Q 1 8 . 教員はあなたの意見や質問に対して適切に対応していますか。
 5 : とてもそう思う 4 : そう思う 3 : どちらとも言えない 2 : あまりそう思わない 1 : 全くそう思わない
 0 : あなたが当該授業において意見・質問をしたことがない場合

3.5~4.4ポイントに推移しており、結果にばらつきはあるものの、適切に対応していた傾向にあることがわかる。



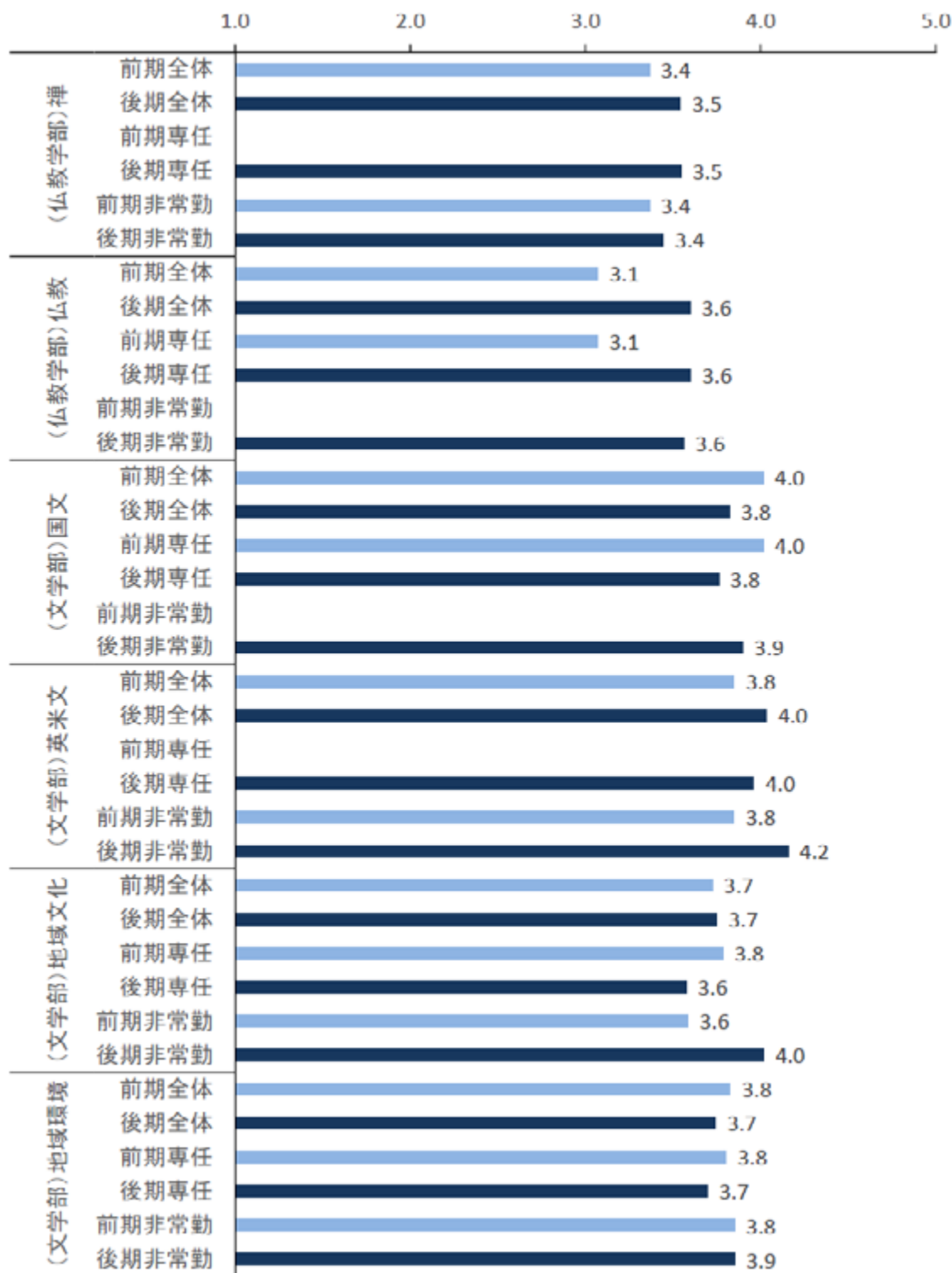


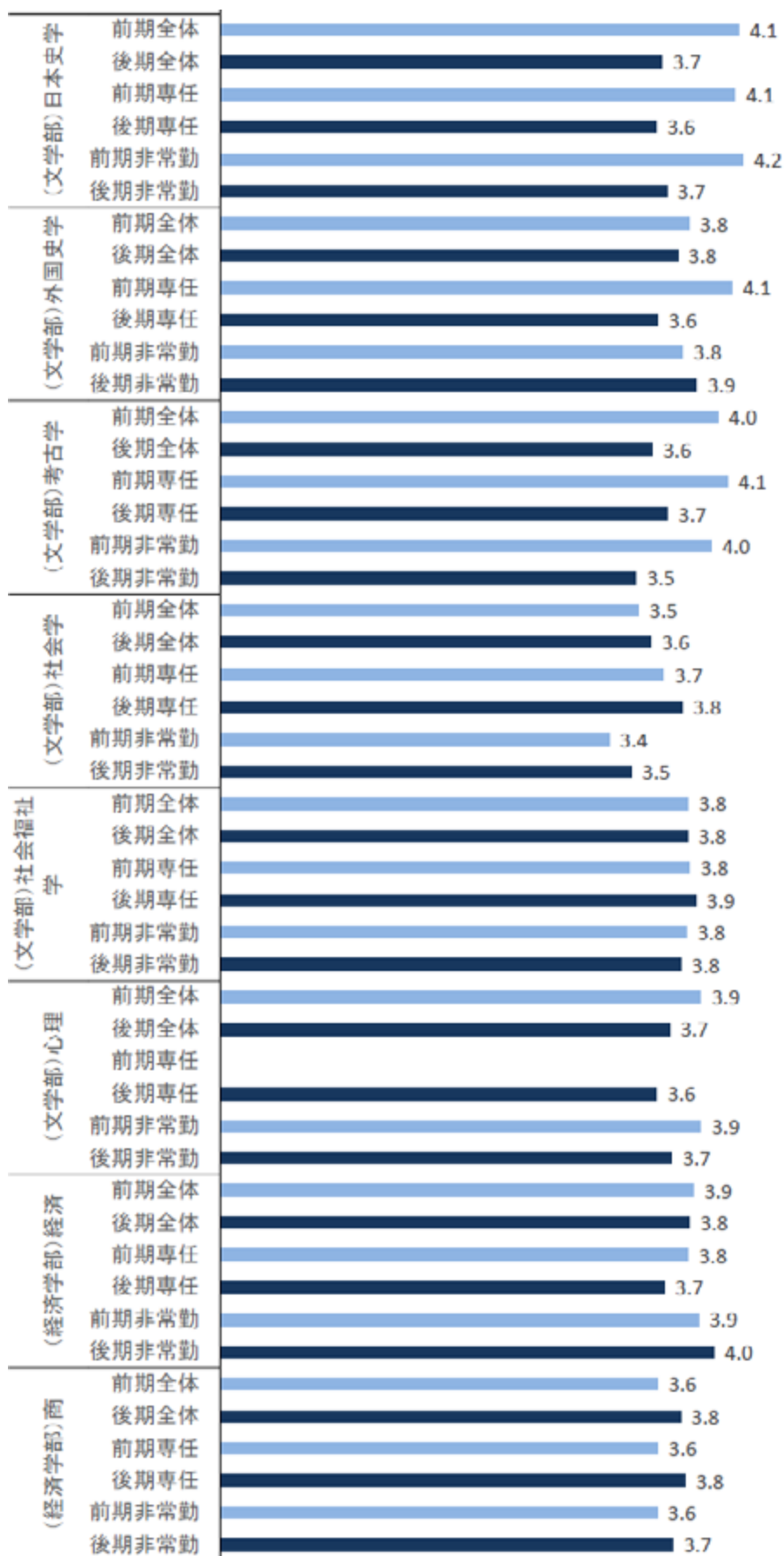


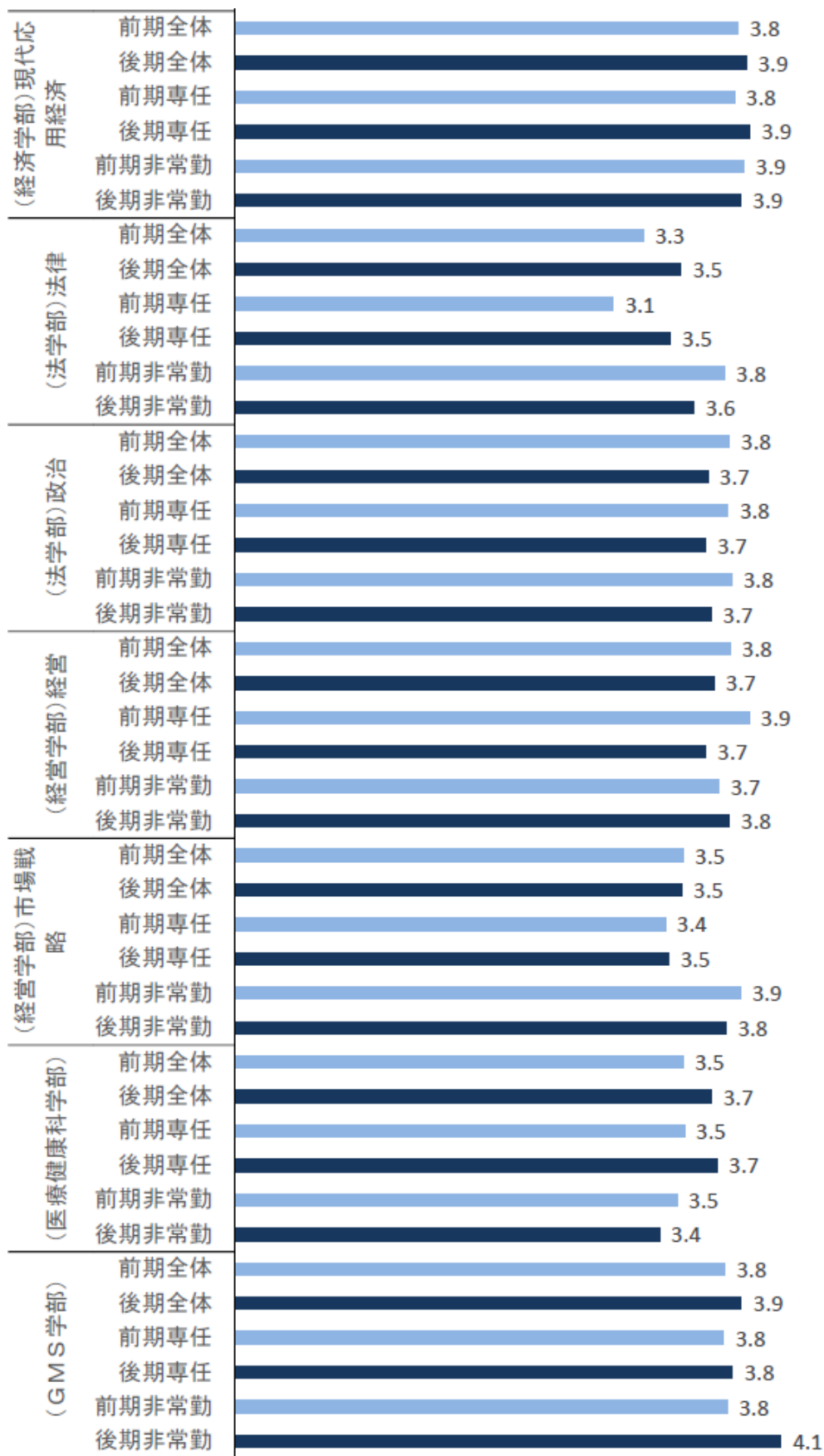


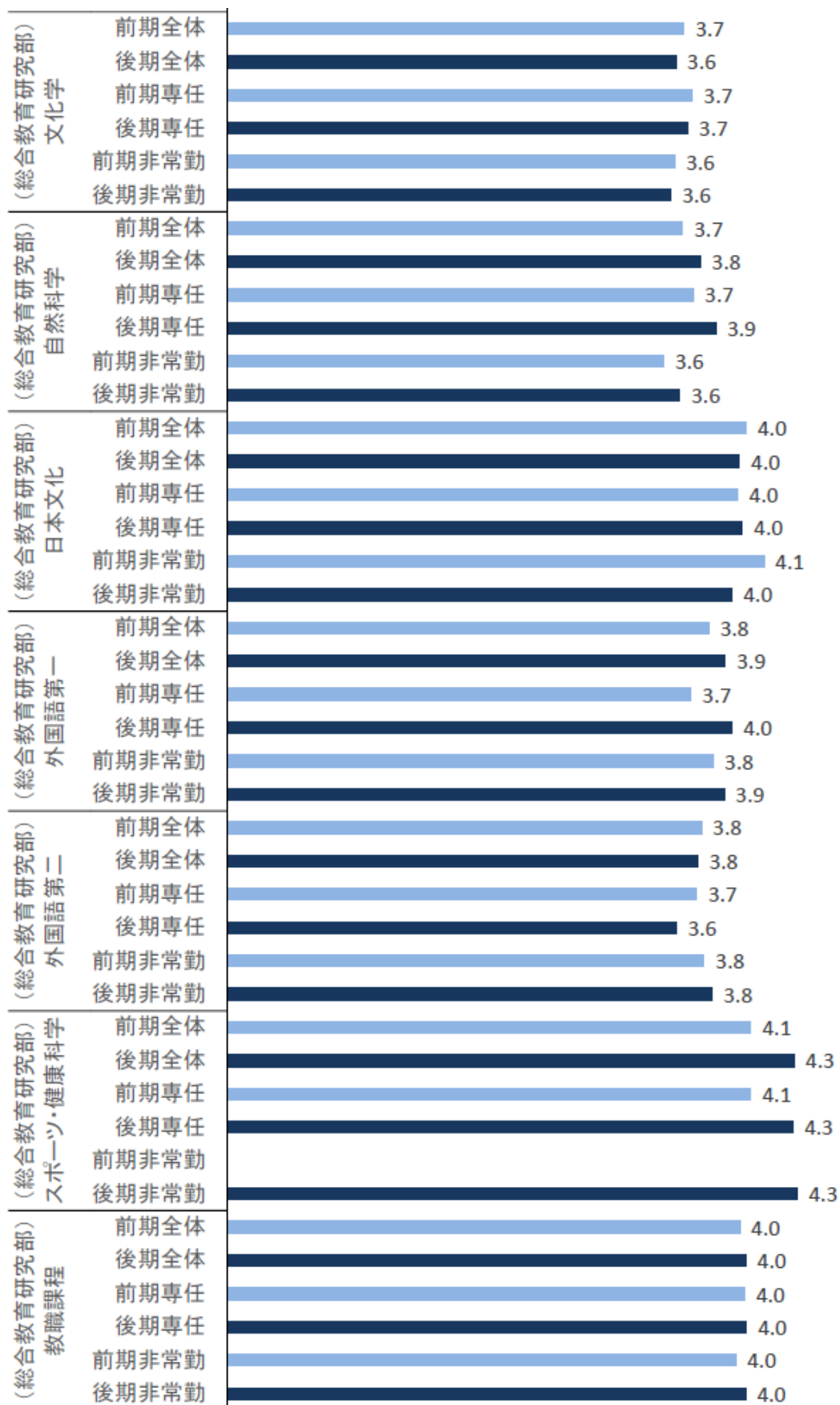
Q 19. この科目の授業内容についてよく理解ができていますか。
 5: とてもそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない 1: 全くそう思わない

3.1~4.3 ポイントに推移しており、結果にばらつきはあるものの、理解できた傾向にあると思われる。



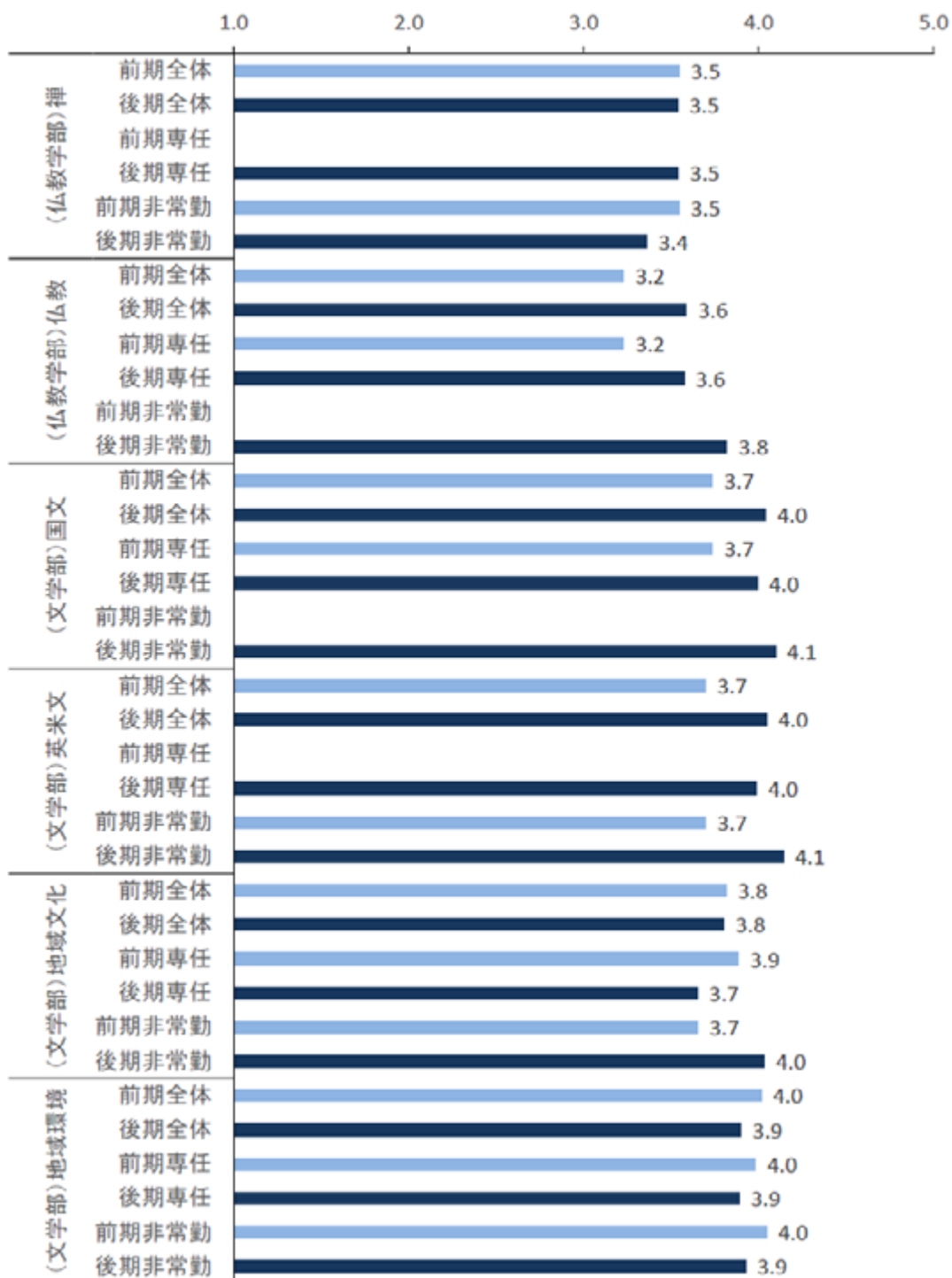


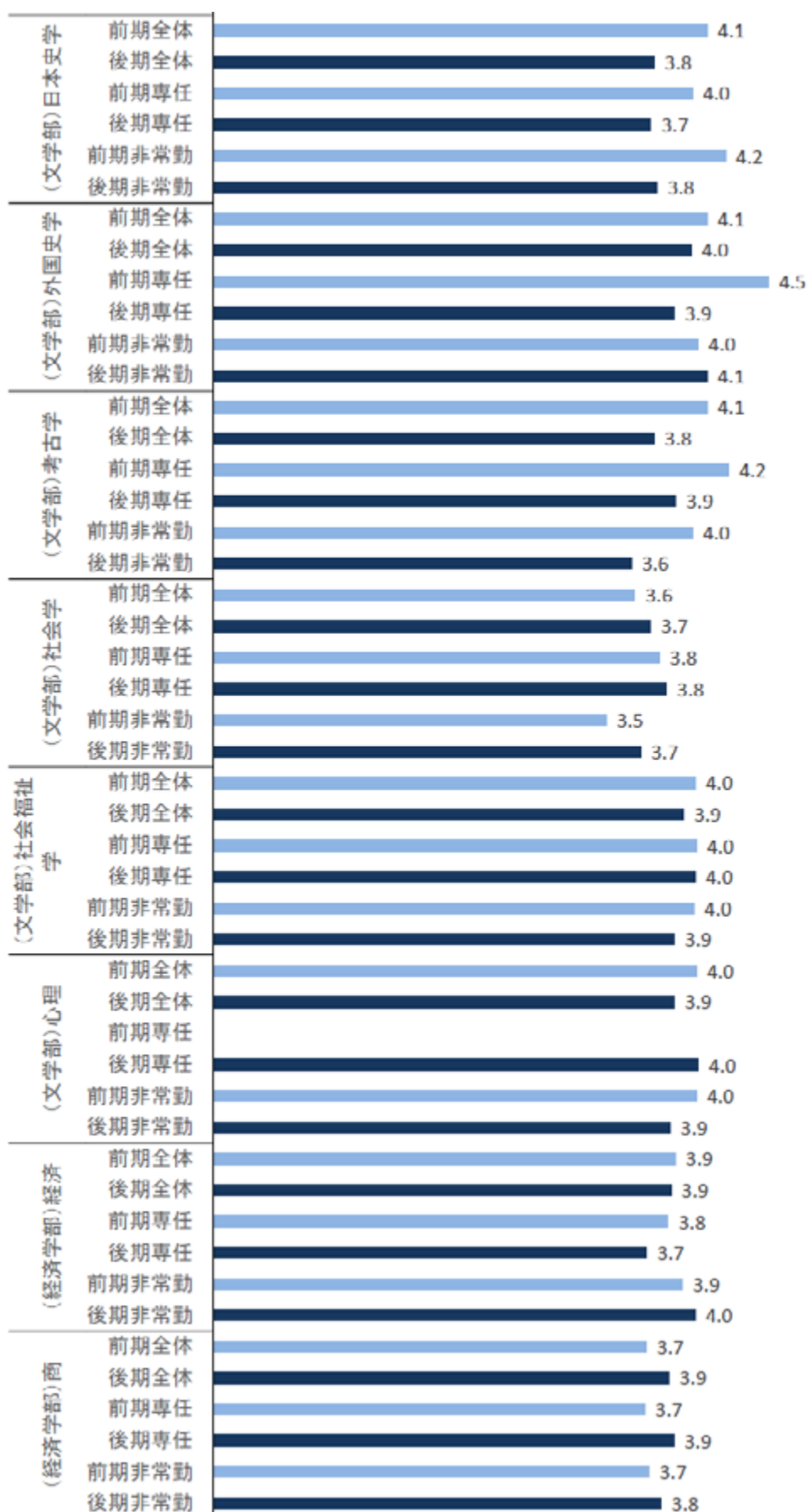


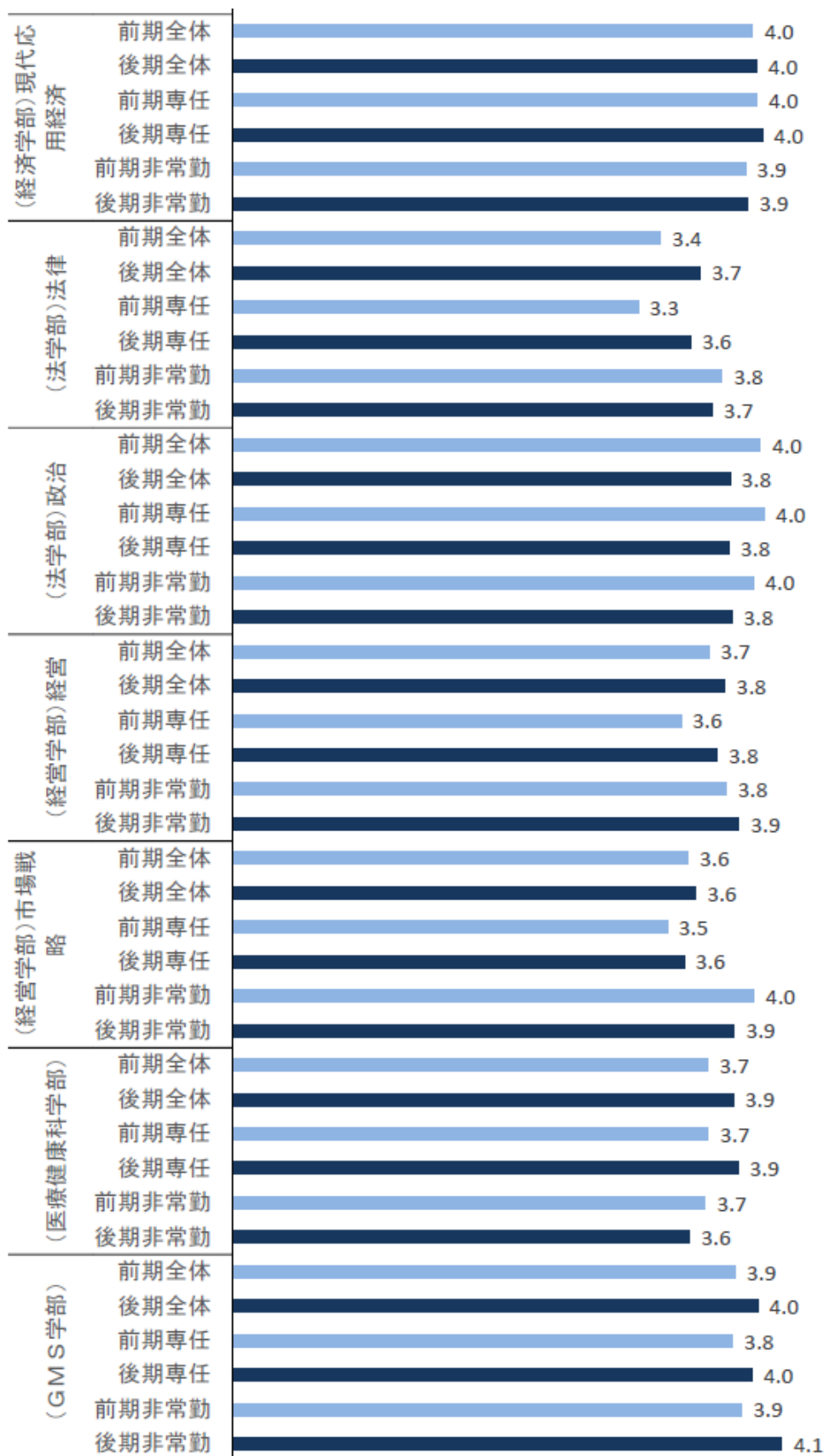


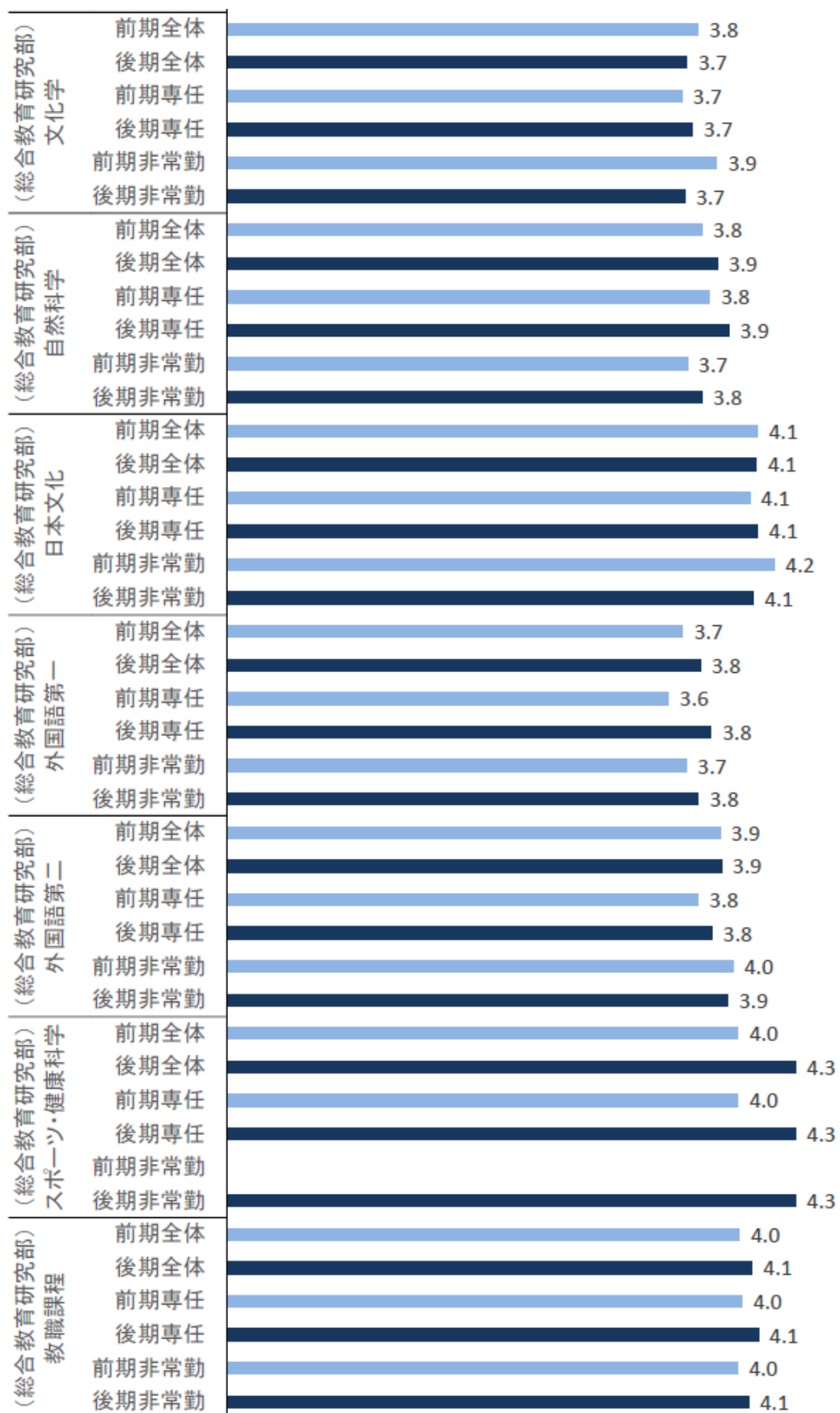
Q 20. 授業内容に興味を持っていますか。
 5: とてもそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない 1: 全くそう思わない

3.2~4.5 ポイントに推移しており、結果にばらつきはあるものの、興味を持てた傾向にあると思われる。



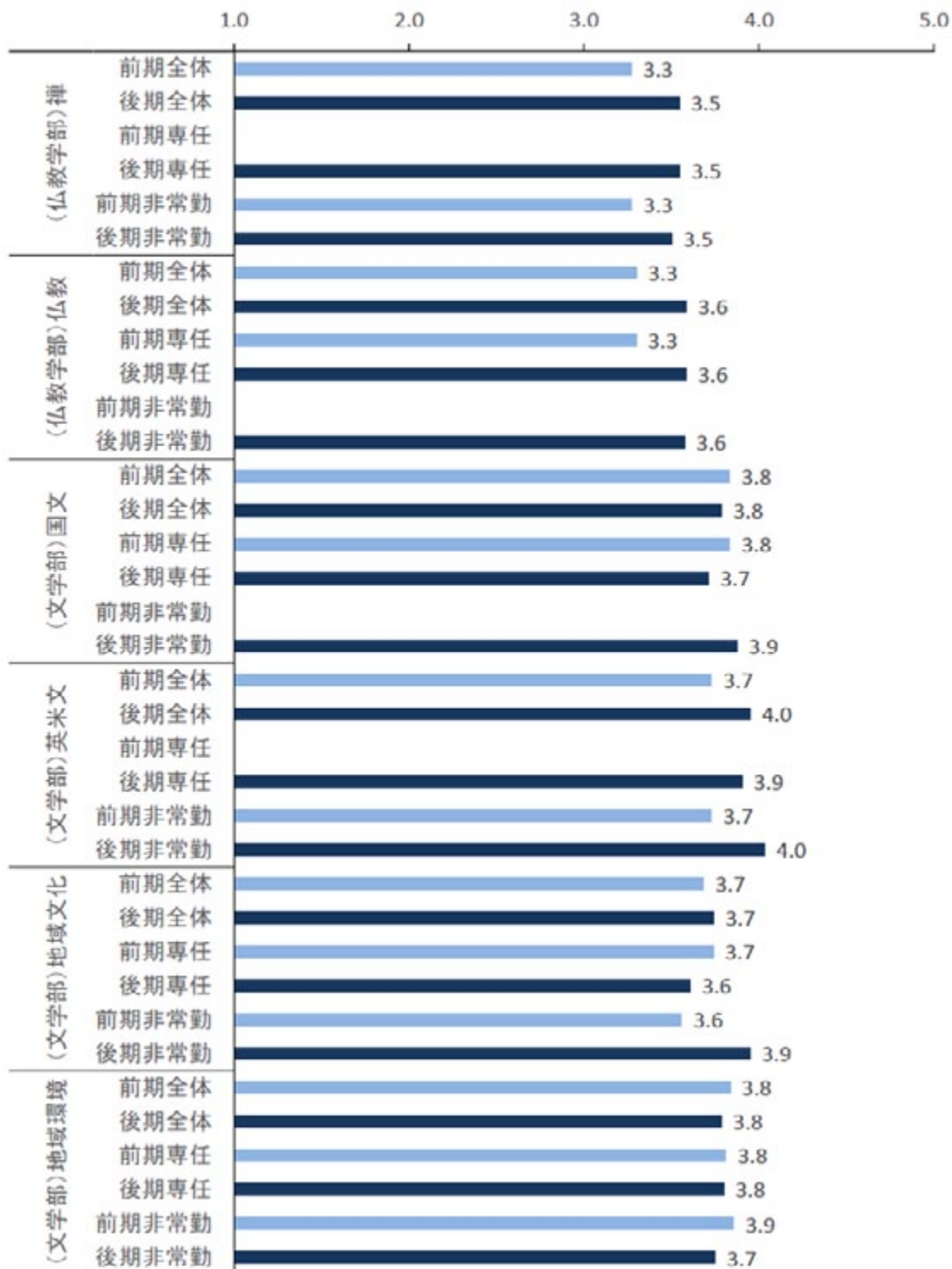


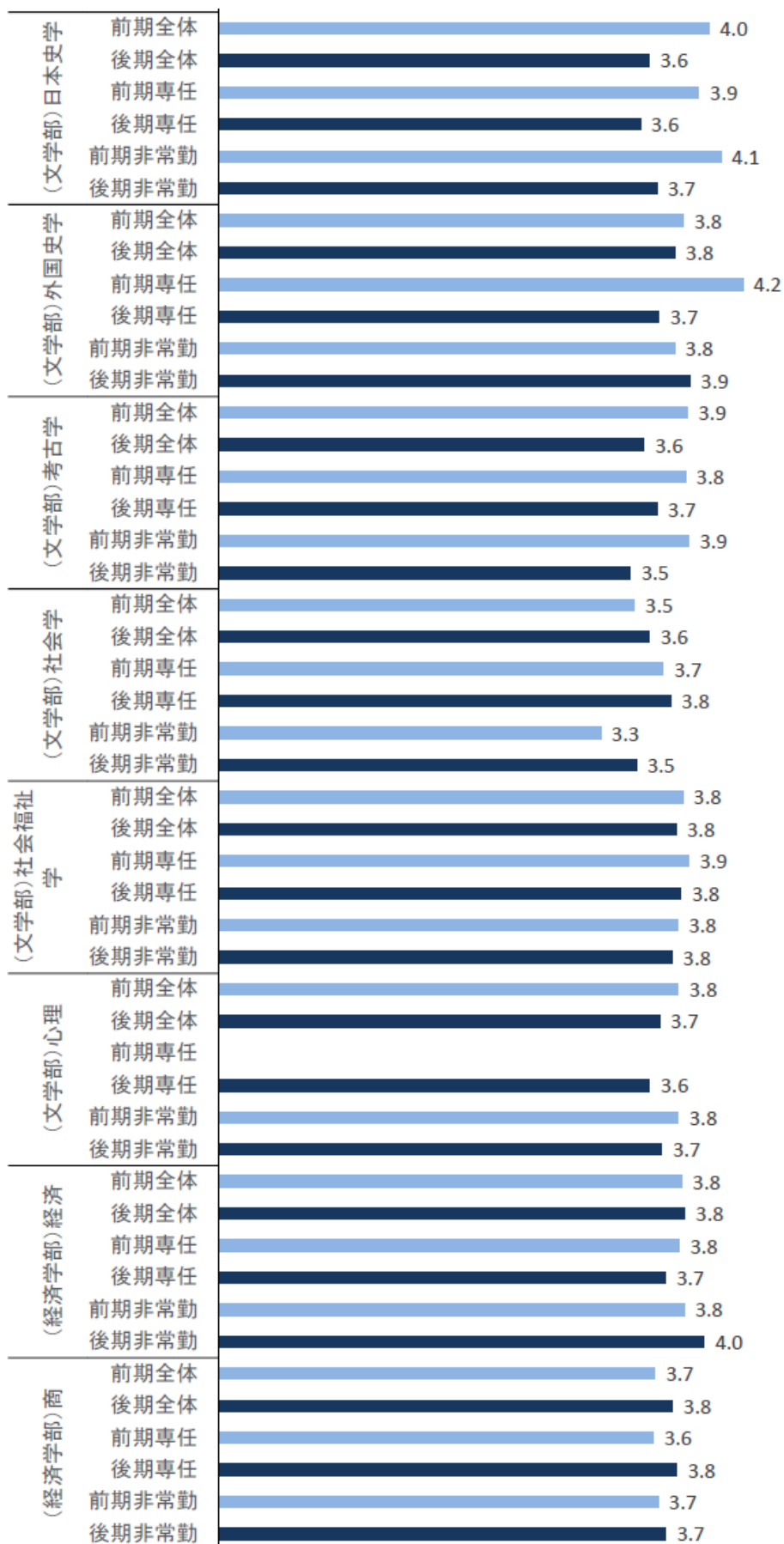


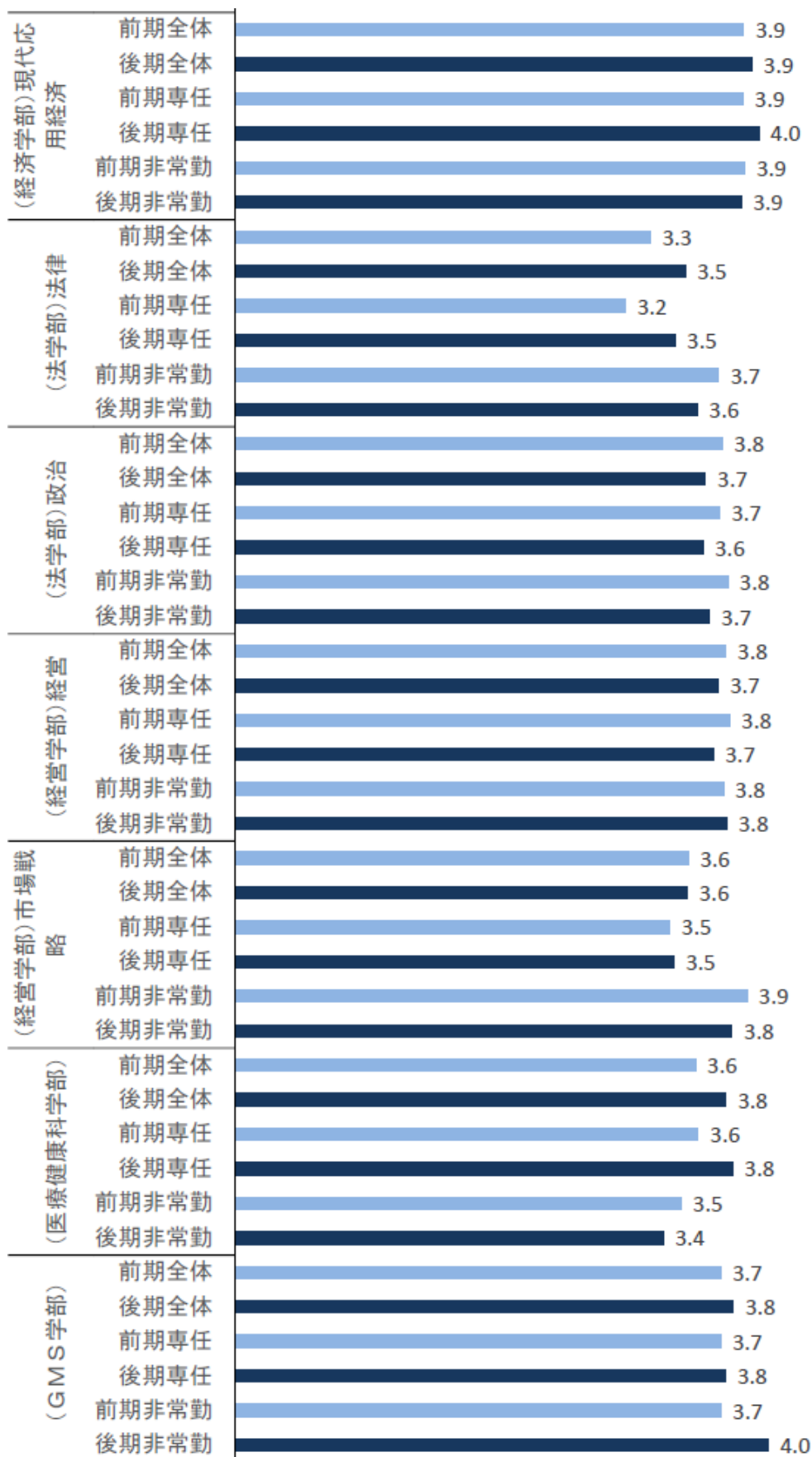


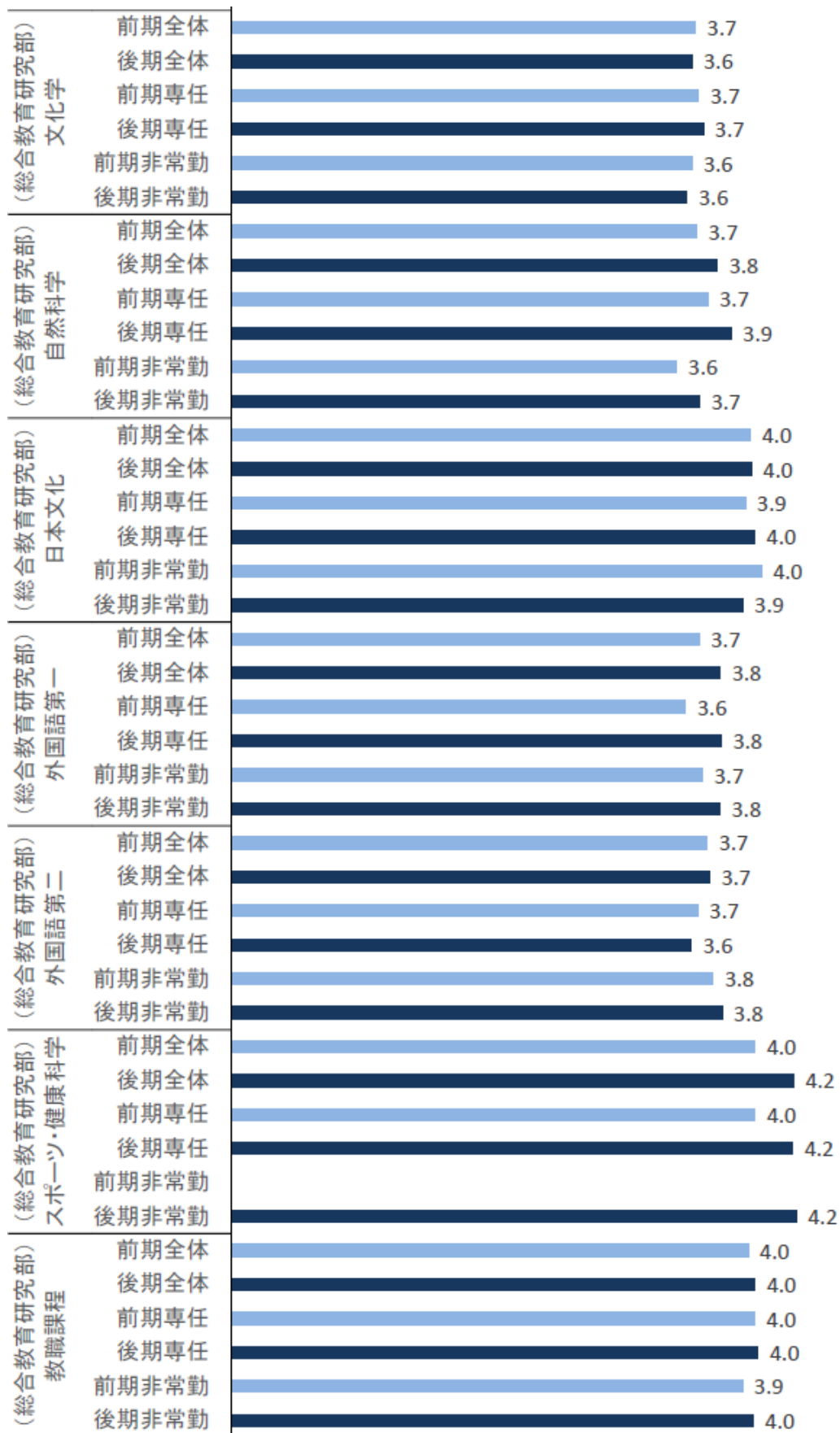
Q 2 1. あなたはこの授業の到達目標を達成できると思いますか。
 5: とてもそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない 1: 全くそう思わない

3.3~4.2 ポイントに推移しており、結果にばらつきはあるものの、達成できると思う傾向にあると思われる。









総 評

駒澤大学FD推進委員会小委員会

平成28年度委員長 飯塚 大展(仏教学部 教授)

一、平成28年度のFD推進委員会の活動について

本委員会の活動は、今年度も「駒澤大学教学に関する施策体系『中期事業計画書』」に基づき、より具体的な行動計画の策定と実施へと歩を進めたと言える。同時に、今年度は、その前提となる「駒澤大学FD憲章」が制定された意義は大きい。また、「教育の質の改善」に向けて、Check(点検)⇒Action(改善)がより強く意識された活動となったと言える。新たな取り組みとしては、「ベスト・ティーチング賞」と「学生FDスタッフ」の創設が挙げられる。

二、FD委員会推進委員会小委員会(以下「小委員会」)の活動について

「小委員会」では、昨年度同様、①新しい教育方法に関するワーキンググループ(「新教育WG」)、②教育の質保証に関するワーキンググループ(「質保証WG」)、③相互研修型FDに関するワーキンググループ(「相互研修型FDWG」)、④Awardに関するワーキンググループを設置し、FD活動の具体的内容について検討が繰り返された。そして、問題点の分析と改善策が「小委員会」に提示され、それらを踏まえて、「小委員会」では、自由で豁達な議論がなされた。昨年度制定された「FD Circle」を十全に機能させるべく、FD Support(事務部局)との連携をより密接なものにし、小委員会の議論のみならず、メールを介して情報の共有と意見交換を行った。更に学生の意見を積極的に取り入れ、その視座を担保すべく、今年度より「学生FDスタッフ」の制度を導入を決定した。教職員のFD活動への理解と自発的参加を求めるために、各学部等の教授会に対する報告を密に行い、更には駒澤大学のFD活動を学内・学外に発信すべく広報活動に努めた。

三、FD活動について

(1) 研修会

4月1日(金)に新規採用教員を対象としたオリエンテーションを実施し、『FDハンドブック』の活用と駒澤大学の「FD Circle」について説明し、本学のFD活動について周知を行った。

平成28年度よりFD研修会は、年1回開催から年2回へと変更された。FD活動に関する理念と具体的活動事例とをテーマに研修を企画し実施した。

第1回FD研修会は、9月20日(木)に中央講堂で実施され、教職員102名が参加した。大学基準協会事務局長工藤潤先生による基調講演(「教育の質保証にいかに取り組むべきか—3つのポリシーの設定と内部質保証システムの機能化—」)がなされ、更に「駒澤大学

における教育の質保証の方向性」についてのパネルディスカッションが行われた。今回初めて「FD 研修会アンケート」調査を行ったが、本研修会への関心の強さと理解の深さを実感する結果となった。

第2回FD研修会は、2月1日(水)に中央講堂にて実施され、教職員104名が参加した。山梨大学教育国際化推進機構大学教育センター副センター長 森澤正之先生による基調講演「反転授業を組み合わせたアクティブラーニングの実践」がなされ、のちに参加者との質疑応答が活発になされた。「反転授業」は「アクティブラーニング」「PBL」「ICT教育の推進」とともに『中期事業計画書』に明示された「対面授業(学習)の多様化推進」の中核をなすものである。昨年度「アクティブラーニング」をテーマとした研修会が実施され、本年度駒澤大学としての「アクティブラーニング」の定義がなされた事とも相俟って、この研修会を通して本学の大学教育改革が着実に進展しつつあることが実感された

(2) 公開授業

本年度の公開授業は、11月16日(水)より12月10日(土)の期間に実施された。公開授業は、参加者が他の教員の授業を参観し、実施者と共に「教育の質の改善」に取り組むものである。その講義内容や教育方法に関する改善点を検証すると共に、より多くはその長所を見出し、参加者自身の授業に活かしてゆくことに意義がある。

公開授業は各学部等の主体性に基づき実施されるものであるが、現状では必ずしも参加者が多いとは言えない。この点を改善すべく、昨年度は所属教員数、科目数等を勘案し、公開授業の科目数を増やすことを提言したが、多くの学部において協力を得ることが出来た。

また、意欲的な教育に取り組む教員の顕彰と、教育方法の共有は、後述の「ベスト・ティーチング賞」の制定とも密接に関連するものである。

(3) 授業アンケート

本年度は、前期開講科目(対象科目 1204科目、対象学生数 延べ79,778人)を6月6日(月)から6月25日(土)に、後期・通年開講科目(対象科目 1,757科目、対象学生数 延べ141,106人)を11月6日(月)から11月30日(土)に、「学生による授業アンケート」(以下「授業アンケート」)を実施した。回答率は前期52.1%、後期42.9%であり、前期は前年度比マイナス6.6%と大きく下回り、後期が若干上がったものの例年と同程度の回答率を維持するにとどまった。C-Learningを用いた「授業アンケート」は、3年目を迎え、停滞期を迎えている。広報活動は、事務部局を中心に精力的に行ったが、回答率は当初の目標に達しなかった。

「授業アンケート」は、全学的かつ体系的に実施し、教育方法やカリキュラムの改善に役立てることを目的としている。また、教員がその結果を授業実施期間中に、学生に対してフィードバックを行い、それによりアンケートの有効性を受講学生と共有する意義がある。更なる改善点を次年度のシラバスに記述することが、昨年度より制度化された。そ

の意味で、後期「授業アンケート」実施期間中、実施以後における C-Learning への未ログイン率(常勤教員 4.6%、非常勤教員 20.6%)は昨年度より若干改善されたとはいえ、大きな問題を内包しており、なお一層の周知徹底をはかり改善する必要がある。

上記の問題点について、小委員会は「質保証 WG」を中心に検証を行ったが、現実的かつ有効な改善策は見出せなかった。同様に学年が上がるにつれ、回答率が下降する現状を改善し、回答率を底上げする方途は今後の課題とせざるを得なかった。

「授業アンケート」実施要項の見直しも論議された。アンケート実施期間のありかた(少しでも早く当該年度内に学生の意見をくみ取り、フィードバックする方法の摸索)、対象外科目の見直し(履修登録者数 20 人未満の科目、特殊形態科目等)、対象外科目のアンケート実施申請手続き、各種ハラスメントや誹謗中傷等の記述への対応等が論議された。

現状では、「授業アンケート」結果は、学長・両副学長および教員の所属する学部長等へ公開されているが、十分に活用されているとは言いがたい面がある。アンケートのデータをどのように分析し活用していくかが依然として課題であり、公開レベルについても引き続き検証を行なう必要がある。

(4) FD NEWSLETTER・FD 活動報告書

例年通り、本学における FD 活動の推進、広報、報告のため、FD NEWSLETTER が年 4 回発行された。これらは、紙媒体で全専任教員に配布され、HP にも公開されている。また FD 活動報告書を作成し、本年度の FD 活動の総括を行うとともに、外部への発信も行った。

(5) 新たな活動

「学生が選ぶベスト・ティーチング賞(BTA)」と「学生 FD スタッフ」を創設した。

「Award に関する WG」を中心に「ベスト・ティーチング賞実行委員会」(委員長 青木茂樹 FD 推進小委員会副委員長)を発足させ、「学生が選ぶベスト・ティーチング賞(BTA)」の準備、運営、表彰等を、「学生 FD スタッフ」と共に行った。

「学生 FD スタッフ」は、10 月から 11 月にかけて「BTA」の広報活動(ポスター・チラシの作成・掲示、CM 動画の作成)を行い、12 月は表彰候補者の原案作成に従事し、2 月 1 日(水)の「BTA」表彰式に参加した。その後、受賞者のインタビューもふくめた報告書の編集も行った。「BTA」は、学生が主体性を持って FD 活動に参画する新たな試みである。その実質的運営を行ったのは「学生 FD スタッフ」であった。新たな制度改革と、準備期間も短い中での運用でもあり、今後の活動を充実させるためにも綿密な検証が必要である。それでも尚、両制度の創設には、学生による FD 活動への参画という今までに本学にはなかった価値の創造がなされたものと言える。

因みに、栄えある第 1 回 BTA 受賞者は、「経営戦略論」経営学部中村公一、「市場戦略概説」経営学部兼村栄哲、「心理学」小野洋平の各先生方である。

四、今後の課題

小委員会は、私立大学等改革総合支援事業の助成を獲得することを念頭に置いて、種々の制度改革を立案し、FD 推進委員会に提言してきたが、昨年度に続き支援事業の採択は得られなかった。この現実は重く受け止めるべきである。文部科学省の施策や他の私立大学における FD 活動の情報を分析し、本学が取り組むべき課題の析出と改善策の立案がシームレスに行われなければ、短期間における全学的、体系的、制度的改革は困難である。この現状を鑑み、組織の見直しが不可避であるとの認識に達した。具体的には、以前にも議論の俎上に上がったことがある、常設のシステムとしてのセンター化を提言したい。勿論早急な実現を求めているわけではなく、再び論議する必要性を強く主張したい。

7. F D NEWSLETTER の発行

○FD NEWSLETTER 第 47 号	平成 28 年 6 月 30 日発行
○FD NEWSLETTER 第 48 号	平成 28 年 9 月 30 日発行
○FD NEWSLETTER 第 49 号	平成 28 年 12 月 15 日発行
○FD NEWSLETTER 第 50 号	平成 29 年 3 月 15 日発行

FD NEWSLETTER



CONTENTS

- 読書「量」は、学びの「質」に
転化し得るか？
コミュニティ・ケアセンター所長
文学部教授 熊本 史雄
- 「大人数授業は改善可能か？」
経済学部教授 小栗 崇資
- 平成 28 年度
新規採用教員オリエンテーション
- 平成 27 年度活動報告
- FD 推進委員会の今後の予定

読書「量」は、学びの「質」に転化し得るか？

コミュニティ・ケアセンター所長
文学部教授 熊本 史雄

日本人の活字離れが唱えられて久しい。日本人の読書量が減ったのは、いつ頃からだろうか。確たる証拠はないが、ここ 10 年間の駒大生も、この例に漏れないと感じている。

教員の立場からすれば、学生には少しでも多くの書物を読み、沈黙考してもらいたいと願ってしまう。歴史学を専攻する私にすれば、歴史学科の学生には、先行研究のみならず同時代の史料を多く読み解き、そこから自らの力で歴史像を紡いで欲しいのである。

そうした思いから、ゼミ生（歴史学科では 3 年次からゼミ開始、3・4 年生個別に指導）には、なるべく多くの文献を読ませようと努めてきた。報告準備における文献講読の目安は、200～300 ページ。熊本ゼミは在籍者が多く（1 学年あたり約 30 名）、1 コマに 2 名を割り当てても、ゼミ生 1 人あたり年間 2 回しか報告の機会を巡ってこない。それでも、報告担当者にこの程度の準備を課し、かつ担当者以外の学生にも課題図書（文献）を毎週 30～40 ページ程度読ませているので、量としてはますますだと考えていた。

ところが、こうした考えは一変した。2013 年に一年間の在外研究の機会を得て、ロンドン大学の LSE (London School of Economics and Political Science) に留学したときのことである。毎週、同じ授業で顔を合わせる中国人女性留学生がいた。彼女はいつも大量の本を抱えている。感心しつつも、半ば興味本位で聞いてみた。「毎週、どのくらい読んでいるの?」。返ってきた答えは、「500 ページ」。予想を超える返答に驚愕し、興味本位で聞いた自分を恥じた。と同時に、これまでの自分の学生指導のあり方の再考を迫られた。彼女にとって、英語はむしろ非母国語である。にもかかわらず、毎週 500 ページを読んできた。それだけの読書量をコンスタントに積み上げれば、1 年（年間 30 コマ）で約 1 万 5000 ページを読むことになる。これは、熊本ゼミでの約 10 倍に相当する。差は広がるばかりだ。

たしかに 1 週間で 500 ページを精読するのは難しいだろう。斜め読みや拾い読みをしている箇所もあるかも知れない。それでも、これほどの「量」を積み上げれば、かなりの部分が「質」に転化しているに違いない。現に、ゼミでの彼女の質疑応答のレベルは、すこぶる高い。世界屈指の有名大学と駒大とを一概に比較できないが、どれ程の読書量が適切なのだろうか。その答えは、いまだ模索中である。

連載企画：よりよい教育のために

「大人数授業は改善可能か？」

経済学部教授

小栗 崇資

私の授業（財務会計論）の受講者数は約 500 名である。かつてはどの大学も大人数授業は当たり前であったが、そのような授業において教育効果を上げることは難しい。大人数授業そのものをなくしていく努力が、今や必要になってきている。調べてみたが、海外の大学では小人数授業が主流となってきている。フィリピンでは政府の指示で大学の授業は 47 名以下にすることになっているという。時としては有名教授の講義が何百名という場合があるが、世界的には 20 名から 40 名程度の授業が普通のようなものである。

FD やアクティブラーニングを本当に具体化するためには、小人数授業の実現しかない。駒澤大学の場合、経済をはじめとする社会科学分野の学部で大人数授業が多いので、そうした学部には何らかの構造的な改善が求められている。新しい 130 周年記念講義棟の使用が平成 30 年からスタートし、9 号館にあった 500 名収容可能な教場がなくなるが、そうした機会に大人数授業をなくしていかなければならない。せめて上限を 200 名程度にして中人数授業に変えていく努力が必要ではないか。そのためにはコマ数の増大を規制するのではなく、実情に応じて、当局は大人数授業のコマ分割を進めていただきたい。

もちろん大人数授業においても授業改善が重要であることはいうまでもない。私なりの試みは次のようである。

ほぼ毎回、授業の最初にクイズを出すことにしている。クイズには授業の内容を予告するような面白い問いが作っており、選択肢の中から答えを考えることができるようになっている。そして全員に手を上げさせて、ゲーム感覚でクイズを行う。「授業に参加した気分になる」ということで、学生の評判は良いようである。また、タブレットを使ってテキストを AV 機器の画面に表示し、電子ペンで重要箇所を赤線を引いたり、文

字を書き込んだりして、学生の関心をテキストの内容に引き込む試みを今年度から始めている。ほぼ全員がテキストを開いて、自分なりの書き込みをするようにさせているが、多くの出席者が静かに授業に集中している様子を見ると効果が上がっているのではないかと感じている。

クリントン政権の労働長官であったロバート・ライシュ教授の授業を映画にした「みんなのための資本論」を見て感動したが、数百名の学生が教授の問いかけにクリッカーと呼ばれる手元の IT 機器で答える場面があった。学生の回答が瞬時に正面の画面に表示され、それをまた教授が論じるというような双方向のやりとりがなされていた。大人数授業でも IT を活用すれば、授業をアクティブにさせることは可能であると痛感させられた。

大人数授業を減らす対策と、大人数授業を活性化させる工夫の双方の改善努力をしなければならないのである。FD の範囲を超える問題を含んでいるが、そうした問題に取り組むことは FD にとっても喫緊の課題であるように思われる。

 平成 28 年度新規採用教員オリエンテーション

本年度も 4 月 1 日に今年度より新たにご出講いただく先生方を対象としたオリエンテーションを開催し、専任教員 15 名、非常勤教員 50 名の計 65 名の先生方にご出席いただきました。

オリエンテーション第一部では廣瀬良弘学長より本学の建学の理念について、猿山義広教務部長より本学の教育方針等について、FD 推進委員会小委員会委員長の飯塚大展先生（仏教学部教授）より本学の FD 活動について説明をいただき、事務局からは、総合情報センター（「KOMAnet（コマネット）」、「ユーザー ID」、「YeStudy（e-learning）等の利用について」）、図書館（「図書館の利用案内について」）、教務部（「授業運営に関係する説明」）が説明を行い、第一部終了後、希望された先生方を講師控室および AV 教場にご案内しました。

第二部では、専任教員を対象に教務部から公的研究費、教員教育研究費等に関する説明を行いました。

オリエンテーションについて、ご意見、ご提案等ございましたら事務局までお申し出ください。

1. 開催日時

平成28年4月1日（金）14:40～16:00

2. 出席者数

65名（案内状発送165名）

3. オリエンテーション次第

- ・学長挨拶
- ・教務部長挨拶
- ・FD推進委員会小委員会委員長挨拶
- ・大学案内（教務部・総合情報センター・図書館）
- ・質疑応答

質疑応答後、希望者を講師控室、AV教場に案内した。



（オリエンテーションの様子）

平成27年度FD推進委員会及び小委員会の活動報告

平成27年

4月

- ・「新規採用教員オリエンテーション」を開催
- ・第1回FD推進委員会及び小委員会を開催

6月

- ・第2回FD推進委員会（臨時）及び小委員会を開催
- ・第3回FD推進委員会小委員会（臨時）を開催
- ・2015年度「学生による授業アンケート」（前期）の実施

- ・FD NEWSLETTER 第43号を発行

7月

- ・第3回FD推進委員会（臨時）を開催
- ・第4回FD推進委員会小委員会を開催

9月

- ・FD NEWSLETTER 第44号を発行

10月

- ・第4回FD推進委員会小委員会を開催
- ・第5回（臨時）FD推進委員会を開催

11月

- ・2015年度「学生による授業アンケート」（後期）の実施

- ・平成27年度公開授業の実施（12月7日まで）

12月

- ・FD NEWSLETTER 第45号を発行

平成28年

1月

- ・第6回FD推進委員会小委員会を開催
- ・平成26年度FD研修会を実施

2月

- ・第7回FD推進委員会小委員会を開催

3月

- ・第5回FD推進委員会を開催
- ・第8回FD推進委員会小委員会（臨時）を開催
- ・FD NEWSLETTER 第46号を発行
- ・平成27年度『FD活動報告書』を発行

FD推進委員会の今後の活動予定

- 平成 28 年度第 3 回FD推進委員会小委員会
平成 28 年 7 月 4 日 (月) 16:20 ~

※FD活動についてご意見がありましたら、各学部等の小委員会委員までお申し出ください。

~2016 年度「学生による授業アンケート」(後期) 実施のお知らせ~

実施期間：平成 28 年 11 月 9 日 (水) ~30 日 (水)

対象科目：全科目対象 (集中講義科目、演習科目、受講生が 20 名未満の科目は除く)

※WEBによるアンケートを実施しています (PC、スマートフォン、携帯電話、タブレット等を使用して回答されます)。



編集後記

今年度最初の『FD NEWSLETTER』(第 47 号)がこのたび発行されましたので、ここにお届けいたします。

今回の巻頭言は、コミュニティ・ケアセンター所長の熊本史雄先生にご執筆頂きました。熊本先生には、教育研究業務に加え所長業務でお忙しい中ご執筆くださいましたことに改めて感謝申し上げます。

また連載企画「よりよい教育のために」につきましては、経済学部教授の小栗崇資先生にご執筆頂きました。心よりお礼申し上げます。

新年度が始まって約 3 ヶ月が経過しております。今年度のFD活動もすでにスタートしており、4月に開催された新規採用教員オリエンテーションには、専任 15 名(全員)、非常勤 50 名の先生方がご参加くださいました。

「学生による授業アンケート」については、前期科目分がすでに6月中に実施されております(後期科目・通年科目は11月9日から30日にかけて実施されます)。今年度は、アンケートの文言が一部修正されたほか、一部設問において選択肢が拡充された点、教員自由設定質問が再び設けられた点などが前年度からの変更点です。FD研修会と公開授業については、内容のさらなる充実と参加者数の増加をめざし、現在小委員会で検討しているところです。また継続案件となっているFD Award制度案と学生FDサポーター制度案については、各学部等から出された意見をもとに小委員会で議論を積み重ね、各学部等と意見交換が続けられております。

FD活動をさらに推進していく上では、さまざまな課題があることも事実ですが、本学の教育水準のさらなる向上に向け、教職員の合意形成を図っていくことが大切です。
(小林正人、長尾譲治)

【タイトル横の写真は、本部棟と記念講堂】

FD NEWSLETTER Jun. 2016 第 47 号

発行日：2016 年 6 月 30 日

発行者：駒澤大学FD推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1

TEL 03-3418-9444 Fax 03-3418-9114

(事務局：教務部)

FD NEWSLETTER



CONTENTS

- 駒澤大学の将来とFD推進
医療健康科学部 学部長
瀬尾 育弉
- 2016 年度「学生による授業アンケート」
(前期) 集計結果
- 「就活」と授業運営
法学部 学部長
高橋 洋城
- FD推進委員会今後の活動予定
- 2016 年度「公開授業」実施の
お知らせ

駒澤大学の将来とFD推進

医療健康科学部 学部長
瀬尾 育弉

少子高齢化が進み、10年後の駒澤大は大丈夫だろうか、皆さんも心配しておられることと思います。今まさに、本学の存在価値や将来ビジョンが問われています。

FDの本質は何でしょうか？ 私は、社会や企業が雇って本当に良かったと思える学生を輩出するための教育改革だと、勝手に思っています。FDは国の中央教育審議会から言われてやるものではないし、ICTの活用でもない。金太郎飴みたいな均一な学生を育てたくもないです。

さて、この大学に来て10年目になりますが、一番最初の印象は校内が汚いことです。最近、上智大学に立ち寄ったが、ゴミ一つ落ちていません。同じ宗教系の大学でありながら、なぜこんなに違うのか。仏教・禅の教えの一つとして、「仏教と人間」という授業が一般教養科目にあります。他人に迷惑をかけないとか、自利利他の考えは本当に身につけているのでしょうか？

先ほど述べたように、社会や企業の望みは、雇って本当に良かったと思える学生を採用できることで、その理想の学生の資質とは、主に、

① 心(慈愛(利他)、謙虚さ) ② 基礎力 ③ 考える力(問題発見力・解決力) ④ プレゼン力 ⑤ コミュニケーション力

などと思いますが、少なくとも、①の心の面で、さすが駒澤出身だと言われる人材を送り出したい。そこで、禅の心を実社会生活においてどう実践していくのかを、さらに具体的に教育できないものだろうか？ 学内のあらゆる所、食堂、トイレ、通路、教室、喫煙所に禅の教えを散りばめる。各授業においても、禅の心を散りばめる。しかし、小学校で教えるような道徳教育であってはつまらないし、教職員自らがまず行動し、実践すべきなのは当然ですが。私のいる医療健康科学部では、患者接遇の授業などにもっと禅の心を積極的に取り入れたいと思います。

次に、③の自ら考える力を養うには、アクティブ・ラーニングを取り入れてはいるものの、まだ、十分とは言えない。我々の学部では、実験が計10科目(1年次--3科目、2年次--3科目、3年次--4科目)、4年次の卒業論文などあるが、学生と対話しながら、学生に考えさせるようにしている。

しかし、自分から進んで学習し、とことん考えようとする学生は数少ない。一つには、授業科目、実験レポートが多すぎて、時間的余裕がなく、過去や他学生のレポートをコピーする学生もいる。毎回実験内容を変えればいいのだが、教員にそんな時間的余裕はない。二つには、基礎力の乏しさです。基礎力がないと新たな発想が出てきません。

今後、早急なカリキュラムの見直しが一番重要であると思いつつ、会議の多さと雑用にまみれている今日この頃です。

2016 年度「学生による授業アンケート」(前期) の集計結果について

2016 年度「学生による授業アンケート」(前期)を以下のとおり実施した。

実施日	平成 28 年 6 月 6 日 (月) ~ 6 月 25 日 (土)
対象科目	1,204 科目
対象者数	79,778 人 (延べ人数)
実施科目数	1,204 科目
有効回答数	41,540 件 (52.1%)

【質問項目】

Q1. 所属学部学科等

20 : 仏教 19 : 国文 18 : 英米文 17 : 地理 16 : 日本史学
15 : 外国史学 14 : 考古学 13 : 社会学 12 : 社会福祉学
11 : 心理 10 : 経済 9 : 商 8 : 現代応用経済 7 : 法律 A
6 : 法律 B 5 : 政治 4 : 経営 3 : 市場戦略
2 : 診療放射線技術科 1 : グローバル・メディア

Q2. 学年

5 : 4 年 4 : 3 年 3 : 2 年 2 : 1 年 1 : その他

Q3. どのような入学試験を受けて、あなたは本学に入学しましたか。

11 : 一般入試 10 : 大学入試センター試験利用入試
9 : 一般推薦入試 8 : スポーツ推薦入試 7 : 指定校推薦
6 : 附属校推薦入試 5 : 留学生特別入試
4 : 帰国生特別入試 3 : 編入学試験 2 : その他の試験
1 : 回答しない

Q4. この授業を何回欠席しましたか。

5 : 0 回 4 : 1~2 回 3 : 3~4 回 2 : 5~6 回 1 : 7 回以上

Q5. どのような理由でこの授業を履修しましたか。(複数選択可)

7 : シラバスを見て授業内容に興味を持った
6 : シラバス以外の情報 (友人等) により、授業内容に興味を持った
5 : 履修モデル (コース制等) を見て決めた
4 : 資格の取得
3 : 必修科目または選択必修科目だったから
2 : 時間割 (曜日時限) を考慮して決めた
1 : その他

Q6. この授業の予習にあてている時間は 1 週間に何時間くらいですか。

Q7. この授業の復習にあてている時間は 1 週間に何時間くらいですか。

(Q6・7 選択肢)

5 : 4 時間以上

4 : 3 時間以上~4 時間未満

3 : 2 時間以上~3 時間未満

2 : 1 時間以上~2 時間未満

1 : 1 時間未満

Q8. あなたは授業に熱心に取り組んでいますか。

Q9. 授業はほぼ定刻通りに実施されていますか。

Q10. 通常通り、授業回数は確保されていますか。(補講・YeStudy 等による課題授業含む)

Q11. 授業にはおおむねシラバスの内容が反映されていますか。

Q12. この授業の進み方はあなたにとって適切ですか。

(Q8~12 の選択肢は 3 ページに記載)

Q13. 教科書・配付資料等は授業内容を理解するうえで効果的ですか。

5 : とてもそう思う

4 : そう思う

3 : どちらとも言えない

2 : あまりそう思わない

1 : 全くそう思わない

0 : 教科書・配付資料等がない授業

Q14. 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられますか。

Q15. 教員の話し方・声のボリュームは聞き取りやすいですか。

(Q14・15 の選択肢は 3 ページに記載)

Q16. 板書や投影されたスクリーンの文字・図表等は見やすいですか。

5 : とてもそう思う

4 : そう思う

3 : どちらとも言えない

2 : あまりそう思わない

1 : 全くそう思わない

0 : 板書・スクリーンへの投影がない授業

Q17. 教員は授業内容に沿った授業環境・雰囲気づくりに配慮していますか。

(Q17 の選択肢は 3 ページに記載)

Q18. 教員はあなたの意見や質問に対して適切に対応していますか。
 5: とてもそう思う
 4: そう思う
 3: どちらとも言えない
 2: あまりそう思わない
 1: 全くそう思わない
 0: あなたが当該授業において意見・質問をしたことがない場合

Q19. この科目の授業内容についてよく理解できていますか。

Q20. 授業内容に興味を持っていますか。

Q21. あなたはこの授業の到達目標を達成できると思いますか。
 (Q8~12・14・15・17・19~21 選択肢)
 5: とてもそう思う
 4: そう思う
 3: どちらとも言えない
 2: あまりそう思わない
 1: 全くそう思わない

Q22. 教員自由設定質問

Q23. この授業のよかった点を具体的に記入してください。

Q24. この授業の改善してほしい点を具体的に記入してください。

【学年別平均値】

表 1 はアンケート質問項目 (Q4・6~21) の学年別平均値を示したものである。

表 1 学年別の平均値

学年別	1 年	2 年	3 年	4 年	その他
Q 4 平均値	4.5	4.4	4.4	3.8	3.4
Q 6 平均値	1.3	1.3	1.3	1.4	1.8
Q 7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.4	1.8
Q 8 平均値	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8
Q 9 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2
Q10 平均値	4.3	4.3	4.3	4.4	4.3
Q11 平均値	4.1	4.2	4.2	4.3	4.2
Q12 平均値	3.9	3.9	4.0	4.1	3.9
Q13 平均値	4.0	4.0	4.0	4.1	4.0
Q14 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3
Q15 平均値	4.1	4.1	4.1	4.3	4.1
Q16 平均値	3.9	3.9	3.9	4.1	3.9
Q17 平均値	4.0	4.1	4.1	4.2	4.0
Q18 平均値	4.0	4.1	4.1	4.1	3.9
Q19 平均値	3.8	3.8	3.8	3.9	4.0
Q20 平均値	3.8	3.8	3.9	4.0	3.9
Q21 平均値	3.7	3.8	3.8	3.9	3.9
有効回答数	17,870	11,351	5,484	2,175	43

【入試形態との関連】

2010年度より、入試形態と学生の授業への取り組み（出席状況、予習・復習時間など）との関連を把握するために入学試験タイプの質問を追加している（Q3）。なお、回答は任意とした（回答率99.4%）。（表2 入試形態別の項目別平均値）

表2 入試形態別の項目別平均値（Q4・6～21）

入試形態別	一般入試	大学入試センター試験 利用入試	一般推薦入試	スポーツ推薦入試	指定校推薦入試	附属校推薦入試	留学生特別入試	帰国生特別入試	編入学試験	その他	回答しない
Q4 平均値	4.4	4.3	4.5	4.1	4.5	4.4	4.6	3.9	4.2	4.5	4.2
Q6 平均値	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.8	1.7	1.3	1.3	1.5
Q7 平均値	1.3	1.3	1.2	1.3	1.3	1.2	1.9	1.6	1.3	1.3	1.6
Q8 平均値	3.7	3.7	3.8	3.8	3.9	3.7	4.3	3.8	3.9	3.8	3.7
Q9 平均値	4.2	4.2	4.3	4.3	4.3	4.2	4.5	4.2	4.4	4.3	4.2
Q10 平均値	4.3	4.3	4.4	4.3	4.4	4.2	4.5	4.2	4.4	4.4	4.2
Q11 平均値	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	4.1	4.4	4.2	4.3	4.1	4.1
Q12 平均値	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.3	3.9	4.3	3.8	3.8
Q13 平均値	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	4.3	3.9	4.3	3.9	3.9
Q14 平均値	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1	4.5	4.1	4.4	4.2	4.1
Q15 平均値	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.1	4.4	4.1	4.4	4.1	4.1
Q16 平均値	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	3.8	4.4	3.9	4.1	3.9	3.8
Q17 平均値	4.1	4.0	4.1	4.1	4.1	4.0	4.4	4.0	4.2	4.1	4.0
Q18 平均値	4.1	4.0	4.1	4.0	4.1	4.0	4.4	4.0	4.3	4.1	3.9
Q19 平均値	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	4.3	3.9	4.1	3.7	3.8
Q20 平均値	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	4.2	3.9	4.1	3.8	3.8
Q21 平均値	3.8	3.7	3.7	3.8	3.7	3.7	4.2	3.9	4.1	3.6	3.7
有効回答数	19,970	3,527	3,300	960	4,357	3,430	597	76	232	270	204

【学部学科・専攻・部門別集計結果】授業担当者の所属別に、専任教員と非常勤教員を分けて集計をした。

表 3 教員所属の学科・専攻・部門別平均値 (Q4・6~21) ※「-」は前期アンケート対象科目なし

(学部)学科・専攻・部門 専任・非常勤区分	(仏教) 禅			(仏教) 仏教			(文) 国文		
	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値	4.1	-	4.1	3.9	3.9	-	4.5	4.5	-
Q6 平均値	1.0	-	1.0	1.1	1.1	-	1.1	1.1	-
Q7 平均値	1.0	-	1.0	1.1	1.1	-	1.0	1.0	-
Q8 平均値	3.5	-	3.5	3.0	3.0	-	3.8	3.8	-
Q9 平均値	3.9	-	3.9	4.1	4.1	-	4.3	4.3	-
Q10 平均値	4.1	-	4.1	4.1	4.1	-	4.4	4.4	-
Q11 平均値	4.0	-	4.0	4.1	4.1	-	4.1	4.1	-
Q12 平均値	4.0	-	4.0	3.6	3.6	-	4.0	4.0	-
Q13 平均値	4.0	-	4.0	3.5	3.5	-	4.1	4.1	-
Q14 平均値	4.4	-	4.4	3.9	3.9	-	4.3	4.3	-
Q15 平均値	4.5	-	4.5	2.9	2.9	-	4.2	4.2	-
Q16 平均値	4.0	-	4.0	3.5	3.5	-	4.1	4.1	-
Q17 平均値	4.2	-	4.2	3.6	3.6	-	4.2	4.2	-
Q18 平均値	4.2	-	4.2	3.7	3.7	-	4.1	4.1	-
Q19 平均値	3.4	-	3.4	3.1	3.1	-	4.0	4.0	-
Q20 平均値	3.5	-	3.5	3.2	3.2	-	3.7	3.7	-
Q21 平均値	3.3	-	3.3	3.3	3.3	-	3.8	3.8	-
有効回答数	22			57			72		

(学部)学科・専攻・部門 専任・非常勤区分	(文) 英米文			(文) 地域文化			(文) 地域環境		
	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値	4.3	-	4.3	4.4	4.5	4.4	4.4	4.4	4.4
Q6 平均値	1.4	-	1.4	1.3	1.3	1.3	1.2	1.3	1.2
Q7 平均値	1.4	-	1.4	1.3	1.3	1.3	1.3	1.5	1.2
Q8 平均値	3.9	-	3.9	3.7	3.8	3.6	3.8	3.9	3.7
Q9 平均値	4.3	-	4.3	4.2	4.3	4.0	4.2	4.3	4.1
Q10 平均値	4.4	-	4.4	4.3	4.3	4.2	4.3	4.4	4.2
Q11 平均値	4.2	-	4.2	4.0	4.1	3.7	4.3	4.3	4.2
Q12 平均値	3.9	-	3.9	3.8	3.9	3.7	4.1	4.1	4.1
Q13 平均値	3.9	-	3.9	3.9	4.0	3.8	4.2	4.2	4.2
Q14 平均値	4.2	-	4.2	4.1	4.2	4.1	4.3	4.3	4.2
Q15 平均値	4.3	-	4.3	4.0	4.1	3.9	4.3	4.2	4.4
Q16 平均値	4.2	-	4.2	3.8	3.9	3.8	4.1	4.0	4.2
Q17 平均値	4.2	-	4.2	4.1	4.1	4.0	4.2	4.2	4.1
Q18 平均値	4.2	-	4.2	4.0	4.0	4.0	4.1	4.2	4.0
Q19 平均値	3.8	-	3.8	3.7	3.8	3.6	3.8	3.8	3.8
Q20 平均値	3.7	-	3.7	3.8	3.9	3.7	4.0	4.0	4.0
Q21 平均値	3.7	-	3.7	3.7	3.7	3.6	3.8	3.8	3.9
有効回答数	92			700			592		

(学部)学科・専攻・部門	(文) 日本史学			(文) 外国史学			(文) 考古学		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q4 平均値	4.6	4.6	4.6	4.5	4.3	4.5	4.6	4.5	4.7
Q6 平均値	1.7	1.8	1.6	1.1	1.0	1.1	1.1	1.0	1.1
Q7 平均値	1.2	1.1	1.3	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1
Q8 平均値	4.1	4.0	4.2	3.7	4.1	3.7	3.8	3.8	3.9
Q9 平均値	4.3	4.1	4.6	4.3	4.3	4.3	4.3	4.0	4.4
Q10 平均値	4.5	4.5	4.5	4.4	4.4	4.4	4.5	4.5	4.5
Q11 平均値	4.3	4.2	4.3	4.3	4.5	4.3	4.4	4.4	4.4
Q12 平均値	4.1	4.1	4.1	4.1	4.4	4.0	4.3	4.3	4.3
Q13 平均値	4.2	4.2	4.2	4.0	4.2	4.0	4.3	4.5	4.2
Q14 平均値	4.4	4.3	4.4	4.3	4.4	4.2	4.5	4.5	4.4
Q15 平均値	4.5	4.6	4.4	4.2	4.6	4.2	4.5	4.7	4.4
Q16 平均値	4.1	4.2	4.1	4.0	4.2	3.9	4.4	4.3	4.4
Q17 平均値	4.3	4.2	4.4	4.2	4.3	4.2	4.4	4.3	4.4
Q18 平均値	4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	4.1	4.3	4.3	4.3
Q19 平均値	4.1	4.1	4.2	3.8	4.1	3.8	4.0	4.1	4.0
Q20 平均値	4.1	4.0	4.2	4.1	4.5	4.0	4.1	4.2	4.0
Q21 平均値	4.0	3.9	4.1	3.8	4.2	3.8	3.9	3.8	3.9
有効回答数	192			163			109		

(学部)学科・専攻・部門	(文) 社会学			(文) 社会福祉学			(文) 心理		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q4 平均値	4.5	4.5	4.4	4.6	4.7	4.5	4.4	-	4.4
Q6 平均値	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	-	1.2
Q7 平均値	1.2	1.3	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	-	1.2
Q8 平均値	3.6	3.6	3.7	3.9	3.9	3.9	3.9	-	3.9
Q9 平均値	4.1	4.2	4.1	4.2	4.2	4.2	4.5	-	4.5
Q10 平均値	4.3	4.4	4.3	4.2	4.1	4.3	4.4	-	4.4
Q11 平均値	4.1	4.2	4.0	4.1	4.1	4.1	4.3	-	4.3
Q12 平均値	3.7	3.9	3.4	4.0	4.0	4.0	4.1	-	4.1
Q13 平均値	3.8	4.0	3.5	4.1	4.1	4.1	4.1	-	4.1
Q14 平均値	4.0	4.1	3.8	4.3	4.3	4.3	4.3	-	4.3
Q15 平均値	3.7	4.0	3.5	4.1	4.2	4.0	4.3	-	4.3
Q16 平均値	3.4	3.5	3.3	4.0	3.9	4.0	4.2	-	4.2
Q17 平均値	3.8	3.9	3.7	4.1	4.1	4.1	4.3	-	4.3
Q18 平均値	3.8	3.9	3.5	4.1	4.1	4.1	4.2	-	4.2
Q19 平均値	3.5	3.7	3.4	3.8	3.8	3.8	3.9	-	3.9
Q20 平均値	3.6	3.8	3.5	4.0	4.0	4.0	4.0	-	4.0
Q21 平均値	3.5	3.7	3.3	3.8	3.9	3.8	3.8	-	3.8
有効回答数	763			710			480		

(学部)学科・専攻・部門	(経済) 経済			(経済) 商			(経済) 現代応用経済			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値		4.3	4.3	4.3	4.4	4.4	4.4	4.4	4.3	4.4
Q6 平均値		1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.4	1.3	1.3	1.2
Q7 平均値		1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.4	1.3	1.3	1.3
Q8 平均値		3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.9	3.9	3.8
Q9 平均値		4.2	4.1	4.3	4.1	4.1	4.1	4.3	4.3	4.2
Q10 平均値		4.3	4.3	4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3
Q11 平均値		4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	4.0	4.2	4.2	4.2
Q12 平均値		4.0	4.0	4.0	3.8	3.8	3.8	4.0	4.1	4.0
Q13 平均値		4.0	4.0	4.1	3.9	3.9	3.9	4.1	4.1	4.0
Q14 平均値		4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.0	4.3	4.3	4.2
Q15 平均値		4.2	4.2	4.2	4.0	4.1	3.9	4.3	4.3	4.2
Q16 平均値		3.9	4.0	3.9	3.7	3.8	3.7	4.0	4.0	4.0
Q17 平均値		4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	3.9	4.2	4.2	4.1
Q18 平均値		4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	3.9	4.1	4.1	4.1
Q19 平均値		3.9	3.8	3.9	3.6	3.6	3.6	3.8	3.8	3.9
Q20 平均値		3.9	3.8	3.9	3.7	3.7	3.7	4.0	4.0	3.9
Q21 平均値		3.8	3.8	3.8	3.7	3.6	3.7	3.9	3.9	3.9
有効回答数		4,601			2,366			2,645		

(学部)学科・専攻・部門	(法) 法律			(法) 政治			(経営) 経営			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値		4.3	4.3	4.4	4.3	4.3	4.2	4.4	4.4	4.4
Q6 平均値		1.3	1.3	1.2	1.3	1.2	1.3	1.2	1.1	1.2
Q7 平均値		1.4	1.4	1.2	1.3	1.3	1.3	1.2	1.1	1.3
Q8 平均値		3.6	3.5	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.8
Q9 平均値		4.0	3.9	4.1	4.3	4.4	4.1	4.2	4.2	4.3
Q10 平均値		4.1	4.1	4.1	4.4	4.5	4.2	4.3	4.4	4.3
Q11 平均値		3.9	3.9	4.1	4.3	4.4	4.1	4.1	4.1	4.1
Q12 平均値		3.3	3.1	4.0	4.1	4.2	4.0	3.8	3.8	3.8
Q13 平均値		3.6	3.5	3.9	4.2	4.2	4.1	4.0	4.0	4.0
Q14 平均値		3.9	3.8	4.2	4.3	4.4	4.1	4.1	4.2	4.0
Q15 平均値		3.8	3.8	4.0	4.3	4.4	4.2	4.1	4.3	4.0
Q16 平均値		3.5	3.4	3.7	4.1	4.1	4.0	3.8	4.0	3.7
Q17 平均値		3.8	3.7	4.1	4.2	4.2	4.1	4.0	4.1	4.0
Q18 平均値		3.6	3.5	4.0	4.2	4.2	4.1	4.0	4.1	3.9
Q19 平均値		3.3	3.1	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9	3.7
Q20 平均値		3.4	3.3	3.8	4.0	4.0	4.0	3.7	3.6	3.8
Q21 平均値		3.3	3.2	3.7	3.8	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8
有効回答数		674			638			463		

(学部)学科・専攻・部門	(経営)市場戦略			(医療健康科)			(GMS)		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q4 平均値	4.4	4.4	4.4	4.7	4.7	4.6	4.4	4.3	4.4
Q6 平均値	1.2	1.2	1.2	1.1	1.2	1.1	1.3	1.2	1.4
Q7 平均値	1.2	1.2	1.2	1.2	1.3	1.1	1.3	1.2	1.5
Q8 平均値	3.6	3.5	3.7	3.7	3.7	3.8	3.8	3.7	4.0
Q9 平均値	4.2	4.2	4.1	4.2	4.2	4.1	4.4	4.4	4.2
Q10 平均値	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4
Q11 平均値	4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.3
Q12 平均値	3.8	3.7	4.0	3.7	3.7	3.8	3.9	3.9	3.9
Q13 平均値	3.8	3.7	4.1	3.9	3.8	4.1	3.9	3.9	4.1
Q14 平均値	4.0	3.9	4.1	4.1	4.1	4.0	4.2	4.2	4.2
Q15 平均値	3.8	3.7	4.2	4.0	4.0	3.9	4.1	4.1	4.1
Q16 平均値	3.7	3.6	4.0	3.7	3.7	3.9	3.9	4.0	3.8
Q17 平均値	3.8	3.8	4.0	4.0	4.0	3.9	4.1	4.1	4.0
Q18 平均値	3.9	3.9	4.0	4.1	4.1	3.9	4.1	4.0	4.2
Q19 平均値	3.5	3.4	3.9	3.5	3.5	3.5	3.8	3.8	3.8
Q20 平均値	3.6	3.5	4.0	3.7	3.7	3.7	3.9	3.8	3.9
Q21 平均値	3.6	3.5	3.9	3.6	3.6	3.5	3.7	3.7	3.7
有効回答数	800			1,291			2,211		

(学部)学科・専攻・部門	(総合教育研究)文化学			(総合教育研究)自然科学			(総合教育研究)日本文化		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q4 平均値	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.4	4.3	4.4
Q6 平均値	1.2	1.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1
Q7 平均値	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1
Q8 平均値	3.6	3.5	3.7	3.7	3.7	3.6	3.9	3.8	4.1
Q9 平均値	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4	4.5
Q10 平均値	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.5	4.4	4.5
Q11 平均値	4.2	4.1	4.2	4.2	4.2	4.1	4.3	4.3	4.4
Q12 平均値	4.0	3.9	4.1	3.9	4.0	3.7	4.2	4.2	4.2
Q13 平均値	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.8	4.2	4.2	4.3
Q14 平均値	4.2	4.1	4.3	4.1	4.2	4.0	4.4	4.5	4.4
Q15 平均値	4.0	4.0	4.0	4.1	4.2	3.9	4.4	4.4	4.3
Q16 平均値	3.8	3.9	3.6	3.8	4.0	3.6	4.2	4.2	4.2
Q17 平均値	4.1	4.0	4.1	4.0	4.1	3.9	4.3	4.3	4.2
Q18 平均値	4.0	3.9	4.1	3.9	4.0	3.8	4.2	4.3	4.2
Q19 平均値	3.7	3.7	3.6	3.7	3.7	3.6	4.0	4.0	4.1
Q20 平均値	3.8	3.7	3.9	3.8	3.8	3.7	4.1	4.1	4.2
Q21 平均値	3.7	3.7	3.6	3.7	3.7	3.6	4.0	3.9	4.0
有効回答数	579			2,782			1,122		

(学部)学科・専攻・部門 専任・非常勤区分	(総合教育研究) 外国語第一			(総合教育研究) 外国語第二			(総合教育研究) スポーツ・健康科学		
	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値	4.4	4.5	4.4	4.5	4.5	4.5	4.3	4.3	-
Q6 平均値	1.4	1.3	1.4	1.3	1.2	1.4	1.1	1.1	-
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.4	1.3	1.4	1.1	1.1	-
Q8 平均値	3.8	3.7	3.8	3.8	3.7	3.9	3.9	3.9	-
Q9 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	4.2	4.0	4.0	-
Q10 平均値	4.4	4.3	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	-
Q11 平均値	4.1	4.0	4.1	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	-
Q12 平均値	3.8	3.7	3.8	3.9	3.9	4.0	4.2	4.2	-
Q13 平均値	3.9	3.8	4.0	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	-
Q14 平均値	4.1	4.0	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	-
Q15 平均値	4.1	4.0	4.1	4.3	4.3	4.2	4.4	4.4	-
Q16 平均値	3.9	3.8	4.0	4.1	4.0	4.1	4.1	4.1	-
Q17 平均値	4.0	3.9	4.0	4.1	4.1	4.2	4.3	4.3	-
Q18 平均値	4.0	3.9	4.1	4.2	4.1	4.2	4.2	4.2	-
Q19 平均値	3.8	3.7	3.8	3.8	3.7	3.8	4.1	4.1	-
Q20 平均値	3.7	3.6	3.7	3.9	3.8	4.0	4.0	4.0	-
Q21 平均値	3.7	3.6	3.7	3.7	3.7	3.8	4.0	4.0	-
有効回答数	7,904			3,062			406		

(学部)学科・専攻・部門 専任・非常勤区分	(総合教育研究) 教職課程		
	全体	専任	非常勤
Q4 平均値	4.5	4.5	4.5
Q6 平均値	1.2	1.2	1.2
Q7 平均値	1.2	1.2	1.2
Q8 平均値	3.9	3.9	3.9
Q9 平均値	4.4	4.4	4.3
Q10 平均値	4.4	4.5	4.4
Q11 平均値	4.3	4.4	4.2
Q12 平均値	4.1	4.2	4.0
Q13 平均値	4.2	4.2	4.2
Q14 平均値	4.4	4.4	4.3
Q15 平均値	4.3	4.3	4.2
Q16 平均値	4.0	4.2	3.9
Q17 平均値	4.2	4.3	4.1
Q18 平均値	4.1	4.2	4.1
Q19 平均値	4.0	4.0	4.0
Q20 平均値	4.0	4.0	4.0
Q21 平均値	4.0	4.0	3.9
有効回答数	1,358		

「学生による授業アンケート（前期）」集計結果について

(1) 今年度前期の授業アンケートは、質問項目について、よりの確な質問にするため設問文と選択肢の文言を修正すると共に、予習・復習にあてた時間を分けて質問する項目と教員が任意に設定して質問する項目を設けて実施した。

(2) まず、今回の回答率は 52.1%であった。C-Learning による回答方式を開始した 2014 年度前期が 56.2%、2015 年度前期が 58.7%と上昇傾向にあった中で、6.6%と大きく低下した点については、後期実施分の回答率を向上させるためにも、その原因の検証と対策が必要であろう。

(3) 次に、学年別平均値について、昨年度前期と比較すると、数値が低下した個数(12)よりも上昇した個数(18)の方が多く、全体的な結果は向上していると捉えてよいと思われる。また、数値が低下した個数と上昇した個数を学生に関わる質問項目(Q4・Q5～Q8・Q19～21)と教員に関わる質問項目(Q9～Q21)に区分けしてみると、学生に関わる質問項目は低下7・上昇5、教員に関わる質問項目は低下7・上昇15となる。早計かもしれないが、授業改善に向けた教員の取り組みが、一定程度、奏功しているのではなかろうか。

予習・復習時間に関する質問項目(Q6・Q7)については、1年生から3年生について0.1低下し、全体平均値は予習・復習時間いずれも1.4と低水準である。この結果によれば、学生の勉強の絶対量が少ないものと考えられるところ、今後の授業運営を組み立てる上で考慮すべき指標の一つとなろう。

また、昨年度前期と比較して、全学年で数値が上昇した質問項目はQ11(授業にはおおむねシラバスの内容が反映されていますか)である。数値の差は0.1～0.2と若干ではあったが、シラバスの在り方が注視されている昨今の情勢に鑑みれば、良い結果となった。これに対し、全学年で数値が低下した質問項目はQ10(通常通り、授業回数は確保されていますか)である。もっとも、数値は4.3～4.4と高水準であり、また、数値の差は0.1であって、憂慮するほどではない。

また、昨年度前期でも見られた傾向であるが、学年が上がることに回答率が減少している(1年生72.7%、2年生51.1%、3年生38.7%、4年生23.0%)。学生の授業への出席率も影響しているものと考えられるが、授業アンケートに対する学生の認識・理解に向けたより一層の取り組みが必要となろう。

(4) 入試形態別平均値について、入試形態に直接関

係すると思料される質問項目(Q4・Q5～Q8・Q19～21)に絞って昨年度前期と比較すると、全ての入試形態で数値が上昇した質問項目はQ4(この授業を何回欠席しましたか)であり、数値の差は0.1～0.2であった。これに対し、ほぼ全ての入試形態で数値が低下した質問項目は予習・復習時間に係るQ6・Q7であり、数値の差は0.1～0.3であった。

また、数値が上昇した個数が低下した個数を上回った入試形態は、一般推薦入試(上昇2・低下1)と帰国生特別入試(上昇3・低下2)の2つのみであった。

さらに、理由は明らかではないが、留学生特別入試は、前記の質問項目の全てで最も数値が高かった。これに対し、最低値となった質問項目数で比較すると、附属推薦入試(5)、一般推薦入試(4)、指定校推薦入試(3)、大学入試センター試験利用入試(2)、スポーツ推薦入試(2)、一般入試(1)、帰国生特別入試(1)、編入学試験(0)の順であった。

(5) 学部学科・専攻・部門別平均値について、質問項目毎に学部等間で比較すると、平均0.8、最低0.4(復習時間に関するQ7)、最高1.6(Q15教員の話し方・声のボリュームは聞き取りやすいですか)の差となった。もちろん、回答数に大きな差があることや受講人数の差異、各学部等の特性なども考慮に入れなければならないが、いずれの質問項目についても学部等間で差が生じない方が望ましいので、そのための取り組みが引き続き必要となろう。

また、全学的に専任教員と非常勤教員に分けて、それぞれ全ての質問項目(Q4・Q6～21)の合計数値の平均値を比較すると、いずれも61.3となり、差はなかった。しかし、専任と非常勤双方の数値がある学部等について、個別に同様の比較をすると、平均1.7、最低0.1、最高5.3の差となった。

(6) 最後に、教員のC-Learningへのログイン状況について、7月22日時点で、アンケート実施期間内と実施後にログインした割合の合計数値は、専任教員63.5%、非常勤教員39.7%であった。本学の授業アンケートは、結果を学生に対して適宜の方法でフィードバックすることも含めた形で組み立てられている。また、学生からしても、アンケート結果が活用されていることを実感できなければ、アンケートに協力しようという意識も生じにくいであろう。

(7) 以上、前期の授業アンケートの集計結果についてコメントしてきたが、他の見方や評価も十分にあると思われるので、個々にご検討頂き、今後の授業運営に役立てて頂ければ幸いである。

(田中 優企)

連載企画：よりよい教育のために

「就活」と授業運営

法学部 学部長 高橋 洋城

ほとんどの学生にとって「就職」が大学生活最大の目的であることは間違いないが、「就活」によって授業や演習の運営に大きな——たいていの場合負の——影響を被っているのは大学教員共通の悩みではないかと思う。私自身もそれに対して何か妙案があるわけではない。ただ一方で、「就活」が授業・演習にもたらすプラスの効果を実感しているところもある。

一昨年度の演習では、近年法学分野でも流行した「アーキテクチャ」なる概念をテーマに選んだ。これは、法規範などによる規制とは異なる、物理的環境やソフトウェアによって一定の方向に行動を誘導するもの一般を指す概念であるが、2000年代から使われ始めた新奇な概念であるだけに、私自身も雲を掴むような思いでゼミを進めていたし、当然ながらゼミ生の反応も全然ヴィヴィッドなものではなかった。

しかし授業期間も終わる頃になると、就活を終えた学生から、ゼミでの議論が就活でも役だったという話を聞かされた。企業の面接官にとってもおそらく聞いたことのない用語であったためか、法と関係する「アーキテクチャ」とは一体何のことかと、概念の定義やその意義の説明を面接で聞かれることが多かったというのである。

日常のゼミにおいては、報告者の学生も消化不良な内容を自信ないまま説明してしまうことが多いし、質問者に回った際も、理解の不十分さに加え自分が報告者の立場になったときのことを考えるのか今ひとつ厳しい質問や批判が出てこない。一方、教員としてはできるだけ学生の意図するところを酌みとり、評価してやる姿勢で臨まざるをえない。その相乗効果で、当該年度に限らず、ゼミでは非常にゆい質疑応答に終始することがしばしばである。

一方、企業の面接に行けば面接官は容赦せず学生の素質を見抜く気持ちで質問を浴びせるであろうし、学生も必死で答えようとする。そして次の会社の面接に備えさらに自学自修したことであろう。学生は授業時よりもさらに高いテンションの中で、主体的に授業の成果を咀嚼しなおして自分の言葉で説明す

る努力を行っているように思われる。

もちろん、大学の中でそうした学生の能動的な姿勢を引き出すことこそが、現在大学教員に求められている能力であるが、有能な人材を選別したいという冷徹な企業側の姿勢が学生に与える緊張感とそれが生み出す効果は、学内の教育現場では得にくいものでもある。むしろこのような場面をあらかじめ想定したゼミ運営を行うことが私自身の課題であるし、一般的にも、避けることのできない就活というイベントそのものを有機的に教育活動に組み込むことができれば、学生・教員双方にとって望ましいことであろう。すでに多くの先生方がそれぞれ実践されていることと思われるが、そうした工夫をこれから色々な機会にうかがうことができれば大変有益なことと思う。

FD推進委員会の今後の活動予定

- 平成 28 年度第 5 回FD推進委員会小委員会
平成 28 年 10 月 17 日（月） 14：40～
- 平成 28 年度第 3 回FD推進委員会
平成 28 年 11 月 4 日（金） 16：20～

※FD活動についてご意見がありましたら、各学部等の小委員会委員までお申し出ください。

2016 年度「公開授業」実施のお知らせ

今年も例年通り 11 月中旬から 12 月上旬にかけて「公開授業」を実施いたします。「公開授業」はよりよい授業の在り方を再考し、教える技術（教授法）について学ぶことができる貴重な機会となりますので是非ご参加ください。

日程等、詳細が決定しましたら、各学部等事務室及びKONMAでお知らせいたします。

～2016 年度「学生による授業アンケート」
(後期) 実施のお知らせ～

実施期間：平成 28 年 11 月 9 日 (水) ～30 日 (水)
対象科目：全科目対象 (集中講義科目、演習科目、
受講生が 20 名未満の科目は除く)
※WEBによるアンケートを実施しています (PC、
スマートフォン、携帯電話、タブレット等を使用し
て回答されます)。



編集後記

リオオリンピック、リオパラリンピックも終了致しましたが、日本選手団の活躍が今も熱く思い出される日々です。メダルを取れた方、入賞した方、出場を果たせた方々、そしてそれを支えた周りの方々はもちろんのこと、オリンピックの舞台に立とうと心に決めている方々は、すでに次の東京オリンピックという大きな目標に向かって今も絶え間ない努力をしている真っ最中と思います。さて、今回のオリンピック、パラリンピックの日本選手団の結果に負けない程、本学の授業アンケートの結果も各項目の平均点が向上しています。これもひとえに前年度の授業アンケート結果を参考に、各先生方がより良い授業へ向かって絶え間ない努力をして頂いた進化の結果と考えております。ありがとうございました。そして、次なる授業進化のきっかけとなる、「ベスト・ティーチング賞」では、オリンピックさながらに設けられた各賞が受賞される先生方に授与されます。駒澤大学の東京オリンピックは4年後を待たず間もなく開催予定です。お互いに手を取り合って駒澤大学の向上のために頑張ってください。今後とも今までと変わらず、FD活動に熱いご協力をお願い申し上げます。

(田中優企、熊坂さつき)

【タイトル横の写真は、

本部棟ロビーのアクティブ・ラーニングスペース】

FD NEWSLETTER Sep. 2016 第 48 号

発行日：2016 年 9 月 30 日

発行者：駒澤大学FD推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1

TEL 03-3418-9444 Fax 03-3418-9114

(事務局：教務部)



CONTENTS

- 大学教育の質保証と学生移動の促進
グローバル・メディア・スタディーズ学部
学部長 各務 洋子
- 平成 28 年度公開授業の実施について
■平成 28 年度「公開授業」を参観して
グローバル・メディア・スタディーズ学部
准教授 服部 哲
- 公開授業を終えて
総合教育研究部准教授 畠山 寛
- 「風通しのよさを求めて」
総合教育研究部准教授 小黒 昌文
- 平成 28 年度第 1 回 F D 研修会
- F D 推進委員会の今後の活動予定
F D 研修会開催のお知らせ

大学教育の質保証と学生移動の促進

グローバル・メディア・スタディーズ学部
学部長 各務 洋子

中央教育審議会において、「教育の質保証」が重点課題となって久しい。我が国を支える多様な人材育成のために具体的な取り組みが検討されてきた。その中で「学生移動の促進」がある。これは、それぞれの大学の特徴を活かしながら、各大学の協力によって全国規模での実質的な教育の質保証・向上を達成する方法の一つである。基本的には以下 4 案があげられる。

- ① 一定数の教員が一定期間大学を移動し、授業を担当する（教員移動による教育水準の実質的保証）。
- ② 各大学のそれぞれの分野が、当該分野の他大学教員を外部試験委員に委嘱し、成績評価の過程に参加させる（他大学教員参加による成績評価水準の実質化）。
- ③ 学生が移動し、各大学の特徴を活かした科目を正規の科目として履修する（各大学授業に対する他大学学生による全国的授業評価の成立、教育の質の実質的評価と改善）。
- ④ 大学間の連携による e-ラーニング等を駆使した遠隔地教育の大規模な実施によって授業の共有を促進する（新時代の教育方法実践による質の実質的確保）。

上記①と②は当該分野の教員の理解と協力に依存すると考えられるが、ここで取り上げたい③の方法は、条件さえ整えば学生は比較的移動がしやすく、実現の可能性が最も高いと評価されている。すでに各地で実施されているコンソーシアムもそれにあたるが、幅広く考えれば、長期留学先での単位履修も含まれるのではないだろうか。更に、昨今の長期に亘る場合の企業インターンシップもまた課外での学習という意味ではカウントできるかもしれない。

日頃の教育現場の実感として言えることは、海外留学を強調している GMS 学部の学生においても、この 1～2 年前ごろからようやく増加しているという実感をもつのが長期留学希望者である。筆者のゼミでも、長期留学希望者はこれまで 1 学年に 1～2 名であったが、今年は 7 名が 2 年の後半、3 年の前半から留学が決定している。短くても半年は出る。また並行して、就職活動絡みの企業インターンシップが講義期間中に続々と実施され、授業の運営には影響がでる。窮余の策で 2 年前から講じた策は、長期留学生には、海外特派員と称して日常生活ばかりでなく、授業内容までも SNS を使って実況レポをさせることだ。今の所、学生にとっては功を奏している。

平成28年度公開授業の実施について

平成28年度「公開授業」を以下のとおり実施した。「公開授業」は、授業改善のための教員による相互研鑽を目的とし、工夫に富んだ授業に接し、その体験によるさまざまな発見を通して、今後の授業改善のためのヒントを得ることにある。

公開授業は、各学部等のFD推進部会のご協力により、各学部等主体にて実施された。

学部	担当教員	実施日	時限	教場	科目名称
仏教学部	松田 陽志	11/24 (木)	3	8-468	仏教漢文入門
	飯塚 大展	11/29 (火)	2	玉川-305	仏教と人間
	池上 光洋	11/30 (水)	6	禅研-坐禅堂	法式実習
	徳野 崇行	12/1 (木)	3	8-362	宗教学概論
文学部	櫻井 陽子	12/7 (水)	2	1研-1344	国語国文学演習II
経済学部	宮田 惟史	11/16 (水)	3	1-301	経済学史b
	百田 義治	11/17 (木)	4	1-403	ビジネス事例研究
	山縣 弘志	11/18 (金)	2	8-151	ロシア・東欧経済論b
	深見 泰孝		3	8-257	保険論b
	石川 純治		4	1-304	会計情報論b
	吉田 敬一	11/19 (土)	1	2研-102	中小企業政策論
	井上 智洋	11/21 (月)	1	1-301	経済政策b
	百田 義治		4	8-255	企業経営学b
	吉田 真広	11/22 (火)	1	8-255	国際金融論b
	明石 英人		2	9-405	社会科教育法VI (公民)
	増田 幹人			8-150	人口論b
	村松 幹二		3	8-466	制度の経済学
	王 穎琳			8-360	中国経済論b
	小西 宏美		4	8-361	グローバル・ファイナンスb
	荒木 勝啓	11/24 (木)	2	8-360	ミクロ経済学
	松井 柳平			8-152	ミクロ経済学
	森田 佳宏			8-255	会計監査論b
	長山 宗広			8-151	地域経済論b
	小栗 崇資	11/25 (金)	2	8-391	財務会計論b
	曾我 信孝			1-301	流通論基礎b
	明石 英人			8-255	社会経済学b
	吉田 真広		3	8-152	貿易史b
	浅田 進史		4	9-391	経済史b
	曾我 信孝		11/26 (土)	3	2研-203
	長山 宗広	11/28 (月)	2	1-202	起業論
	溝手 芳計			1-301	農業政策b

学部	担当教員	実施日	時限	教場	科目名称	
経済学部	矢野 浩一	11/28 (月)	3	1-201	経済統計b	
	鈴木 伸枝	11/29 (火)	1	8-257	公共経済学b	
	岩波 文孝	11/30 (水)	1	8-150	企業管理論b/経営管理論b	
	北口 りえ			9-392	税務会計論b	
	溝手 芳計		2	1-401	経済学入門b	
	松田 健		3	8-150	現代企業論b	
	渡邊 恵一		4	8-360	日本経済史b	
	溝手 芳計			1-401	経済学入門b	
	村松 幹二			8-256	契約理論	
	小林 正人		12/1 (木)	1	8-255	日本経済論b
	番場 博之				8-465	流通政策b
	鈴木 伸枝	1-301			ゲーム理論b	
	鄭 章淵	2		1-404	アジア経済論b	
	齊藤 正			1-403	現代銀行事情	
	中濟 光昭	3		1-201	経済情報システム論II	
	舘 健太郎			9-391	産業組織論b	
	鄭 章淵	4		禅研-304	経済外国書講読Ib/外国書講読Ib/ 経済外国書講読IIb/外国書講読IIb	
	堀内 健一	12/2 (金)		2	8-360	経済理論A・資本の原理
	光岡 博美		5	9-391	社会政策b	
	福島 浩治	12/5 (月)	2	9-391	国際経済論b	
江口 允崇	12/9 (金)	1	1-301	財政学b		
福島 浩治		2	2研-204	経済外国書講読Ib/外国書講読Ib/ 経済外国書講読IIb/外国書講読IIb		
西村 健	12/10 (土)	1	8-360	ミクロ経済学b		
西村 健		2	8-360	企業経済学b		
法学部	富樫 景子	11/25 (金)	3	9-391	刑法総論	
	逢坂 巖	11/30 (水)	3	8-467	ジャーナリズム論	
経営学部	中野 香織	11/16 (水)	3	1-401	マーケティング・コミュニケーション論	
	中川 淳平	11/25 (金)	2	8-466	経営学	
	飯田 哲夫	11/25 (金)	3	2研-203	経営数学B	
	明石 博行	11/30 (水)	4	8-255	経済原論	
	岸田 隆行	12/6 (火)	2	8-255	原価計算論	
医療健康科学部	馬込 大貴	11/16 (水)	3	9-170	画像工学概論I	
GMS学部	リスキー, マイケル	11/18 (金)	3	9-173	異文化経営論	
総合教育研究部	畠山 寛	11/29 (水)	2	1-515	ドイツ語IAb(選)	
	矢野 秀武	11/30 (水)	3	7-507	宗教学概説	

平成 28 年度「公開授業」を参観して

グローバル・メディア・スタディーズ学部
准教授 服部 哲

平成 28 年 11 月 18 日 (金) 3 時限 (9-173 教場)、グローバル・メディア・スタディーズ学部 (以下、GMS 学部) リンスキー・マイケル先生による『異文化経営論』を参観させていただいた。それはたいへん興味深い内容であった。グローバル時代、異文化を理解し、それに応じることは経営だけでなく、どの分野においても極めて重要なことである。今回の授業はそもそも文化とは何かを考えるものであった。国内外で展開されている議論を概観し、目に見える形で表出しているビジュアル化された文化と目に見えないが理解しなければならない文化、異文化を理解するにはこの両側面を理解しなければならないことが解説された。授業はすべて英語で行われた。もちろん、配布される資料やパソコンによって投影されるスライドもすべて英語であるが、分かりやすい丁寧な英語表現が用いられていたため、授業内容も理解しやすかった。「国際社会で通用する実践的な英語力を習得」することをコンセプトの一つとしている GMS 学部で学んでいる学生にとっても、英語で異文化経営について学ぶことは意義深いものである。

さて、当日の授業の実施状況について、まず初めに、前回実施の小テストが返却され、約 30 分間、その解説が行われた。解説では、学生が問題文(もちろん英語)を音読し、別の学生が口頭で回答し、それについて教員がコメントし、正答を黒板に板書した。単純に答え合わせをするのではなく、インタラクティブなやり方で学生に考えさせ、そして正答と解説を加えることによって、学生の理解度や知識の定着度も高まるものと思われる。小テストの解説後、新しい内容が導入された。先述のように、今回のテーマは「What is culture?」であった。授業資料としてスライドを印刷したものが配布され、そのスライドに沿って、「文化とは何か」について解説された。その際も、教員が一方向的に話すのではなく、学生に意見を求めるなど、インタラクティブなやり方で授業が進んだ。そのため、学生は受け身ではなく積極的に、かつ適度な緊張感を持って授業を受けることになり、学生の学ぶ意欲を引き出すものと思われる。このような進め方、つまり復習による知識の定着、それを踏まえた新しい内容の導入、そして学生とのインタラクションを筆者自身の授業にも取り入れていきたい。以上、リンスキー先生が行った工夫のすべてを述べているとは思えないが、この場をお借りして、授業参観を受け入れていただいたリンスキー先生に感謝の意を表します。

そして最後に 2 点、気になったことを述べたい。ひとつは教場が 130 周年記念棟の建設現場に隣接しているため「騒音」である。もうひとつは教場の大きさである。受講者数に対して教場が広すぎると感じた。どちらもしかたがないことであるが、学生のことを考えると、少しでも改善されればと思う。



(リンスキー、マイケル先生 公開授業)

公開授業を終えて

総合教育研究部 准教授 島山 寛

11 月 29 日 2 限に「ドイツ語 IAb (選)」の公開授業を行いました。この授業では 1 年をかけてドイツ語の基本的な文法事項を教えます。公開授業を行ったのは必修の語学の授業ではない選択科目だということもあり、もとより履修者は少ないのですが、当日は欠席者も多く、出席者 9 名と普段よりも少人数の授業となりました。私自身、公開授業を行うのは初めてのため、最初は緊張し、見学にいらした先生方の姿が目に入らないよう、極力教室後方を見ないようにしていましたが、しばらくしたら普段通りに授業を進めることができました。

この日は関係代名詞の説明をいたしました。授業では普段から教科書をなるべく使わないで文法の説明をするようにしています。教科書を見て、一方向的に説明するのではなく、ドイツ語を英語や日本語と比較することで、学生自身にドイツ語の文法の特徴を発見してもらいたいからです。そのため、学生には頻繁に発言をしてもらうようにしています。講評をいただいた先生方からも、この点について評価していただきました。その反面、学生の声小さかったり、応答がスムーズにいかない場面もあり、授業が沈滞気味に感じられたというご指摘もいただきました。ことばはコミュニケーションの道具としても用いられるものですから、私自身ドイツ語という言語を教える授業で、学生とのコミュニケーションを大切にしているだけに、このご指摘は自分の授業のありかたを改めて客観的に見る契機となりました。今後の授業の進め方の参考にさせていただきます。

この文章を書くにあたり、FD の一環として公開授業を行った身として、改めて公開授業の意義について考えていました。幾人かの先生から授業後に講評をいただき、それはそれとして非常に有益ではあったのですが、公開授業は、授業の改善に資するために先生方の講評をいただく、という実際的なことだけのためにあるのではなく、ましてやこのような文章を書くためにあるのでもないことはいうまでもありません。そうではなく、今回公開授業を行い、私にとって大きな意味を持ったのは、授業とは学問と研究の実践の場とし

て、そもそも開かれているものだということが意識できたことです。とかく閉鎖的になりがちな授業空間に、何人もの先生方に来ていただいたということで、授業とは研究と同じく、学問の場として切磋琢磨できる時間と空間であることを感じる事ができたと言えます。これは私にとっては非常にうれしいものでした。公開授業を行うことで、授業に対する意識が広がる経験を得ることができたからです。この場を借りまして、公開授業に来ていただいた先生方はじめ、FDの取り組みにご尽力されている教職員のみなさまにお礼申し上げます。ありがとうございました。



(畠山 寛 先生 公開授業)

連載企画：よりよい教育のために

「風通しのよさを求めて」

総合教育研究部 准教授 小黒 昌文

駒澤大学でフランス語を学ぶうえでの幸運のひとつは、南仏の古都エクス＝アン＝プロヴァンスに拠点をおくエクス＝マルセイユ大学との協定にもとづいて、日仏の学生間交流を実現するチャンネルが確立されていることでしょう。毎年3月には4週間の短期語学セミナーが実施され、専門分野の境界を越えて集まった10名ほどの学生が穏やかな環境でフランス語を学びます。さらには、1年間の長期留学も可能な仕組みが確保されており、近年では、選抜試験を乗り越えた学生1～2名が毎年のように派遣されています。

学習者の総数からすればささやかな数字だとは思いますが、しかし、出発に向けて準備をすすめるその姿勢や、新たな経験に肉付けされた帰国後の学生生活を見つめていると、留学に参加する学生自身だけでなく、彼らが交わる友人たちや教室全体の雰囲気にもまた、視野の広がりにつながった知的な風通しのよさが生まれることに気づかされます。教員として前に立つみずからまた、そうした空気を大切に感じつづけ、また、生み出すことのできる存在でありたいと思う瞬間です。

「何が何でも留学だ」などと押しつけがましく唱える必要はなく、

「異文化交流」という、それ自体は豊かであるはずの言葉を不自然に振りかざして、珍妙に美化された未来予想図を描くべきでもないでしょう。ただ、そうした展望が可能性として開かれているという環境自体が、ときには教室に活力をもたらし、ときには辞書のページを孤独にめくるその意識を密やかに支えることがあるということを知っておく必要があるだろうと思います。

留学制度についてもう一点強調しておきたいのは、フランスからもまた、毎年2名の留学生が1年間の予定で来日してくれているという事実です。2年ほどまえになりますが、彼らからの親切な申し出を受け、1年生の授業に参加してもらった機会がありました。かりに簡単な挨拶しかできなかったとしても、あるいは言葉を発することのできないもどかしさを感じるだけであっても良いのです。駅前留学的な安直な発想ではなく、留学生がおなじ学び舎にいて、同じように生活をしていて、ときには自分たちにも興味を持っているのだというその事実を知ることが、どれほどの力になるかを教えられました。

彼らとの交流については、すでに「グローバルサロン」という場を設ける試みが動き出していますが、授業という場においてもそのような機会を作る意義について考え、心地よい風がながれる場の生成へとつながる努力を重ねてゆきたいと思います。

平成28年度 第1回FD研修会

平成28年度FD研修会は、9月20日(火)午後4時20分から5時50分まで中央講堂で行われた。テーマは「教育の質保証にいかに取り組みべきかー3つのポリシーの設定と内部質保証システムの機能化ー」で、大学基準協会 事務局長 大学評価・研究部長の工藤潤先生に基調講演をしていただいた。その後、工藤潤先生に本学の桑田禮彰先生(教育研究担当副学長)、猿山義広先生(教務部長)そして多良和己部長(法人企画部)を加えた4名のパネリストにファシリテーターとして青木茂樹先生(FD小委員会副委員長)を迎えた5名の先生による「本学における教育の質保証の方向性」についてのパネルディスカッションが行われた。

基調講演において工藤潤先生は、『大学が一体となって、内部質保証システムを有機的・効率的に構築していく事が重要性である』という主軸の本、配布資料等を交えながら、大学基準協会が示している内部質保証の方向性について明確なお話しをしてくださった。パネルディスカッションでは、『本学の内部質保証への取り組みは、トップダウンだけでなく、学部・学科、研究科の自治もそこに加えた本学独自の取り組みをしていく事が大切である』との意見交換が熱心に行われた。会場からも、本大学が置かれている現状が待たなしの状況である事がわかったというような事など、多くの質問が出された。参加者102名の盛会となり、本学におけるFD活動の活発化を実感できる研修会であった。

又、今回は初めての試みである「FD研修会アンケート」調査を行った。アンケート提出者は80名(回収率78.4%)であり、高い回

答率を得た。アンケート結果を見てみると、今回のFD研修会への満足度は「満足」「やや満足」を含め70%、基調講演への満足度は「満足」「やや満足」を含め61%、パネルディスカッションへの満足度も「満足」「やや満足」を含め61%と非常に高い満足度を示していた。この事より、参加者の本研修会テーマへの関心の高さと理解度の高さが垣間見えた。これに対し、研修内容の活用の可能性に関しては、「そう思う」「ややそう思う」を含め41%と低い値を示していた。この質問に対しては「どちらともいえない」という回答が38%と最も多かった。これらのアンケート結果より、今回の研修内容は大学全体で考えていかなければいけない大きなテーマだっただけに、具体的な活用というよりは意識改革をした参加者が多かった事が示唆できた。更に自由記述でも多くの意見が寄せられ、「非常に参考になった」、「学部の3つのポリシーを考える上での一助にしたい」等の意見が目立った。FD推進委員会としては、今後も「FD研修会」においてアンケート調査を行い、アンケート結果をPDCAに活用し、FD研修会の内部質保証に努めたい。

(FD推進委員会小委員会委員 熊坂 さつき)



(パネルディスカッションの様子)

FD推進委員会の今後の活動予定

- 平成28年度第4回(臨時)FD推進委員会
平成29年1月12日(木)
- 平成28年度第6回FD推進委員会小委員会
平成29年1月12日(木)
- 平成28年度第5回FD推進委員会
平成29年3月10日(金)

*FD活動についてご意見がありましたら、各学部等のFD推進委員会小委員会委員まで申し出てください。

平成28年度 第2回FD研修会のお知らせ

日時：平成29年2月1日(水) 午後4時20分～
場所：中央講堂
テーマ：新しい教育方法と教育活動の質の向上
講師：山梨大学 森澤正之 先生
※詳細については、後日、ご案内いたします。

編集後記

「忘れられない恋議でした。」昨年11月、学内に貼られたこの印象的なポスターのフレーズに目を留めた方も多いのではないだろうか。説明を読むと、「講義をはじめ、演習、実習、実験、実技の内容、教え方などに強く惹かれること。また、切ないまでに深く思いを寄せること」とある。これはもちろん、今年度から始まった「学生が選ぶベスト・ティーチング賞」のPRポスターであり、10月半ばに活動を開始したばかりの学生FDスタッフの創意によって制作されたものである。わずかな期間にこうしたポスターやPR動画を完成させ、広報活動を成功させたメンバーたちの熱意には、一教員として大変感銘を受けた。彼らのさらなる活躍に期待したい。

現在、FD推進委員会小委員会には、4つのワーキンググループが設置されている。それらはおおよそ、ベスト・ティーチング賞、授業アンケート、FD研修会、公開授業という4つの活動に対応し、それぞれが通年で熱心に活動しているが、今号は第1回FD研修会と公開授業についての記事を中心にお届けしている。公開授業の実施者として記事を執筆してくださったドイツ語の畠山寛先生の授業には、私も参加させていただいたが、重要事項を何度も学生に言わせてその場で文法事項の定着を図るなど、自分の授業でも採り入れたくなる工夫が数多くあった。先生にはこの場を借りてお礼を申し上げます。

次号の『FD NEWSLETTER 第50号』は、ベスト・ティーチング賞や学生による授業アンケート、第2回FD研修会の結果報告が中心となる。是非また手に取っていただきたい。

(高 媛、東 辰之介)

【タイトル横の写真は、第1回FD研修会の様子】

FD NEWSLETTER Dec. 2016 第49号

発行日：2016年12月15日

発行者：駒澤大学FD推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1

TEL 03-3418-9444 Fax 03-3418-9114

(事務局：教務部)

FD NEWSLETTER



CONTENTS

- 「良い先生」と授業用クローン
総合教育研究部 部長
池上 良正
- 2016年度「学生による授業アンケート」
(後期) 集計結果
- 生涯スポーツ演習Ⅱスポーツ・スポーツに対する
スポーツ・健康科学部門の取り組み
総合教育研究部
教授 江口 淳一
- 第2回FD研修会
- 学生が選ぶ
ベスト・ティーチング賞授賞式
- 平成29年度新規採用教員
オリエンテーション開催のお知らせ

「良い先生」と授業用クローン

総合教育研究部 部長
池上 良正

すべての人にとっての「良い人」はいないし、すべての人にとっての「悪い人」はいない。同じように、すべての学生にとっての「良い先生」「悪い先生」もないはずだ。そうは言っても、せっかく入った大学の4年間で、「良い先生」にひとりも出会わなかったということになると、いかにも残念な話だし、学校にとっても由々しき状況だろう。

学生ひとりひとりの性格や育った環境は多様で、追い求める夢にも幅があるから、それぞれの期待に応えようとすれば、大学としても多様な「個性」をもった教員たちを配備しておく必要がある。もちろん、ここでの「個性」とは、やりたい放題に自我を暴発させることではないし、「協調性」の反対語でもない。高品質の教育・研究を求めて、日々の内省と努力の積み重ねのうえで発揮される、独自の人間力のことである。

少し怖い近未来譚だが、学生から「最良の先生」と絶讃された人たちのDNAをプールし、それらを集めて作ったクローン人間を教員にした学校が開設されたとする。どの先生もいつも同じ笑顔で見分けがつかない、という難点さえ我慢すれば、学生による授業評価は飛躍的に向上し、教員への苦情がSNSで拡散されるようなトラブルも減るだろう。管理運営者にとっては好ましい状態かもしれないが、果たしてこれが「理想の学校」なのか。人間の世界は常に個性と個性のぶつかり合いだから、「良い」「悪い」も「好き」「嫌い」も比較的短期間で容易に反転するし、そもそも自分の生涯で本当に大切な価値を、短いタイムスパンの評価で判断できるとは限らない。

「同一名称の科目なら、シラバスもテキストも統一すべきだ」といった考え方も、そういう整合性に美意識を感じられる人たちは従えばよい。でも、これが全教員の規範だと言われると、うすら寒い気分になる。ならば個性的で、それゆえに扱いが厄介な教員をわざわざ高い給料で雇うより、時の教育課程を忠実に履行できる授業用クローンでも開発し、大量生産した方が得策ではないか、といった悪態のひとつも吐きたくなくなる。

まあ、これはこれで、私自身の困った「自我の暴発」なんだろうけれど……

2016 年度「学生による授業アンケート」(後期) の集計結果について

2016 年度「学生による授業アンケート」(後期)を以下のとおり実施した。

実施日	平成 28 年 11 月 9 日 (水) ~ 11 月 30 日 (水)
対象科目	1,757 科目
対象者数	141,106 人 (延べ人数)
実施科目数	1,757 科目
有効回答数	60,514 件 (42.9%)

【質問項目】

Q1. 所属学部学科等

20 : 仏教 19 : 国文 18 : 英米文 17 : 地理 16 : 日本史学
15 : 外国史学 14 : 考古学 13 : 社会学 12 : 社会福祉学
11 : 心理 10 : 経済 9 : 商 8 : 現代応用経済 7 : 法律 A
6 : 法律 B 5 : 政治 4 : 経営 3 : 市場戦略
2 : 診療放射線技術科 1 : グローバル・メディア

Q2. 学年

5 : 4 年 4 : 3 年 3 : 2 年 2 : 1 年 1 : その他

Q3. どのような入学試験を受けて、あなたは本学に入学しましたか。

11 : 一般入試 10 : 大学入試センター試験利用入試
9 : 一般推薦入試 8 : スポーツ推薦入試 7 : 指定校推薦
6 : 附属校推薦入試 5 : 留学生特別入試
4 : 帰国生特別入試 3 : 編入学試験 2 : その他の試験
1 : 回答しない

Q4. この授業を何回欠席しましたか。

5 : 0 回 4 : 1~2 (半期科目)、1~4 (通年科目) 回
3 : 3~4 (半期科目)、5~9 (通年科目) 回
2 : 5~6 (半期科目)、10~13 (通年科目) 回
1 : 7 (半期科目)、14 (通年科目) 回以上

Q5. どのような理由でこの授業を履修しましたか。(複数選択可)

7 : シラバスを見て授業内容に興味を持った
6 : シラバス以外の情報(友人等)により、授業内容に興味を持った
5 : 履修モデル(コース制等)を見て決めた
4 : 資格の取得

3 : 必修科目または選択必修科目だったから

2 : 時間割(曜日時限)を考慮して決めた

1 : その他

Q6. この授業の予習にあてている時間は 1 週間に何時間くらいですか。

Q7. この授業の復習にあてている時間は 1 週間に何時間くらいですか。

(Q6・7 選択肢)

5 : 4 時間以上

4 : 3 時間以上~4 時間未満

3 : 2 時間以上~3 時間未満

2 : 1 時間以上~2 時間未満

1 : 1 時間未満

Q8. あなたは授業に熱心に取り組んでいますか。

Q9. 授業はほぼ定刻通りに実施されていますか。

Q10. 通常通り、授業回数は確保されていますか。(補講・YeStudy 等による課題授業含む)

Q11. 授業にはおおむねシラバスの内容が反映されていますか。

Q12. この授業の進み方はあなたにとって適切ですか。

(Q8~12 の選択肢は 3 ページに記載)

Q13. 教科書・配付資料等は授業内容を理解するうえで効果的ですか。

5 : とてもそう思う

4 : そう思う

3 : どちらとも言えない

2 : あまりそう思わない

1 : 全くそう思わない

0 : 教科書・配付資料等がない授業

Q14. 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられますか。

Q15. 教員の話し方・声のボリュームは聞き取りやすいですか。

(Q14・15 の選択肢は 3 ページに記載)

Q16. 板書や投影されたスクリーンの文字・図表等は見やすいですか。

5 : とてもそう思う

4 : そう思う

3 : どちらとも言えない

2 : あまりそう思わない

1 : 全くそう思わない

0 : 板書・スクリーンへの投影がない授業

Q17. 教員は授業内容に沿った授業環境・雰囲気づくりに配慮していますか。

(Q17 の選択肢は Q21 の後に記載)

Q18. 教員はあなたの意見や質問に対して適切に対応していますか。

5: とてもそう思う

4: そう思う

3: どちらとも言えない

2: あまりそう思わない

1: 全くそう思わない

0: あなたが当該授業において意見・質問をしたことがない場合

Q19. この科目の授業内容についてよく理解できていますか。

Q20. 授業内容に興味を持っていますか。

Q21. あなたはこの授業の到達目標を達成できると思いますか。

(Q8~12・14・15・17・19~21 選択肢)

5: とてもそう思う

4: そう思う

3: どちらとも言えない

2: あまりそう思わない

1: 全くそう思わない

Q22. 教員自由設定質問

Q23. この授業のよかった点を具体的に記入してください。

Q24. この授業の改善してほしい点を具体的に記入してください。

【学年別平均値】

表 1 はアンケート質問項目 (Q4・6~21) の学年別平均値を示したものである。

表 1 学年別の平均値

学年別	1年	2年	3年	4年	その他
Q4 平均値	4.3	4.2	4.1	3.7	3.7
Q6 平均値	1.2	1.3	1.3	1.3	1.9
Q7 平均値	1.2	1.3	1.3	1.4	1.9
Q8 平均値	3.7	3.7	3.8	3.7	3.6
Q9 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2
Q10 平均値	4.3	4.3	4.3	4.4	4.2
Q11 平均値	4.1	4.1	4.2	4.3	3.9
Q12 平均値	3.9	3.9	4.0	4.1	3.6
Q13 平均値	3.9	3.9	4.0	4.1	3.3
Q14 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.0
Q15 平均値	4.1	4.1	4.1	4.3	4.0
Q16 平均値	3.9	3.9	3.9	4.0	3.6
Q17 平均値	4.0	4.1	4.1	4.2	3.9
Q18 平均値	4.1	4.1	4.1	4.2	4.0
Q19 平均値	3.7	3.8	3.8	3.8	3.7
Q20 平均値	3.8	3.9	3.9	4.0	3.7
Q21 平均値	3.7	3.8	3.8	3.8	3.6
有効回答数	25,614	15,459	9,484	2,825	49

【入試形態との関連】

2010年度より、入試形態と学生の授業への取り組み（出席状況、予習・復習時間など）との関連を把握するために入学試験タイプの質問を追加している（Q3）。なお、回答は任意とした（回答率99.4%）。（表2 入試形態別の項目別平均値）

表2 入試形態別の項目別平均値（Q4・6～21）

入試形態別	一般入試	大学入試センター試験 利用入試	一般推薦入試	スポーツ推薦入試	指定校推薦入試	附属校推薦入試	留学生特別入試	帰国生特別入試	編入学試験	その他	回答しない
Q4 平均値	4.2	4.1	4.2	4.1	4.3	4.3	4.3	4.1	4.2	4.3	4.1
Q6 平均値	1.2	1.3	1.2	1.3	1.3	1.2	1.8	1.7	1.4	1.2	1.4
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.9	1.7	1.5	1.3	1.3
Q8 平均値	3.7	3.7	3.7	3.8	3.8	3.7	4.2	3.9	4.0	3.9	3.6
Q9 平均値	4.2	4.2	4.2	4.1	4.2	4.2	4.4	4.2	4.4	4.4	4.1
Q10 平均値	4.3	4.3	4.3	4.2	4.3	4.3	4.5	4.2	4.4	4.4	4.2
Q11 平均値	4.2	4.1	4.1	4.1	4.2	4.1	4.4	4.1	4.4	4.2	4.0
Q12 平均値	4.0	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	4.3	3.9	4.2	4.0	3.7
Q13 平均値	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.8	4.2	3.7	4.1	4.0	3.8
Q14 平均値	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.4	4.2	4.5	4.3	4.1
Q15 平均値	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.4	4.1	4.4	4.2	4.1
Q16 平均値	3.9	3.8	3.8	3.9	3.9	3.8	4.4	4.0	4.2	4.0	3.8
Q17 平均値	4.1	4.0	4.1	4.1	4.1	4.0	4.4	4.1	4.3	4.1	4.0
Q18 平均値	4.1	4.1	4.1	4.0	4.1	4.0	4.4	4.1	4.4	4.1	3.9
Q19 平均値	3.8	3.8	3.7	3.7	3.8	3.7	4.2	3.9	4.1	3.7	3.7
Q20 平均値	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	4.2	3.9	4.2	3.9	3.8
Q21 平均値	3.7	3.7	3.7	3.8	3.8	3.7	4.2	3.9	4.1	3.8	3.6
有効回答数	28,892	5,346	5,251	1,474	6,073	4,406	789	101	387	377	335

【学部学科・専攻・部門別集計結果】授業担当者の所属別に、専任教員と非常勤教員を分けて集計をした。

表3 教員所属の学科・専攻・部門別平均値 (Q4・6~21)

(学部)学科・専攻・部門 専任・非常勤区分	(仏教) 禅			(仏教) 仏教			(文) 国文		
	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値	4.1	4.1	4.1	4.0	4.1	3.8	4.3	4.4	4.3
Q6 平均値	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.3	1.3	1.4	1.2
Q7 平均値	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.4	1.3	1.3	1.2
Q8 平均値	3.4	3.4	3.2	3.6	3.6	3.5	3.8	3.8	3.8
Q9 平均値	3.9	3.9	4.2	4.1	4.0	4.4	4.2	4.2	4.3
Q10 平均値	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.4	4.4	4.4	4.4
Q11 平均値	4.0	4.0	3.9	4.1	4.0	4.2	4.2	4.2	4.3
Q12 平均値	3.9	3.9	3.5	3.9	3.9	3.8	4.1	4.0	4.1
Q13 平均値	3.7	3.7	4.0	3.8	3.8	4.0	4.2	4.2	4.3
Q14 平均値	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.4	4.4	4.4	4.4
Q15 平均値	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.4	4.4	4.3	4.4
Q16 平均値	3.7	3.7	3.7	3.8	3.8	3.8	4.1	4.0	4.1
Q17 平均値	3.9	4.0	3.9	4.0	4.0	4.1	4.3	4.2	4.3
Q18 平均値	4.0	4.0	4.2	4.0	3.9	4.2	4.2	4.2	4.3
Q19 平均値	3.5	3.5	3.4	3.6	3.6	3.6	3.8	3.8	3.9
Q20 平均値	3.5	3.5	3.4	3.6	3.6	3.8	4.0	4.0	4.1
Q21 平均値	3.5	3.5	3.5	3.6	3.6	3.6	3.8	3.7	3.9
有効回答数	1,491			2,194			1,323		

(学部)学科・専攻・部門 専任・非常勤区分	(文) 英米文			(文) 地域文化			(文) 地域環境		
	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3
Q6 平均値	1.3	1.4	1.3	1.3	1.2	1.3	1.3	1.3	1.2
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
Q8 平均値	3.9	3.9	4.1	3.7	3.7	3.9	3.8	3.8	3.7
Q9 平均値	4.3	4.2	4.4	4.2	4.1	4.3	4.3	4.3	4.1
Q10 平均値	4.4	4.4	4.4	4.3	4.2	4.4	4.3	4.4	4.2
Q11 平均値	4.3	4.3	4.3	4.2	4.1	4.3	4.2	4.3	4.0
Q12 平均値	4.1	4.1	4.2	4.0	3.8	4.2	4.0	4.0	4.0
Q13 平均値	4.1	4.0	4.3	3.9	3.8	4.2	4.1	4.1	4.0
Q14 平均値	4.4	4.4	4.4	4.1	4.1	4.3	4.3	4.3	4.2
Q15 平均値	4.2	4.1	4.4	4.0	3.9	4.3	4.3	4.3	4.3
Q16 平均値	4.2	4.2	4.2	3.9	3.7	4.1	3.9	3.9	4.0
Q17 平均値	4.2	4.2	4.3	4.0	3.9	4.2	4.2	4.2	4.1
Q18 平均値	4.3	4.2	4.3	4.0	3.9	4.1	4.1	4.1	4.1
Q19 平均値	4.0	4.0	4.2	3.7	3.6	4.0	3.7	3.7	3.9
Q20 平均値	4.0	4.0	4.1	3.8	3.7	4.0	3.9	3.9	3.9
Q21 平均値	4.0	3.9	4.0	3.7	3.6	3.9	3.8	3.8	3.7
有効回答数	992			933			623		

(学部)学科・専攻・部門	(文) 日本史学			(文) 外国史学			(文) 考古学		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q4 平均値	4.3	4.4	4.2	4.2	4.4	4.1	4.3	4.5	4.2
Q6 平均値	1.2	1.2	1.3	1.3	1.2	1.4	1.1	1.1	1.2
Q7 平均値	1.3	1.2	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.1	1.2
Q8 平均値	3.7	3.8	3.7	3.8	3.9	3.8	3.7	3.7	3.7
Q9 平均値	4.0	3.8	4.2	4.1	4.0	4.2	4.2	4.2	4.2
Q10 平均値	4.2	4.1	4.3	4.3	4.1	4.4	4.3	4.3	4.3
Q11 平均値	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.3	4.1	4.1	4.1
Q12 平均値	3.9	3.8	3.9	4.0	4.0	4.1	3.8	3.9	3.7
Q13 平均値	3.9	3.8	4.0	3.7	3.4	4.0	3.8	4.0	3.5
Q14 平均値	4.0	4.0	4.1	4.3	4.3	4.4	4.2	4.3	4.1
Q15 平均値	4.0	3.9	4.1	4.2	4.2	4.3	3.9	4.0	3.7
Q16 平均値	3.7	3.5	3.8	3.9	4.0	3.9	3.6	3.8	3.4
Q17 平均値	4.0	3.9	4.0	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	3.9
Q18 平均値	4.0	3.9	4.1	4.2	4.1	4.2	4.1	4.3	3.9
Q19 平均値	3.7	3.6	3.7	3.8	3.6	3.9	3.6	3.7	3.5
Q20 平均値	3.8	3.7	3.8	4.0	3.9	4.1	3.8	3.9	3.6
Q21 平均値	3.6	3.6	3.7	3.8	3.7	3.9	3.6	3.7	3.5
有効回答数	1,214			936			500		

(学部)学科・専攻・部門	(文) 社会学			(文) 社会福祉学			(文) 心理		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q4 平均値	4.4	4.4	4.4	4.4	4.5	4.3	4.3	4.4	4.3
Q6 平均値	1.3	1.2	1.4	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.2
Q7 平均値	1.4	1.4	1.4	1.1	1.1	1.1	1.2	1.3	1.2
Q8 平均値	3.8	3.6	3.9	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7
Q9 平均値	4.2	4.3	4.2	4.2	4.1	4.3	4.3	4.5	4.3
Q10 平均値	4.3	4.3	4.4	4.3	4.3	4.3	4.4	4.5	4.4
Q11 平均値	4.2	4.3	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	4.3	4.2
Q12 平均値	3.8	4.0	3.6	4.0	4.1	3.9	4.0	4.1	4.0
Q13 平均値	3.1	3.9	2.4	4.0	4.2	3.9	3.9	4.1	3.9
Q14 平均値	4.1	4.3	3.9	4.3	4.3	4.2	4.2	4.3	4.2
Q15 平均値	3.7	4.0	3.4	4.2	4.4	4.1	4.1	4.1	4.1
Q16 平均値	3.4	3.5	3.4	4.0	4.1	3.9	4.0	4.1	4.0
Q17 平均値	3.9	4.0	3.8	4.2	4.3	4.0	4.1	4.2	4.1
Q18 平均値	3.7	3.9	3.6	4.2	4.2	4.1	4.2	4.2	4.2
Q19 平均値	3.6	3.8	3.5	3.8	3.9	3.8	3.7	3.6	3.7
Q20 平均値	3.7	3.8	3.7	3.9	4.0	3.9	3.9	4.0	3.9
Q21 平均値	3.6	3.8	3.5	3.8	3.8	3.8	3.7	3.6	3.7
有効回答数	519			657			2,079		

(学部)学科・専攻・部門	(経済) 経済			(経済) 商			(経済) 現代応用経済			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値		4.3	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4
Q6 平均値		1.3	1.2	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.3	1.2
Q7 平均値		1.3	1.3	1.3	1.4	1.3	1.4	1.3	1.3	1.3
Q8 平均値		3.8	3.7	3.9	3.7	3.8	3.6	3.9	3.9	3.9
Q9 平均値		4.2	4.0	4.3	4.1	4.1	4.1	4.2	4.3	4.1
Q10 平均値		4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	4.4	4.3
Q11 平均値		4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	4.1	4.2	4.3	4.2
Q12 平均値		4.0	3.8	4.1	3.9	4.0	3.9	4.1	4.1	4.0
Q13 平均値		3.9	3.7	4.2	3.9	3.9	3.9	4.1	4.2	4.0
Q14 平均値		4.2	4.1	4.3	4.1	4.2	4.1	4.3	4.3	4.2
Q15 平均値		4.2	4.1	4.3	4.1	4.2	3.9	4.3	4.3	4.2
Q16 平均値		4.0	3.8	4.2	3.8	3.9	3.7	4.0	4.1	3.9
Q17 平均値		4.1	4.0	4.2	4.1	4.1	4.0	4.2	4.2	4.1
Q18 平均値		4.1	4.0	4.2	4.0	4.1	3.9	4.1	4.2	4.0
Q19 平均値		3.8	3.7	4.0	3.8	3.8	3.7	3.9	3.9	3.9
Q20 平均値		3.9	3.7	4.0	3.9	3.9	3.8	4.0	4.0	3.9
Q21 平均値		3.8	3.7	4.0	3.8	3.8	3.7	3.9	4.0	3.9
有効回答数		3,589			1,589			1,784		

(学部)学科・専攻・部門	(法) 法律			(法) 政治			(経営) 経営			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値		4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	4.0	4.1	4.1	4.2
Q6 平均値		1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.3	1.3	1.3
Q7 平均値		1.4	1.4	1.3	1.3	1.3	1.3	1.4	1.4	1.4
Q8 平均値		3.6	3.5	3.6	3.7	3.7	3.6	3.7	3.7	3.8
Q9 平均値		4.1	4.1	4.0	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2
Q10 平均値		4.2	4.2	4.1	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	4.3
Q11 平均値		4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2
Q12 平均値		3.8	3.7	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0
Q13 平均値		3.7	3.7	3.7	3.9	3.8	3.9	4.0	3.9	4.0
Q14 平均値		4.0	4.0	4.1	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.2
Q15 平均値		3.9	3.9	4.0	4.1	4.0	4.2	4.1	4.0	4.2
Q16 平均値		3.6	3.6	3.5	3.7	3.7	3.9	3.9	3.9	3.9
Q17 平均値		3.9	3.9	3.9	4.1	4.0	4.1	4.1	4.0	4.1
Q18 平均値		3.9	3.9	3.9	4.0	4.0	4.1	4.0	4.0	4.0
Q19 平均値		3.5	3.5	3.6	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.8
Q20 平均値		3.7	3.6	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9
Q21 平均値		3.5	3.5	3.6	3.7	3.6	3.7	3.7	3.7	3.8
有効回答数		4,542			2,889			3,181		

(学部)学科・専攻・部門	(経営)市場戦略			(医療健康科)			(GMS)		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q4 平均値	4.2	4.2	4.0	4.7	4.7	4.7	4.3	4.3	4.3
Q6 平均値	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.3	1.3	1.3
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.3	1.4	1.2	1.3	1.3	1.3
Q8 平均値	3.6	3.5	3.9	3.7	3.8	3.6	3.9	3.8	4.0
Q9 平均値	4.2	4.1	4.3	4.2	4.2	3.8	4.4	4.4	4.4
Q10 平均値	4.2	4.2	4.3	4.3	4.4	4.0	4.4	4.4	4.4
Q11 平均値	4.1	4.0	4.2	4.2	4.2	3.9	4.3	4.3	4.4
Q12 平均値	3.7	3.7	3.9	3.9	4.0	3.6	4.0	4.0	4.2
Q13 平均値	3.7	3.6	3.8	4.0	4.1	3.4	3.8	3.8	3.8
Q14 平均値	4.0	3.9	4.0	4.2	4.3	3.8	4.3	4.3	4.4
Q15 平均値	3.8	3.8	3.9	4.1	4.1	3.9	4.3	4.2	4.4
Q16 平均値	3.6	3.5	3.9	3.9	4.0	3.8	4.1	4.1	4.2
Q17 平均値	3.8	3.8	3.9	4.1	4.1	3.8	4.2	4.2	4.2
Q18 平均値	3.9	3.9	4.0	4.1	4.2	3.7	4.3	4.2	4.3
Q19 平均値	3.5	3.5	3.8	3.7	3.7	3.4	3.9	3.8	4.1
Q20 平均値	3.6	3.6	3.9	3.9	3.9	3.6	4.0	4.0	4.1
Q21 平均値	3.6	3.5	3.8	3.8	3.8	3.4	3.8	3.8	4.0
有効回答数	2,084			1,146			1,414		

(学部)学科・専攻・部門	(総合教育研究)文化学			(総合教育研究)自然科学			(総合教育研究)日本文化		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q4 平均値	4.2	4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3
Q6 平均値	1.2	1.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1
Q7 平均値	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
Q8 平均値	3.6	3.6	3.6	3.7	3.8	3.7	3.9	3.8	4.0
Q9 平均値	4.1	4.1	4.1	4.3	4.4	4.2	4.3	4.3	4.3
Q10 平均値	4.2	4.3	4.2	4.3	4.4	4.3	4.4	4.4	4.4
Q11 平均値	4.1	4.2	4.1	4.2	4.3	4.1	4.3	4.3	4.2
Q12 平均値	3.9	4.0	3.9	4.0	4.2	3.8	4.2	4.2	4.1
Q13 平均値	3.8	3.9	3.8	3.9	4.1	3.7	4.2	4.2	4.1
Q14 平均値	4.1	4.2	4.1	4.2	4.3	4.1	4.4	4.4	4.3
Q15 平均値	4.0	4.2	3.9	4.1	4.2	4.0	4.4	4.4	4.2
Q16 平均値	3.7	3.9	3.7	3.9	4.0	3.8	4.1	4.1	4.0
Q17 平均値	3.9	4.1	3.9	4.0	4.1	3.9	4.2	4.3	4.1
Q18 平均値	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	3.9	4.2	4.3	4.2
Q19 平均値	3.6	3.7	3.6	3.8	3.9	3.6	4.0	4.0	4.0
Q20 平均値	3.7	3.7	3.7	3.9	3.9	3.8	4.1	4.1	4.1
Q21 平均値	3.6	3.7	3.6	3.8	3.9	3.7	4.0	4.0	3.9
有効回答数	4,162			1,556			943		

(学部)学科・専攻・部門 専任・非常勤区分	(総合教育研究) 外国語第一			(総合教育研究) 外国語第二			(総合教育研究) スポーツ・健康科学		
	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値	4.3	4.4	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4	4.3	4.4
Q6 平均値	1.4	1.3	1.4	1.4	1.3	1.4	1.1	1.1	1.1
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.5	1.4	1.5	1.1	1.1	1.1
Q8 平均値	3.8	3.9	3.8	3.9	3.8	3.9	4.3	4.3	4.3
Q9 平均値	4.2	4.2	4.2	4.2	4.3	4.1	4.4	4.3	4.4
Q10 平均値	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4	4.4	4.5	4.5	4.4
Q11 平均値	4.1	4.1	4.2	4.2	4.3	4.2	4.4	4.4	4.4
Q12 平均値	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	4.0	4.3	4.3	4.3
Q13 平均値	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1	3.9	3.9	4.0
Q14 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.4	4.3	4.4	4.4	4.4
Q15 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	4.2	4.5	4.5	4.5
Q16 平均値	4.1	4.0	4.1	4.0	4.0	4.1	4.3	4.3	4.3
Q17 平均値	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.1	4.4	4.4	4.4
Q18 平均値	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.4	4.4	4.4
Q19 平均値	3.9	4.0	3.9	3.8	3.6	3.8	4.3	4.3	4.3
Q20 平均値	3.8	3.8	3.8	3.9	3.8	3.9	4.3	4.3	4.3
Q21 平均値	3.8	3.8	3.8	3.7	3.6	3.8	4.2	4.2	4.2
有効回答数	5,280			2,314			2,299		

(学部)学科・専攻・部門 専任・非常勤区分	(総合教育研究) 教職課程		
	全体	専任	非常勤
Q4 平均値	4.4	4.3	4.4
Q6 平均値	1.2	1.2	1.2
Q7 平均値	1.2	1.3	1.2
Q8 平均値	3.9	4.0	3.9
Q9 平均値	4.4	4.5	4.3
Q10 平均値	4.4	4.5	4.3
Q11 平均値	4.3	4.5	4.3
Q12 平均値	4.1	4.2	4.1
Q13 平均値	4.2	4.3	4.1
Q14 平均値	4.3	4.4	4.2
Q15 平均値	4.3	4.3	4.3
Q16 平均値	4.0	4.2	3.9
Q17 平均値	4.2	4.3	4.2
Q18 平均値	4.2	4.3	4.2
Q19 平均値	4.0	4.0	4.0
Q20 平均値	4.1	4.1	4.1
Q21 平均値	4.0	4.0	4.0
有効回答数	1,119		

「学生による授業アンケート（後期）」集計結果の概況について

2016 年度の「学生による授業アンケート（後期）」は、昨年 11 月 9 日（水）から 30 日（水）の期間にかけて実施された。アンケートの方法及び内容は、前期と同じ形式で行なわれた。

今回の対象科目数は専任・非常勤合計で 1,757 科目、対象者数（延べ人数）は 141,106 人、有効回答数は 60,514 件で、学生回答率は 42.9%であった（今年度前期は 52.1%）。例年、後期は前期に比べて回答率が落ち込む傾向がみられるが、今回も同様であった。以下、全般的傾向について概況を述べてみたい。

学年別の回答率は、例年と同様に学年が進むにつれて回答率が下がる傾向がみられ、1 年生 60.5%、2 年生 40.5%、3 年生 33.7%、4 年生 19.8%となっている。なお 2 年生を除き、昨年度後期の結果からは回答率が若干向上している。

教員の所属別の学生回答率一覧をみると、仏教学部、文学部の 3 つの学科、医療健康科学部、総合教育研究部の 3 つの部門が 50%以上で、中でも総合教育研究部の外国語第二部門とスポーツ・健康科学部門では 60%台と特に高くなっている。回答率は履修学生数とも関係してくるが、昨年度には後期に 60%を超える学科等はなかったため、今回の外国語第二部門とスポーツ・健康科学部門は回収率がかなり高いといえよう。

専任・非常勤別の学生回答率は、専任担当科目 42.8%、非常勤担当科目 42.9%であり、非常勤担当科目のほうがわずかに高いが、昨年度後期や今年度前期から比べると、専任と非常勤との差は小さくなっている。

アンケート対象科目を担当する教員の C-Learning への最終ログイン状況（12 月 14 日現在）をみると、専任では実施期間内のログインが 26.8%、実施後のログインが 45.8%で、未ログインは 4.6%となっている。いっぽう非常勤では実施期間内のログインが 17.2%、実施後のログインが 20.8%で、未ログインは 20.8%となっている。未ログイン率はいずれも昨年度後期より改善されているが、非常勤の先生方への周知が課題の 1 つといえよう。

質問項目についてであるが、項目数は前期と同じ

24 項目で実施された。具体的内容は別途記載の通りであるが、分類すると「学生の属性（Q1～Q3）」、「学生自身の自己評価（Q4～Q8）」、「休講・開始（終了）時間（Q9～Q10）」、「シラバス（Q11）」、「授業の進み具合・配布資料等（Q12～Q13）」、「教員の熱意・授業運営（Q14～Q18）」、「学生自身の理解度・興味・達成度（Q19～Q21）」、「教員自由設定質問（Q22）」、「自由回答（Q23～Q24）」となっている。ここでは、本学の状況を示していると思われるいくつかの設問について結果の概略をみてみたい。

授業への出欠（Q4）については、入試形態別では前期ほどのばらつきはないものの、指定校推薦入試・附属校推薦入試・留学生特別入試で高く、スポーツ推薦入試・センター試験利用入試・帰国生特別入試で低くなっている。学年別では、これまで同様、学年が進むほど欠席が多くなる傾向がみられる。学部学科別では、これも例年同様、医療健康科学部が 4.7 と非常に高い結果となっている。

シラバス（Q11）について学年別にみると、昨年度後期からの上昇幅はわずかではあるものの、1 年生・3 年生で若干上昇している。今年度より、シラバスに「学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について」という項目が追加されたが、シラバスとその活用については引き続き重要な課題である。

教員の熱意・授業運営（Q14～Q18）については、これも昨年度後期と同様、学年が上がるとともに満足度が若干ながら増す傾向がみられる。これは学年ごとの回答者数が大きく異なることもあるが、上級生のほうが科目選択の自由度が高いことも関係しているものと思われる。

以上、結果の概略について触れてきた。FD 推進小委員会の教育質保証ワーキング・グループでは、これまでも設問内容の工夫や回収率の向上にむけてさまざまな検討を重ね、各年度の授業アンケートを改善してきている。今後の課題としては、回収率を向上させるための学生のモチベーションの維持・向上にむけた取り組み（周知方法の見直し、フィードバックの強化、学生 FD スタッフの活用など）、質問項目の見直し（簡略化、経年変化への対応）、対象外科目の見直し、などが挙げられる。教育の質の向上に授業アンケートは欠かせないものであり、今後さらなる検討が重ねられることを望む。

（長尾 譲治）

連載企画：よりよい教育のために

生涯スポーツ演習Ⅱスキー・スノーボードに
対するスポーツ・健康科学部門の取り組み

総合教育研究部 教授 江口 淳一

以前FDハンドブックに自身の専門であるテニスの授業に関して書かせていただいたので、今回は、「生涯スポーツ演習Ⅱスキー・スノーボード」について、スポーツ・健康科学部門の取り組みを紹介させていただく。

現在の「生涯スポーツ演習」は平成7年度カリキュラム改革以前、1.5年の体育実技必修科目として履修が義務付けられていた時代、2年次の半期科目をシーズンコースのスキー実習合宿授業に置き換えられる形で開設されていた科目であった。選択必修科目であったため、履修者の上限は100名。受付時には履修のため徹夜組も出るほど人気のあった科目である（先着順でWeb登録もない時代）。

これが、最初のカリキュラム改革により選択科目となり、費用がかかるにもかかわらず1単位しか取れないこと。実習地のゲレンデの問題、スキー人口の減少も追い打ちをかけ、一時20名弱まで履修者を減らしてしまったのである。

危機感を持った当時の保健体育部は、まず、実習地を上越方面からスキーリゾートとして名高い東北の安比高原に変更し、実習環境の改善を図った。さらに新しいウィンタースポーツとして学生に人気の出てきたスノーボードを実習種目に加え履修者の増員を目指すことにしたのである。

当時、スキー場の一部ではスノーボードは禁止などと、まだまだこのニュースポーツは認知されておらず、危険な種目であることばかりが報告される時代であった。当然のことながら、教員の側にもスノーボード経験者がほとんどいない。当時、数名の若手教員が大学体育連合の冬季研修会やスキー・スノーボード研究会に積極的に参加し、技術を獲得し、さらに安全に実習するための指導法を学び、検定合格など必要な準備が整ったと判断した年からボードの導入が決定したのである。スキーに加えスノーボードの導入により履修者数が増加に転じ、さらにその後、数回の事前授業や現地での夜間講義を実施し、2単位の演習科目として開

講することで、現在の履修上限である60名は必ず確保できる科目となるまで回復したのである。

その後、予算上の問題から、上越方面に戻って実施する時期もあったが、やはり安全面、実習のしやすさから、現在は再度安比高原にて演習を行なっている。リピート率の高い授業で、アンケート調査結果から、実習後の学生の満足度も非常に高いと分析している。

スポーツ・健康科学部門では、演習科目は授業評価アンケートの対象科目ではない中、独自のアンケートを早期から実施し、学生ニーズの把握に努め、実習環境の改善、新種目の導入、より良い指導法の研鑽、教員個人の技術研修にとどまらず、各教員の専門領域を超えた教授法の研修など、FD活動を積み重ねてきた。また、ビデオや、最近ではスマホやタブレットを活用し、学生自らの滑りを即座に画像で確認しながら、練習にフィードバックさせるなど、単にゲレンデで滑走技術の習得を目指すだけでなく、スポーツ科学を通して、ウィンタースポーツやスノーアクティビティの魅力を伝え、生涯スポーツとしての基礎を養うという目的を達成してきたつもりである。

体育実技科目は、究極のアクティブラーニングであり、学生の専攻する分野とスポーツは必ずどこかで連携する可能性がある（例えば：自然環境とスポーツ。スノースポーツとリゾート経営。スポーツ事故における訴訟問題。国際化する日本のゲレンデ。失敗とチャレンジのメンタルなど挙げればきりが無い）。また、特にスキー・スノーボードは合宿形式の能力別のグループ学習であり、グループ内の仲間と様々な論議や練習を重ね、学部学科を超えたコミュニケーション力をスポーツを通して養うことができる科目なのである。

駒澤大学が、このスポーツが持つ文化的価値を認め、スポーツ・健康科学分野への理解をさらに深めてくれることを切に期待する。



第 2 回 F D 研修会

平成 28 年度第 2 回 FD 研修会は、2 月 1 日（水）16 時 20 分から 17 時 30 分まで中央講堂で行われた。テーマは「新しい教育方法と教育活動の質の向上」で、山梨大学大学院総合研究部工学域教授、山梨大学教育国際化推進機構大学教育センター副センター長の森澤正之先生に、「反転授業を組み合わせたアクティブラーニングの実践」というタイトルの下、ご講演いただいた。

ところで、「反転授業」について FD 研修会等で学内教員に周知を図ることは、「学校法人駒澤大学施策体系」（平成 26 年～平成 29 年度）に係る『中期事業計画書』において、明示的に計画されていた。そこで「反転授業」は、「アクティブラーニング」、「PBL」、「ICT 教育の推進」とともに、「対面授業（学習）の多様化推進」という具体的な行動計画の中核となっており、「アクティブラーニング」をテーマとした前年度の研修会に続き、今回「反転授業」についての研修会が開催されたことは、本学の大学教育改革が確実に前進していることを示している。

とはいえ、森澤先生の講演タイトルが示しているように、「アクティブラーニング」と「反転授業」は別個独立に併存するものではない。むしろ「アクティブラーニング」を成功させるためには、「反転授業」の導入がほとんど不可避であることが、森澤先生のご講演において示されていたように思う。

講演資料から、FC+AL 導入のポイントをいくつか引用しておきたい（先生は「反転授業」を FC、「アクティブラーニング」を AL と略記している）。「反転授業は授業のオンライン化ではない！ 事前学習動画は手段の一つ。ビデオが素晴らしければ、うまくいくわけではない。対面授業との連携こそが鍵！」、「15 分の事前学習動画で、対面授業の 30～50 分のアクティブラーニングの時間が取れる」、「事前学習をしてこなかったら → 最初は 25% くらいの学生がしてこなくても大丈夫。妥協しない。最初が肝心」、「正直教師の準備作業量は増える。事前学習動画の作成より、FC と連携した AL の設計が大変。しかし、教員の目に見える効果がある」、「反転できない授業はない」

会場からは、学生数が何人までならうまくいくか、4 人グループをどう作ったらよいか、授業準備の負担は徐々に減るかなど、多数の質問が出された。森澤先生

からは、60 人を超えると TA が必要になる、グループは自由に作らせるが固定ではなく、2+2 に分かれる形で新グループを作る、授業準備はいろいろと改善したくなるので、年度を経てもなかなか減らない、とのご回答があった。

教員参加者 93 名の盛会となり、本学における FD 推進活動の着実な進展が実感された。

（東 辰之介）



（森澤正之先生）

学生が選ぶベスト・ティーチング賞授賞式

今期の FD 推進委員会にて取り組んだ新制度の一つが「学生が選ぶベスト・ティーチング賞（以下、BTA: Best Teaching Award）」である。これまでも授業評価アンケートなど、個々の授業について受講生からの評価を受ける制度は継続してきたが、本学全体の教育の質を向上させることを目的として、学生から見て効果的であると思われる教育方法のベスト・プラクティスを共有する仕組みではなかった。

また BTA は、学生ができる限りアンケートを考え、広報、実施、選考し、その結果を FD 推進委員会小委員会に報告するというもので、学生が主体性を発揮して FD に参画するという意味で画期的な制度改革である。

このために「学生 FD スタッフ」という制度をつくり、平成 28 年秋にボランティアに学生を募集し、多様な学科・学年からの 13 名の学生によりスタートした。彼らには、BTA 以外のワーキンググループにも参加してもらい、シラバスおよび学生アンケートの改善策についての活発な意見交換をして頂き、フレッシュで有

益な視点をもたらしてくれた。わずかな期間にこのFD制度に対して集中的に協力してくれたことに対して、改めて謝意を申し上げたい。今後も、本学がFD推進していく上で、非常に貴重なパートナーとして位置づけられることであろう。

さて今回のBTAでは、全学生に授業の内容を理解しやすくするための工夫がなされている科目を1つ挙げてもらい、かつ単なる人気投票や履修が容易な科目ではないことを理解し、具体的なエピソードを書くことを義務とした（これらの条件に合わないものは投票数から外した）。

投票期間は、平成28年11月9日（水）～11月30日（水）とし、厳選なる選考の結果、上位3名の先生が選考され、平成29年2月1日（水）に授賞式が行われた。FD推進委員会委員長である廣瀬良弘学長から表彰状が渡され、学生FDスタッフから花束が贈呈された。

「経営戦略論」の経営学部中村公一先生からは、学生目線から経営学の面白さを実感できるように、先生の得意分野をケースなどを使って講義されていることが報告された。学生のアンケートからも、漫画のワンピースやジャニーズといった学生が興味関心を引くテーマを先生が熱く語り、伝わるとの評判であった。またミニレポートは理解を深めるのに役立ち、良いレポートは講義中に取り上げられ、モチベーションが高まるという声もあった。

「市場戦略概説」の経営学部兼村栄哲先生からは、膨大な配布資料を準備して基本事項を徹底的にわかりやすく、かつ詳細に板書中心で講義されていること、さらに関連科目とのつながりを説明し、カリキュラム全体と担当講義との整合性を重視していることが報告された。学生のアンケートからも、具体的な商品名や企業名が多く、また板書の図や字はきれいで分かりやすい、レジュメも見やすいので予習復習がしやすいとの評判であった。

「心理学」の文学部小野洋平先生からは、自らが学部出身者であるため非常勤講師でも学科の先生方との連携を取りながら、かつ受講学生の興味や理解力に配慮して講義を工夫されていることが報告された。学生のアンケートからも、板書と説明の時間は分けてくれるためノートを取ってから説明が聞けて分かりやすい、図や動画といった参考資料が挿入されていて理解が深まるとの評判であった。

各先生方が得手不得手はそれぞれありながらも、個

性を生かして創意工夫がされていることを知り、参加者もいろいろな刺激や取り入れるべき工夫があったかと思う。改めて授賞された先生方には厚くお礼を申し上げます。

また、学生アンケートでは、学生理解度に合わせた進捗の工夫がある講義や、資料や動画といった立体的な工夫が為されている講義、作成したレポートも講義で取り上げたり皆で共有できる仕組みがある講義が高い評価を得ていた。

以上からもベスト・プラクティスを共有するという本制度の目的は果たされたかと思う。

さて、今回のBTAでは初回ということで投票数のみで選考した。今後は、投票結果を分析した上で、例えば履修者数に対する投票数の割合や、講義形式や受講生規模などによって、適切な選考手法を検討していくことも必要であろう。

（FD推進委員会小委員会副委員長 青木 茂樹）



（左から、桑田禮彰副学長、小野洋平先生、中村公一先生、兼村栄哲先生、廣瀬良弘学長）



（授賞式の様子）

平成 29 年度新規採用教員オリエンテーション 開催のお知らせ

新規採用の専任教員及び非常勤講師を対象にした「平成 29 年度新規採用教員オリエンテーション」を、平成 29 年 4 月 1 日（土）に本部棟中央講堂にて開催いたします。

オリエンテーションを開催する目的は、本学の建学の理念、教育目的を理解いただき、授業に臨んでいただくこと、本学の様々な施設や事務手続きをお知らせし、授業を円滑に進めていただきたいこと、そして実際の授業運営にあたって、個人情報保護やハラスメント防止に留意していただきたいこと等をお伝えすることにあります。

編集後記

『FD NEWSLETTER 第 50 号』をお届けします。

巻頭言は、総合教育研究部長の池上良正先生にご執筆いただきました。また、連載企画「よりよい教育のために」は、総合教育研究部スポーツ・健康科学部門の江口淳一先生にご執筆いただきました。さらに、本年度後期の学生アンケートの分析結果については、文学部の長尾譲治先生に、本年度第 2 回 F D 研修会については、総合教育研究部の東辰之介先生に、ベスト・ティーチング賞授賞式については、経営学部の青木茂樹先生に、それぞれご執筆いただきました。先生方には、年度末のご多忙の折に多大なるご協力をいただきましたこと、ここに深く感謝申し上げます。

2 月 1 日に行われた本年度第 2 回 F D 研修会では、山梨大学の森澤正之先生を講師にお招きし、「反転授業を組み合わせたアクティブラーニングの実践」のご講演をいただきました。また、その後の「ベスト・ティーチング賞」授賞式では、受賞なされた 3 名の先生方から、ご自身の授業での実践や考え、深い思いなどを聞くことができました。様々な活動を通して、本学においてよりよい授業を作っていくという意識が強く

根付いていることを感じることができました。

私たち現 F D 推進委員会委員が委員を務めていたこの 2 年間は、F D 活動が今までにもまして大きな動きを示した時期でありました。「学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について」のシラバスへの記載、F D 研修会の年 2 回の実施、公開授業の充実への取り組み、「ベスト・ティーチング賞」の新設等々、概観するだけでも多くの試みと成果を見ることができます。よりよい授業、教育を実現していくという取り組みに終わりはありません。今後も、全学の教職員が知恵を出し合って、さらなる高みを目指して不断に歩んでいかなければならないと考える次第です。

(山口良博、遠藤司)



【タイトル横の写真は、第 2 回 F D 研修会の様子】

FD NEWSLETTER Mar. 2017 第 50 号

発行日：2017 年 3 月 15 日

発行者：駒澤大学 F D 推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1

TEL 03-3418-9444 Fax 03-3418-9114

【付録資料】

- 駒澤大学 F D 推進委員会規程
- 駒澤大学 F D 憲章
- 平成 28 年度 駒澤大学 F D 推進委員会委員名簿
- 平成 28 年度 駒澤大学 F D 推進委員会小委員会委員名簿
- 平成 28 年度 駒澤大学 F D 推進部会委員名簿

○駒澤大学FD推進委員会規程

〔平成16年4月1日
制 定〕

改正 平成21年4月1日

改正 平成25年4月1日

改正 平成27年4月1日

(趣旨及び設置)

第1条 駒澤大学学則第1条の3第2項に定める組織的な研修及び研究について、ファカルティ・ディベロップメント(以下「FD」という。)を推進するため、駒澤大学FD推進委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(FDの定義)

第2条 この規程において「FD」とは、教員が授業内容・方法を改善し、向上させるために行う、各学部等の組織的な取り組みをいう。

(審議事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 授業評価の実施に係る企画・運営に関すること。
- (2) 教員の教授方法等の改善のための支援に関すること。
- (3) 各学部等が行うFDの支援に関すること。
- (4) FDに係る、施設・設備等の改善に関すること。
- (5) 講演会及び研修会等に関すること。
- (6) その他FDの推進に必要な事項に関すること。

(構成)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 各副学長
- (3) 各学部長等
- (4) 各学部等から選出された者各1人。ただし、総合教育研究部は3人 計10人
- (5) 教務部長
- (6) 幹事 若干人

2 委員会の委員長は学長とし、副委員長は教育・研究担当の副学長とする。

3 第1項第4号によって選出された委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 欠員を補充するために選出された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営)

第5条 委員会は、委員長がこれを召集し、その議長となる。

2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

3 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

4 F D推進委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決議し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

5 委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求めることができる。

(小委員会)

第6条 委員会が必要と認めるときは、委員会に小委員会を設置することができる。

2 審議事項、構成、運営等については、委員会で制定する内規に定める。

(F D推進部会)

第7条 各学部等にF D推進部会を設置する。

2 部会長は各学部長等とし、構成員については各学部等が決める。

(事務所管)

第8条 委員会の事務所管は、教務部とする。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、委員会の議を経てこれを行うものとする。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

平成28年4月1日
制 定

駒澤大学FD憲章

駒澤大学は、学校法人駒澤大学憲章の理念に基づき、本学の Faculty Development (FD) を推進するために、この駒澤大学FD憲章を定める。

- 一、 私たちは、常に新しい教育方法を模索し、教育活動の質の向上に努めます。
- 一、 私たちは、常に自らの教育方法をふりかえることで、教育活動の改善に努めます。
- 一、 私たちは、常に教員相互の情報交換をすることで、大学全体の教育の質の向上に努めます。
- 一、 私たちは、常に学生、または社会からの声を大切にし、教育活動の改善に努めます。
- 一、 私たちは、知を人類の資産として未来へ継承し発展させるよう、学生とともに歩むことを誓います。

平成28年4月1日 施行

平成28年度駒澤大学FD推進委員会委員名簿

平成28年4月1日現在

委員長	学	長	廣瀬良弘
副委員長	教育・研究担当の副学長		桑田禮彰
委員	学生支援担当の副学長		久保田昌希
〃	仏教学部長		金沢篤
〃	文学部長		谷口泰富
〃	経済学部長		姉齒暁
〃	法学部長		高橋洋城
〃	経営学部長		兼村栄哲
〃	医療健康科学部長		瀬尾育式
〃	グローバル・メディア・ スタディーズ学部長		各務洋子
〃	総合教育研究部長		池上良正
〃	仏教学部教授		飯塚大展
〃	文学部准教授		長尾讓治
〃	経済学部教授		小林正人
〃	法学部准教授		田中優企
〃	経営学部教授		青木茂樹
〃	医療健康科学部教授		熊坂さつき
〃	グローバル・メディア・ スタディーズ学部准教授		高媛
〃	総合教育研究部准教授		東辰之介
〃	総合教育研究部准教授		山口良博
〃	総合教育研究部教授		遠藤司
〃	教務部長		猿山義広
(以上 委員22名)			
幹事	教務部事務部長		柿沼富雄
〃	教務部学務課長		桜田千津
〃	教務部教務課長		高橋重昭
(以上 幹事3人)			
書記	教務部係長		丸山哲也
〃	教務部		板橋幸子
〃	教務部		鈴木弘道
(以上 合計28人)			

平成28年度駒澤大学FD推進委員会小委員会委員名簿

平成28年4月1日現在

委員	仏 教 学 部 教 授	飯 塚 大 展
〃	文 学 部 准 教 授	長 尾 讓 治
〃	経 済 学 部 教 授	小 林 正 人
〃	法 学 部 准 教 授	田 中 優 企
〃	経 営 学 部 教 授	青 木 茂 樹
〃	医 療 健 康 科 学 部 教 授	熊 坂 さ つ き
〃	グ ロー バ ル ・ メ デ ィ ア ・ ス タ デ ィ ー ズ 学 部 准 教 授	高 媛
〃	総 合 教 育 研 究 部 准 教 授	東 辰 之 介
〃	総 合 教 育 研 究 部 准 教 授	山 口 良 博
〃	総 合 教 育 研 究 部 教 授	遠 藤 司
〃	教 務 部 長	猿 山 義 広
		(以上 委員11名)
幹 事	教 務 部 事 務 部 長	柿 沼 富 雄
〃	教 務 部 学 務 課 長	桜 田 千 津
〃	教 務 部 教 務 課 長	高 橋 重 昭
		(以上 幹事3人)
書 記	教 務 部 係 長	丸 山 哲 也
〃	教 務 部	板 橋 幸 子
〃	教 務 部	鈴 木 弘 道
		(以上 合計17人)

平成28年度 駒澤大学FD推進部会委員名簿

(平成28年4月1日現在)

学部等	部会長	委員
仏教学部	金 沢 篤	角 田 泰 隆 奥 野 光 賢 飯 塚 大 展 岩 永 正 晴 熊 本 英 人
文学部	谷 口 泰 富	勝 原 晴 希 モート, セーラ 平 井 幸 弘 中 村 淳 治 長 尾 讓 治 八 巻 秀 秀
経済学部	姉 齒 暁	増 田 幹 人 吉 田 真 広 長 山 宗 広
法学部	高 橋 洋 城	中 濱 義 章
経営学部	兼 村 栄 哲	青 木 茂 樹 飯 田 哲 夫 小 野 瀬 拓 高 井 徹 雄 日 野 健 太
医療健康科学部	瀬 尾 育 弐	青 木 清 熊 坂 さつき 原 田 和 正 近 藤 啓 介 保 科 正 夫
グローバル・ メディア・ スタディーズ学部	各 務 洋 子	高 媛 絹 川 真 哉 芝 崎 厚 士 テヅカ ヨシハル
総合教育研究部	池 上 良 正	滝 沢 正 之 山 縣 毅 子 内 藤 寿 子 西 村 祐 子 三 好 俊 介 山 口 良 博 豊 田 千 代 子

平成 28 年度
FD 活動報告書

発行日	平成 29 年 3 月 31 日
発行	駒澤大学 FD 推進委員会 〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1 丁目 23 番 1 号 TEL 03-3418-9444 FAX 03-3418-9114
事務局	駒澤大学教務部

 湖州大學